

# 東京都 スポーツ推進 総合計画

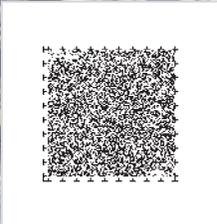
Tokyo's Master Plan for  
Sports Promotion

誰もが  
スポーツを  
楽しむ  
東京へ

Becoming a Tokyo  
Where Sports Is  
Enjoyed by All

 東京都

令和7(2025)年3月



## 「東京都スポーツ推進総合計画」の改定にあたって

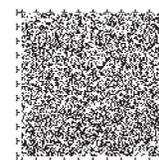
- 2021年、新型コロナウイルスとの闘いの中、1年の延期を経て開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、世界中に勇気と感動を届けることができました。大会の開催を通じて、スポーツの気運や共生社会への関心が高まり、スポーツインフラのバージョンアップをはじめ、東京に多様なレガシーを遺しています。
- 大会後、GRAND CYCLE TOKYO、東京レガシーハーフマラソンといった新たなスポーツイベントも生まれました。アーバンスポーツへの関心が高まり、多彩なスポーツやレクリエーションが広まって、楽しさや喜びを味わうことの大切さが多くの方々に認識されてきています。スポーツフィールド・東京は、進化を続けます。
- 少子高齢化や気候変動、デジタル化の進展など、スポーツを取り巻く環境も日々変化しています。新たな「東京都スポーツ推進総合計画」は、こうした変化を捉えながら、これからのスポーツ政策の方向性を示すものとして策定しました。
- 様々な取組を皆様と進めてきたことで、都民のスポーツ実施率は着実に向上しています。これからは、スポーツの質にも目を向け、一人ひとりのウェルビーイングを高めることを、本計画の理念に掲げました。
- また、応援は選手に力を与え、自らの活力にもつながります。スポーツへの参画方法として位置付けてきた「する」「みる」「支える」に「応援する」を加え、一人ひとりに合ったスポーツへの関わりを促し、都民の皆様の暮らしを豊かにする施策を展開します。
- 令和7（2025）年には、東京2025世界陸上と東京2025デフリンピックが開催されます。この2つの大会は、都民のスポーツへの関心を一層高める絶好の機会です。都民や企業、関係団体等の皆様のご理解とご協力の下で本計画を着実に前へ進め、東京を誰もがスポーツを楽しむ、世界に誇れるスポーツ拠点へと発展させてまいります。



令和7（2025）年3月

東京都知事

小池百合子



# 第1編 総論（計画の考え方） 008

## 第1章 東京におけるスポーツの推進 | 008

### 1 計画策定の背景 | 010

- (1) 東京都スポーツ推進総合計画とは | 010
- (2) 大規模スポーツ大会の開催経験 | 012
- (3) 東京2020大会のレガシー | 013
- (4) 東京2020大会後の国際スポーツ大会の開催等 | 016
- (5) コロナ禍がもたらした影響 | 018

### 2 本計画におけるスポーツとは | 020

- (1) 「スポーツ」の範囲に関する整理 | 020
- (2) eスポーツについて | 021

### 3 スポーツの意義・価値 | 022

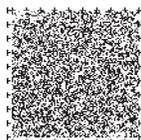
- (1) スポーツの内在的価値や外在的価値 | 022

### 4 スポーツの効用・効果 | 023

- (1) 健康の維持・増進 | 023
- (2) 共生社会の実現 | 027
- (3) 地域・経済の活性化 | 030

### 5 スポーツへの参画方法 | 032

- (1) する・みる・支える・応援する | 032



## 第2章 東京のスポーツを取り巻く状況 | 034

### 1 スポーツを取り巻く環境の変化 | 035

- (1) 人口構成・世帯数の変化 | 035
- (2) 平均寿命・健康寿命・体力の変化 | 037
- (3) スポーツ実施状況 | 040
- (4) 気候の変化・労働の変化 | 046
- (5) デジタル／テクノロジーの活用 | 047
- (6) eスポーツに関する動向 | 048
- (7) 国の動向 | 051
- (8) 企業等の動向 | 053

### 2 世界における日本・東京の現在 | 054

- (1) 高齢化の進行を踏まえた都市モデルの構築 | 054
- (2) スタートアップ・エコシステム・ランキング | 055
- (3) 訪都旅行者数や訪都外国人の活動 | 056
- (4) 東京マラソン出走者における外国人数の推移 | 057

## 第3章 基本理念・目標 | 058

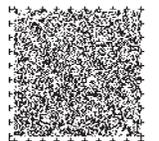
### 1 本計画の基本理念・将来のビジョンと4つの政策の柱 | 060

### 2 政策強化に向けた施策 | 062

### 3 達成指標一覧 | 064

### 4 重点政策テーマ | 066

### 5 計画の体系 | 068



## 第2編 各論（計画の具体的な展開） 070

### 第1章 目標達成に向けた施策展開 | 070

#### 1 重点政策テーマ | 072

- Project 0 : スポーツの力を高める「スポーツDXプロジェクト」 | 072
- Project 1 : スポーツとともに育つ「チルドレン・スポーツ・プロジェクト」 | 078
- Project 2 : 多様性があふれる「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」 | 084
- Project 3 : スポーツの力で世界をリードする「TOKYOの魅力向上プロジェクト」 | 100
- Project 4 : スポーツを楽しむ環境を実現する「スポーツFACILITIESプロジェクト」 | 108
- Project 5 : スポーツを支える仕組みを創る「支える担い手確保プロジェクト」 | 116

#### 2 柱ごとの施策・取組 | 124

政策の柱1 スポーツで輝く | 124

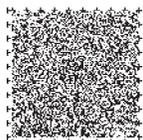
- 施策① スポーツに触れる「はじめの一步」を後押し | 125
- 施策② ライフステージに応じたスポーツを推進 | 137
- 施策③ 東京にゆかりのあるアスリートが躍動 | 152

政策の柱2 スポーツでつながる | 162

- 施策① パラスポーツを楽しむ・パラスポーツで輝く | 163
- 施策② バリアフリー化やユニバーサルコミュニケーション技術の社会実装を促進 | 180
- 施策③ 多様な人々がスポーツでつながる、スポーツとつながる | 185

政策の柱3 スポーツでにぎわう | 194

- 施策① 都内各地でスポーツイベントを開催し、都市に活力をプラス | 195
- 施策② 住み慣れた地域でのスポーツをサポート | 211
- 施策③ スポーツの魅力を発信し、スポーツを通じて感動を味わう | 219



政策の柱4 スポーツを支える | 222

施策① 様々な価値を創出するスポーツ環境の整備・運営や、環境に配慮した施設・大会運営 | 223

施策② 多様な主体と連携し、スポーツに関わる人材の裾野を広げる・磨く | 231

施策③ 安全・安心なスポーツ、信頼されるスポーツ大会の実現 | 246

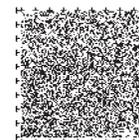
## 第2章 計画の着実な推進と進行管理 | 252

### 附属資料 | 256

○ パラスポーツの振興 | 257

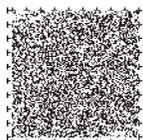
○ 多摩・島しょに関する施策 | 275

○ 計画策定の経緯（審議会・都民意見の聴取） | 289



## 第1編 総論（計画の考え方）

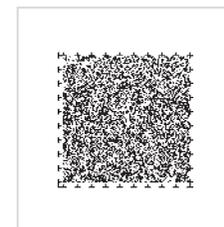
### 第1章 東京におけるスポーツの推進



## 文中で用いる名称・略称の記載について

- 文中で用いる主な大会名や団体名の略称の記載については、下表のとおりとします。
- また、文中で用いる団体名称等については、特に説明のある場合を除き、計画公表時のものとします。

正式名称	略称
ラグビーワールドカップ2019™	RWC 2019
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会	東京2020大会
第32回オリンピック競技大会（2020／東京）	東京2020オリンピック
東京2020パラリンピック競技大会	東京2020パラリンピック
東京2025世界陸上競技選手権大会	東京2025世界陸上
第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025	東京2025デフリンピック
第39回全国健康福祉祭	第39回ねんりんピック
国際オリンピック委員会	IOC
国際パラリンピック委員会	IPC
国際競技連盟	IF
国内競技連盟	NF
公益財団法人日本オリンピック委員会	JOC
日本パラリンピック委員会	JPC
公益財団法人日本スポーツ協会	JSPC
公益財団法人日本パラスポーツ協会	JPSA
公益財団法人東京都スポーツ協会	TSPC
公益社団法人東京都障害者スポーツ協会	TSAAD



# 1 計画策定の背景

## (1) 東京都スポーツ推進総合計画とは

- 前計画期間は、**新型コロナウイルスとの闘いの中、東京2020大会開催を実現した**。本計画期間は、こうした経験を**東京2025世界陸上・東京2025デフリンピック**やその先の**第39回ねりんピック**の成功と、更なるスポーツ推進につなげていく

### 東京都スポーツ推進総合計画とは

- **未来の東京**を見据え、スポーツ振興の観点から東京都として**目指すべきビジョン**と、その実現に向けた**基本方針及び施策展開の方向性**を示すものです。

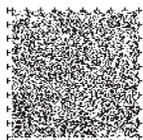
### これまでの計画

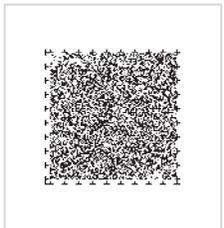
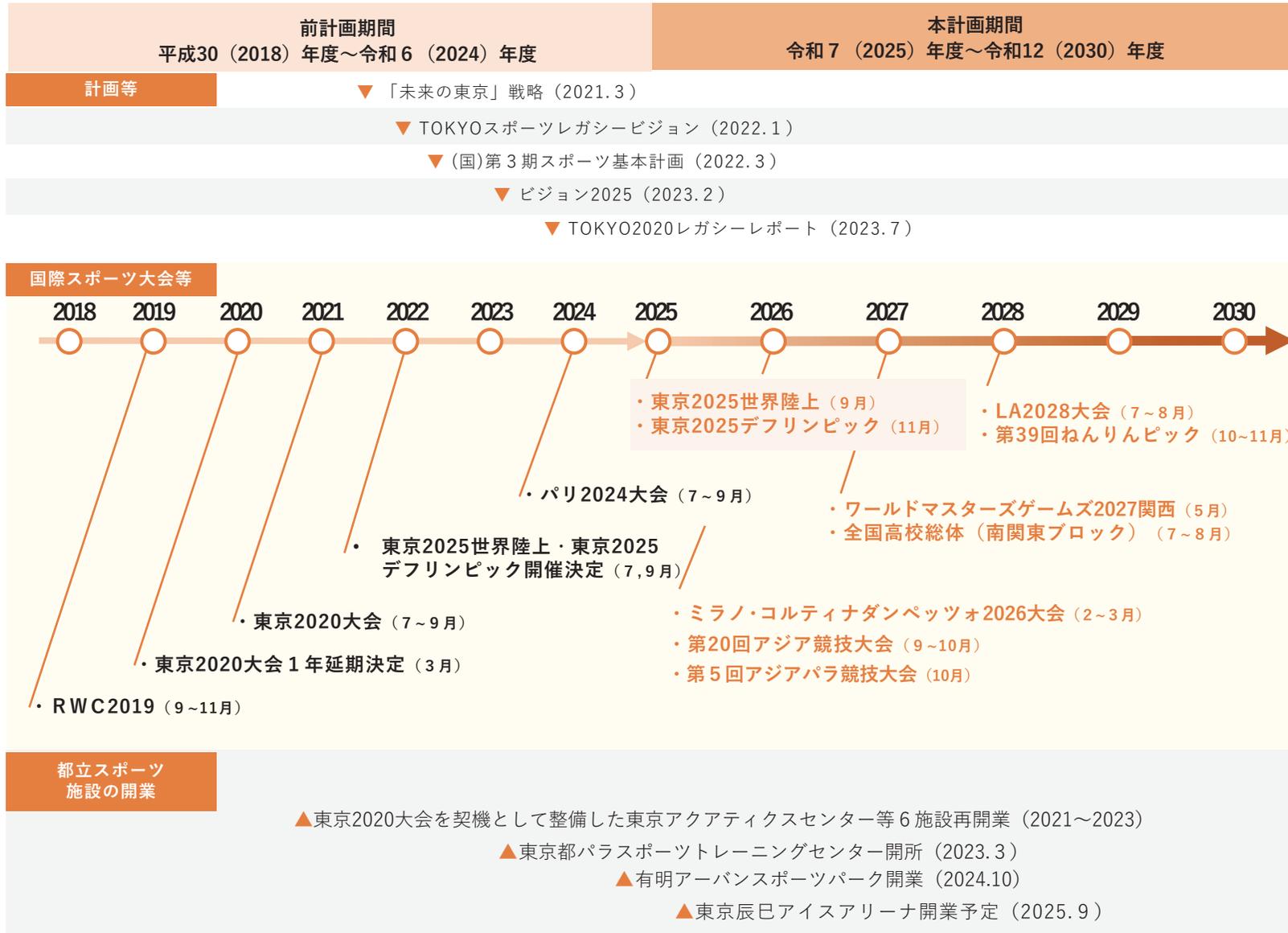
- 東京都では、平成14（2002）年7月に、**東京のスポーツ振興に関する初の行政計画**となる「**東京都スポーツ振興基本計画『東京スポーツビジョン』**」を策定しました。  
平成20（2008）年7月には、これを改定した「**東京都スポーツ振興基本計画**」を、更に平成25（2013）年3月には「**東京都スポーツ推進計画**」を策定しました。

- また、その前年となる平成24（2012）年3月には、障害のある人のスポーツの一層の振興を図ることを目的として、**国及び全国の都道府県で初となる「東京都障害者スポーツ振興計画」**を策定しました。
- 両計画策定後、東京2020大会及びRWC2019の開催決定や、都民のパラスポーツへの関心の高まりなど、東京都のスポーツを取り巻く環境は大きく変化しました。そのような環境の変化を的確に捉え、平成30（2018）年3月には、**新たな施策を効果的に展開するとともに、パラスポーツを含めたスポーツ施策を一体的に推進していくため、二つの計画を統合し、「東京都スポーツ推進総合計画」**を策定しました。

### 更なるスポーツ推進に向けて

- 本計画期間では、**RWC2019**や、コロナ禍での開催を実現した**東京2020大会**の経験を生かし、**東京2025世界陸上・東京2025デフリンピック**やその先の**第39回ねりんピック**の成功と**更なるスポーツ推進**につなげていきます。
- なお、本計画の計画期間は、**令和7（2025）年度から令和12（2030）年度までの6年間**とします。





## 1 計画策定の背景

### (2) 大規模スポーツ大会の開催経験

- RWC2019や東京2020大会の開催経験、競技施設の魅力は、東京の新たな強みとなった。こうした強みを最大限生かし、世界のトップアスリートが参加する国際大会を開催し、東京のプレゼンスを更に高めていく

#### 東京マラソン

- 東京マラソンは、平成19（2007）年に第1回大会が開催され、国内外からのランナーをはじめ、ボランティアや沿道の観衆など多くの人が参加しています。
- 平成24（2012）年には、アボット・ワールドマラソンメジャーズに加入し、世界6大マラソンの一つとして認定されるなど、世界最高水準の大会へと発展を続けています。



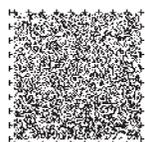
#### ラグビーワールドカップ2019™日本大会

- アジアで初、そしてラグビー伝統国以外で初の開催となり、大会を契機にラグビー熱が全国に広がり、都民・国民のスポーツへの関心を高める機会となりました。
- 国内外から訪れた大勢の観客が、スタジアムのみならずファンゾーンにおいても、敵味方の隔てなく交流し、大いに盛り上がり、東京をはじめ、国内に大きなぎわいをもたらしました。



#### 東京2020大会

- 東京2020大会は、新型コロナウイルス感染症の流行により、史上初めての一年延期、原則無観客での開催となりましたが、精緻な運営能力と徹底した感染防止対策により、日本の総力を結集して安全・安心な大会を実現することができました。
- また、コロナ禍という特殊な環境下でも、アスリートが練習を積み最高のパフォーマンスを発揮する姿は、都民・国民に勇気と感動をもたらしました。

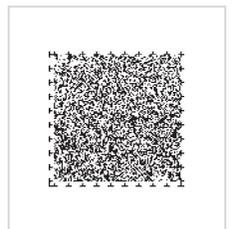
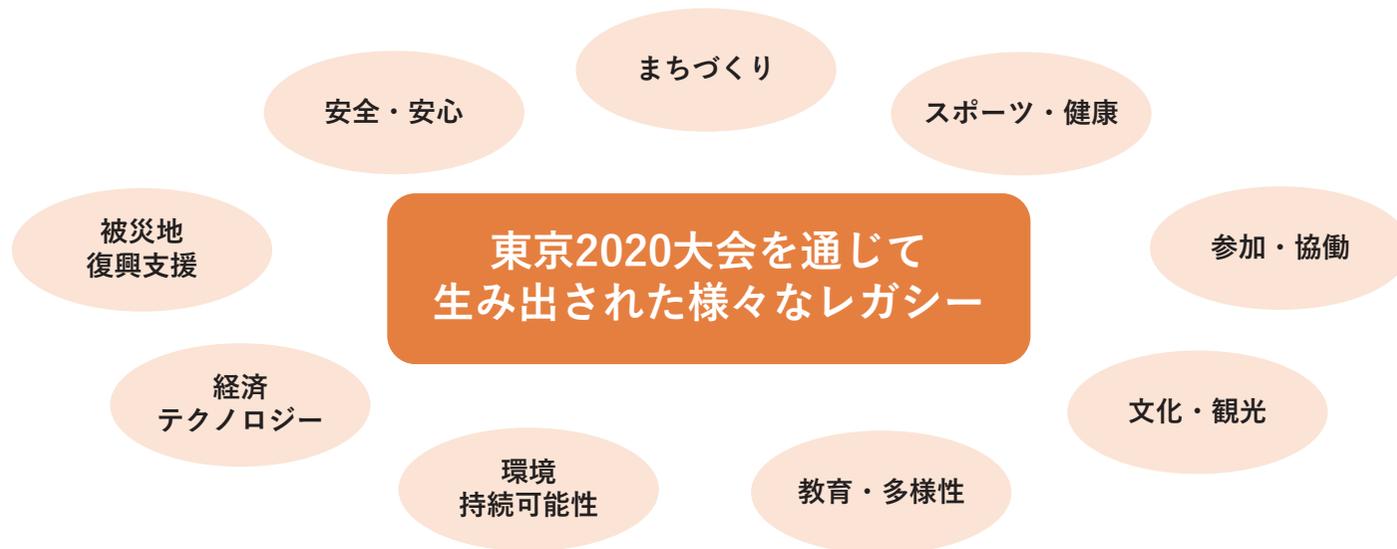


### (3) 東京2020大会のレガシー

- 東京2020大会の経験を生かして都民の安全・安心な暮らしを実現するなど、**大会で得たかけがえのない経験とレガシーを都市発展の力**に変え、**東京を更なる高みへと導いていくとともに、スポーツ振興**につなげていく

#### 東京2020大会の経験をレガシーへ

- 東京都は、**成熟した大都市としての新たな進化**につなげていくため、令和2（2020）年のその先を見据えて、9つのテーマで**レガシーの創出**を目指しました。「**TOKYO2020 レガシーレポート**」は、多様な人々が共に支え合う社会の実現、環境先進都市への変革、被災地の復興など、ハード、ソフト両面にわたる多面的な取組が、開催都市東京にどのようなレガシーをもたらしたかについて、取りまとめています。
- また、東京2020大会の成果を、**スポーツ振興**に生かし、**都市の中で根付かせていく姿**を示すため、「**TOKYOスポーツレガシービジョン**」を取りまとめ、**大会で得たスポーツとのつながりを日常に溶け込ませていく**取組を推進しています。



## 1 計画策定の背景

### (3) 東京2020大会のレガシー

#### スポーツ気運の高まり

- 東京都はこれまで、**スポーツ実施率※70%**を目標に、参加体験型イベントを開催するなど、都民のスポーツ実施を促進する取組を通じて、スポーツ気運を高めてきました。
- 平成19（2007）年には39.2%であった都民のスポーツ実施率は、第32回オリンピック競技大会の開催都市が東京に決定した平成25（2013）年以降、50%以上を維持し、更に、東京2020大会が開催された**令和3（2021）年には、68.9%**と過去最高となりました。
- 大会を機に盛り上がった都民のスポーツへの関心を、「**する・みる・支える・応援する**」につなげていきます。

※週1回以上スポーツをしている都民（18歳以上）の割合

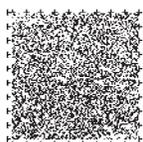


#### パラスポーツの振興

- 東京2020パラリンピックの開催を機に、パラアスリートが自らの限界に挑戦する姿が人々に感動と勇気を与え、障害の有無にかかわらず誰もが活躍できる**共生社会への関心**が大きく高まりました。
- また、大会後も、東京都は**スポーツに取り組む障害のある人への支援**や**パラスポーツへの関心拡大**に向けた取組を更に進めるため、障害のある人のスポーツ環境の整備や、ファンやサポーターの裾野拡大を図ってきました。
- 加えて、令和5（2023）年3月には、**都立初のパラスポーツの競技力向上の拠点**として、障害のある人もない人もパラスポーツに親しむことができる**東京都パラスポーツトレーニングセンター**を開所しました。
- こうした盛り上がりをもっと高め、**障害のある人のスポーツ実施率の向上**や**都民のパラスポーツへの関心向上**につなげていきます。



東京都パラスポーツトレーニングセンター



## バリアフリー化の推進・施設のバージョンアップ

- 大会を通じて、最新の国際水準を満たす施設の整備や施設改修によるバリアフリー化の推進のほか、区市町村のスポーツ施設など、身近なスポーツの場の整備支援等により、東京のスポーツインフラはバージョンアップしました。



東京アクアティクスセンター

## ボランティア文化の醸成

- 大会では、約8.3万人のボランティアが大会をサポートし、年齢、性別、障害の有無にかかわらず誰もが安全・安心に活躍できる環境を提供しました。
- こうした経験を生かし、「東京ボランティアレガシーネットワーク」による募集情報や交流の場の継続的な提供、「TOKYO 障スポ&サポート」によるパラスポーツを支える人材の活動機会の充実など、多彩な情報・活動フィールドの提供につなげています。

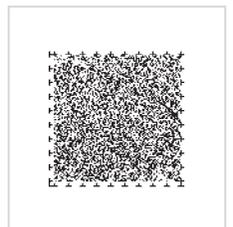


## アーバンスポーツへの関心の高まり

- 東京2020オリンピックでは、スポーツクライミング、スケートボード、BMXフリースタイル、3×3バスケットボールといったアーバンスポーツが新たに競技・種目として追加されました。
- パリ2024オリンピックではブレイキンが採用されるなど、IOCは、若者向けにアーバンスポーツを積極的に取り入れています。
- 東京2020大会後には、大会のレガシーを活用・継承した有明アーバンスポーツパークが整備されたほか、全国でもスケートボードパークが倍増するなど、環境整備も急速に進んでいます。



有明アーバンスポーツパーク



## 1 計画策定の背景

### (4) 東京2020大会後の国際スポーツ大会の開催等

- 東京2020大会後に創設されたスポーツイベント・大会や、**東京2025世界陸上**や**東京2025デフリンピック**の開催等を通じて、東京を更なる**成熟した都市**へと導いていく

#### GRAND CYCLE TOKYO

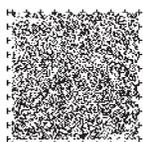
- 環境に優しく、健康にも良い**自転車**を更に身近なものとするため、令和4（2022）年から、**自転車に関する様々なイベント**を開催しています。
- 臨海部では**レインボーブリッジ**などを駆け抜ける「**レインボーライド**」を、**東京2020大会**でロードレースの会場になった**多摩地域**においては、「**THE ROAD RACE TOKYO**」などを開催しています。



レインボーライド

#### 東京レガシーハーフマラソン

- 東京2020大会のレガシーを末永く残していけるよう、**パラリンピックマラソンコース**を活用し、（一財）東京マラソン財団とともに令和4（2022）年秋に創設しました。
- **障害のある人を含め、多くのランナーが参加しやすい大会**として開催されています。



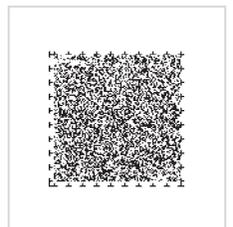
## 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの開催決定

- 令和4（2022）年7月、アメリカ合衆国オレゴン州で開催されたワールドアスレティックスのカウンシル会議で、**令和7（2025）年の世界陸上競技選手権大会の開催地が東京に決定**しました。
- 令和4（2022）年9月、オーストリア（ウィーン）で開催された国際ろう者スポーツ委員会総会において、**令和7（2025）年の夏季デフリンピック競技大会の開催地が東京に決定**しました。



## 今後の国際スポーツ大会に向けた取組

- 東京都は、**国際スポーツ大会のガバナンスや情報公開、東京都の関与の在り方**などについて、東京2020大会の経験を踏まえ、外部の有識者等で構成する検討会議において、将来の国際大会に向けた改善を議論し、**ガイドラインを策定**しました。これらの内容を、令和7（2025）年に開催される東京2025世界陸上や東京2025デフリンピックをはじめ、**今後の国際大会の運営**に生かしていきます。



# 1 計画策定の背景

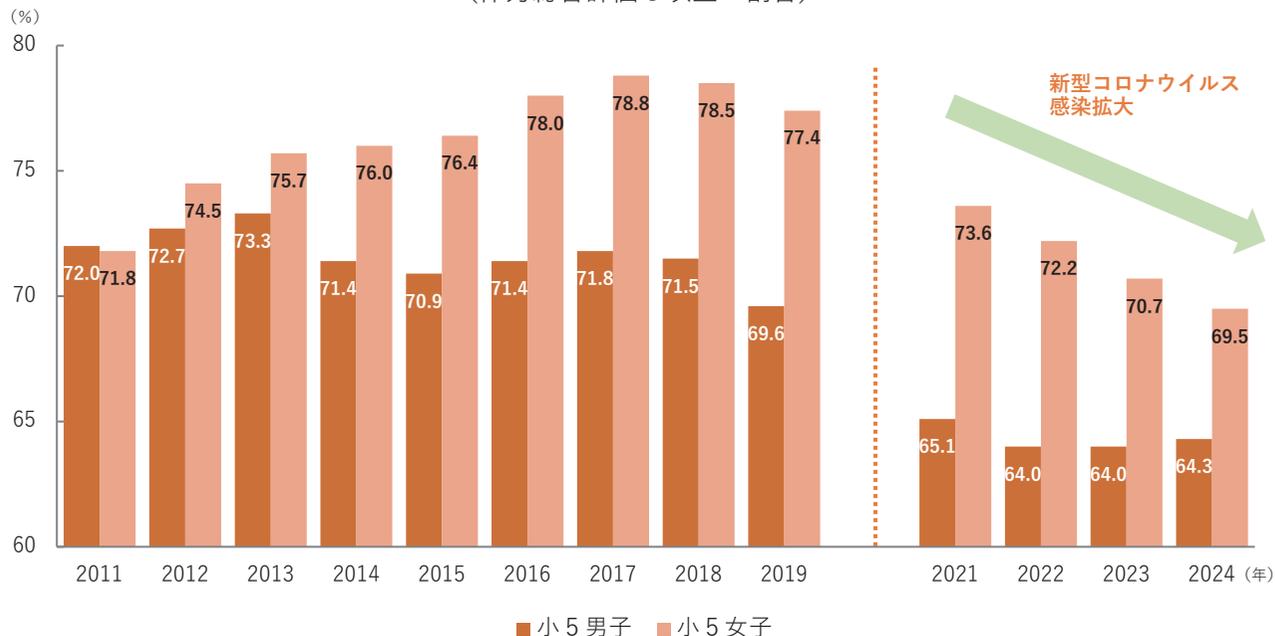
## (5) コロナ禍がもたらした影響

● コロナ禍は、スポーツ環境や生活に**変化**を生み出した。こうした変化を捉え、**スポーツに新たな視点**を取り入れることで、一人ひとりの**ウェルビーイングを高める**とともに、少子高齢化など、直面する**社会課題の解決**につなげる

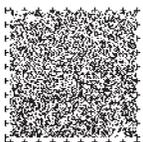
### 子供のスポーツ実施状況への影響

- 令和2（2020）年以降、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために不要不急の外出自粛が呼び掛けられ、**全国一斉の学校休業要請**や**全国的なスポーツ・文化イベントの中止等**の要請も行われました。
- こうした状況を経て、**運動不足による子供の体力低下**が見られます。
- 令和5（2023）年5月に、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行しましたが、**子供の体力・運動能力はコロナ以前の状況に戻っていません**。
- **一度失われた運動習慣を取り戻すことは容易ではありません**。

体力・運動能力調査結果  
(体力総合評価C以上の割合)



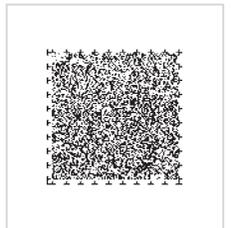
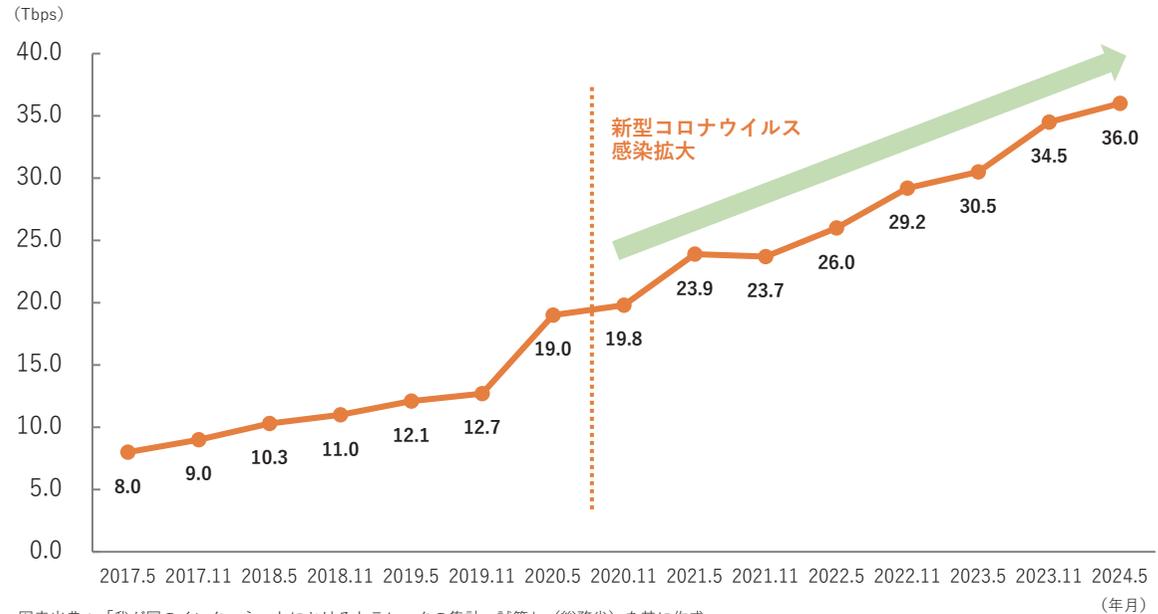
図表出典：「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査報告書」（東京都教育委員会）を基に作成



## デジタル化の進展

- 新型コロナウイルスの感染拡大の中で、**非対面・非接触**での社会活動を営むため、オンライン会議やテレワークの急速な普及、オンライン診療の要件緩和、教育のICT化など、**デジタルツールの活用**が進みました。
- また、**オンラインを活用した文化・スポーツ体験**など、「リアル」と「バーチャル」が融合したサービスも生まれています。
- こうした機を捉え、**新たな技術を積極的に取り入れる**ことにより、コロナ禍の経験を進化させ、**スポーツの新たな楽しみ方**を生み出していきます。

インターネットトラフィック  
(固定系ブロードバンド契約者の総ダウンロードトラフィック) の増加





## (2) eスポーツについて

- eスポーツは、障害の有無や年齢等を問わず楽しむことができ、スポーツ推進にも効用があると考えられる
- 障害者や高齢者の健康増進等に向けて、障害の特性や身体機能の状況に合わせてeスポーツを活用していくとともに、東京都のスポーツ振興におけるeスポーツの活用に関する調査・検証を行っていく

### eスポーツとは

- 近年、eスポーツが広がりを見せています。I O Cの「オリンピック・アジェンダ2025+5」によると、スポーツ競技をコンピュータゲーム化した「バーチャルスポーツ」とそれ以外の「ビデオゲーム」に区別されますが、一般に、これらを使った対戦競技を総称して「eスポーツ」と呼ばれています。

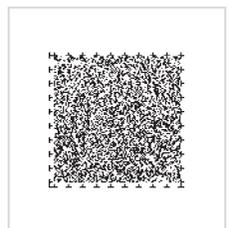
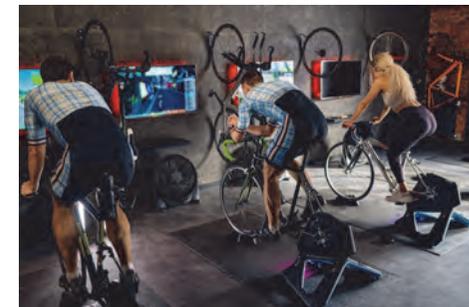
【参考：eスポーツの概念図】



※I O Cの「オリンピック・アジェンダ2025+5」における整理を参照し、整理の一例として作図したものの

### eスポーツの効用・施策での活用

- eスポーツは、障害の有無や年齢・性別を問わず楽しむことができ、さらに、場所や距離を問わず、気軽に参加できるという特徴が指摘されています。
- 中でもバーチャルスポーツについては、スポーツへの関心喚起やフレイル予防、競技普及などにつながると考えられています。
- 今後、障害者や高齢者の健康増進等に向けて、障害の特性や身体機能の状況に合わせてeスポーツを活用していきます。
- 今後の情勢の変化を踏まえ、eスポーツの課題や効用等について調査するなど、東京都のスポーツ振興におけるeスポーツの活用の在り方について検証を行っていきます。



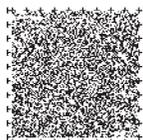
### 3 スポーツの意義・価値

#### (1) スポーツの内在的価値や外在的価値

- スポーツには、「楽しさ」や「喜び」といった「内在的な価値」と、社会活性化等に寄与する「外在的な価値」がある
- スポーツの価値を全ての人々が享受できるよう取り組むことで、健康・幸福な暮らしや、様々な社会課題の解決につなげる



一人ひとりのウェルビーイング向上を実現



## 4 スポーツの効用・効果

### (1) 健康の維持・増進

- スポーツは、**死亡・非感染性疾患のリスクを低下させる**

#### 身体活動と死亡率の関係

- 東京都が平成29（2017）年度に実施した「スポーツを通じた健康増進に関する調査研究」では、**身体活動量が多いグループほど、死亡や非感染性疾患の発症リスクが低下する**という報告があります。
- また、日本人成人の非感染性疾患及び外傷による死亡に対する予防可能な危険因子について調べた研究\*1では、非感染性疾患のうち**約5万人が運動不足が原因で死亡している**ことが分かりました。加えて、**運動不足は喫煙、高血圧に続き日本人の死亡原因の第3位**であることが報告されています。
- 身体活動には、加齢に伴う筋力の低下や心の不調の予防のほか、**心臓病、脳血管障害、がん**などのリスクを下げるといった**様々な健康上の効果**が期待されます。

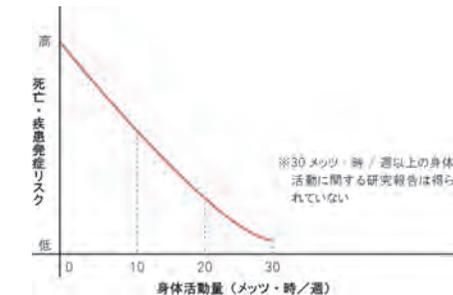
\*1 Ikeda N, et al. Adult mortality attributable to preventable risk factors for non-communicable diseases and injuries in Japan: a comparative risk assessment. PLoS Med. 2012; 9: e1001160.

#### 座位行動と死亡率の関係

- 世界各国の座位行動を調べた厚生労働省の調査によると、**1日の座位時間**について中央値が300分であるのに対し、**日本は400分を超えており、日本人は座りすぎのリスクが大きい**と考えられます。
- 長時間座り続けることで血流や筋肉の代謝が低下し、**心筋梗塞、脳血管疾患、肥満、糖尿病、がん、認知症**など健康に害を及ぼす**危険性が指摘**されています。また、**1日に座っている時間が4時間未満の成人と比べ、1日に11時間以上座っている人は死亡リスクが40%も高まる**といわれています\*2。

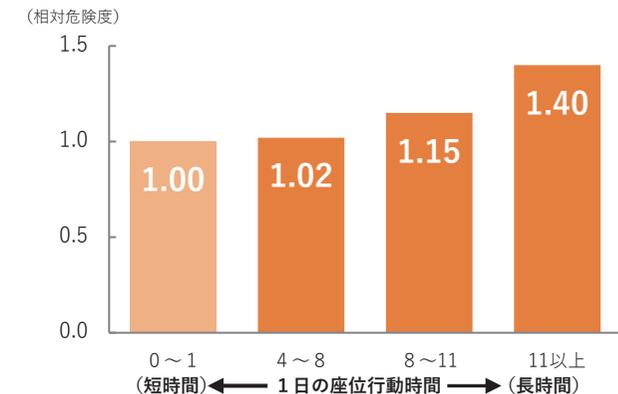
\*2 スポーツ庁web広報マガジン「日本人の座位時間は世界最長「7」時間！座りすぎが健康リスクを高める あなたは大丈夫？その対策とは・・・」

身体活動量と死亡・非感染性疾患発症リスクの相関関係図

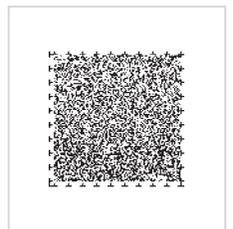


図表出典：「スポーツを通じた健康増進に関する調査研究」（平成30年3月、オリンピック・パラリンピック準備局）

座りすぎと寿命の関係



図表出典：厚生労働省ウェブサイト  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/kenkou/undou/index\\_00003.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/undou/index_00003.html) (2025/3/28)



## 4 スポーツの効用・効果

### (1) 健康の維持・増進

- スポーツは、**認知症の予防等**にもつながるとともに、**医療費や介護費の増大を抑える効果**がある

#### 運動習慣と認知症

- 健常高齢者を対象とした研究では、**運動習慣がない人は運動習慣がある人（週2～3回以上）と比べて、認知症になるリスクが1.82倍**であることが報告されています。
- また、高齢者を対象とした調査で、**ウォーキングよりハードな運動（早歩きなど）を週3回以上継続している人は、運動習慣のない人（週1日以下）に比べて50%も認知症になりにくい**ことが分かっています\*1。

\*1 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター「あたまとからだを元気にする MCIハンドブック」

#### 身体活動と医療費・介護費

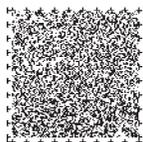
- 宮城県大崎町で行われた調査によると**1日の歩く時間が30分以下の人は、1時間以上歩いた人と比較して、月額15ポンド（2,900円）多く医療費を使った**という結果があります\*2。
- 活動性の違いによる**介護費用**に関する調査によると、**歩行時間が1日30分未満の日本人高齢者の介護費用は、1日60分以上歩いた人よりも約5年間で約13.5万円高かった**という結果が出ています\*3。

\*2 Tsuji I, et al: Impact of walking upon medical care expenditure in Japan: the Ohsaki Cohort Study. Int J Epidemiol 2003; 32: 809-14.

\*3 Hirai H, Saito M, Kondo N, Kondo K, Ojima T. Physical Activity and Cumulative Long-Term Care Cost among Older Japanese Adults: A Prospective Study in JAGES. International Journal of Environmental Research and Public Health. 2021; 18(9):5004. <https://doi.org/10.3390/ijerph18095004>

#### 東京都健康推進プラン21（第三次）

- 「東京都健康推進プラン21（第三次）」では、誰もが生涯にわたり健やかで心豊かに暮らすことができる持続可能な社会の実現に向け、都民一人ひとりの主体的な取組とともに、社会全体で支援し、**誰一人取り残さない健康づくり**を推進しています。
- 同プランでは、健康寿命の延伸及び健康格差の縮小を図るため、日常生活における**身体活動量（歩数）を増やす**ことを目標に掲げるなど、**身体活動・運動の増加**に向けた取組等を推進しています。



東京都健康推進プラン21（第三次）

- スポーツには、**主観的な幸福感を高めたり、孤独感を低減させる効果**が期待できる
- スポーツによって、**職場全体の生産性と従業員の満足度を向上させる**考え方が注目されている

### みるスポーツと健康

- 野球観戦が高齢者の健康に与える効果を調べた研究\*1では、高齢者が**球場でプロ野球を観戦**すると、抑うつ症状スコアが有意に減少し、**主観的な幸福感が高まる**ことが報告されています。
- 英国の世帯調査では、**ライブのスポーツイベントに参加している人々は、主観的な幸福感が高く、孤独感が低い**という調査結果\*2が出ています。

\*1 川上諒子 野球観戦が高齢者の健康に与える効果：西武ライオンズ・早稲田大学の共同研究。第24回Sport Business & Policy研究会, 東京, 2019年10月

\*2 Keyes H, Gradidge S, Gibson N, Harvey A, Roeloffs S, Zawisza M, Forwood S. Attending live sporting events predicts subjective wellbeing and reduces loneliness. Front Public Health. 2023 Jan 4;10:989706. doi: 10.3389/fpubh.2022.989706. PMID: 36684908; PMCID: PMC9848399.

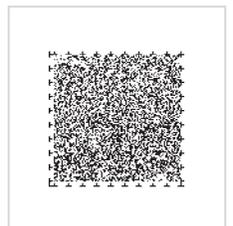


### 職場とスポーツ

- 職場における**アブセンティズム（欠勤）とプレゼンティズム（出勤しているが生産性が低い状態）**への対策として、スポーツを実施することで、**職場全体の生産性と従業員の満足度を向上させる**考え方が注目されています。\*3
  - 定期的な運動は、免疫力を高め、病気のリスクを減少させるため、**アブセンティズムの減少**につながります。
  - また、スポーツは、ストレスの軽減、メンタルヘルスの向上が期待できることから、**集中力やモチベーションの向上、プレゼンティズムの減少**にも寄与します。
- さらに、スポーツを通じて同僚との絆が深まることで、職場の雰囲気が良くなり、全体的な**仕事の満足度が向上**する効果も考えられます。運動はエネルギーレベルを高め、疲労感を減少させる効果があり、**仕事の効率アップ**にもつながります\*4。

\*3 Cortés RN, et al. Arch Phys Med Rehabil. 2023. S0003-9993(23)00409-4

\*4 Takasaki H, Ozawa H, Kondo Y, Kitamura T, Takeuchi R, Ito H. Supervised Exercise Therapy Reduces Presenteeism to Greater Extent Than Unsupervised Self-Care in Workers with Musculoskeletal Pain: a Systematic Review and Meta-Analysis. J Occup Rehabil. 2024 Jun;34(2):387-397. doi: 10.1007/s10926-023-10137-z.



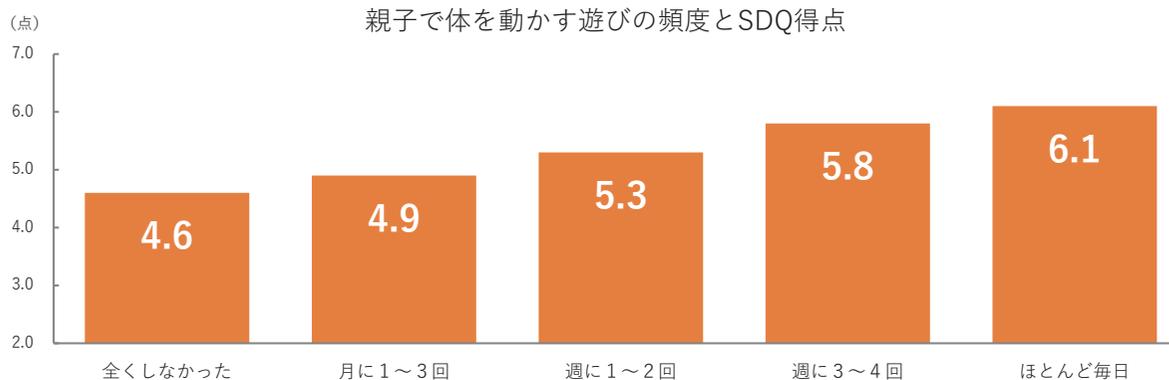
## 4 スポーツの効用・効果

### (1) 健康の維持・増進

● 幼少期における身体活動は、体力・運動能力の向上のみならず様々な効果が期待できる

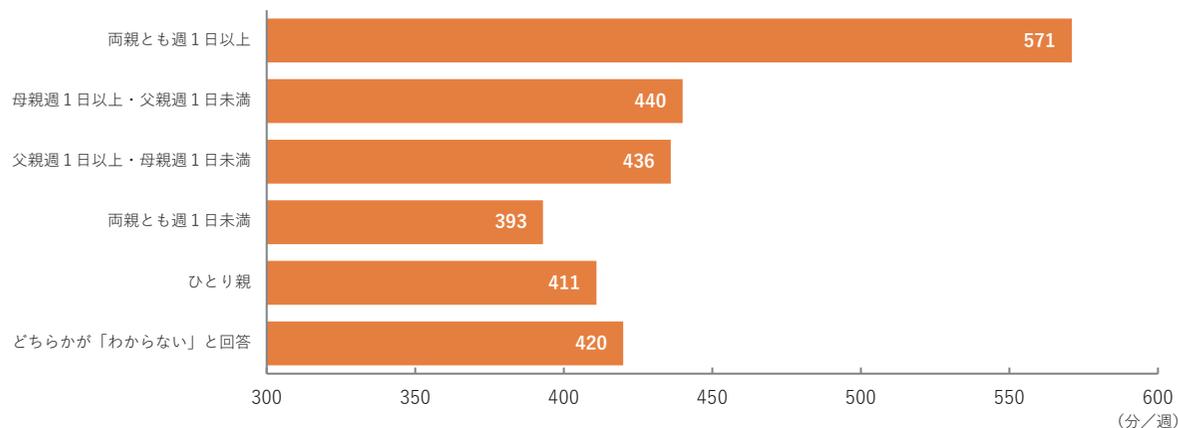
#### 子供とスポーツ

- 幼少期における身体活動は、**体力・運動能力の向上、健康的な体、意欲的な心の育成、認知機能の発達**など様々な効果が期待できます。
- (公財) 笹川スポーツ財団の調査では、**親子で体を動かす遊びの頻度が高いほど、向社会的行動の強さ(社会性の発達状況)の得点が高い**という報告があり、親子が一緒に体を動かして遊ぶ時間や機会を確保する取組が重要であることを示唆しています。
- 幼少期における身体活動を活発にし、さらには**子供のスポーツ好きを増やしていくため、保護者の前向きな参画のほか、スポーツを実施できる居場所の創出、楽しむことに主眼を置いた競われないスポーツの導入等**が、今後重要な視点となります。

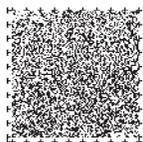


図表出典：「全国の幼児(3~6歳)を対象とした運動実施状況に関する調査研究~幼稚園・保育園以外における幼児の運動実施の実態調査~」(2024年3月、(公財) 笹川スポーツ財団)を基に作成  
※SDQ得点とは、子どものメンタルヘルスを測る尺度であり、日常生活への適応のしやすさ・しづらさを評価できる。

#### 両親の運動・スポーツ実施頻度と幼児の園外での総運動時間



図表出典：「全国の幼児(3~6歳)を対象とした運動実施状況に関する調査研究~幼稚園・保育園以外における幼児の運動実施の実態調査~」(2024年3月、(公財) 笹川スポーツ財団)を基に作成



## (2) 共生社会の実現

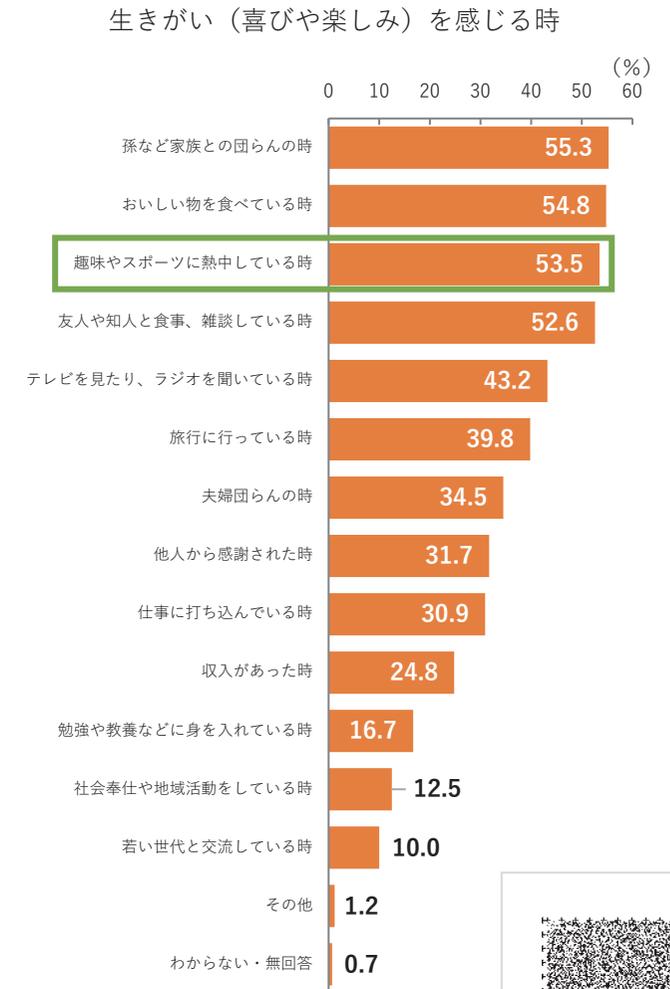
### ● 高齢者にとってスポーツは、健康維持や仲間づくり、地域のコミュニティ形成につながる

#### 高齢者とスポーツ

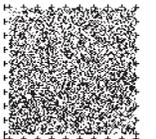
- 働く高齢者は年々増加している一方\*1、工作中的の事故で死亡又は4日以上休むけがをした60歳以上の高齢者は、令和5（2023）年に3万9,702人と過去最多\*2となりました。  
また、60歳以上の労働者の労働災害を種類別にみると、令和5（2023）年では、「転倒」が最も多い40%を占めました\*2。  
こうしたことから、身体活動による運動機能の低下抑止のための対策が重要です。
- さらに、身体活動は、**認知症（アルツハイマー病を含む。）の発症及び認知機能の低下の抑制**にも効果があると言われています。
- 加えて、内閣府の調査では、高齢者の半数以上が「趣味やスポーツに熱中している時」に**生きがい**を感じると回答しています。
- スポーツは、**仲間づくり**や**地域コミュニティ形成**にも寄与しています。
- 令和10（2028）年の第39回ねんりんピックの東京開催を契機に、区市町村と一層連携し、**高齢者の健康保持・増進、社会参加、生きがいの高揚**を図る取組を充実させ、**長寿社会を形成**していくことが重要です。

\*1 「統計からみた我が国の高齢者」（2024年9月、総務省）

\*2 「第164回労働政策審議会安全衛生分科会 資料2-1『高齢労働者の労働災害防止対策について』（2024年7月、厚生労働省）



図表出典：「高齢者の日常生活・地域社会への参加に関する調査」（2021年、内閣府）を基に作成



## 4 スポーツの効用・効果

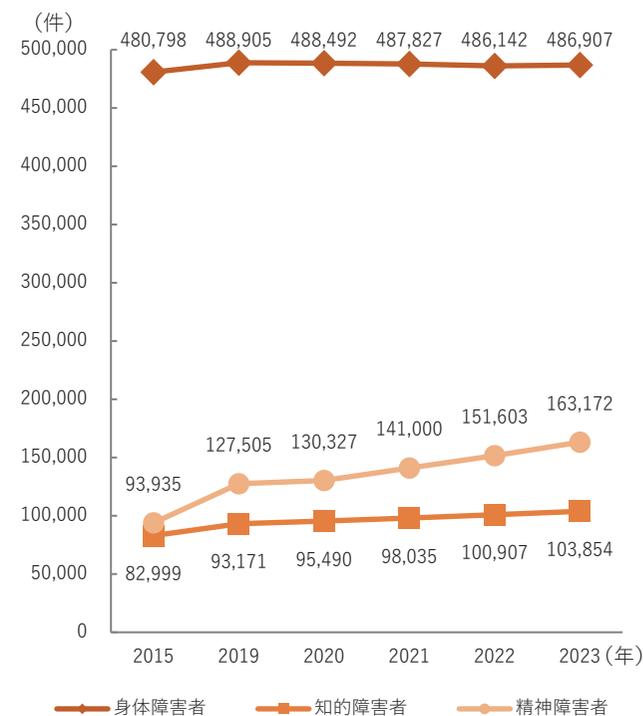
### (2) 共生社会の実現

- **障害のある人**にとってスポーツは健康増進だけでなく、**社会参加・交流**のきっかけとなる

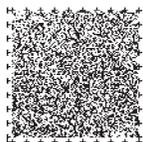
#### 障害のある人とスポーツ

- 令和5（2023）年度時点の**都内の障害者手帳交付数**は、**身体障害者と知的障害者、精神障害者**を合わせて約75万人で、**増加傾向**にあります。
- **障害のある人**にとってスポーツは、健康増進や体を動かすことによる**楽しみや爽快感**、**他者との交流**などのほかに、**身体機能の維持・向上**、**社会参加**の機会になるなど、様々な効用があります。
- また、**パラスポーツ**は、障害のある人が楽しめるようルールや用具を工夫して行われるものですが、**全ての人々が楽しむことができるユニバーサルなスポーツ**として、**障害のない人との交流の促進**につながる可能性を持っています。
- こうしたパラスポーツについて、**身近な場所**で取り組める環境整備や、**障害のある人のスポーツ実施をサポート**する人材の育成、**パラスポーツの魅力発信**などの点から取組を進めていくことが重要です。

東京都の障害者手帳交付状況の推移



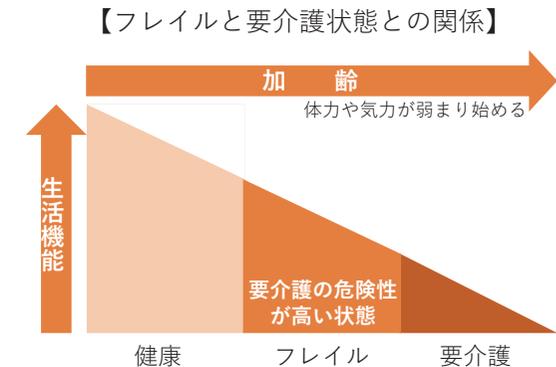
図表出典：「福祉・衛生統計年報（令和5年度）」（2024年12月、福祉局・保健医療局）を基に作成



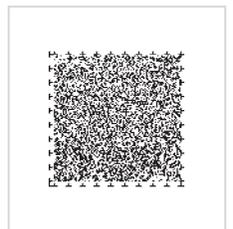
- **女性**の健康増進のため、スポーツを通じた取組の推進がより重要となる

## 女性とスポーツ

- 女性の平均寿命と健康寿命の差は11.63年となっており、日常生活に制限のない期間である健康寿命の延伸が課題になっています。高齢になっても健康で過ごせるように、**フレイル予防**や**認知症予防**等にスポーツが有用とされています。
- また、**過度な痩せ**による**骨量低下**から**骨粗鬆症**を防ぐため、**若い時から筋力向上を図り**、骨密度を上げることで、将来的な**骨量低下**や**骨折予防**の効果が期待できます。
- さらに、筋力不足は**基礎代謝量の低下**にもつながるおそれがあります。筋肉などの除脂肪量は加齢とともに減少するため、**若いうちから筋力の維持**に努めることが健康的に痩せることにも効果的とされています。
- 令和元（2019）年にスポーツ庁は、「女性スポーツ促進キャンペーン」の一環として、「“楽しさ”をきっかけに思わず体を動かしたくなる」をテーマに、オリジナルダンス「Like a Parade」の動画を公開しました。この動画を通じて、**女性が身体を動かすことの楽しさや健康効果を実感**することにより、気軽にスポーツに取り組むきっかけを提供しました。
- こうした年代・ライフステージ・志向などにより変化する**女性のニーズや価値観**に合わせた働きかけを実施していくことが重要です。



図表出典：「知っておく！からはじめる一介護予防・フレイル予防」（2023年3月、福祉保健局）を基に作成



## 4 スポーツの効用・効果

### (3) 地域・経済の活性化

- 国際的な大規模スポーツイベントには、**地域や経済を活性化させるポテンシャル**がある

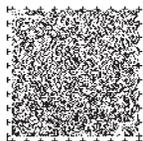
#### ラグビーワールドカップ2019™日本大会

- RWC 2019は、国内外から多くの観客が訪れ、**東京をはじめ国内各地に大きなにぎわい**をもたらしました。
- (公財)ラグビーワールドカップ2019組織委員会が公表した「ラグビーワールドカップ2019™日本大会開催後経済効果分析レポート」によると、同大会では、**訪日客の約60%が初めて日本を訪れ、その75%が「必ず来たい」と日本再訪の意向**を示しています。
- 一方、平成30(2018)年に観光庁が行った調査によると、訪日外国人の相応する数字は57%<sup>\*1</sup>となっており、同レポートは、**RWC 2019が初訪日の誘因**となり、将来の再訪日につながる可能性が高い、としています。

<sup>\*1</sup>「訪日外国人消費動向調査」(観光庁、2018年年間データ、観光・レジャー目的)

#### 東京マラソン

- 東京マラソンは、世界6大マラソンの一つとして認定されるなど、**世界最高水準の大会**へと発展を続けており、**国内外からのランナーをはじめ、ボランティアや沿道の観衆など多くの人が参加**しています。
- また、海外から来日するランナーへのおもてなしと、国内外のランナー同士が交流を深め結束を高めることを目的としたファンランイベントをはじめ、**地域の人々が参加した様々なイベントが開催**されるなど、**国際交流や都市プレゼンスの向上、地域・経済の活性化**にもつながっています。



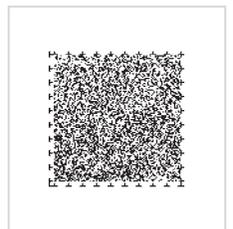
## ● スポーツやにぎわいの新たな拠点の整備も進んでいる

### スポーツやにぎわいの新たな拠点

- 東京都は、令和6（2024）年10月に**有明アーバンスポーツパーク**を開業しました。アーバンスポーツ施設に加え、カフェやフードモールなどの店舗等を有する**複合型施設**として、都民や来訪者に親しまれています。
- また、東京辰巳国際水泳場の改修により**東京辰巳アイスアリーナ**を整備し、令和7（2025）年9月に開業予定です。**都立初の通年アイスリンク施設**として、国際大会を含む競技大会や競技力向上の場として活用するとともに、都民が気軽に利用でき、広く親しまれる施設を目指していきます。
- こうした施設が**スポーツやにぎわいの新たな拠点**となり、地域・経済の活性化につながることを期待されます。
- 国においても、スポーツを活用した地域の社会課題の解決についても目標が設定されています。令和8（2026）年度までに**地方公共団体の40%が「スポーツ・健康まちづくり」に取り組み、スポーツイベントの開催やスポーツ施設の整備**を通じて、**健康増進や地域・経済の活性化**を図ることを目指しています。



東京辰巳アイスアリーナ ※令和7（2025）年9月開業予定



## 5 スポーツへの参画方法

### (1) する・みる・支える・応援する

- **スポーツへの参画方法**には「**する**」「**みる**」「**支える**」があり、「**応援する**」ことも**スポーツへの入り口**となる参画の方法といえる
- **スポーツへの積極的な参画を促す**ことで、**充実感・幸福感**をより得られるようにしていく

#### スポーツへの参画方法

- 令和5（2023）年度にスポーツ庁が実施した「スポーツの実施状況等に関する世論調査」によると、1年間でスポーツを「**する**」「**みる**」「**ささえる**」のいずれかに参画した者の割合（**スポーツに参画した割合**）は、**87.8%**（男性89.9%、女性85.7%）でした。
- また、「**する・みる・ささえる**」**全てに参画した人**（8.6%）は、日常生活の**充実感**を感じている割合が高く（86.3%）、**幸福感**も比較的高い（7.7点/10点満点）と報告されています。

※「**する**」の割合は、「この1年間に運動やスポーツを実施した日数」で1日以上と回答した者の割合  
 ※「**みる**」の割合は、「直接現地」又は「テレビやインターネット」のいずれかで観戦と回答した者の割合  
 ※「**ささえる**」の割合は、「運動・スポーツをささえる活動」で「行っていない」と「わからない」を除いた割合  
 ※「**ささえる**」は、スポーツ庁の表記に合わせています。

#### スポーツをする

野球や陸上競技といった競技スポーツ、ストレッチなどの運動、気晴らしの散歩、計画的・継続的に実施している身体活動など

#### スポーツを応援する

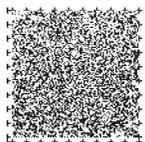
「応援する」ことは、スポーツを「**する**」「**みる**」「**支える**」の入り口となる参画の方法といえる。

#### スポーツをみる

直接現地、又はテレビやインターネット等で観戦

#### スポーツを支える

スポーツボランティア、試合の審判、監督、コーチ、イベント・大会の運営など



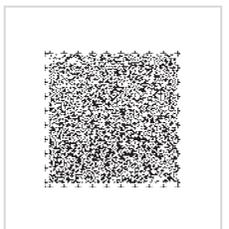
## 押しスポーツProject

- **押しスポーツProject**とは、東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの開催を機に、スポーツを「する・みる・支える・応援する」の視点から、**様々なスポーツに親しむ機会を創出**するプロジェクトです。
- 「都民一人ひとりの好みや特性に合ったスポーツの楽しさ（押しスポーツ）」の発見を支援することで、スポーツの楽しさを知り、継続的に関わることで、心身の健康や生き生きとした暮らしの実現など、**都民の健康長寿・ウェルネスの向上**を推進していくことを目的としています。
- 「押しスポーツ」の発見・実施を後押しする**三つの取組**を展開していきます。
  - ・ **キッズスポーツプログラム**  
スポーツを体験できる機会を通じて、子供たちの成長を支援していきます。
  - ・ **健康長寿プログラム**  
スポーツを通じた健康増進やフレイル予防、仲間づくりを促進していきます。
  - ・ **Let's enjoy sports!**  
スポーツやレクリエーションに触れ、楽しさ・面白さを体感できる機会を提供します。



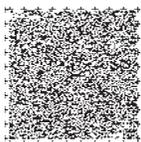
### 【取組事例の紹介】東京スポーツドック（健康長寿プログラム）

- ・ 体力・体組成の測定結果や体力年齢を、アプリを通じて本人にフィードバックし、結果を踏まえた健康アドバイスを実施するなど、健康づくりのきっかけの場を提供しています。
- ・ 働き盛り世代のうちからスポーツを生活の中に取り入れ、いつまでも健康に過ごせるよう支援しています。



## 第1編 総論（計画の考え方）

# 第2章 東京のスポーツを取り巻く状況



# 1 スポーツを取り巻く環境の変化

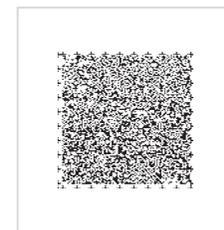
## (1) 人口構成・世帯数の変化

● 世界に先駆け高齢化が進む日本。東京の総人口は2030年をピークに減少し、高齢者の一人暮らし世帯が増加

### ① 人口構成の変化

#### 人口構成（少子高齢化）

- 東京の人口は、昭和50（1975）年から平成7（1995）年まではほぼ横ばいに推移してきましたが、その後増加し、平成27（2015）年時点で**1,352万人**となっています。  
令和12（2030）年の**1,426万人**まで増加を続けますが、その後減少し、令和47（2065）年には**1,231万人**となると推計されています。
- 高齢化率は、平成27（2015）年時点で**22.7%**となっていますが、令和47（2065）年には**29.4%**と総人口の約3割が65歳以上になると想定されます。
- 東京の出生数の推移を見ると、平成28（2016）年から令和2（2020）年までの5年間では**53万人**となっています。今後は徐々に減少し、令和42（2060）年から令和47（2065）年までの5年間は**40万人**と大きく減少することが見込まれています。



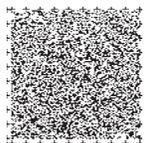
# 1 スポーツを取り巻く環境の変化

## (1) 人口構成・世帯数の変化

### ② 家族構成の変化

#### 世帯構成（単身世帯増）

- 東京における世帯数は令和17（2035）年の768万世帯をピークに減少します。
- 家族類型別に世帯数の推移を見ると、**単独世帯**の割合は、令和2（2020）年の50.2%から令和47（2065）年には54.3%と増加し、**一人暮らし世帯の割合が増加していくことが予測**されています。
- 世帯主の年齢による単独世帯の推移を見ると、**75歳以上の単独世帯**が東京の単独世帯に占める割合は、令和2（2020）年の14.1%から令和47（2065）年には17.5%と増加していくことが見込まれます。今後は、高齢化が進展してだけでなく、**高齢者の一人暮らしも増えていくことが予測**されています。

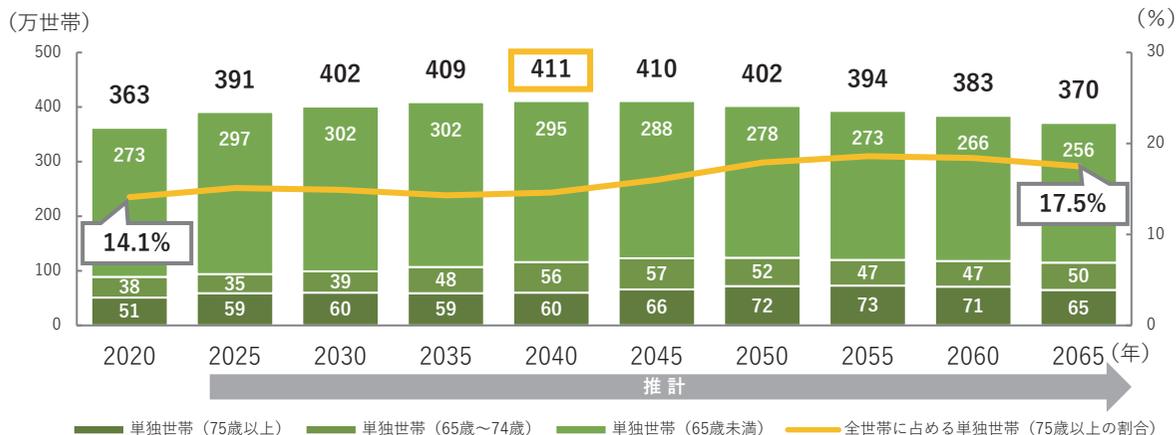


東京の家族類型別世帯数の推移



図表出典：「『未来の東京』戦略 附属資料 東京の将来人口」（2024年8月、政策企画局）を基に作成

東京の世帯主の年齢階級別単独世帯数の推移



図表出典：「『未来の東京』戦略 附属資料 東京の将来人口」（2024年8月、政策企画局）を基に作成

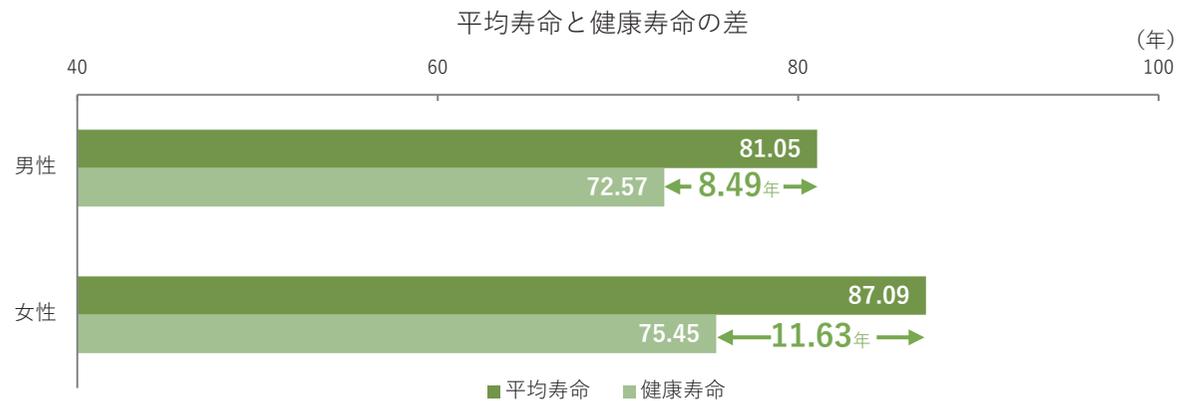
## (2) 平均寿命・健康寿命・体力の変化

● 平均寿命に対し、健康寿命の延伸が重要。若年層はコロナ禍で低下した体力の回復が課題

### ① 健康状態の変化

#### 平均寿命と健康寿命

- 厚生労働省が公表した「令和4年簡易生命表の概況」では、日本人男性の平均寿命は**81.05年**、女性の平均寿命は**87.09年**となっています。
- 平均寿命に対して、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間を、**健康寿命**とする考え方があります。
- 厚生労働省が公表した「健康寿命の令和4年値について」では、男性の健康寿命は**72.57年**、女性の健康寿命は**75.45年**としています。平均寿命と健康寿命の差は、男性で**8.49年**、女性で**11.63年**となっています。
- 厚生労働省の「国民医療費」では、**都民医療費の総額**は、令和4（2022）年度に約**4.8兆円**となっており、平成27（2015）年度から約**6,800億円増**となっています。



図表出典：「健康寿命の令和4年値について」（2024年12月、厚生労働省）を基に作成 ※数値については出典元のデータを加工等せずに掲載

#### 都民の医療費の現状

年度	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
医療費(億円)	41,433	41,457	42,931	43,407	44,571	42,972	46,155	48,224

図表出典：「国民医療費」（厚生労働省）※各年度の都道府県別国民医療費を基に作成



# 1 スポーツを取り巻く環境の変化

## (2) 平均寿命・健康寿命・体力の変化

### ② 体力の変化

#### 新体力テストの合計点

- スポーツ庁が公表した「令和5年度 体力・運動能力調査結果」によると、**コロナ禍で進行した体力低下について、成年、高齢者はおおむねコロナ禍前の水準で推移する一方、子供はコロナ禍前の水準に戻りきっていないことが分かります。**

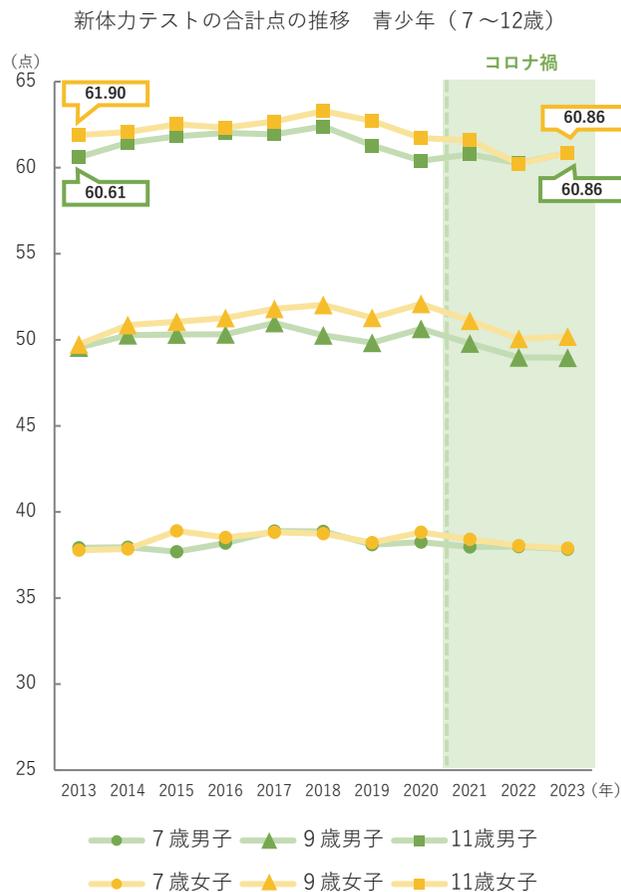
新体力テストの合計点（11歳）

	2013年	2023年
男子	60.61 点	60.86 点
女子	61.90 点	60.86 点

新体力テストの合計点（75～79歳）

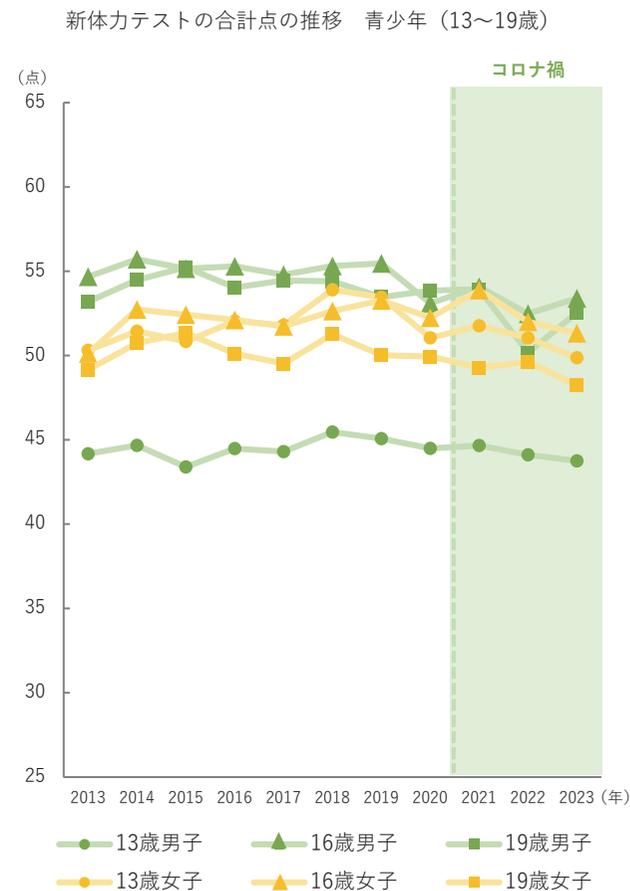
	2013年	2023年
男子	34.70 点	35.93 点
女子	34.62 点	35.86 点

#### ● 7～11歳は、コロナ禍前の値に戻っていない

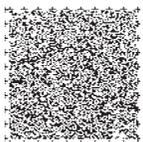


図表出典：「令和5年度 体力・運動能力調査結果」（2024年10月、スポーツ庁）を基に作成

#### ● 13～19歳も、体力が回復していない

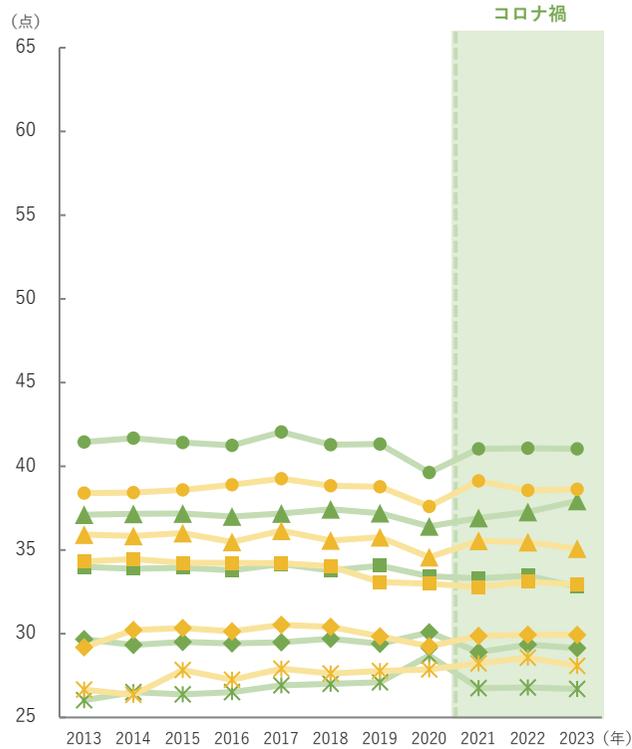


図表出典：「令和5年度 体力・運動能力調査結果」（2024年10月、スポーツ庁）を基に作成



● 成年は、コロナ禍前の水準で推移

新体力テストの合計点の推移 成年（20～64歳）

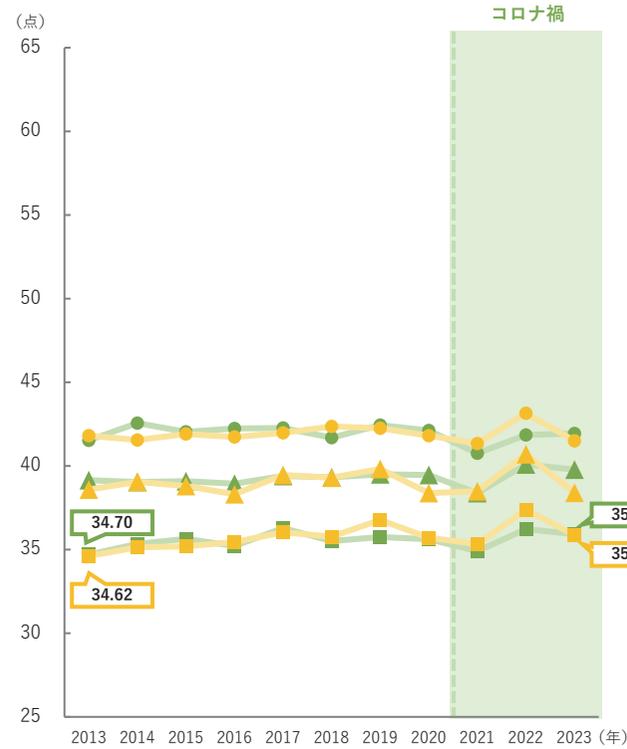


- 25～29歳男子 ▲ 35～39歳男子 ■ 45～49歳男子
- ◆ 55～59歳男子 \* 60～64歳男子 ● 25～29歳女子
- ▲ 35～39歳女子 ■ 45～49歳女子 ◆ 55～59歳女子
- \* 60～64歳女子

図表出典：「令和5年度 体力・運動能力調査結果」（2024年10月、スポーツ庁）を基に作成

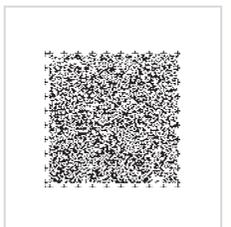
● 高齢者は、総じて横ばい

新体力テストの合計点の推移 高齢者（65～79歳）



- 65～69歳男子 ▲ 70～74歳男子 ■ 75～79歳男子
- 65～69歳女子 ▲ 70～74歳女子 ■ 75～79歳女子

図表出典：「令和5年度 体力・運動能力調査結果」（2024年10月、スポーツ庁）を基に作成



# 1 スポーツを取り巻く環境の変化

## (3) スポーツ実施状況

- **スポーツ実施率は着実に上昇してきた。**今後、**実施率の維持・増加**とともに、**スポーツの質の向上**が重要
- **スポーツに関する課題は、子供、女性、障害のある人など対象により様々。****特性やライフステージに応じた政策強化**が必要

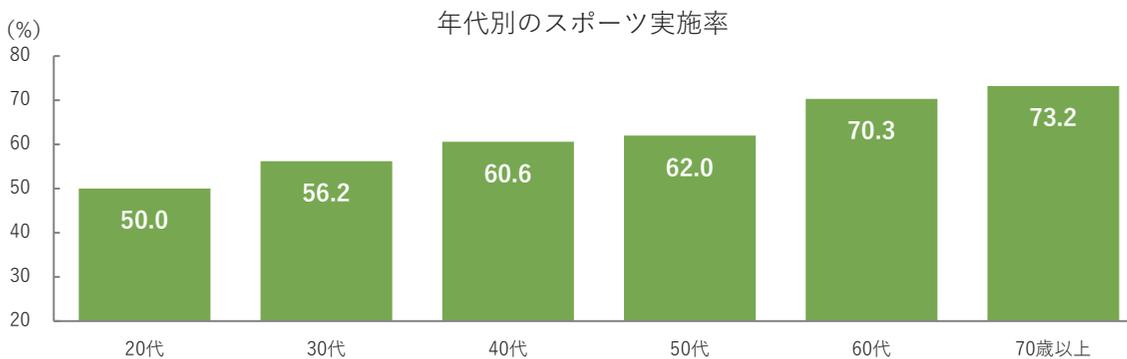
### ① 都民のスポーツ実施率の推移

#### スポーツ実施率の推移

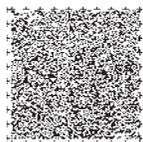
- **東京のスポーツ実施率**（週1回以上スポーツを実施する人の割合）は着実に上昇し、**全国の実施率と比べても高水準で推移しており、目標値の70%に迫っています。**
- また、都民のスポーツ実施率を年代別に見ると、**若い世代の実施率は低い傾向にあります。**



図表出典：「都民のスポーツ活動に関する実態調査」（生活文化スポーツ局）、「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（スポーツ庁）を基に作成



図表出典：「令和6年度 都民のスポーツ活動に関する実態調査」（2025年3月、生活文化スポーツ局）を基に作成



## ② 10年前のスポーツ実施率との比較

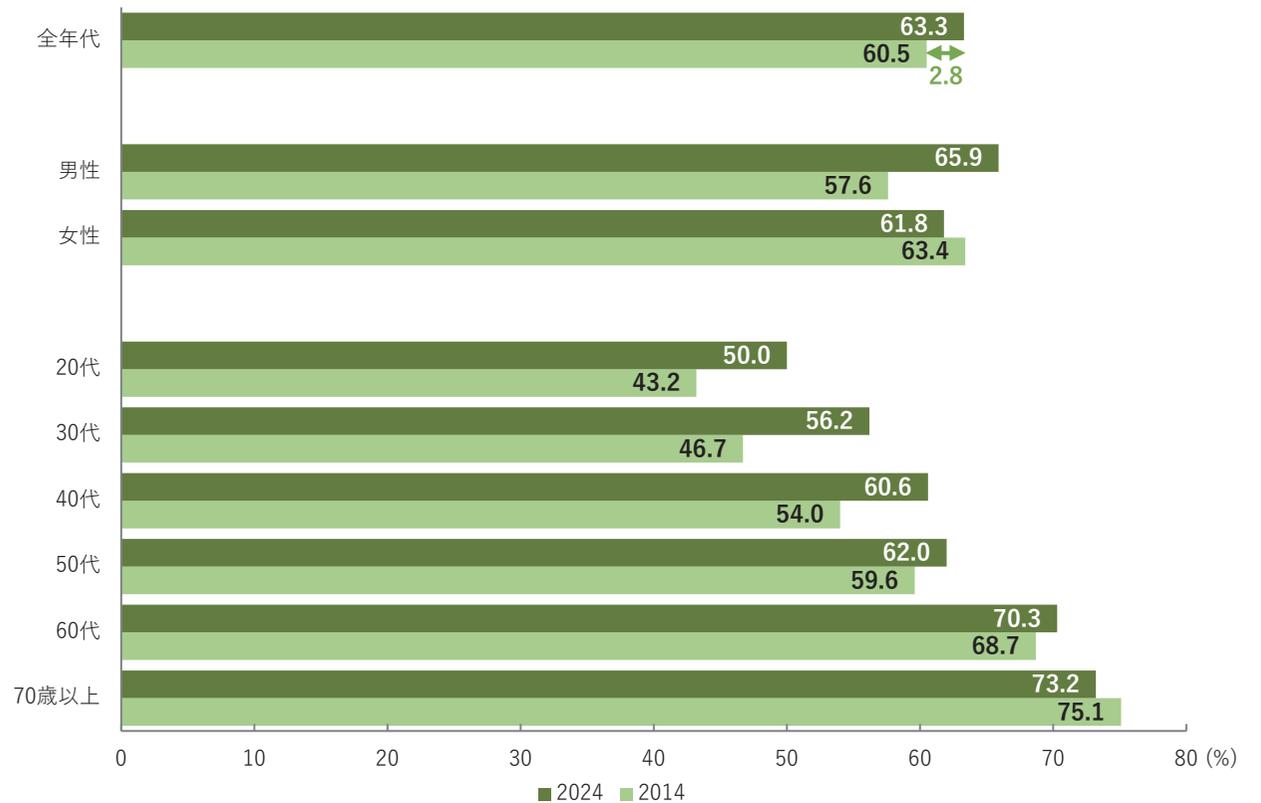
### 10年前のスポーツ実施率との比較

- 令和6（2024）年と平成26（2014）年を比較すると、スポーツ実施率は全年代で**2.8ポイント**増加しており、増加幅は逓増傾向です。
- また、**20～60代**では、10年前に比べ、**スポーツ実施率が増加**しており、**幅広い世代**でスポーツの取組が進んでいます。

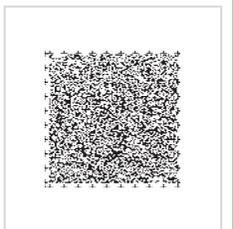
東京のスポーツ実施率

2014年度 **60.5** % ▶ 2024年度 **63.3** %

過去（10年前）のスポーツ実施率との比較



図表出典：「都民のスポーツ活動に関する実態調査」（生活文化スポーツ局）を基に作成



# 1 スポーツを取り巻く環境の変化

## (3) スポーツ実施状況

### ③ 子供のスポーツ

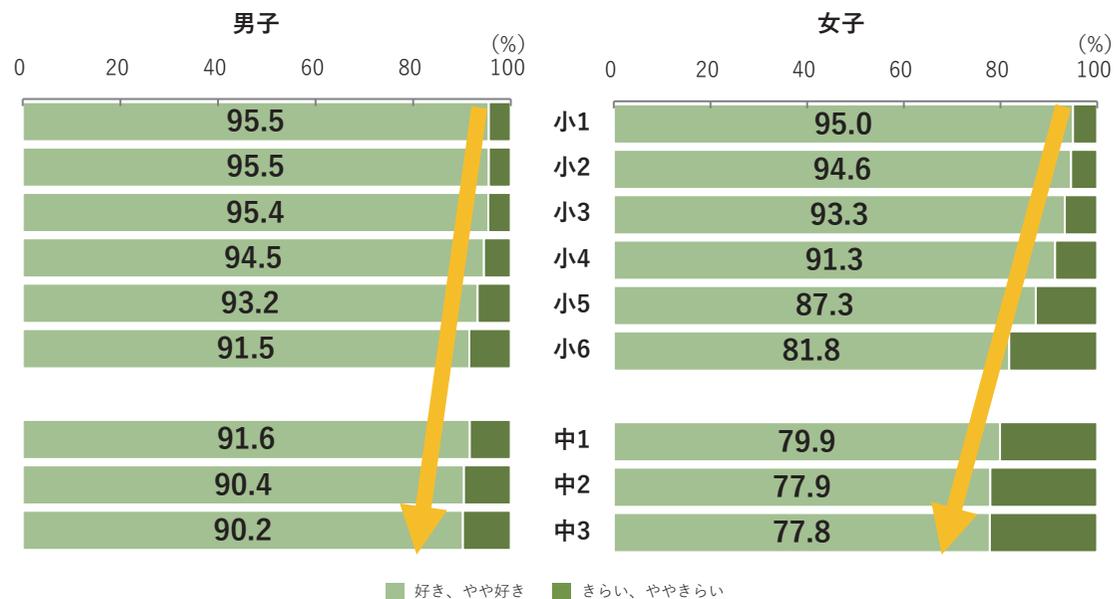
#### 子供のスポーツ

- 学年が上がるにつれて、男女ともに「スポーツをすることが好き」な子供の割合が減少しています。特に小学校高学年の女子において、その減少幅が顕著となっています。

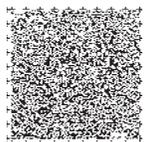
運動やスポーツをすることは好きか

	小1	中3
男子	95.5%	90.2%
女子	95.0%	77.8%

運動やスポーツをすることが好きか



図表出典：「令和6年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査報告書」（2025年3月、東京都教育委員会）を基に作成



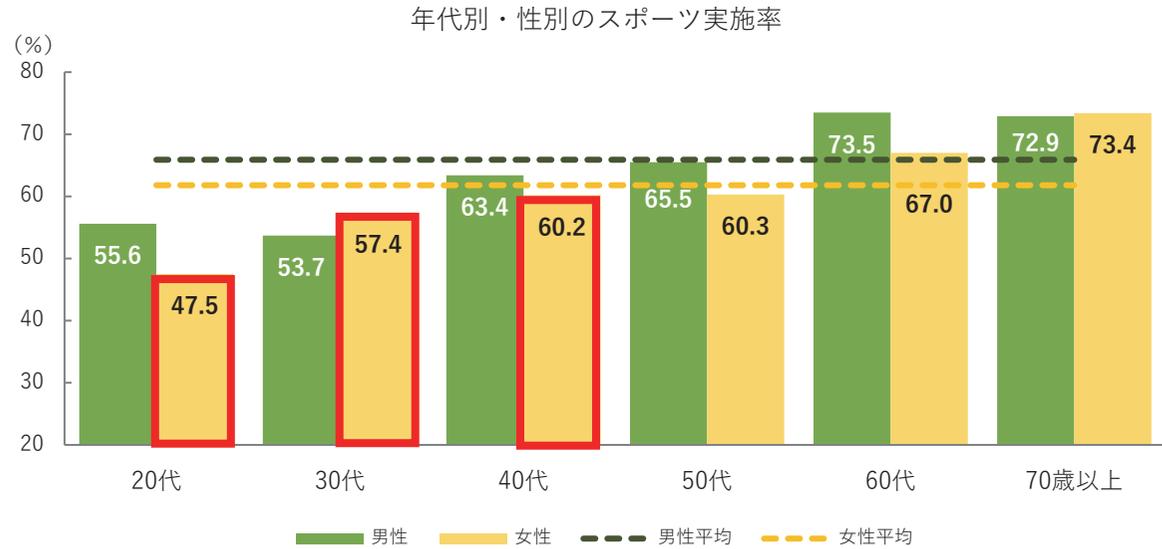
## ④ 女性のスポーツ

### 女性のスポーツ

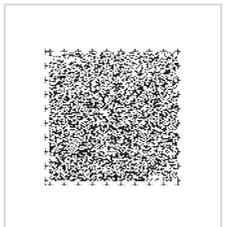
- 20代から40代は他世代と比べスポーツ実施率が低い水準となっています。
- 特に女性は男性に比べ、スポーツ実施率が低い傾向にあり、働き盛り世代の女性のスポーツ実施を促進する必要があります。

年代別・性別のスポーツ実施率

	20代	30代	40代
男性	55.6 %	53.7 %	63.4 %
女性	47.5 %	57.4 %	60.2 %



図表出典：「令和6年度 都民のスポーツ活動に関する実態調査」（2025年3月、生活文化スポーツ局）を基に作成



# 1 スポーツを取り巻く環境の変化

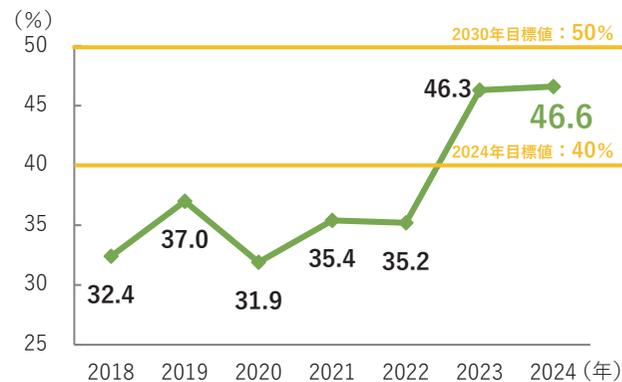
## (3) スポーツ実施状況

### ⑤ 障害のある人のスポーツ

#### 障害のある人のスポーツ実施率の推移

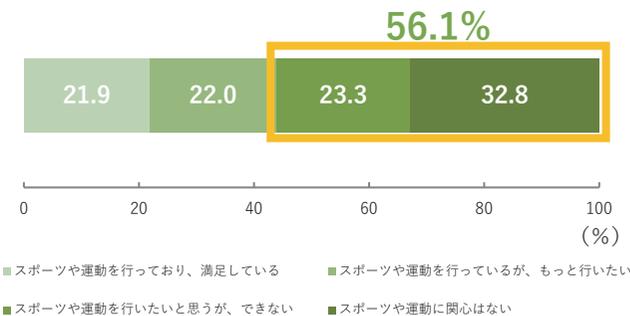
- 令和6（2024）年度の東京における**障害のある人（18歳以上）のスポーツ実施率は46.6%**であり、都民全体（63.3%）と比べると大きな隔たりがあります。  
また、1年間に全くスポーツを実施していない人は36.3%に上ります。
- スポーツへの取組意向としては、「満足している」「もっと行いたい」人が全体の43.9%である一方、「**関心がない**」「**行いたいができない**」人が**56.1%**と全体の半数を超えています。  
こうした現状を踏まえ、**スポーツに取り組みたい人が機会を逃さず取り組める環境整備を行うとともに、関心のない人やできないと思っている人にスポーツの効用や楽しさを伝えたり、気軽に取り組める機会の提供を行うなど、個々の状況に応じた多様なアプローチが重要**です。

障害のある人（18歳以上）のスポーツ実施率

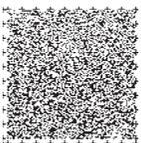


図表出典：「障害者のスポーツに関する意識調査」（生活文化スポーツ局）を基に作成  
※過去1年間に週1回以上スポーツ・運動を行った人の割合

現在のスポーツ・運動への取組意向



図表出典：「令和6年度 障害者のスポーツに関する意識調査」（2025年3月、生活文化スポーツ局）を基に作成  
※調査時点におけるスポーツ・運動への満足度や関心度等に関する割合  
※7～17歳を含む。



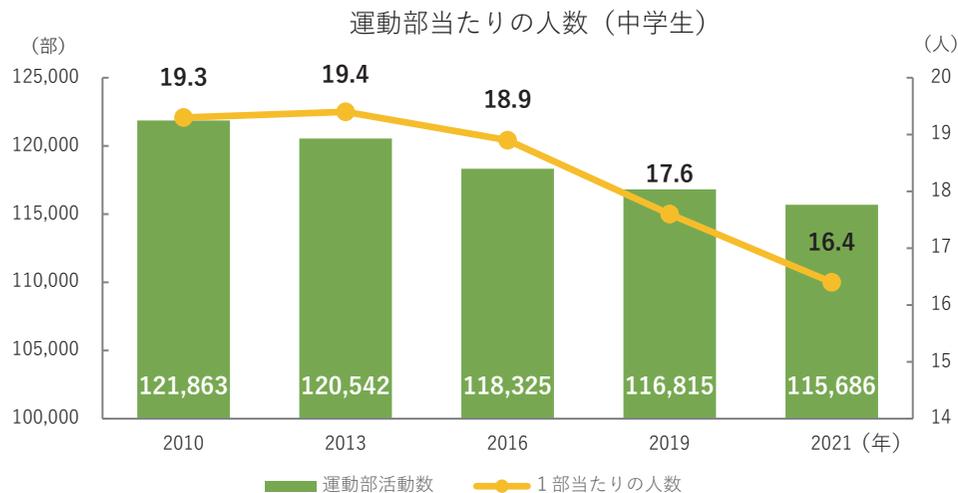
## ⑥ 学校におけるスポーツ

### 部活動の状況

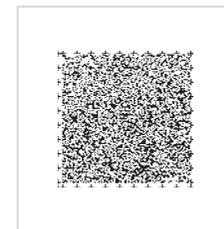
- 部活動参加者数は減少の一途をたどっています。  
 (公財)日本中学校体育連盟の「加盟校・加盟生徒数調査集計表」によると、東京において、日本中学校体育連盟に加盟している生徒数は、平成26(2014)年度の160,946人から、令和6(2024)年度には143,600人へと減少しました。
- 部活動1部当たりの人数も減少傾向にあり、平成22(2010)年の19.3人から、令和3(2021)年には16.4人となっています。  
 部活動の地域連携・地域移行と合わせ、部活動の今後の在り方が課題となっています。



図表出典：「加盟校・加盟生徒数調査集計表」(公財)日本中学校体育連盟)を基に作成



図表出典：「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言 参考資料集」(2022年6月、スポーツ庁)を基に作成

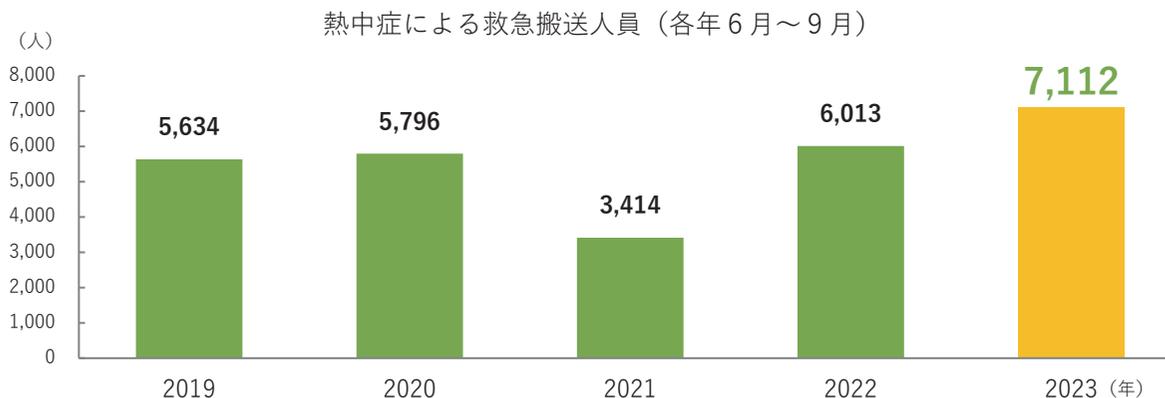


# 1 スポーツを取り巻く環境の変化

## (4) 気候の変化・労働の変化

### 気候危機（熱中症搬送人員）

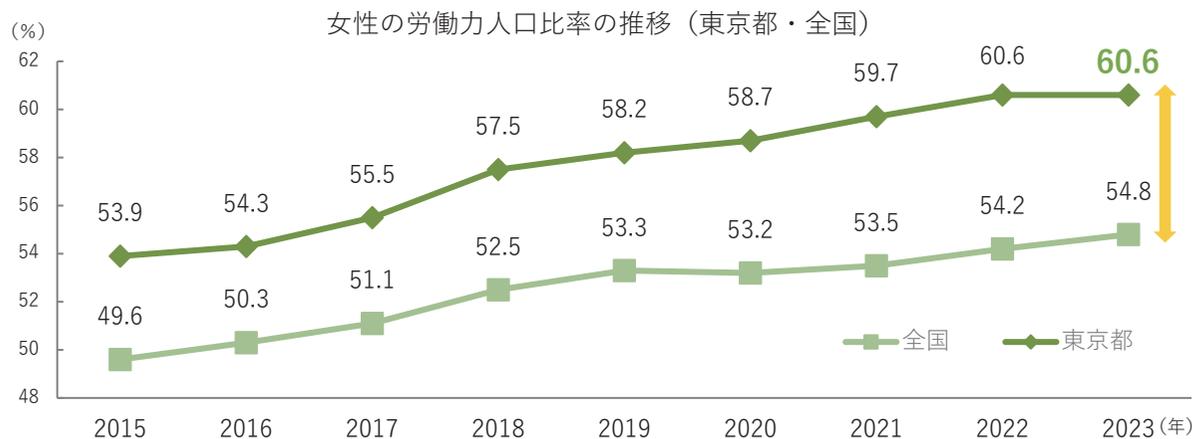
- 東京消防庁「熱中症の統計資料」によれば、令和5（2023）年度の熱中症による搬送人員は、7,112人と過去5年で最多となっています。スポーツを実施するに当たっては、安全な環境の整備が重要となっています。



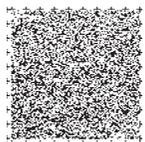
図表出典：「熱中症の統計資料」（東京消防庁）を基に作成

### 労働の変化（女性の労働力人口比率の上昇）

- 総務省統計局の「労働力調査年報」と東京都総務局の「東京の労働力（労働力調査結果）」によると、令和5（2023）年における女性の労働力人口比率は、東京が60.6%であり、全国平均の54.8%を大きく上回っています。このことから、東京では全国に比べて女性の社会進出がより促進されていることがわかります。



図表出典：「令和5年労働力調査年報」（2024年3月、総務省）、「東京の労働力（労働力調査結果）令和5年平均結果」（2024年3月、総務局）を基に作成



## (5) デジタル／テクノロジーの活用

### テクノロジーを活用した新たなスポーツ

- テクノロジーは、**スポーツの発展**に大きな影響を与えています。様々な技術が活用されることで、競技力の向上や参加のハードルを下げ、障害の有無や年齢、性別にかかわらず公平な条件でスポーツに参加できるきっかけにもなり得ます。

#### 「CYBER BOCCIA S (サイバーボッチャ エス)」

パラリンピックの正式種目である「ボッチャ」を、ルールはそのままにテクノロジーを使って拡張しエンターテインメント性を高めたコンテンツです。センシング技術でボールの位置を自動計測し、リアルタイムで状況が判断されます。体験料の一部は、(一社)日本ボッチャ協会に寄附され、選手の支援や育成にもつながっています。

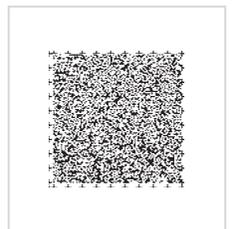


### デジタルを活用した新しい観戦体験

- デジタル技術の進化により、**スポーツ観戦体験**も大きく変化しています。ARやVRを活用したサービスなどの**新しい観戦スタイル**は、単にスポーツを「見る」だけでなく、**より没入的でインタラクティブな体験**を提供することを目指しています。

#### リモート応援システム「Remote Cheerer powered by SoundUD」

コロナ禍の影響で、スポーツ興行における入場制限が実施された際に、観客がいなくても選手に応援を届ける方法として注目されました。音響通信技術を使って、スタジアムやイベント会場から遠く離れた場所にいる人々が、スマートフォンやタブレットを通じ、リアルタイムで応援や声援を送ることができるサービスです。

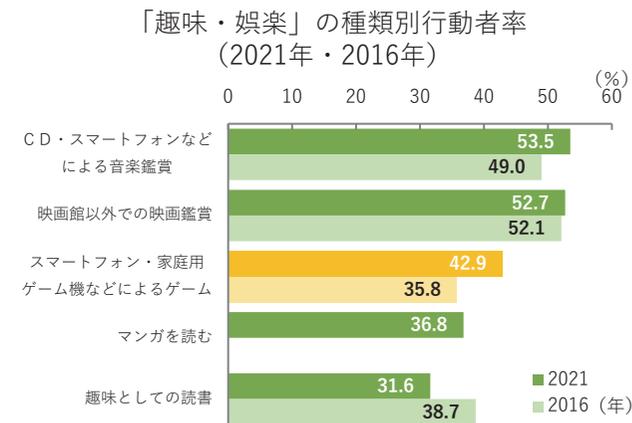


# 1 スポーツを取り巻く環境の変化

## (6) eスポーツに関する動向

### eスポーツに関する社会の動向

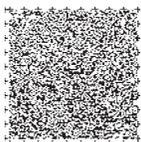
- 総務省統計局の「令和3年社会生活基本調査 生活時間及び生活行動に関する結果」によると、**余暇活動**のうち「スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム」の上昇幅が最大になっており、**余暇の過ごし方に変化**が見られます。



図表出典：「社会生活基本調査 生活時間及び生活行動に関する結果」（2022年8月、総務省統計局）を基に作成

### 国内の動向

- 令和元（2019）年：
  - ・国民体育大会（現 国民スポーツ大会）に合わせ、茨城県が全国初となる**都道府県対抗によるeスポーツ大会**を開催
- 令和6（2024）年：
  - ・日本eスポーツ連合をJOCの**準加盟団体**として承認  
※令和9（2027）年3月まで
  - ・ねんりんピック（鳥取県）において、**eスポーツ**が文化交流大会の**正式種目**として初めて採用



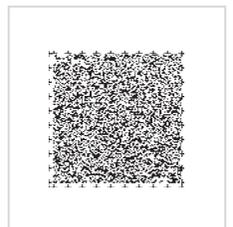
## IOCの動向

- 「オリンピック・アジェンダ2025+5」において、若者にスポーツへの関心を高めてもらうためにバーチャルスポーツを生かしていくことを提言
- 令和3（2021）年：史上初の公式eスポーツ大会（オリンピック・バーチャルシリーズ）をオンラインで開催
- 令和5（2023）年：IFやゲーム会社と連携した世界的なスポーツ競技大会（オリンピックeスポーツシリーズ）を開催し、決勝戦をシンガポールで開催
- 令和9（2027）年：第1回「オリンピック・eスポーツ・ゲームズ」をサウジアラビアで開催



## アジア大会

- 令和5（2023）年：杭州アジア大会においてeスポーツが初めて正式種目に採用
- 令和8（2026）年：愛知・名古屋アジア大会においても、eスポーツが正式種目に採用



# 1 スポーツを取り巻く環境の変化

## (6) eスポーツに関する動向

### 行政分野におけるeスポーツの可能性

- (公財) 東京市町村自治調査会が多摩・島しょ地域の住民に行った調査結果によると、**行政がeスポーツに取り組むことについて、選択肢としたいずれの事業においても肯定的な印象が6割以上を占めています。**
- 高齢者の認知機能向上や障害のある人の社会参画、子供の居場所づくりなど、eスポーツを行政の諸施策に取り入れることで、取組の関心喚起につながる可能性があります。

行政がeスポーツ事業に取り組むことについての印象

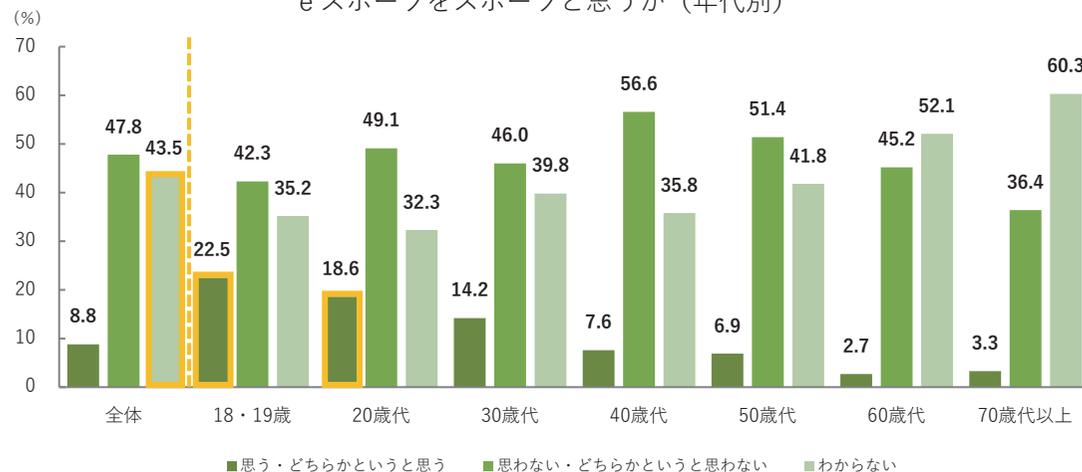


図表出典：「地域課題の解決に向けたeスポーツの可能性に関する調査研究報告書」(2024年3月、(公財)東京市町村自治調査会)を基に作成

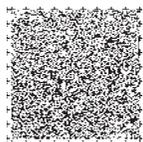
### eスポーツに対する認識

- eスポーツをスポーツと思うか否かについて、全体では「わからない」という浮動票が半数近くに上りましたが、若い世代ほどスポーツと思う割合が高い結果となりました。

eスポーツをスポーツと思うか(年代別)



図表出典：「スポーツライフ・データ2018」(2018年12月、(公財)笹川スポーツ財団)を基に作成



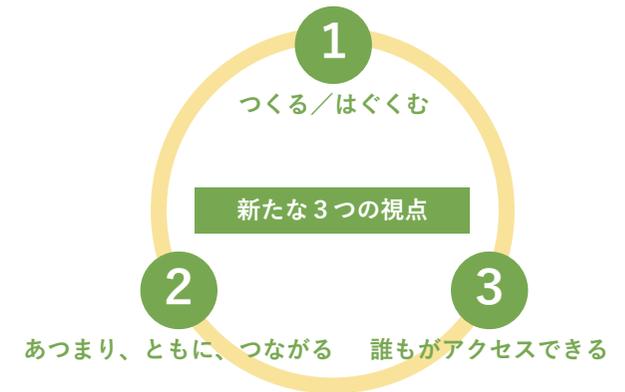
## (7) 国の動向

### スポーツ基本法

- 平成23（2011）年6月に「スポーツ振興法」を全面改定した「**スポーツ基本法**」が制定されました。
- 同法では、**スポーツが、青少年の健全育成や、地域社会の再生、心身の健康の保持増進、社会・経済の活力の創造、我が国の国際的地位向上等、国民生活において多面にわたる役割**を担うことが明らかにされています。

### 第3期スポーツ基本計画の策定

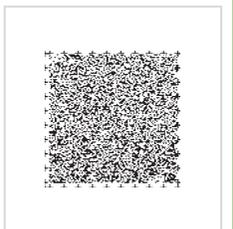
- 東京2020大会後、令和4（2022）年3月に、**第3期スポーツ基本計画**が策定されました。
- 少子高齢化、DXの技術革新、持続可能な社会への移行等の社会変化や出来事等を踏まえ、「する」「みる」「ささえる」を真に実現するための「**新たな3つの視点**」が示されています。
- 令和4（2022）年度から令和8（2026）年度の計画期間の取組を通じて、全ての人が自発的にスポーツに取り組むことで自己実現を図り、**スポーツの力で、前向きで活力ある社会と、絆の強い社会を目指す**としています。



第3期スポーツ基本計画における「新たな3つの視点」

### 国民スポーツ大会の見直しの動き ※令和7（2025）年2月現在

- スポーツを取り巻く環境は年々変化しており、世代別の総合スポーツ大会や各競技団体主催の全日本選手権などの全国規模のスポーツイベントが多く開催されている現状を踏まえ、**3巡目の国民スポーツ大会の在り方**について検討が進められています。
- J S P Oは、令和6（2024）年度に「今後の国民スポーツ大会の在り方を考える有識者会議」を開催し、令和7（2025）年3月末までに、**今後の国民スポーツ大会の方向性**をJ S P O理事会に提言することとしています。



# 1 スポーツを取り巻く環境の変化

## (7) 国の動向

### 健康日本21

- **健康日本21**は、厚生労働省が国民の健康増進を目的として実施している国民健康づくり運動です。21世紀の日本における国民の健康寿命の延長を実現するために、具体的な目標値を設定して生活習慣の改善に取り組むことを目指しています。
- 令和6（2024）年からは**健康日本21（第三次）**が実施され、**成人男女の1日の目標歩数は8,000歩、高齢者男女の目標歩数は6,000歩**となっています。

### 海外諸都市のスポーツ実施状況

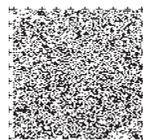
- 本計画において、東京都は**スポーツ実施率を70%まで引き上げる**という目標を掲げています。この目標は、世界でスポーツ実施率が高いとされている**諸外国を超えて、世界最高水準を目指そうとするもの**です。

海外諸都市のスポーツ実施状況

国	実施率	年齢	備考	出典
ドイツ	68.0%	15歳以上	※運動やスポーツの実施率（頻度は問わない）	Eurobarometer, 2022
フランス	66.0%	15歳以上	※過去1年間に一度でもスポーツ関連活動を実施	Les Chiffres CLÉS du Sport 2020, INJEP
オーストラリア	80.5%	15歳以上	※スポーツ関連活動や身体活動に週1回以上参加している	AusPlay, 2021-2022
イギリス	72.9%	16歳以上	※週30分以上	Active Lives Online Tool, 2020/11-2021/11
韓国	61.2%	10歳以上	※週1回以上運動	国民生活体育調査、2022

図表出典：「諸外国のスポーツ振興施策の比較表 2023」（2023年3月、（公財）笹川スポーツ財団）

※いずれも調査方法やサンプルの抽出方法が異なる



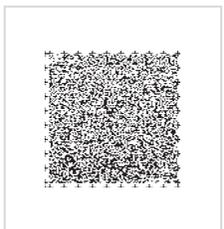
## (8) 企業等の動向

### 企業における従業員の健康増進の取組

- 東京都は平成27（2015）年から従業員のスポーツ活動を推進する取組等を実施している企業を「**東京都スポーツ推進企業**」と認定しており、認定企業数は年々増加しています。令和6（2024）年度は、新規認定企業102社を加え、合計583社が認定されています。
- スポーツ庁では、従業員の健康増進のためにスポーツの実施に向けた積極的な取組を行っている企業を「**スポーツエールカンパニー**」として認定しています。認定企業数は、認定を開始した平成29（2017）年から着実に増加し、令和7（2025）年1月には1,491社が認定されています。
- 日本健康会議では、特に優良な健康経営を実践している企業を「**健康経営優良法人**」として認定し、企業が、従業員や求職者、関係企業等から社会的な評価を受けられることを目指しています。また、経済産業省と東京証券取引所は共同で、健康経営優良法人（大規模法人部門）申請法人の上位500位以内の上場企業を「**健康経営銘柄**」として選定し、**健康経営の普及・啓発**を目指しています。
- 全国健康保険協会東京支部と健康保険組合連合会東京連合会では、都内の企業が健康優良企業を目指し、企業全体で健康づくりに取り組むこと（健康経営）を宣言する「**健康企業宣言**」事業を運営しており、達成基準を満たした企業に対し、「**金の認定**」、「**銀の認定**」を贈呈しています。
- スポーツ庁では、一人でも多くの方がスポーツを楽しみ、スポーツを行うことが生活習慣の一部となるような社会を目指して、「**Sport in Life プロジェクト**」に取り組んでおり、**Sport in Life コンソーシアム**の加盟団体に対する団体間の連携・情報共有などに関するサポートや、スポーツ人口拡大に資する優れた取組の表彰などが行われています。

### スマート・ライフ・プロジェクト

- 厚生労働省では、「健康寿命をのばそう！」をスローガンにした「**スマート・ライフ・プロジェクト**」を平成23（2011）年2月に開始しました。プロジェクトに参画する企業等と連携しながら、運動や食生活等について具体的なアクションの呼び掛けを行っており、令和7（2025）年1月時点で12,202の企業や団体が参加しています。



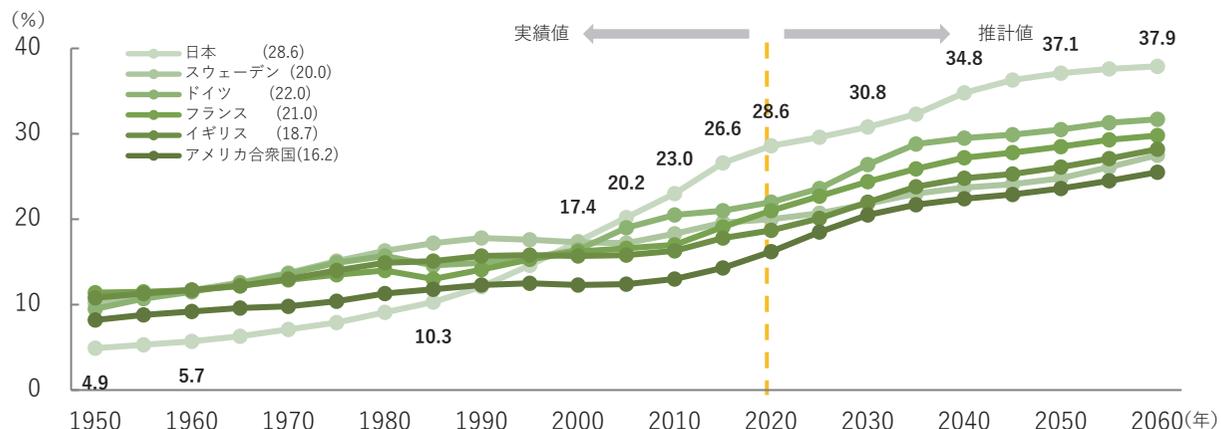
## 2 世界における日本・東京の現在

### (1) 高齢化の進行を踏まえた都市モデルの構築

#### 先進諸国の高齢化率

- 日本は世界に先駆けて高齢化が進行しており、今後も高齢化率が高い水準で推移することが見込まれます。
- こうした中においても持続的な成長を実現するためには、**日本や東京の強みを伸ばし、市場の成長を促す**など、**新たな都市モデルの構築**が必要です。

世界の高齢化率の推移（65歳以上人口）



図表出典：「令和6年版高齢社会白書」（2024年6月、内閣府）を基に作成

#### 日本のアニメ産業市場の海外売上げ

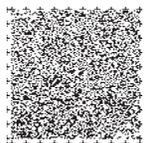
- マンガやアニメ等は、世界で「クール（カッコいい）」と捉えられる日本の魅力です。日本のアニメ産業市場の海外売上げは、令和5（2023）年度には約1兆7,222億円となり、10年前と比べて約6倍となっています。

- スポーツを題材としたマンガやアニメが、競技への参加や観戦、応援を始めるきっかけとなることも多く、日本産コンテンツの世界における更なる成長と相まって、**スポーツへの関心を高めていく可能性**を秘めています。

アニメ産業市場海外売上げ推移



図表出典：「アニメ産業レポート2024 サマリー版」（2025年1月、（一財）日本動画協会）を基に作成

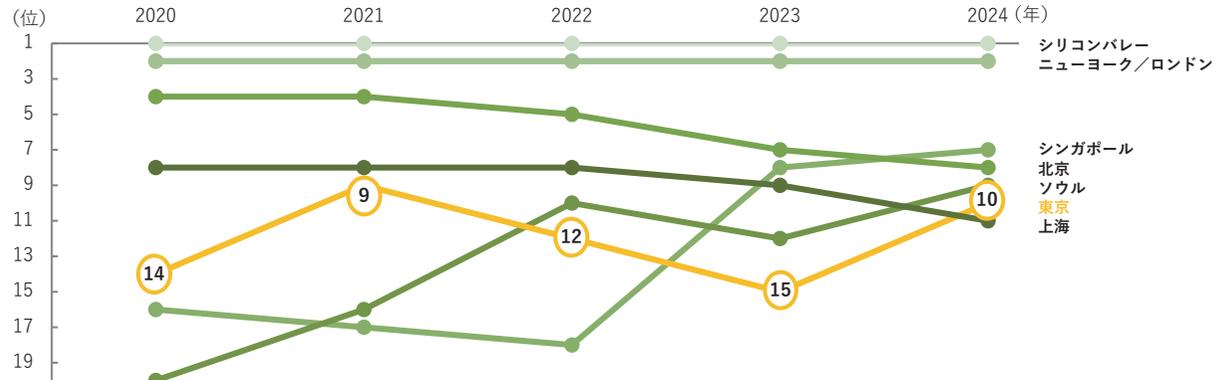


## (2) スタートアップ・エコシステム・ランキング

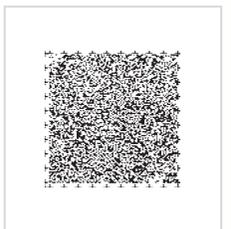
### スタートアップ・エコシステム・ランキング

- **スタートアップ・エコシステム**とは、新しいビジネスを創出する**スタートアップ企業を支援**するための産業生態系のことです。このエコシステムには、スタートアップ企業が創業から成長、そして成功へ至るまでのプロセスに必要な様々なサポートが含まれています。
- Startup Genome社による**スタートアップ・エコシステムの総合ランキング**によると、令和6（2024）年の東京の順位は前年の調査から上昇し、**世界で10位**となっています。
- 国際競争が激化する中、**スタートアップとの連携**などにより、スポーツの価値を高める**新たなイノベーションを促進**していくことが重要です。

スタートアップ・エコシステム・ランキング



図表出典：「Global Startup Ecosystem Report 2024」（2024年6月、Startup Genome）を基に作成



## 2 世界における日本・東京の現在

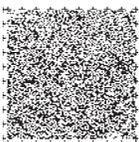
### (3) 訪都旅行者数や訪都外国人の活動

#### 訪都旅行者数の推移

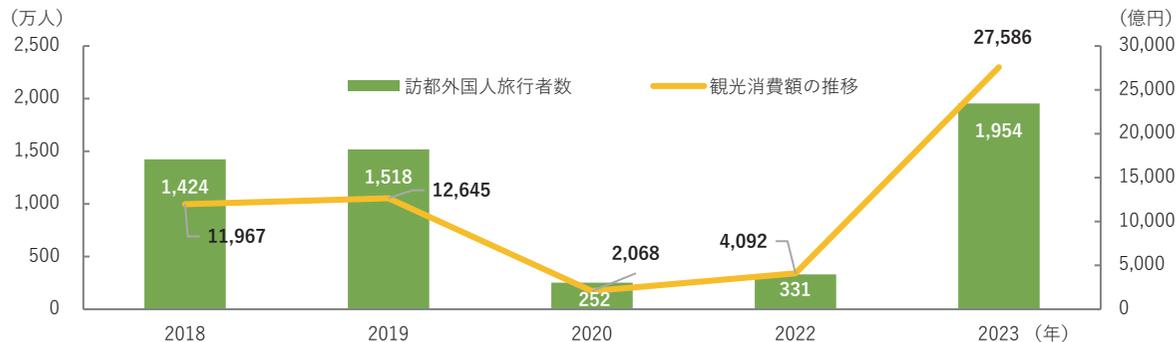
- 東京都が実施した「令和5年 観光客数等実態調査」によると、令和5（2023）年の**訪都外国人旅行者数**は、**過去最多の約1,954万人**となりました。
- また、**訪都外国人旅行者の観光消費額**も約2兆**7,586億円**で過去最高を記録するなど、観光需要が高まっています。

#### 訪都外国人の活動

- 「令和5年 国・地域別外国人旅行者行動特性調査」によると、**訪都中にスポーツやスポーツ観戦を行った外国人旅行者は、3.2%と低い水準**です。
- 東京には**更なる誘客拡大の余地**があり、スポーツ都市・東京の魅力を一層高める必要があります。

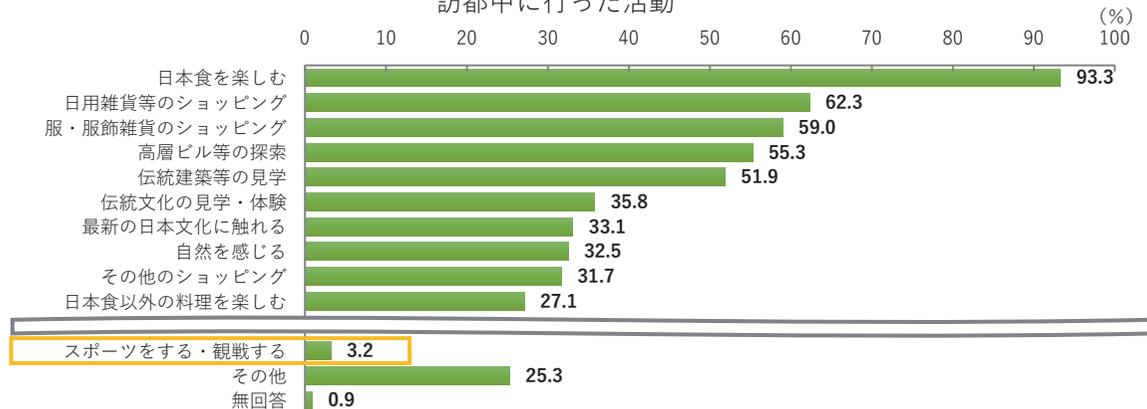


訪都外国人旅行者数・観光消費額の推移



図表出典：「東京都観光客数等実態調査」（産業労働局）を基に作成  
※2021年は調査不実施

訪都中に行った活動



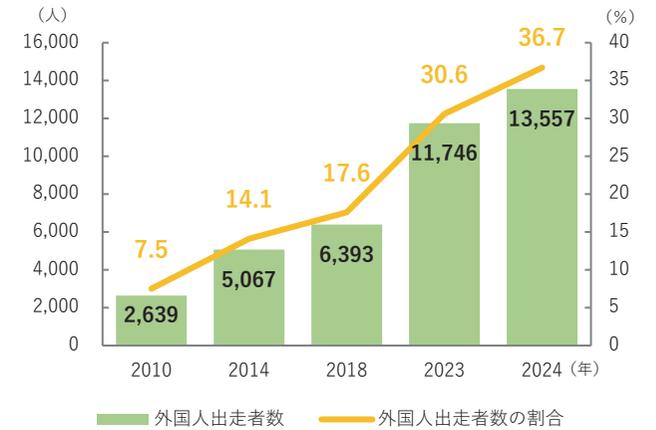
図表出典：「令和5年 国・地域別外国人旅行者行動特性調査報告書」（2024年6月、産業労働局）を基に作成

## (4) 東京マラソン出走者における外国人数の推移

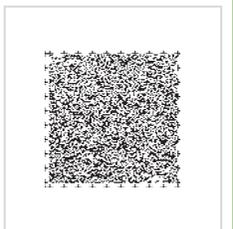
### 東京マラソン出走者における外国人数の推移

- 東京マラソンは、平成24（2012）年にアボット・ワールドマラソンメジャーズに加入し、**世界6大マラソン**の一つとして認定されています。
- 大会のために東京を訪れる**外国人ランナーは年々増加傾向**にあり、令和6（2024）年大会は、13,557名で過去最多を記録しました。
- **世界最高水準の大会**へと発展を続ける東京マラソンは、**東京のプレゼンス向上**や**地域・経済の活性化**につながっています。

東京マラソン出走者数における外国人数の推移

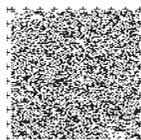


図表出典：「過去の大会結果・記録」（一財）東京マラソン財団を基に作成



## 第1編 総論（計画の考え方）

# 第3章 基本理念・目標



## 基本理念や目標設定の考え方

### 東京2020大会のレガシーをスポーツ振興や都市発展につなげていく

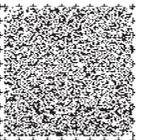
- 東京2020大会を契機としたスポーツ気運の高まりなど、スポーツの実施率は着実に上昇してきました。今後、スポーツの質に目を向け、一人ひとりのウェルビーイング向上を実現していくことが求められます。
- また、大会を通じてバージョンアップした東京のスポーツインフラなど、ハード、ソフト両面にわたる取組がもたらしたレガシーを、都市に根付かせていくことが重要です。
- 国際大会をはじめとしたスポーツイベントの開催により、東京に様々な価値を生み出していきます。

### 深刻化する社会課題への対応や、技術の進展を踏まえ政策を強化する

- コロナ禍の影響により運動離れが進んだ子供のスポーツを推進する必要があります。
- 高齢者や女性、障害のある人など、全ての人が分け隔てなくスポーツを楽しめる社会の実現が重要です。
- 高齢化や部活動の地域連携・地域移行などを捉え、スポーツを支える担い手の確保を進める必要があります。
- スポーツイベントや施設運営の面から熱中症の予防など、安全・安心な環境整備が必要です。
- 日々進歩するデジタル技術等を活用し、誰もがスポーツに親しめる環境整備や競技力の向上を図ります。

## 計画の体系について

- スポーツを通じて明るい未来の東京を実現するための、本計画の根幹となる考え方を、基本理念として掲げます。
- 基本理念の下、将来目指す「スポーツフィールド・東京」の姿を、4つのビジョンとして示します。
- 基本理念及びビジョンの実現に向け、解決すべき社会課題の視点で分類した4つの政策の柱を設定します。
- 政策の柱ごとに、取組の方向性を3つの施策にまとめ、具体的な取組を記載します。
- 上記の政策の柱や施策を横断して取り組むべきテーマを、6つの重点政策テーマとして設定し、プロジェクトにより推進します。



## 1 本計画の基本理念・将来のビジョンと4つの政策の柱

# 「誰もがスポーツを楽しむ東京を実現し、一人ひとりの

### 将来のビジョン

基本理念の下、将来目指す「スポーツフィールド・東京」の姿をビジョンとして設定します。

ビジョン

I

子供の頃から好きなスポーツと出会い、楽しみ、成長し、健康・幸福に生きている

ビジョン

II

スポーツを通じた新たなつながりと相互理解が、技術の進展に伴い生み出されている

ビジョン

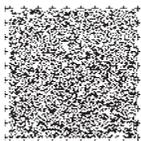
III

世界中のアスリートや観客でにぎわい、世界で最も魅力的で選ばれる都市に

ビジョン

IV

安全・安心・信頼の下、いつまでもスポーツを楽しめる社会が実現



# ウェルビーイングを高め、社会を変革する」

政策の柱

1

健康・幸福

スポーツで 輝く

生涯を通じて、**自らに合ったスポーツ**を  
楽しみ、**健康・幸福**に生きる



政策の柱

2

共生社会

スポーツで つながる

スポーツを楽しむことを通じて、  
互いに**つながり**、**相互理解**が進む



政策の柱

3

地域・経済活性化

スポーツで にぎわう

世界の人々が**交わり**、スポーツを  
楽しむことで、東京が**活性化**する



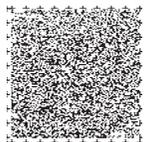
政策の柱

4

スポーツの持続可能性

スポーツを 支える

**安全・安心・信頼**の地盤をつくり、  
スポーツの**持続可能性**を高める

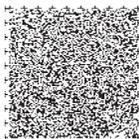


## 2 政策強化に向けた施策

### 政策強化に向けた施策

4つの政策の柱ごとに3つの具体的施策を展開し、総合的な政策推進を図っていきます。

<p>政策の柱</p> <p><b>1</b></p> <p>健康・幸福 スポーツで輝く</p>	<p>施策① スポーツに触れる「はじめの一步」を後押し</p> <p>施策② ライフステージに応じたスポーツを推進</p> <p>施策③ 東京にゆかりのあるアスリートが躍動</p>
<p>政策の柱</p> <p><b>2</b></p> <p>共生社会 スポーツでつながる</p>	<p>施策① パラスポーツを楽しむ・パラスポーツで輝く</p> <p>施策② バリアフリー化やユニバーサルコミュニケーション技術の社会実装を促進</p> <p>施策③ 多様な人々がスポーツでつながる、スポーツとつながる</p>
<p>政策の柱</p> <p><b>3</b></p> <p>地域・経済活性化 スポーツでにぎわう</p>	<p>施策① 都内各地でスポーツイベントを開催し、都市に活力をプラス</p> <p>施策② 住み慣れた地域でのスポーツをサポート</p> <p>施策③ スポーツの魅力を発信し、スポーツを通じて感動を味わう</p>
<p>政策の柱</p> <p><b>4</b></p> <p>スポーツの持続可能性 スポーツを支える</p>	<p>施策① 様々な価値を創出するスポーツ環境の整備・運営や、環境に配慮した施設・大会運営</p> <p>施策② 多様な主体と連携し、スポーツに関わる人材の裾野を広げる・磨く</p> <p>施策③ 安全・安心なスポーツ、信頼されるスポーツ大会の実現</p>

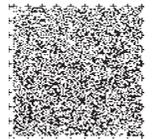


- スポーツをすることへの関心喚起
- スポーツを始める機会の創出・提供
- 子供のスポーツ振興
- 働き盛り世代のスポーツ振興
- 高齢者のスポーツ振興
- アスリートの競技力向上に向けた取組

- パラスポーツの理解促進・普及啓発、場の充実、支える人材の確保、競技力向上
- 誰もが気軽に楽しめるユニバーサルデザイン志向のスポーツ環境整備
- スポーツに関する技術開発・市場開拓への支援
- 性別、年齢などにかかわらずそれぞれのレベルに応じたスポーツを楽しむ
- スポーツを通じた被災地との交流、国際交流

- 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを通じた主な取組
- 国際スポーツ大会に向けた取組
- 第39回ねりんピックの東京開催に向けた取組
- 東京を活性化させるスポーツイベント等の展開
- 地域におけるスポーツ活動の推進
- 地域や経済の活性化に寄与した人・団体の顕彰
- スポーツ観戦の魅力発信
- スポーツをみる機会の創出

- 都立スポーツ施設の整備・運営
- 都内のスポーツ環境の整備
- 環境に配慮した施設・大会運営
- スポーツを支える人材の確保・育成・活動支援
- 多様なスポーツを支える基盤づくり
- 地域におけるスポーツ活動の推進
- 民間企業とともに取り組むスポーツ振興
- スポーツによる事故防止等の推進、暑さ対策
- スポーツ・インテグリティの強化、国際スポーツ大会のガバナンス確保



## 3 達成指標一覧

### 達成指標一覧

各分野で指標・目標を設定し、多様な施策を通じてスポーツフィールド東京が実現できたかどうかを目に見える形で把握していきます。

政策の柱

1

健康・幸福  
スポーツで輝く

指標① スポーツを通じて幸福感を感じている都民の割合

指標② 都民のスポーツ実施率

指標③ スポーツをすることを「好き」「やや好き」と感じる中学2年生の割合

指標④ 東京都スポーツ推進企業認定企業数

政策の柱

2

共生社会  
スポーツでつながる

指標① 障害のある都民のスポーツ実施率

指標② パラスポーツに関心がある都民の割合

指標③ スポーツを通じて生きがいを感じる高齢者の割合

指標④ 20～40歳代女性（都民）のスポーツ実施率

政策の柱

3

地域・経済活性化  
スポーツでにぎわう

指標① 1年間にスポーツを直接観戦した都民の割合

指標② 1年間にスポーツイベント、大会に参加したことがある都民の割合

指標③ 応援するスポーツチームや選手がいる都民の割合

政策の柱

4

スポーツの持続可能性  
スポーツを支える

指標① 都立スポーツ施設が果たしている役割に「満足」と答えた都民の割合

指標② 1年間にスポーツを支える活動を行った都民の割合

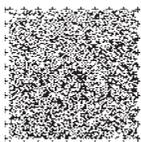
指標③ スポーツ指導者数

※本計画の達成指標における「都民」とは、「都民のスポーツ活動に関する実態調査」の対象者となっている18歳以上の都民のことを指します。

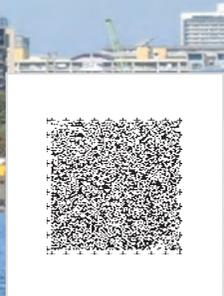
※「スポーツ実施率」とは、週1回以上スポーツを実施する人の割合のことです。

※「スポーツを支える活動」とは、スポーツの指導やスポーツボランティアの実施、子供のスポーツの見守り等、スポーツを行う人を支援する活動を言います。

※スポーツ指導者には様々な資格があり、自らに合った資格を取得し、指導に当たることが望まれます。本計画では、全国の統括団体である（公財）日本スポーツ協会、（公財）日本レクリエーション協会及び（公財）日本パラスポーツ協会が公認するスポーツ指導者数を合算した人数を達成指標としています。



	現状	2030年度	2035年度
▶ 2024年度	70.0%	75%	80%
▶ 2024年度	63.3%	70%	70%以上
▶ 2024年度	男子 90.4% 女子 77.9%	男子 90%以上 女子 80%	男子 90%以上 女子 85%
▶ 2024年度	583社	1,000社	1,300社
▶ 2024年度	46.6%	50%	50%以上
▶ 2024年度	42.7%	80%	80%以上
▶ 2024年度	86.7%	90%	90%以上
▶ 2024年度	56.3%	65%	65%以上
▶ 2024年度	30.0%	50%	50%以上
▶ 2024年度	21.0%	30%	35%
▶ 2024年度	40.6%	50%	60%
▶ 2024年度	60.7%	65%	70%
▶ 2024年度	17.3%	20%	20%以上
▶ 2024年度 ※日本レクリエーション協会 の公認指導者数は2023年度	25,746人	32,100人	38,200人



## 4 重点政策テーマ

### 重点政策テーマ

計画期間中に重点的に取り組む政策テーマを、プロジェクトにより施策横断的に推進していきます。

Project 0

スポーツの力を高める  
「スポーツDXプロジェクト」

Project 1

スポーツとともに育つ  
「チルドレン・スポーツ・プロジェクト」

Project 2

多様性があふれる  
「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」

Project 3

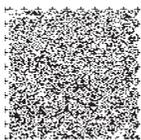
スポーツの力で世界をリードする  
「TOKYOの魅力向上プロジェクト」

Project 4

スポーツを楽しむ環境を実現する  
「スポーツFACILITIESプロジェクト」

Project 5

スポーツを支える仕組みを創る  
「支える担い手確保プロジェクト」



## 方向性

- ・ スポーツを通じた健康増進
- ・ 誰もがスポーツと触れ合い、楽しむ機会の創出
- ・ スポーツ施設の利便性を向上
- ・ アスリートの競技力向上
- ・ スポーツを通じた相互理解の促進
- ・ 民間企業等との連携による新たな価値の創出

## 方向性

- ・ 「スポーツ好き」を醸成
- ・ 個々の実態・多様なニーズへ対応
- ・ スポーツに触れ、親しむ時間・機会の創出

## 方向性

- ・ ねんりんピックの東京開催を契機としたシニアスポーツの一層の推進
- ・ 女性の多様なニーズを捉えたスポーツへの参画・活躍を推進
- ・ 障害の有無にかかわらずパラスポーツを楽しめる取組を推進

## 方向性

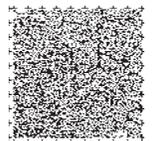
- ・ 国際スポーツ大会を盛り上げ、東京に様々な価値を生み出していく
- ・ 多種多様な国際スポーツ大会の誘致・開催により、東京のスポーツの力を高めていく
- ・ 国際スポーツ大会の経験をレガシーとし、スポーツ大会の運営を支援していく

## 方向性

- ・ 都立スポーツ施設の取組  
(・ 東京のスポーツインフラの中核を担う施設の強みを発揮 ・ 安全・安心・信頼のスポーツ環境を提供)
- ・ 身近なスポーツ環境の更なる充実・利用促進

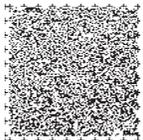
## 方向性

- ・ 新たな担い手の確保により、持続可能な地域のスポーツ振興を推進
- ・ ボランティアの活躍機会を拡大し、担い手の確保につなげる
- ・ 地域における指導者の確保・育成やスポーツ関係団体の組織基盤強化等



## 5 計画の体系

<p>基本理念</p>	<p><b>誰もがスポーツを楽しむ東京を実現し、 一人ひとりのウェルビーイングを高め、社会を変革する</b></p>			
<p>将来のビジョン</p>	<p><b>ビジョンⅠ</b></p> <p>子供の頃から好きなスポーツと出会い、楽しみ、成長し、健康・幸福に生きている</p>	<p><b>ビジョンⅡ</b></p> <p>スポーツを通じた新たなつながりと相互理解が、技術の進展に伴い生み出されている</p>	<p><b>ビジョンⅢ</b></p> <p>世界中のアスリートや観客でにぎわい、世界で最も魅力的で選ばれる都市に</p>	<p><b>ビジョンⅣ</b></p> <p>安全・安心・信頼の下、いつまでもスポーツを楽しめる社会が実現</p>
<p>4つの政策の柱</p>	<p><b>健康・幸福</b></p> <p>スポーツで輝く</p> <p><b>施策①</b> スポーツに触れる「はじめの一歩」を後押し</p> <p><b>施策②</b> ライフステージに応じたスポーツを推進</p> <p><b>施策③</b> 東京にゆかりのあるアスリートが躍動</p>	<p><b>共生社会</b></p> <p>スポーツでつながる</p> <p><b>施策①</b> パラスポーツを楽しむ・パラスポーツで輝く</p> <p><b>施策②</b> バリアフリー化やユニバーサルコミュニケーション技術の社会実装を促進</p> <p><b>施策③</b> 多様な人々がスポーツでつながる、スポーツとつながる</p>	<p><b>地域・経済活性化</b></p> <p>スポーツでにぎわう</p> <p><b>施策①</b> 都内各地でスポーツイベントを開催し、都市に活力をプラス</p> <p><b>施策②</b> 住み慣れた地域でのスポーツをサポート</p> <p><b>施策③</b> スポーツの魅力を発信し、スポーツを通じて感動を味わう</p>	<p><b>スポーツの持続可能性</b></p> <p>スポーツを支える</p> <p><b>施策①</b> 様々な価値を創出するスポーツ環境の整備・運営や、環境に配慮した施設・大会運営</p> <p><b>施策②</b> 多様な主体と連携し、スポーツに関わる人材の裾野を広げる・磨く</p> <p><b>施策③</b> 安全・安心なスポーツ、信頼されるスポーツ大会の実現</p>
<p>重点政策テーマ</p>	<p><b>Project 0</b> スポーツの力を高める「<b>スポーツDXプロジェクト</b>」</p> <p><b>Project 1</b> スポーツとともに育つ「<b>チルドレン・スポーツ・プロジェクト</b>」</p> <p><b>Project 2</b> 多様性があふれる「<b>スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト</b>」</p> <p><b>Project 3</b> スポーツの力で世界をリードする「<b>TOKYOの魅力向上プロジェクト</b>」</p> <p><b>Project 4</b> スポーツを楽しむ環境を実現する「<b>スポーツFACILITIESプロジェクト</b>」</p> <p><b>Project 5</b> スポーツを支える仕組みを創る「<b>支える担い手確保プロジェクト</b>」</p>			



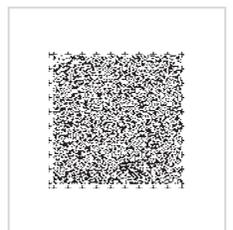
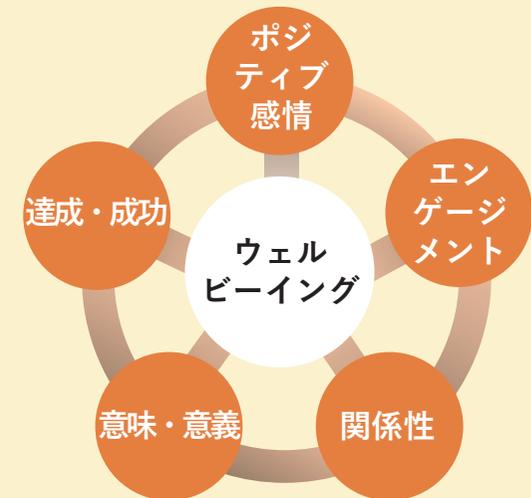
## PERMA (パーマ)

- PERMAとは、アメリカの心理学者であるセリグマン博士が**ウェルビーイングの構成要素**として、右に示す**五つの要素**を提唱したものです。ウェルビーイングを向上させ、**幸福感**を高めていくには、PERMAの各構成要素を高めていくことが重要です。スポーツの本質は、人々が「楽しさ」や「喜び」を感じることであり、**スポーツはウェルビーイングの向上に寄与する**ものです。
- スポーツ施策の推進に当たっては、スポーツの実施という量だけでなく、スポーツを通じたウェルビーイングの向上という質にも目を向け、**PERMAにおけるどの要素を高めることが、ウェルビーイングの向上に寄与するか**などの視点も踏まえ、施策を検討していくことが重要です。例えば、以下のような視点で考えることができます。

- ・ **ポジティブ感情**：スポーツに触れ、楽しさを知り、やってみたいと思える取組を展開することにより、楽しさや充実感を感じられることが重要です。
- ・ **エンゲージメント**：やりがいのあることに夢中で打ち込めるよう、それぞれのレベルやライフステージに合ったスポーツを推進していくことが必要です。
- ・ **関係性**：スポーツを通して人々の相互理解を促進することが、充実した人間関係の形成につながると考えられます。
- ・ **意味・意義**：自分の活動や人生そのものに意味や意義を感じられるよう、スポーツに関わる人材の裾野を広げる取組が重要です。
- ・ **達成・成功**：個人やチームの目標を達成できるよう、目標設定をしたり、それに対するフィードバックや表彰などが有効であると考えられます。

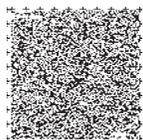
## PERMA

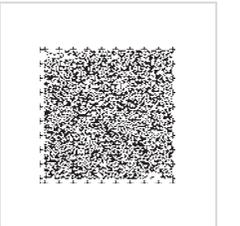
- P = Positive Emotions (ポジティブ感情)
- E = Engagement (エンゲージメント)
- R = Positive Relationships (関係性)
- M = Meaning (意味・意義)
- A = Accomplishment (達成・成功)



## 第2編 各論（計画の具体的な展開）

### 第 **1** 章 目標達成に向けた施策展開





# 1 重点政策テーマ

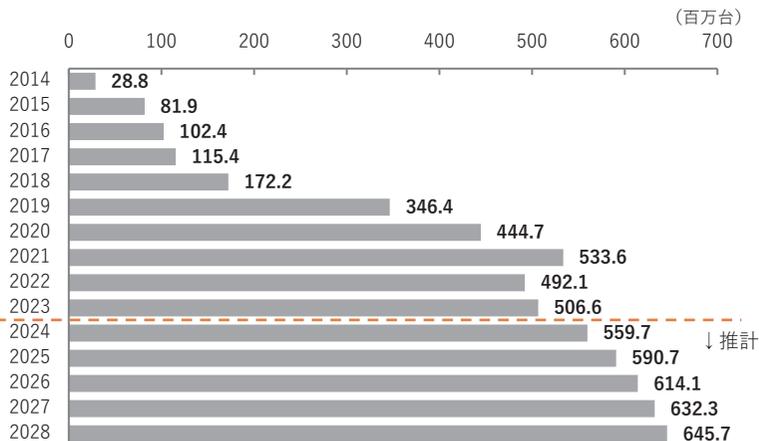
## Project 0 スポーツの力を高める「スポーツDXプロジェクト」

### 現状と課題

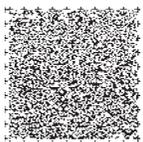
- ウェアラブル端末の世界出荷台数は、年々増加しており、令和5（2023）年には5億台を超え、今後も増加が見込まれている。スマートウォッチ等が身近なものとなっており、歩数計や心電計などの機能がユーザーの生体データの計測に活用されている。
- また、体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、分かったり」することがあると回答した児童の割合は約6割。
- さらに、「できたり、分かったり」することがあると回答した児童ほど、体育の授業を「楽しい」と感じている割合が高く、デジタル技術の活用が、運動の成功体験や楽しさの実感につながっている。
- こうしたデジタル技術は、データ分析・活用などを通じて、様々な施策の効果の向上や新たな価値を創造する可能性を秘めている。

### ウェアラブル端末の世界出荷台数

世界におけるウェアラブル端末の出荷台数は増加

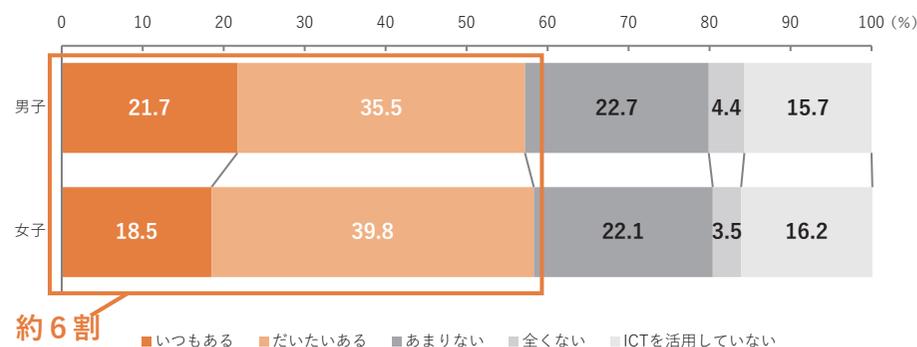


図表出典：International Data Corporation; Statistaウェブサイト  
<https://www.statista.com/statistics/437871/wearables-worldwide-shipments/>  
 (2024/12/24)



### 体育の授業でのICT活用

体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、分かったり」することがあると回答した小学生の割合は約6割



図表出典：「令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書」(2024年12月、スポーツ庁)を基に作成

## 将来の東京の姿

- デジタルの力で、誰もが自らに合ったスポーツを楽しんでいる東京を実現

## 2030年までの政策強化の方向性

### 各政策にデジタル技術を取り入れ、政策効果を飛躍的に発展



#### スポーツを通じた健康増進

- 都民の体力・体組成に関するデータ分析、健康に向けたアドバイスにより、スポーツ実施と健康増進を促進



#### アスリートの競技力向上

- デジタル技術の活用による競技力向上に向け、人材・団体を支援



#### 誰もがスポーツと触れ合い、楽しむ機会の創出

- デジタル技術を活用し、障害の有無や年齢・性別、場所や距離を問わずスポーツを実施できる機会を提供
- eスポーツをきっかけに、スポーツへの関心喚起を図るとともに、「する」スポーツを推進



#### スポーツを通じた相互理解の促進

- 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの東京開催を契機に、デジタルを活用したユニバーサルコミュニケーションの技術を社会へ浸透させ、相互理解を促進



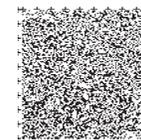
#### スポーツ施設の利便性を向上

- 都内スポーツ施設の検索や予約ページへの遷移等、利便性を向上



#### 企業等との連携による新たな価値の創出

- パラスポーツの競技団体の基盤強化等に向け、団体のニーズと企業のノウハウ等をマッチングする仕組みを構築



# 1 重点政策テーマ

## Project 0 スポーツの力を高める「スポーツDXプロジェクト」

### 今後の取組

#### スポーツを通じた健康増進

企業等と連携し、データ活用による健康増進等を促進



- 都内企業等と連携するとともに、区市町村の取組を後押しし、体力・体組成測定を実施
- 測定データに基づく運動アドバイスや、データを活用したプロモーション等により、継続的な運動実施に誘引

#### アスリートの競技力向上

競技力向上に向けた人材・団体への支援

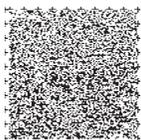


- データ分析・活用等によって選手の競技力向上を支援
- 競技団体等におけるデジタル化による事務効率化を支援し、競技力向上に向けた堅固な土台を確立

#### デジタル技術を活用した競技力向上

AIが競技力向上に活用される事例が広がっています。例えば、身体の複雑な動きを解析する技術をバスケットボールのフリースローで応用し、トップ選手の動きとの比較や、修正点の助言に活用されるなど、スポーツでのAIの活用が身近なものになってきています。

▼  
コ  
ラ  
ム  
C  
O  
L  
U  
M  
N



## 誰もがスポーツと触れ合い、楽しむ機会の創出

### 高齢者

#### 東京都シニア・コミュニティ交流大会にeスポーツ種目を追加

- 高齢者のフレイル予防等で広がりを見せつつあるeスポーツを大会の実施種目として追加



### 障害者

#### デジタル技術を活用し、障害のある人のスポーツ参加を促進

- 障害当事者同士の交流に加え、大規模イベント等への出展により、都民との交流を拡大



### 新たな技術に触れる機会の創出

#### イベント等でバーチャルスポーツに触れる機会を提供

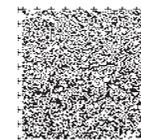
- 障害の有無や年齢・性別を問わず楽しめるバーチャルスポーツの体験機会を提供
- 東京2025世界陸上を契機として、好きな時間に、好きなコースをランニングし、全国どこからでも参加できるバーチャルランを実施



### 調査・検証

#### 都のスポーツ振興におけるeスポーツの活用に関する調査・検証

- 課題等の調査・分析、大会の視察による事例収集、専門家等への意見聴取を実施
- トライアルとして、競技団体と連携したバーチャルスポーツ体験会等により効果を検証



# 1 重点政策テーマ

## Project 0 スポーツの力を高める「スポーツDXプロジェクト」

### 今後の取組

#### スポーツを通じた相互理解の促進

##### ユニバーサルコミュニケーション 技術の社会実装を促進



- 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの開催を契機とし、**国籍や障害にかかわらず、誰もが円滑にコミュニケーション**できるよう技術を活用
- **両大会における技術活用やショーケース等**を国内外へ広くPR

#### スポーツ施設検索の利便性向上

##### スポーツ施設検索の利便性向上



東京のスポーツ案内サイト「SPOPITA」

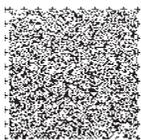
- **公民含めた3,000**を超える都内のスポーツ施設情報について、**検索や予約ページへの遷移等**、利用者の利便性を向上
- 民間企業等と連携し、スポーツ施設の情報を誰もが利用できる「**オープンデータ**」として公開し、データの利活用を促進

#### 企業等との連携による新たな価値の創出

##### パラスポーツの競技団体等のニーズと企業のノウハウ等のマッチングを促進

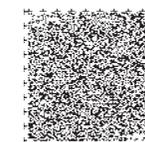


- **企業のノウハウ等と競技団体等の課題やニーズをマッチングするプラットフォーム**により、競技団体等の基盤を強化するとともに企業のパラスポーツへの参画を促進



## 主な年次計画

具体的な取組	2024年度末 (見込み)	年次計画		
		2025年度	2026年度	2027年度
スポーツを通じた健康増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>都・区市町村イベントでの体力測定等の実施</li> <li>体力データの活用検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業等での体力測定等の実施</li> <li>体力データの活用検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力測定＆スポーツのサイクル創出を推進</li> </ul>	
競技団体等のデジタル化による事務効率化支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンサル調査実施(アンケート・ヒアリング・伴走調査)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査結果の具体化検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルツールの導入開始</li> </ul>
東京都シニア・コミュニティ交流大会の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>大会実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施種目にeスポーツを追加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大会実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大会実施</li> </ul>
デジタル技術を活用した障害者のスポーツ参加促進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ・運動の機会提供</li> <li>交流会等の実施</li> <li>大規模展示会への出展</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>eスポーツ分野におけるパラスポーツの取組の推進</li> </ul>
都のスポーツ振興におけるeスポーツの活用に関する調査・検証(調査、体験会実施等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査結果を踏まえ、活用策を検討</li> </ul>	
ユニバーサルコミュニケーション技術の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>都有施設等での活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックでの活用</li> <li>都有施設等での活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツイベント等での活用を検討</li> </ul>	
スポーツ施設検索の利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ案内サイトSPOPITAの運営・改善</li> </ul>			
企業と競技団体等のマッチングプラットフォーム構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピッチコンテスト実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタートアップとの連携によりプラットフォーム構築(試行)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業効果の検証、プラットフォーム改善・運用</li> </ul>	



# 1 重点政策テーマ

## Project 1 スポーツとともに育つ「チルドレン・スポーツ・プロジェクト」

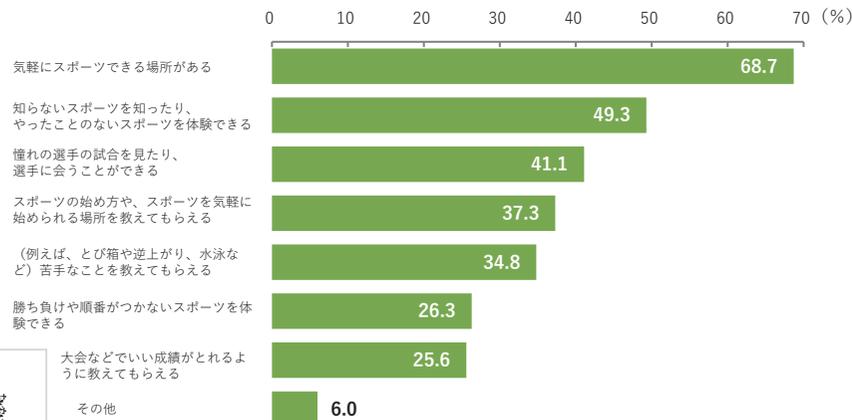
### 現状と課題

- 子供の体力・運動能力や運動実施時間はコロナ前の値には回復していない。また、学年が上がるにつれて、「スポーツをすることが好き」な子供の割合は減少している。
- 子供が今よりもスポーツが好きになるためには、「気軽にスポーツができる場所」(68.7%)や「知らないスポーツを知ったり、未経験のスポーツを体験できる機会」(49.3%)等が必要である。また、障害のある子供は、「ルールが簡単」(46.9%)「自分のペースに合わせてできる」(36.2%)スポーツへの参加を希望している。
- 幼児期の運動習慣とその後のスポーツ習慣には強い相関がある。また、保護者がスポーツに関する正しい知識を有している場合の方が、子供が運動好きである割合が高い。

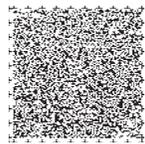
### 今よりスポーツが好きになれる機会や環境

スポーツ好きな子供を増やすには、スポーツをする場所や体験機会の創出・提供が必要

どのような機会や環境があると、今よりもスポーツが好きになると思うか



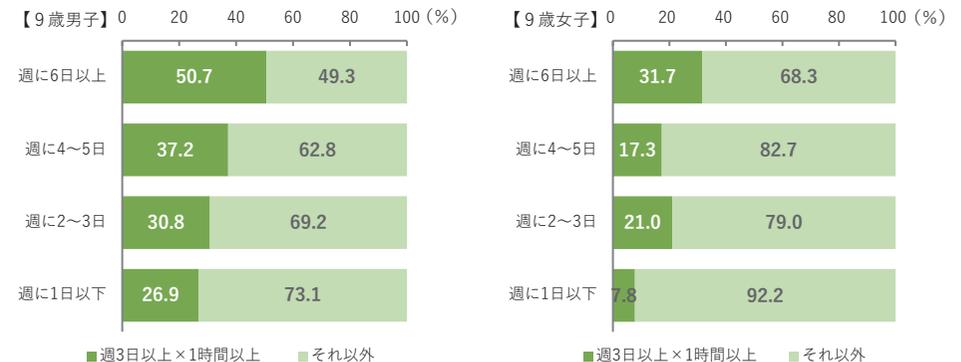
図表出典：「こども都庁モニター令和6年度第1回アンケート結果」(2024年8月、子供政策連携室)を基に作成



### 幼児期の運動習慣の形成

入学前の外遊び頻度が高い子供ほど、入学後の運動実施頻度が高い

「小学校入学前の外遊びの頻度」別にみた現在の運動・スポーツの実施状況



図表出典：「令和4年度体力・運動能力調査結果の概要」(2023年10月、スポーツ庁)を基に作成

## 将来の東京の姿

- 乳幼児期から様々な運動・スポーツに触れられる環境があり、**子供の頃から運動習慣が定着**
- スポーツへの多様な関わり方が広まることで、子供たちが**一人ひとりの好みや特性に合ったスポーツの楽しさや魅力を実感でき、スポーツ好きな子供であふれる社会が実現**

## 2030年までの政策強化の方向性

### 楽しさを積み重ね、「大人になってもスポーツ好き」な子供を育てる

#### 乳幼児（保護者）

保護者の同伴が必須・主に遊びの中で体を動かす

#### 小学生

徐々に自分の意志で行動

#### 中学生・高校生

運動部活動への参加の有無や学業等の影響によりスポーツ実施頻度や関わり方に個人差

### 「スポーツ好き」を醸成

- 外遊びをはじめとして、幼児期からの**多様な運動遊びの機会を創出**
- 子供のスポーツ実施の重要性について**保護者等の正しい知識を涵養するとともに、行動変化を促進・支援**



### 個々の実態・多様なニーズへ対応

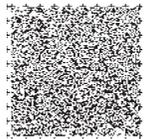
- 個々の好みや特性に合った**スポーツの楽しさ・魅力を十分に実感できる**よう、スポーツへの多様な関わり方を普及
- 高みを目指す子供には、**競技力の向上を支援**



### スポーツに触れ、親しむ時間・機会の創出



- スポーツ情報の効果的な発信や、身近でスポーツが実施できる環境の整備など、様々なシーンで子供たちが**スポーツに触れ、親しむ時間・機会の創出**



# 1 重点政策テーマ

## Project 1 スポーツとともに育つ「チルドレン・スポーツ・プロジェクト」

### 今後の取組

#### 「スポーツ好き」を醸成

##### 子供が様々な運動・スポーツに親しむ機会の創出



- 幼児期から、日常の活動シーンや一人ひとりの身体能力に合わせ、様々な運動・スポーツを知る・体験する・上達する（教わる）機会を提供
- 保育士や教員等の子供に接する機会の多い人を対象に、スポーツ・レクリエーション等の気軽に楽しめるスポーツのルールや楽しみ方等を周知・浸透

##### 幼児期の外遊び習慣づくり



- 遊びとしての魅力を高める工夫と、運動習慣の定着を目的に、親子で一緒に楽しめる運動・スポーツの紹介や体験イベントを実施

##### 保護者のフィジカルリテラシーの涵養



- 幼児期からの運動習慣を形成するため、「基礎的な運動神経等を養う遊び」や「運動がもたらす効果」等を、乳幼児の保護者が集まる場所などで、一体的に普及・啓発

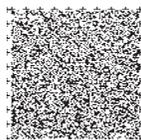
#### スポーツ・レクリエーション

スポーツ・レクリエーションとは、子供から大人まで、誰でも気軽に楽しめるスポーツのことで、スポーツへの参画のきっかけとなるものとして注目されています。都が子供を対象に行ったアンケート調査では、スポーツ・レクリエーションを「知らなかったが、やってみたい」と回答した子供は約5割であり、今後も体験機会を創出・提供し、広く普及させることが重要です。

調査結果は、以下の二次元コードからご覧いただけます。



▼  
コラム  
COLUMN



## 個々の実態・多様なニーズへの対応

### 苦手克服をサポートし、スポーツ離れを抑制

- **スポーツへの苦手意識を払拭し**、一つでも多くの「できた」経験（成功体験）の獲得を支援するなど、学齢の進行に伴う状況変化も捉えながら、**スポーツが好きになるきっかけを創出**



### 障害のある子供がスポーツに出会える・楽しめる機会を提供

- 都立特別支援学校を活用した体験教室における親子教室など、**障害種別に応じたきめ細かなプログラムの実施**
- 放課後等デイサービスへの指導者の派遣により**運動習慣の定着を図る取組を実施**



体験教室  
(親子チャレンジ教室)

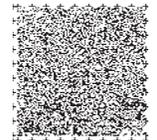
### 「楽しむスポーツ」の普及

- 技術の向上だけではない、「**楽しさ**」や「**気軽さ**」を主眼に置いたスポーツ・レクリエーション等の**スポーツ実施を支援**
- 区市町村が行う、**デジタル技術を活用したスポーツ**に関する取組を後押しするなど、**新しいスポーツの楽しみ方**の普及を促進



### トップアスリート輩出を目指した競技力向上

- 新たな需要に対応しながら、関連団体等と連携し、これまで培ってきた選手の発掘・育成などの**ノウハウを最大限に活用し**、**ジュニア世代の競技力向上施策を効果的に展開**
- **国際的に活躍するアスリートの輩出**を目指し、ジュニア期から**他国の選手と交流し**、切磋琢磨する機会を提供
- **ジュニアパラアスリートの支援を強化**するため、医科学講習会の実施に係る支援メニューを追加



# 1 重点政策テーマ

## Project 1 スポーツとともに育つ「チルドレン・スポーツ・プロジェクト」

### 今後の取組

#### スポーツに触れ、親しむ時間・機会の創出

##### 気軽にできる効果的な運動の普及啓発



- 身体を動かすことの効果や、日常における各動作の運動強度（METs）等を見える化するとともに、勉強や習い事の合間など子供の余暇時間の中で気軽に取り組める運動等を周知

##### 子供のニーズに対応した効果的な情報発信

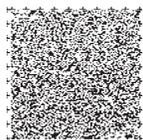


- 様々なスポーツのルール・魅力の紹介や、区市町村との連携によるスポーツの実施場所（スポーツ施設や公園・広場等）の効果的な発信など、子供たちがスポーツ情報にスムーズにアクセスできる機会を充実

##### 継続的なスポーツ機会の創出・提供

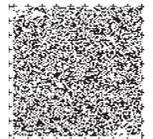


- デジタル技術等を活用し、これまではスポーツの場として使用されていない場所や空間を新たなスポーツの場として創出
- チームや学校等の所属にとらわれず、多様なスポーツを気軽に実施できる場所を増やすため、多様な主体と連携して切れ目のないスポーツ参加機会を提供



## 主な年次計画

具体的な取組	2024年度末 (見込み)	年次計画		
		2025年度	2026年度	2027年度
子供が様々な運動・スポーツに親しむ機会の創出	● 実施準備	● 実施準備	● 事業開始	→
幼児期の外遊び習慣づくり	● 実施準備	● 実施準備	● 事業開始	→
保護者のフィジカルリテラシーの涵養	● 実施準備	● 子供のスポーツ実施に関する調査・研究	● 事業開始	→
苦手克服のサポート等、スポーツ離れを抑制	● 実施準備	● 子供のスポーツ実施に関する調査・研究	→	● 事業開始
障害児・者の運動習慣定着支援事業	● 施設内や身近なスポーツ施設等で運動プログラムを実施	● 事例集を通じて自治体へ取組を普及	→	→
「楽しむスポーツ」の普及	● 実施準備	● スポーツ・レクリエーション等の情報集約	● 事業開始	→
トップアスリート輩出を目指した競技力向上		発掘・育成		
➢ トップアスリート発掘・育成事業	● 実施中	→		
➢ スポーツを通じた国際交流	● 実施中	→		
➢ ジュニアパラアスリート育成支援	● 東京ゆかりジュニアパラアスリートの認定	● ジュニアアスリートの育成強化	→	
気軽にできる運動の普及啓発	● 実施準備	● 実施準備	● 事業開始	→
子供のニーズに対応した効果的な情報発信	● 実施準備	● 実施準備	→	
継続的なスポーツ機会の創出・提供	● 実施準備	● 実施準備	● 事業開始	→



# 1 重点政策テーマ

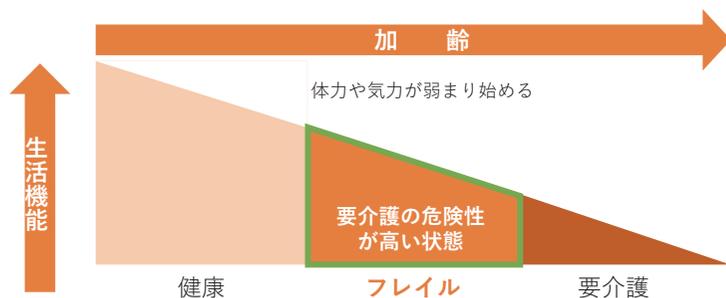
## Project 2 多様性があふれる「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」

### 現状と課題 高齢者

- 加齢とともに体力や気力が弱まることにより、生活機能が低下し、フレイルや要介護になるリスクが高まる。フレイルを予防するには、「栄養」「体力」「社会参加」が重要である。
- 社会活動に参加した高齢者の約9割が生きがいを感じており、「趣味やスポーツに熱中している時」に生きがいを感じる割合が53.5%。
- 定年退職後の地域活動等への参加について、高齢者の約8割が希望しているのに対し、実際に社会参加している高齢者は5割にとどまる。
- フレイル予防の観点でも有効である身体活動と社会参加を通じて、高齢者の健康、生きがいづくりを進めていく必要がある。

### フレイル予防対策

フレイル予防には、身体活動、社会参加が有効

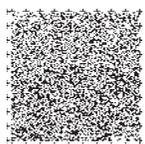


フレイルと要介護状態との関係



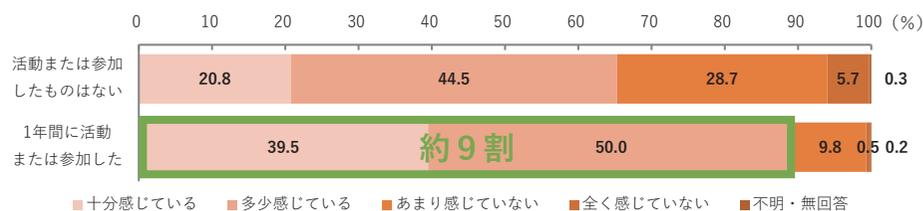
フレイルの予防習慣「3プラス1」

図表出典：「知っておく！からはじめる一介護予防・フレイル予防」（2023年3月、福祉保健局）を基に作成

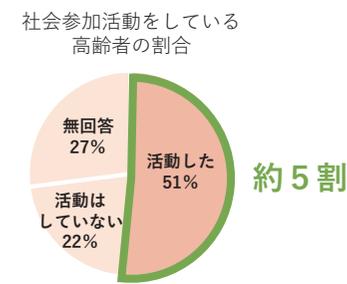
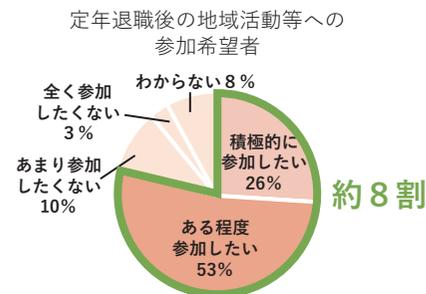


### 社会参加と生きがい

地域活動等への参加を希望する高齢者は約8割  
また、社会活動に参加した高齢者の約9割が生きがいを感じている



図表出典：「高齢者の健康に関する調査」（2022年10月、内閣府）



図表出典：「人生100年代における社会参加施策に係る検討のとりまとめ」（2023年2月、福祉保健局）を基に作成

現状と課題

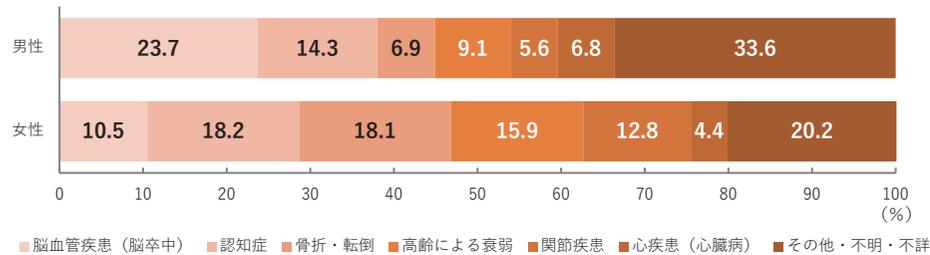
女性

- 女性の運動不足、体力不足等は、男性に比べ、認知症、骨折・転倒等の健康問題を引き起こしている。生涯にわたって健康に過ごすためには、若年期からの継続的な運動習慣の形成が重要である。
- 女性アスリートは、**女性特有の健康課題**と向き合う必要がある。**女性アスリートの競技力向上**には、アスリートや指導者が**適切な情報**を知り、**トレーニングの質を向上**させることが重要である。
- 国の第3期スポーツ基本計画によると、**スポーツ団体における女性理事の割合は**、ガバナンスコード（NF向け）において**目標値が40%**のところ、令和3年度時点で約23.4%。**性別にかかわらず誰もが活躍できる組織体制づくり**を促進することが重要である。

女性の運動不足等の健康問題

男性に比べ、女性の運動不足・筋力不足等は、関節疾患、認知症、骨折・転倒、といった要介護の主要な原因につながる

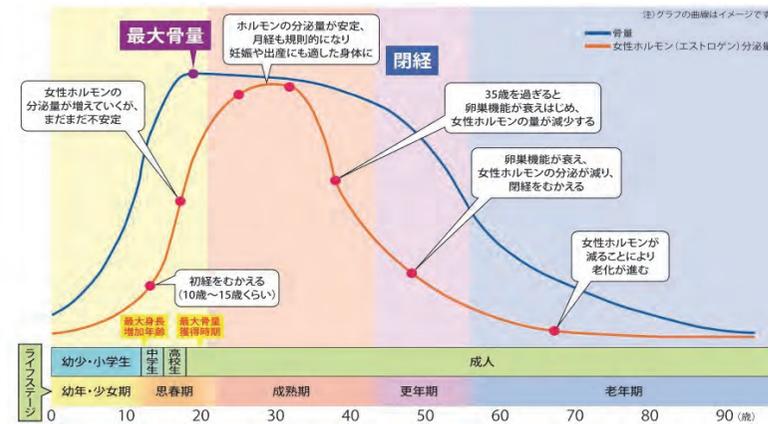
65歳以上の要介護者等の性別にみた介護が必要になった主な原因



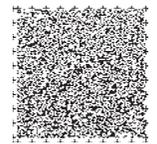
図表出典：「2022（令和4）年 国民生活基礎調査」（2023年7月、厚生労働省）を基に作成

女性のライフステージと身体的特徴

女性のライフステージには女性ホルモンの分泌が関係しており、女性のホルモンの分泌量と骨量は年齢で変化する



図表出典：「女子アスリートのコンディショニングガイド」（2019年3月、オリンピック・パラリンピック準備局）



# 1 重点政策テーマ

## Project 2 多様性があふれる「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」

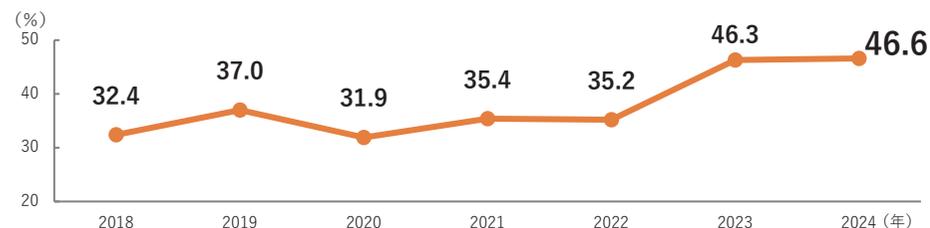
### 現状と課題

#### 障害者

- 令和6（2024）年の**障害者（18歳以上）のスポーツ実施率**は46.6%で上昇傾向にあるが、都民全体の実施率（63.3%）より低い状況である。**障害者の5割超**が、**スポーツや運動に「関心がない」「できない」と回答**。
- 「スポーツ・運動の実施に必要な支援」として「障害に合わせた教室・プログラム」（16.0%）、「バリアフリー化」（交通機関やまち：11.6%、体育館などの建物等：9.9%）、「適切な指導者等」（11.3%）等の割合が高い。
- 装具利用者のスポーツ活動には、**用具が高額**であること、**身近に触れる機会が少ない**など様々な課題があり、スポーツを始める障壁になっている。

### 障害のある人（18歳以上）のスポーツ実施率

令和6（2024）年の障害者のスポーツ実施率は46.6%



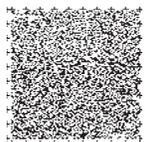
図表出典：「障害者のスポーツに関する意識調査報告書」（生活文化スポーツ局）を基に作成

### 障害者のスポーツへの取組状況

障害者の5割超が、スポーツや運動に「関心がない」「できない」

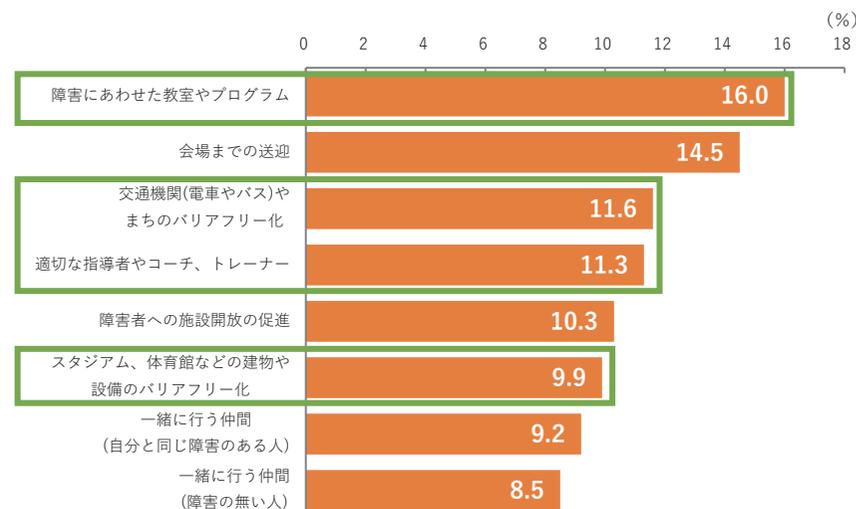


図表出典：「令和6年度 障害者のスポーツに関する意識調査」（2025年3月、生活文化スポーツ局）を基に作成 ※7～17歳を含む。



### スポーツ・運動の実施に必要な支援

「スポーツ・運動の実施に必要な支援」として「障害に合わせた教室・プログラム」「バリアフリー化」等の割合が高い



図表出典：「令和6年度 障害者のスポーツに関する意識調査」（2025年3月、生活文化スポーツ局）を基に作成 ※7～17歳を含む。

### 将来の東京の姿

高齢者

女性

障害者

- 障害の有無や年齢、性別、国籍等を問わず、全ての人が分け隔てなくスポーツを楽しみ、互いを理解・尊重しながら共生している

### 2030年までの政策強化の方向性

高齢者

## ねりんピックの東京開催を契機としたシニアスポーツ振興

#### スポーツを通じた健康維持・増進



- 区市町村や関係団体等との連携や健康状態の見える化などの取組により、健康を維持・増進

#### スポーツを通じた社会参加や仲間づくりの促進



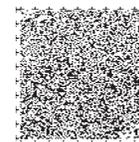
- スポーツや健康づくり推進活動を通して、社会参加や仲間づくり、世代間交流を促進

#### 高齢者が活躍できる機会の創出



- 日頃の成果を発揮するための大会を開催することで、自分らしさを体現する機会を創出

スポーツを通じて、いつまでも元気に、社会とつながり、いきいきと暮らす（スポーツによる生きがいの高揚）



# 1 重点政策テーマ

## Project 2 多様性があふれる「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」

### 今後の取組

#### 高齢者

### スポーツを通じた健康維持・増進

#### 地域におけるシニアスポーツを推進

- 関係団体等と連携し、高齢者を対象とする競技会、講習会・講演会等を開催し、**スポーツを通じた健康維持・増進**の取組を推進



#### スポーツを通じた健康増進

- 高齢者が気軽にスポーツをするきっかけを提供するなど、身近な地域における健康づくりを実施する**区市町村の取組を後押しし、健康状態が見える化する**ことで、健康への関心を高め、**健康増進に貢献**



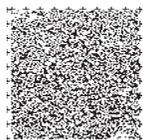
#### 簡単に楽しめるスポーツの普及・推進

- スポーツ・レクリエーションなど、**年齢等を問わず簡単に楽しめるスポーツ**を普及・推進



#### 区市町村におけるデジタル技術の活用を支援

- 区市町村が実施するスポーツ推進事業において、**デジタル技術の活用**を支援するなど、高齢者を含む幅広い世代がスポーツ・運動を楽しむ機会を創出



## スポーツを通じた社会参加や仲間づくりの促進

### 地域やコミュニティ等と つながりを持つきっかけの創出



- 東京都シニア・コミュニティ交流大会を開催し、高齢者のフレイル予防等で広がりを見せつつあるeスポーツを新規種目として追加し、シニアスポーツ振興を一層推進していく

#### 【種目】

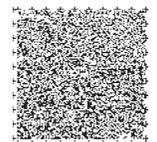
囲碁、将棋、健康マーじゃん、ダンススポーツ、カラオケ、eスポーツ

- 都民スポレクふれあい大会としてスポーツ・レクリエーション活動を実践する場を提供し、世代間のふれあいと、健康・体力づくり、生きがいづくりを促進

### 多彩なスポーツの取組を通じた 交流機会の提供



- スポーツと多様な分野（音楽、食事など）を掛け合わせたバラエティに富んだ取組を通じて、幅広い層にスポーツを楽しんでもらえるよう検討
- スポーツを実際にみる機会を提供し、多くの観客と興奮や感動を共有する経験を創出
- ボランティア活動や地域スポーツクラブへの参加といったスポーツを通じた社会参加の情報を積極的に発信



# 1 重点政策テーマ

## Project 2 多様性があふれる「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」

### 今後の取組

#### 高齢者

### 高齢者が活躍できる機会の創出

#### ～ 全国健康福祉祭（ねんりんピック）の東京開催 ～

##### 《大会概要》

##### ○目的・沿革

：全国健康福祉祭（愛称：ねんりんピック）は、スポーツや文化種目の交流大会などを通じ、高齢者を中心とする国民の健康保持・増進、社会参加、生きがいの高揚を図り、長寿社会の形成に寄与することを目的として、昭和63（1988）年から開催されている総合スポーツ大会

##### ○主催者

：厚生労働省、開催都道府県（政令指定都市）、  
（一財）長寿社会開発センター

##### ○共催者

：スポーツ庁



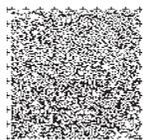
シンボルマーク

##### ○参加資格

：大会当年12月31日時点で60歳以上の日本国籍を持つ人

##### ○東京開催

：令和10（2028）年に東京で初めての開催



### ねんりんピックに関する取組

- ねんりんピックに派遣する選手の選考会を兼ねて「シニア健康スポーツフェスティバル」を開催



- 日頃の鍛錬の成果を発揮し、自分らしさを体現できる場の一つとして、ねんりんピックへ東京都選手団を組織・派遣



- 第39回ねんりんピックの気運醸成に向けたシニアスポーツ振興の取組など区市町村が実施するスポーツ振興事業に対して補助



## 2030年までの政策強化の方向性

女性

### 女性の多様なニーズを捉えたスポーツへの参画・活躍を推進

年代・ライフステージ・志向などにより変化する女性のニーズや価値観に合わせた働きかけを実施

動機にアプローチ

健康

楽しみ

交流

美容

など



環境にアプローチ

家庭

学校

会社

街中

など



課題にアプローチ

からだ

ところ

など



組織にアプローチ

スポーツ  
関係団体

など



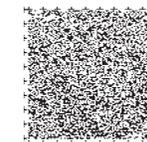
スポーツを通じて、女性一人ひとりが自分らしく健康に、いきいきと輝く

▼ FIND COLUMN

#### 女子アスリートのコンディショニングガイド

アスリートの競技力向上には、**スポーツ医・科学によるサポート**に着目した日々の**コンディション管理**が重要です。本ガイドでは、成長期にある女子アスリートに対して、**女性特有の体調変化や課題**について、**正しい知識の普及と理解を促進し、競技力の向上**を支援するため、マンガ等により内容を分かりやすく紹介しています。

本文は以下の二次元コードからご覧いただけます。



# 1 重点政策テーマ

## Project 2 多様性があふれる「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」

### 今後の取組

#### 女性

年代・ライフステージ・志向などにより変化する女性のニーズや価値観に合わせた働きかけを実施

#### 女性向けのスポーツ情報発信

- 女性向けのイベント情報発信や、他分野との連携により、**スポーツへの意識をポジティブに変容**



#### 女性特有の健康課題の予防に資するスポーツの普及・啓発

- 女性それぞれのライフステージで特有の健康課題を予防できるよう日常生活に取り入れられる**スポーツを紹介**



#### ライフステージに応じたスポーツに親しむ時間・機会の創出

- **無理なく気軽に**取り組めるスポーツの普及、**機会の創出**



#### 多忙な働き盛り世代に向けた取組支援

- 企業の経営層や従業員への働きかけを通じ、女性を含む**働き盛り世代**が仕事をしながらスポーツに親しめる環境づくりを後押し



女性アスリートのスポーツ環境整備やスポーツの現場における女性の活躍の機会拡大

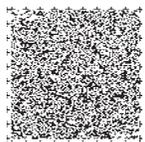
#### 女性アスリート特有の課題に関する情報発信

- コンディション管理やけが予防など、**女性アスリート特有の課題に関する正しい知識**をアスリートや指導者に普及啓発し、**競技力向上を底上げ**



#### スポーツ関係団体における女性の参画促進

- 女性の**スポーツ関係団体役員等への積極的な任用**を実情に応じて働きかけ



## 2030年までの政策強化の方向性

### 障害者

## 障害の有無にかかわらずパラスポーツを楽しめる取組を推進



### 身近な地域でスポーツを楽しめる場を創出

- 障害者スポーツセンターにおいて、利用者に障害特性や目的に応じた様々なスポーツ活動の場を提供
- 区市町村におけるスポーツ・福祉・医療等の分野の協働を後押しし、スポーツ活動の場を充実
- スポーツ施設のユニバーサルデザイン化を促進
- 都立特別支援学校や福祉施設等の身近な施設も活用



### デジタル技術を活用し、より多くの「できる」を体験

- 障害種別や程度に合わせた方法で行うeスポーツの活用により、スポーツに親しみやすい機会を創出
- eスポーツの特徴を生かし、障害のある人とない人の交流を促進
- 民間企業等に障害当事者のニーズをアピール



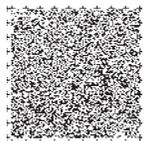
### 自分に合ったパラスポーツに出会い、高みを目指せる環境を構築

- パラスポーツを始め、継続できる環境をサポートし、次世代を担うパラアスリートを輩出
- 国際大会等を目指すパラアスリートや支えるスタッフの競技活動を支援



### スポーツを通じた相互理解を促進

- パラスポーツやパラアスリートをより身近に感じられるよう、体験・交流機会を創出
- 障害のある人もない人も一緒に様々なスポーツ観戦を楽しめる環境を構築
- パラリンピックやデフリンピックで高まった気運を未来へ継承



# 1 重点政策テーマ

## Project 2 多様性があふれる「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」

### 今後の取組

#### 障害者

### 身近な地域でスポーツを楽しめる場を創出

#### 障害者スポーツセンターの運営

- 障害者スポーツセンターにおいて、初心者からアスリートまで、一人ひとりの障害の種類・程度や利用目的に応じた様々な活動の場を提供



東京都障害者総合スポーツセンター

#### 障害当事者のニーズに即した場の提供

- 区市町村においてスポーツ・福祉・医療等様々な関係機関が連携したきめ細かな取組が行われるよう、アドバイザー派遣等により支援



#### 区市町村におけるスポーツ施設的环境整備

- スポーツ施設のユニバーサルデザイン化が進むよう、区市町村の取組を促進
- 人的サポートや備品設置等のソフト面からの工夫による環境整備についても働きかけ

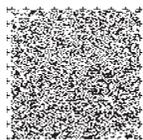


#### 身近な場所における運動習慣の定着を支援

- 通い慣れた福祉施設等から、段階的に地域のスポーツ施設に移行できるよう支援
- 特別支援学校の体育館等を活用したパラスポーツ教室等の充実



福祉施設内での運動プログラムの実施



## 自分に合ったパラスポーツに出会い、高みを目指せる環境を構築

### 次世代を担うパラアスリートの発掘や競技人口の裾野拡大



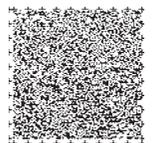
パラスポーツ次世代ホープ発掘事業

- 様々なパラスポーツの体験に加え、自分に合う競技や活動場所等を競技団体に相談できるイベントを開催
- スポーツ用義足や車いすに慣れてもらうための体験会を、理学療法士や義肢装具士等の専門家のサポートの下実施
- スポーツを始めた後も継続しやすいよう、スポーツ用車いすの貸出しを行うほか、定期的な体力測定やトレーニング講習会の実施などによりサポート

### パラアスリートの育成・強化



- 国際大会等を目指す東京にゆかりのあるパラアスリート・ジュニアパラアスリートを強化選手として認定し、競技活動を支援
- パラスポーツの競技力向上に必要なコーチやガイドランナー、手話通訳など選手を支えるスタッフの活動環境を整備



# 1 重点政策テーマ

## Project 2 多様性があふれる「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」

### 今後の取組

#### 障害者

デジタル技術を活用し、より多くの「できる」を体験

#### 障害種別や程度に応じた運動機会の創出



通い慣れた施設等でのeスポーツ

- 障害特性ごとに取り組みやすいよう、機器やプログラムを工夫したeスポーツの活用により、通い慣れた施設等の身近な場所で気軽にスポーツ・運動を楽しめる機会を創出

#### eスポーツ交流会等の実施



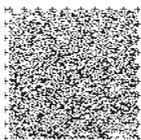
デジタル技術を活用した障害のある人のスポーツ参加促進事業

- 障害の有無や場所にかかわらず一緒に楽しめるeスポーツの特徴を生かし、体験会を通じて障害のある人とない人の交流を促進

#### 企業等に対する当事者ニーズのPR



- 大規模展示会への出展等により、企業等に対し、機器やコンテンツに関する障害当事者のニーズをアピール



## スポーツを通じた相互理解を促進

### 身近な場所でパラスポーツに触れる機会を提供

- 商業施設など多くの人が集まる場所で体験会を実施することにより、気軽にパラスポーツに触れる機会を提供



街なかパラスポット

### 障害のある人とない人とが交流できる大会の実施

- 障害のある人とない人がパラスポーツの真剣勝負を通じて交流し、相互理解につなげるためのポッチャ大会を開催



BOCCIA BEYOND CUP

### 誰でも楽しむことができる観戦機会の提供

- 障害の種類や程度によらず、誰もが一緒に様々なスポーツを観戦できる機会を提供



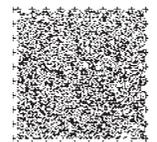
TEAM BEYOND 観戦会

### パラスポーツのメモリアルイベントを開催

- 東京2020パラリンピックや東京2025デフリンピックの感動と記憶を想起させパラスポーツへの関心を定着させるため、メモリアルなイベントを開催



パラ競技デモンストレーション



# 1 重点政策テーマ

## Project 2 多様性があふれる「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」

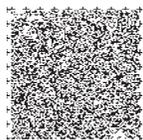
### 主な年次計画

高齢者

女性

障害者

具体的な取組	2024年度末 (見込み)	年次計画		
		2025年度	2026年度	2027年度
<b>シニアスポーツ振興</b>				
シニアスポーツ振興事業	● 実施中			
東京都シニア・コミュニティ交流大会の開催	● 大会実施	● 実施種目にeスポーツを追加		
区市町村によるデジタル技術を活用したスポーツ推進事業の実施を支援	● 事業実施	● 事業実施 (補助対象の拡大)		
<b>女性のスポーツ振興</b>				
女性向けのスポーツ情報発信		● 実施準備	● 事業実施	
女性を含む働き盛り世代に向けた取組支援	● 実施中			
女性アスリート特有の課題に関する情報発信	● 実施中			
<b>障害者のスポーツ振興</b>				
身近な場所における運動習慣の定着を支援	● 福祉施設や身近なスポーツ施設等で運動プログラムを実施 ● 特別支援学校でパラスポーツ体験教室等を実施	● 事例集を通じて自治体に取組を普及		
次世代を担うパラアスリートの発掘や競技人口の裾野拡大	● 様々な競技スポーツを体験し相談できる場を提供	● 参加者へのフォローを充実させ競技活動の継続を支援		
デジタル技術を活用した障害種別や程度に応じた運動機会の創出、交流会の実施	● 通い慣れた施設など、身近な場所でのスポーツ・運動の機会を提供	● 新たに地域イベント等を活用した交流の機会を創出		
障害のある人となない人とが交流できる大会の実施	● 真剣勝負を通じ相互理解を深めるポッチャ大会の実施			



## 在留外国人×防災×スポーツ

在留外国人は、言語や習慣などの違いから日本人と比べて防災知識が乏しいため、発災時でのコミュニケーション等が課題となっています。在留外国人の防災意識を高めるため、**スポーツを活用した防災訓練**を開催した事例があります。訓練では、パン食い競争ならぬ「乾パン食い競争」や、非常用袋に防災グッズを入れるなどしながらリレーをする「防災リレー」などが行われました。こうしたスポーツを通じたイベントで交流することで、心と言葉の壁を乗り越え、**スポーツが人々の理解と絆を深めていく**ことが期待されています。

## スポーツを通じた在留外国人との共生

在日スリランカ人が、企画したクリケット大会の会場探しに難航していたところ、日本で暮らす外国人労働者や技能実習生を支援している団体が行政と交渉し、大会の開催を支援した事例もあります。大会は、**在留外国人がスポーツを実施することで、ストレスの緩和や日本人との交流**を図り、**相互理解**の一助にすることを目的に企画されました。スポーツ基本法前文が示す「**世界共通の人類の文化**」としてのスポーツを通じて、相互理解を深めることが重要です。

## LGBTQ×スポーツ

東京2020大会では、**LGBTQ**を公表する選手が過去最高となりました。

また、**東京マラソン**では、これまでも大会の運営に当たり、ノンバイナリーに関するアンケートの実施や誰でも更衣室・トイレの設置など、様々な取組を行ってきましたが、多様化するランナーのニーズに応えるため、2025大会から、エントリー時の性別カテゴリーに**ノンバイナリー項目**を新たに追加しました。今後も、全ての人々が違いを認め合いながらスポーツを楽しめるよう、様々な視点から取組を見直し、実施していくことが必要です。



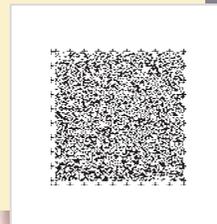
写真提供：福山市



写真提供：共同通信社



TOKYO MARATHON 2025  
©東京マラソン財団  
東京マラソン2025 メインビジュアル



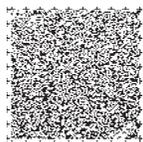
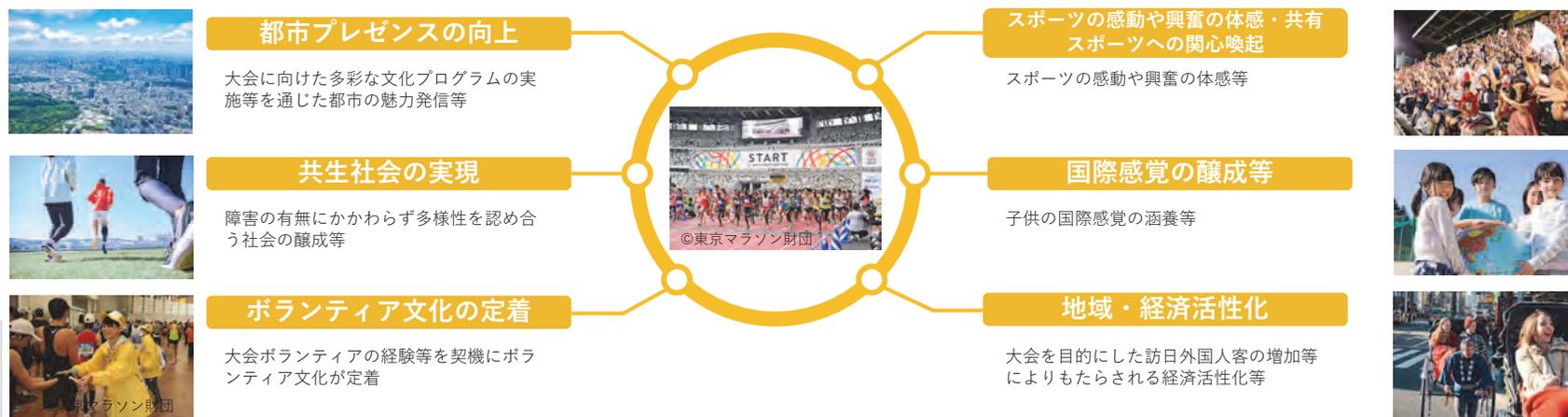
# 1 重点政策テーマ

## Project 3 スポーツの力で世界をリードする「TOKYOの魅力向上プロジェクト」

### 現状と課題

- RWC2019により、全国に**経済波及効果**がもたらされたほか、**ラグビー文化の定着**が図られた。また、**東京2020大会**では、大会を通じて、新たな施設が整備されるなど**ハード面が充実**するとともに、**スポーツ実施気運やパラスポーツへの関心の高まり**・大会を支えたボランティアの活躍といった**ソフト面のレガシー**も多く芽生えた。
- **国際スポーツ大会の開催**は、アスリートの活躍が感動や興奮をもたらし、スポーツのすばらしさを広め、**スポーツの振興に寄与**するだけでなく、東京の活性化や都市としてのプレゼンス向上にもつながるなど、**大きな価値をもたらす**ものである。
- 令和7（2025）年には、**東京2025世界陸上と東京2025デフリンピック**、2つの国際スポーツ大会が東京で開催される。スポーツの力で東京の新たな未来を切り開いていくため、東京都は、**両大会を通じて目指す姿を「ビジョン2025」としてまとめ、様々な取組を展開**している。
- 今後も、こうした国際スポーツ大会開催の価値を根付かせ、**都市の更なる発展**につなげるため、「**国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン**」を踏まえ、ガバナンスを確保しつつ、**国際スポーツ大会の開催や、誘致・開催の支援**を行っていくことが重要である。

### 国際スポーツ大会開催が都市にもたらすもの



## 将来の東京の姿

- **スポーツが都市発展の力となり、東京を更なる成熟した都市へと導いている**

## 2030年までの政策強化の方向性

### 国際スポーツ大会を盛り上げ、東京に様々な価値を生み出していく

- **東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを通じてウェルネスの向上や社会変革を推進し、新たなレガシーを創出**
- **東京マラソンを通じて東京の魅力を国内外へ発信し、都市のプレゼンスを一層向上させるとともに、都民に活力をプラス**

### 多種多様な大会の誘致・開催により、東京のスポーツの力を高めていく

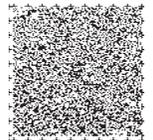
- **誘致・開催支援等の取組を充実させ、様々な国際大会が継続して開催されることで、スポーツを「する・みる・支える・応援する」が日常に溶け込み、スポーツを東京の強みとして定着**
- **国際スポーツ大会の更なる誘致に向けて、東京の開催能力やスポーツ都市・東京の魅力を幅広く発信**

### 国際スポーツ大会の経験をレガシーとし、スポーツ大会の運営を支援していく

- **今後のスポーツ振興の推進に向け、東京都と政策連携団体等スポーツ関連団体との連携の更なる強化**
- **国際スポーツ大会の開催経験等を、競技団体等が開催する大会に活用し、都民が一層スポーツに触れる機会を提供**



4:45.17  
SEIKO



# 1 重点政策テーマ

## Project 3 スポーツの力で世界をリードする「TOKYOの魅力向上プロジェクト」

### 今後の取組

国際スポーツ大会を盛り上げ、東京に様々な価値を生み出していく

### 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを通じた取組

#### 東京2025世界陸上

- 世界陸上競技選手権大会は、200か国・地域から2,000人以上のトップアスリートが集う陸上競技の世界最高峰の大会で、世界で約10億人が視聴している。
- 東京2025世界陸上を通じて、スポーツを楽しむ機会の創出、東京の魅力発信、子供たちへの参画機会の提供などの取組を進める。



#### 大会がもたらすもの



子供たちがスポーツから多くを学び、多様な価値観を育む

#### 東京2025デフリンピック

- デフリンピックは、デフ（きこえない・きこえにくい）アスリートのための国際総合スポーツ競技大会で、手話言語のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報保障が特徴である。
- 東京2025デフリンピックを通じて、あらゆる人が協働した大会運営、情報保障の充実や円滑なコミュニケーションのサポート、共生社会への理解促進などの取組を進める。



互いの違いを認め、尊重し合う社会づくりに貢献

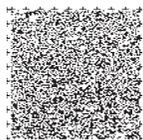
#### ビジョン2025の実現に向けた取組

- 両大会を通じて都が目指す姿をまとめた「ビジョン2025」に基づき、様々な取組を展開することで、大会を盛り上げるとともに、大会後のレガシーを創出していく。



ユニバーサルコミュニケーションの促進

など



## 国際スポーツ大会を盛り上げ、東京に様々な価値を生み出していく

### 東京マラソンの開催

- 2027年に20回大会を迎える東京マラソンを世界最高水準の大会へと成長させ、東京マラソンのコンセプトである「東京がひとつになる日。」を具現化するよう、国内外のトップランナーと市民ランナー、大会を支えるボランティア等、大会に関わる全ての人々が一体となる大会運営を目指していく。



東京マラソン2025 メインビジュアル



東京マラソン2024

### その他の取組

- 東京マラソンのコース沿道におけるパフォーマンスによる応援など、地域の人々が参画したランナー応援イベントを実施
- 東京2020大会で高まったスポーツやウェルネスの気運をレガシーとして継承していけるよう、東京レガシーハーフマラソンを開催
- TOKYO ROKUTAI FESや東京レガシースタジアムなどのイベントを実施し、ランニング人口の裾野拡大のための取組を実施



コース沿道からランナーを応援



東京レガシーハーフマラソン2024フィニッシュ



東京レガシースタジアム

### 大会がもたらすもの



スポーツから得られる感動を共有する  
機会の創出により、都民の活力を高める

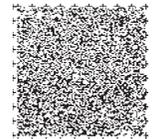


東京の魅力を世界中に発信し、都市の  
プレゼンス向上に寄与



国内外からの大会参加者による東京の経済活性化

など



# 1 重点政策テーマ

## Project 3 スポーツの力で世界をリードする「TOKYOの魅力向上プロジェクト」

### 今後の取組

多種多様な大会の誘致・開催により、東京のスポーツの力を高めていく

#### 国際スポーツ大会の開催支援

- 東京のスポーツの振興及び都市のプレゼンスの一層の向上を図るため、都内で国際スポーツ大会の開催を目指す団体に対し、誘致活動や開催を支援する事業を実施
- 都立スポーツ施設も、東京2020大会のレガシーとして、新たな国際大会の場として活かしていく
- パラスポーツについては、幅広い競技や様々な規模の国際大会が都内で開催できるよう継続して支援し、より多くの都民に観戦機会を提供することによりパラスポーツの振興と共生社会の実現につなげていく



©JAPAN DANCE SPORT FEDERATION

第23回 東京オープン・ダンススポーツ選手権



三井不動産 車いすラグビー SHIBUYA CUP 2024 (国立代々木競技場第二体育館)

#### 国際大会の誘致に向けた海外発信

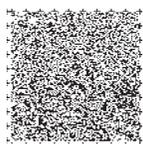
- 国際スポーツ大会の更なる誘致・開催に向けて、IF等のスポーツ関係者に対し、東京の開催能力やスポーツ都市・東京の魅力を幅広く発信
- 国際スポーツ界での東京のプレゼンス維持・向上のため、スポーツアコード等の国際スポーツ会議への参加等を通じ、国際スポーツ関係者への継続した最新情報の発信や意見交換を実施していく
- パンフレットや映像の活用、ウェブコンテンツの充実等により、豊富なスポーツ施設など東京のスポーツ資源、最先端の技術や交通網など大会開催に必要なインフラ、文化や観光など東京の多彩な魅力をPRしていく



スマートシティ&スポーツ サミット2023 (パリ市)



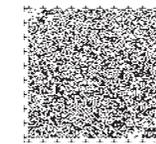
国際スポーツ大会の誘致に向けたPR映像



## 国際スポーツ大会の経験をレガシーとし、スポーツ大会の運営を支援していく

- 東京都は、これまでの国際スポーツ大会に加え、東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの開催により、**更なる知見やノウハウを蓄積**していく。
- このうち、東京2025デフリンピックについては、政策連携団体である（公財）東京都スポーツ文化事業団と連携し、**準備・運営に携わる**ことにより、**大会を成功に導いていく**。
- 東京都は、これらのレガシーを活用し、（公財）東京都スポーツ文化事業団と連携・協力しながら、**国際スポーツ大会の準備・運営に支援を必要とする競技団体等に対し、知見や資料の提供などを通じた支援の仕組みを具体化**していく。

### 国際スポーツ大会の経験をレガシーとしたスポーツ大会の運営支援の仕組み

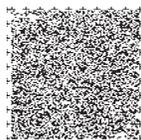


# 1 重点政策テーマ

## Project 3 スポーツの力で世界をリードする「TOKYOの魅力向上プロジェクト」

### 主な年次計画

具体的な取組	2024年度末 (見込み)	年次計画		
		2025年度	2026年度	2027年度
東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを通じた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の実施</li> <li>大会開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開催経験等の継承</li> </ul>	→
東京マラソンの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京マラソン2025開催(18回大会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京マラソン2026開催(19回大会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京マラソン2027開催(20回大会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京マラソン2028開催(21回大会)</li> </ul>
国際大会の開催支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際大会の調査等支援、誘致・開催支援</li> </ul>	→		
パラスポーツの国際大会の開催促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広いパラスポーツの国際大会の開催を支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観客数増を図るためのPR支援を実施</li> </ul>	→	
国際スポーツ関係者への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツアコード等参加、国際スポーツ関係者へのフォローアップ</li> </ul>	→		
海外向けウェブページでの情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際大会誘致に向けたPR資料の作成・掲載・情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェブコンテンツの拡充、情報発信</li> </ul>	→	





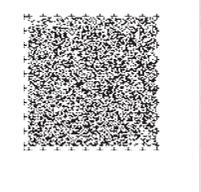
TOKYO  
MARATHON  
2019

ASIA  
WORLD MARATHON HISTORY

FINISH

4:45.17  
SEIKO

- Asahi 朝日メトロ
- STARTS
- ヤマサキ asics POCARI SWEAT
- BMW 第一生命
- SEIKO SECOM
- TORAY McDonald's
- MIZUHO 三井住友
- AMERICAN EXPRESS
- ANA



©東京マラソン財団

# 1 重点政策テーマ

## Project 4 スポーツを楽しむ環境を実現する「スポーツFACILITIESプロジェクト」

### 現状と課題

- 東京2020大会を通じて、最新の国際水準を満たす都立スポーツ施設の整備や、区市町村など身近なスポーツの場の整備が進み、東京のスポーツインフラはバージョンアップした。
- こうした大会のレガシーを活かし、施設を利用する都民のウェルビーイングを高めていくためには、都立スポーツ施設のスペックを活かしたスポーツでの更なる活用やエンターテインメントなど幅広い体験機会の提供、身近にスポーツを楽しめる環境整備の促進を図ることが重要である。
- 東京2025世界陸上や東京2025デフリンピック開催の機会も捉え、都立18施設をはじめとした都内スポーツ施設のポテンシャルを最大限発揮するとともに、区市町村などの地域資源の活用を促進し、いつでも誰でもスポーツを楽しめる環境を創り上げていく必要がある。

### 都立スポーツ施設

- 都内に18の都立スポーツ施設を擁し、最新の国際水準を満たす施設を有しているなど、東京のスポーツインフラの中核としての役割を果たしている
- 国際スポーツ大会の競技会場としても活用されており、誰もが使いやすい施設の整備や環境に配慮した設備の導入などが進んでいる



東京アクアティクスセンター



カヌー・スラロームセンター

### 都立公園内等の運動施設

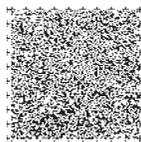
- 城北中央公園などの都立公園や、若洲海浜公園若洲ゴルフリンクスなどの都立海上公園内にも42の運動施設があり、都民のスポーツの場となっている

### 身近なスポーツの場

- 区市町村立のスポーツ施設は身近なスポーツの場としての役割を担っている

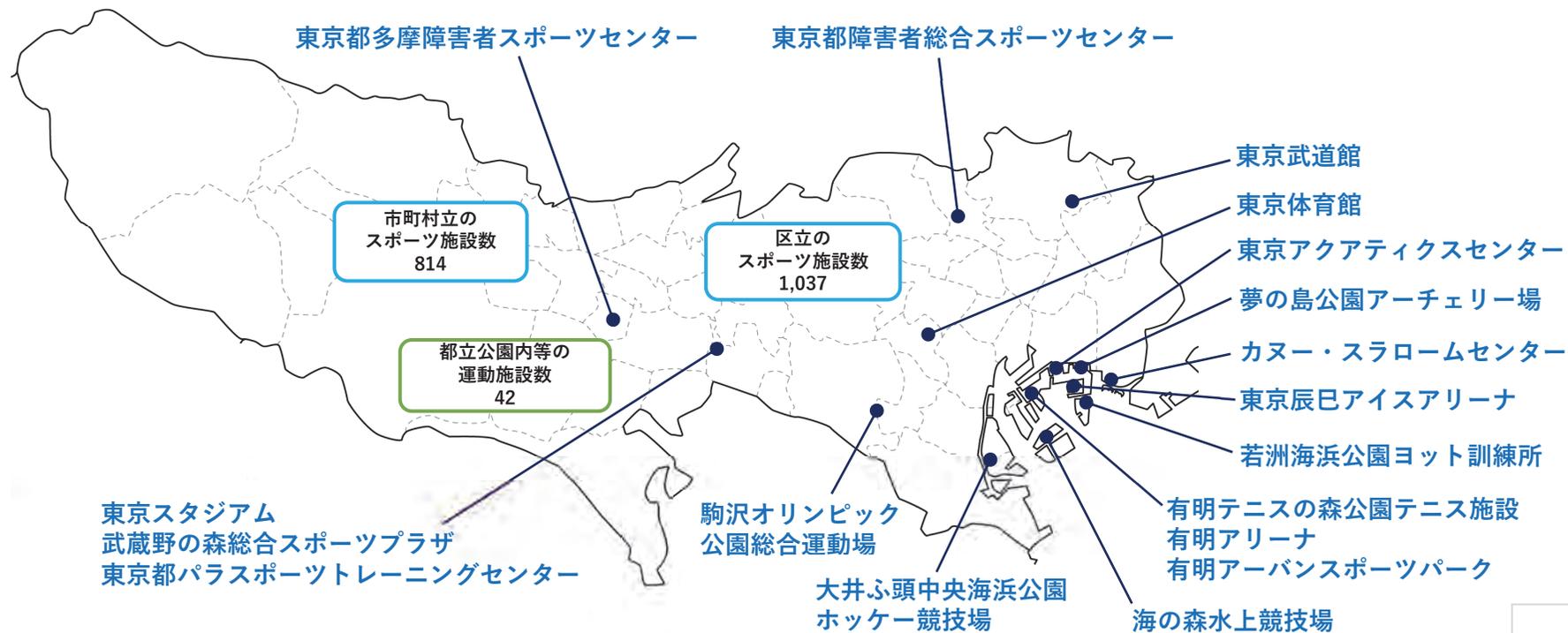
【区立のスポーツ施設数】 1,037

【市町村立のスポーツ施設数】 814



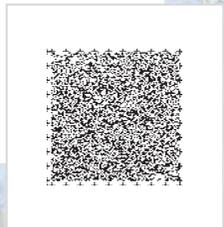
## 都内のスポーツ施設の現況

大規模大会の会場となる都立スポーツ施設や、身近な区市町村のスポーツ施設など、都内には様々なスポーツの場がある



※青字施設は都立スポーツ施設（令和7年3月時点。整備中の東京辰巳アイスアリーナを含む。）

※区市町村立のスポーツ施設数は、令和5年10月時点



# 1 重点政策テーマ

## Project 4 スポーツを楽しむ環境を実現する「スポーツFACILITIESプロジェクト」

### 将来の東京の姿

- 都立スポーツ施設が、身近にトップレベルの試合に触れることができる**スポーツの拠点**として親しまれている
- 多様なニーズに応え、**新たなスポーツ環境や様々な体験機会を提供し**、都立スポーツ施設が**都民のウェルビーイングの向上**に寄与している
- **誰もがいつまでも、身近にスポーツを楽しむことができる環境**が実現している

### 2030年までの政策強化の方向性

#### 東京のスポーツインフラの中核を担う施設の強みを発揮

- 東京の**スポーツインフラの中核**を担う存在として、**高水準な施設・設備**を生かした**国際大会や全国大会**などの開催から、**競技力向上や都民の健康づくり、パラスポーツ**を楽しむ場の提供まで、**スポーツを通じた様々な価値を提供**
- 各施設の特性や立地を生かすとともに、令和5（2023）年度から設置している「TOKYOスポーツ施設コンシェルジュ」を発展させ、18施設のネットワーク化によりポテンシャルを最大限発揮し、**スポーツに限らずエンターテインメントやユニークベニューなど幅広い活用を促進**

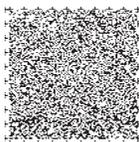
#### 安全・安心・信頼のスポーツ環境を提供

- 「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」や、東京2025デフリンピックを契機に整備を進めた**アクセシビリティ設備のノウハウ**を、今後の大規模改修等にも反映
- 各施設において**手話や「やさしい日本語」の活用を促進し**、利用者との円滑なコミュニケーションを実現
- 年々気温が上昇する中、安心して施設を利用できるよう**暑さ対策**を推進
- **環境配慮**の取組として、設備の**高効率化**や**太陽光発電等の再生可能エネルギー設備、電気自動車等のための充電設備**の導入

#### 身近なスポーツ環境の更なる充実

- これまでの取組成果の検証を踏まえた**区市町村のスポーツ施設整備に対する支援**や都立特別支援学校の活用促進等を通じて、**身近なスポーツ環境の整備を推進**
- 「東京のスポーツ案内サイト」にて、**都内のスポーツ施設の検索や予約ページへの遷移等、利便性を向上**

都立スポーツ施設の取組



## 今後の取組

### 都立スポーツ施設の取組

### 東京のスポーツインフラの中核を担う施設の強みを発揮

#### 施設のスペックを活かしたスポーツでの更なる利用

##### 国際大会や全国大会の競技会場

- 各施設は高水準の設備を有し、国際大会や全国大会の競技会場として利用されており、**都民が身近にトップレベルの試合に触れることができる場を提供していく**



東京2025デフリンピック  
大会エンブレム

(大会の例)

**国際大会：**  
デフリンピック、世界選手権、アジア選手権等  
**国内大会：**  
日本選手権、全国高校選手権等

##### 東京2020大会のレガシーを継承した施設

- 東京2020大会のレガシーを継承した有明アーバンスポーツパークと都立初の通年アイスリンク施設である東京辰巳アイスアリーナを開業し、**若者に人気のある都市型スポーツや氷上スポーツに親しめる場を創出していく**



有明アーバンスポーツパーク



東京辰巳アイスアリーナ  
※令和7(2025)年9月開業予定

##### 競技力強化・向上の拠点

- 競技大会等での活用のほか、トップレベル競技者が集中的にトレーニングを行うための活動拠点としてスポーツ庁から2施設がナショナルトレーニングセンターに指定されており、**国内のアスリートの強化・育成に貢献していく**



海の森水上競技場



カヌー・スラロームセンター

##### パラスポーツ振興の拠点

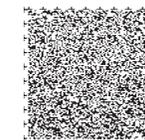
- 都内2か所の障害者スポーツセンターを運営し、**障害のある人が気軽にスポーツを楽しめる環境を提供していく**ほか、東京都パラスポーツトレーニングセンターを運営し、**パラスポーツの競技力向上・普及振興の場を提供していく**



東京都障害者総合  
スポーツセンター



東京都パラスポーツ  
トレーニングセンター



# 1 重点政策テーマ

## Project 4 スポーツを楽しむ環境を実現する「スポーツFACILITIESプロジェクト」

### 今後の取組

#### 都立スポーツ施設の取組

#### 東京のスポーツインフラの中核を担う施設の強みを発揮

##### ユニークベニューなどの多目的利用

- スポーツ利用だけでなく、誰もが親しめる**新しいプログラムの展開**やユニークベニューとしての利用など施設の**多目的な活用**を推進



カヌスラパーク（カヌー・スラロームセンター）

- 誰もが楽しめる遊具等をオープンスペースに設置した、期間限定のレジャー・スポットを指定管理者が展開
- 来場者に水上アクティビティへの関心を持ってもらい、施設利用のきっかけづくりに



バーベキュー  
（海の森水上競技場）



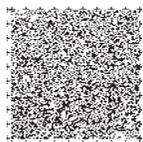
子供ヨット体験  
（東京アクアティクスセンター）



ファッションショー  
（夢の島公園アーチェリー場）



消防・水難救助訓練  
（海の森水上競技場／  
カヌー・スラロームセンター）



##### 18施設の一體的なプロモーション

- TOKYOスポーツ施設コンシェルジュ Ver 2.0
  - 都立スポーツ施設の施設利用に関する**総合的な相談窓口**である「コンシェルジュ」を設置
  - **企業などへのアプローチ**によりコンシェルジュの**発信力を強化**し、ニーズを捉えて施設と利用者を**マッチング**



##### 施設を活用した多様なコンテンツの提供

- **スポーツ中継の配信**
  - 各施設での**試合等を配信**し、都民に提供
- **人気コンテンツとのコラボ企画の展開**
  - 各施設を活用した**謎解きイベント**等を展開



## 今後の取組

### 都立スポーツ施設の取組

### 安全・安心・信頼のスポーツ環境を提供

#### ハード・ソフト両面のバリアフリー化を推進

- 誰もが利用しやすいスポーツ環境を整備・提供し、都民の健康づくりに貢献

- ・ 「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」(※)や、東京2025デフリンピックを契機に整備を進めたアクセシビリティ設備のノウハウを、今後の大規模改修等にも反映



アクセシビリティ設備の例  
(光警報装置)

※ Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン：東京2020大会が、障害の有無にかかわらず、全ての人にとって参加しやすい大会となるよう、ハード・ソフト両面でのバリアフリー化の推進に向け、(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が策定したガイドライン

- 18施設のネットワークにより、ソフト面のバリアフリー化を推進
  - ・ 各施設管理者間で連携し、手話や「やさしい日本語」等を共同で学習し、誰もが暮らしやすい社会に向けた取組を推進

#### 暑さ対策

- 各施設における熱中症対策の推進
  - ・ 暑さ指数計等の暑さ対策備品を各施設へ配備するなど、熱中症対策を徹底



暑さ対策備品の例  
(左：暑さ指数計、右：注意喚起パネル)

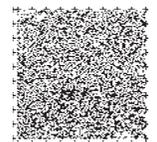
- クーリングシェルター等としての役割
  - ・ 自治体の要請等に基づき、クーリングシェルター(指定暑熱避難施設)やTOKYOクールシェアスポット(涼しさを共有するための場所)として、熱中症対策を目的とした適切な休憩場所を提供

#### 環境配慮の取組

- 環境に配慮した技術を導入することで環境負荷の低減に貢献
  - ・ 改修の機会を捉えた設備の高効率化や太陽光発電等の再生可能エネルギー設備、電気自動車等のための充電設備を導入し、環境負荷の低減に貢献



東京アクアティクスセンターに設置された太陽光発電パネル



# 1 重点政策テーマ

## Project 4 スポーツを楽しむ環境を実現する「スポーツFACILITIESプロジェクト」

### 今後の取組

#### 身近なスポーツ環境の更なる充実

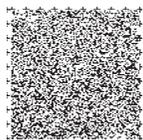
##### 区市町村等のスポーツ施設の整備支援

- 区市町村のスポーツ環境の拡充に向け、ユニバーサルデザイン化の推進、暑さ対策、学校施設の市民開放などの施設の改修整備に係る取組を支援
- デジタル技術等を活用し、従来スポーツの場として使用されていない場所や空間を新たなスポーツの場として創出



##### 都立特別支援学校活用促進事業

- 障害のある人や障害者スポーツ団体等が、身近な地域でスポーツ活動を行えるよう、都立特別支援学校の体育施設を地域のパラスポーツの拠点の一つと位置付け、学校教育活動に支障のない範囲で開放し、活用を促進



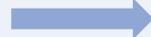
##### スポーツ施設検索の利便性を向上

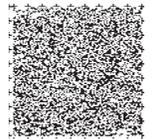
- 公民含めた3,000を超える都内のスポーツ施設情報をまとめた「東京のスポーツ案内サイト SPOPITA【スポピタ】」について、施設検索や予約ページへの遷移等、利用者の利便性を向上
- 民間企業等と連携し、スポーツ施設の情報を誰もが容易に利用できる「オープンデータ」として積極的に公開し、データの利活用を促進



競技種目・場所・最寄り駅などから、施設を検索可能

## 主な年次計画

具体的な取組	2024年度末 (見込み)	年次計画		
		2025年度	2026年度	2027年度
都立スポーツ施設の管理運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施準備 </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場外2施設の指定管理者選定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施準備 </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京体育館外10施設の指定管理者選定</li> </ul>
都立スポーツ施設の開業	<ul style="list-style-type: none"> <li>有明アークスポーツパークの開業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京辰巳アイスアリーナの開業</li> </ul>		
18施設の一体的なプロモーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>「TOKYOスポーツ施設コンシェルジュ」の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「TOKYOスポーツ施設コンシェルジュ Ver 2.0」の展開</li> </ul>		
施設を活用した多様なコンテンツの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施準備 </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ中継の配信</li> <li>人気コンテンツとのコラボ企画の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンテンツの企画・提供</li> </ul>	
大規模改修等の機会を捉えたバリアフリー化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>駒沢オリンピック公園総合運動場体育館の改修工事</li> <li>デフリンピック競技会場（都立）の光警報装置等改修工事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デフリンピック競技会場（都立）の光警報装置等改修工事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施準備 </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京武道館の改修工事</li> </ul>
区市町村等のスポーツ施設の整備支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施</li> </ul>			



# 1 重点政策テーマ

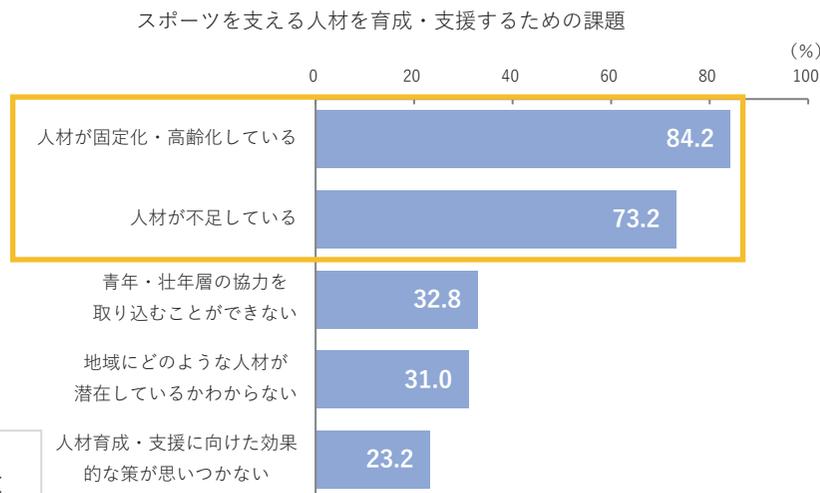
## Project 5 スポーツを支える仕組みを創る「支える担い手確保プロジェクト」

### 現状と課題

- 地域のスポーツを支える人材は固定化・高齢化し、多くの地域で担い手の確保に課題を抱えている。
- 人口減少や部活動の地域連携・地域移行の進展など、地域スポーツを取り巻く環境が変化している。
- ボランティアが活動を継続・拡大していくため、募集情報や機会の提供等に向けた取組を推進するとともに、活動意欲の高いボランティアには、より活動の深化を促していくことが重要である。
- 新たな担い手の確保やボランティアの一層の活躍、スポーツ関係団体の体制強化等につながる取組を展開し、持続可能な地域スポーツの体制を整備する必要がある。

#### 地域ではスポーツを支える人材が不足している

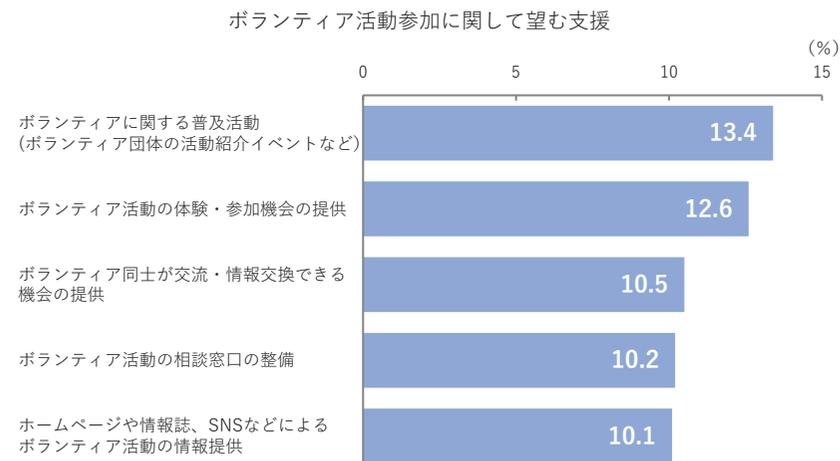
多くの地域で、スポーツを支える人材の高齢化や不足を課題と感じている



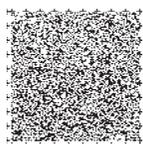
※全国の自治体に対する調査  
 図表出典：「令和4年度 スポーツ行政に関する実態調査報告」（2023年8月、三菱UFJリサーチ&コンサルティング）を基に作成

#### ボランティア活動を継続・充実する環境整備が課題

多くのボランティアは、活動情報や機会、交流の場の提供を求めている



図表出典：「都民のボランティア活動等に関する実態調査」（2025年1月、生活文化スポーツ局）を基に作成



## 将来の東京の姿

- 住み慣れた地域で、好きなスポーツをいつまでも続けられる
- 地域にある多くの人や資源で支えられるスポーツ環境が整備されている

## 2030年までの政策強化の方向性

### 新たな担い手の確保により、持続可能な地域のスポーツ振興を推進

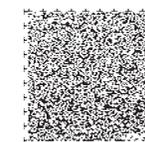
- 人口減少等地域におけるスポーツを取り巻く環境の変化を見据え、「地域のスポーツ振興に向けた関係者会議」を設置し、地域でのスポーツが続けられるような環境の整備に向け、新たな担い手の確保や団体の連携強化等を議論
- 地域資源の活用に向け、区市町村への様々な支援を展開

### ボランティアの活躍機会を拡大し、担い手の確保につなげる

- 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを通じて、東京ボランティアレガシーネットワーク（VLN）及びTOKYO 障スポ&サポートの活用を促進し、東京2020大会で高まったボランティア活動気運を更に進展
- ボランティアの活動継続・拡大に向けたボランティアイベントを開催
- 活動意欲の高いボランティアが活動を深化させていけるよう、情報発信等の取組を推進

### 地域における指導者の確保・育成やスポーツ関係団体の組織基盤強化等

- 地域で活動するスポーツ関係の指導者を確保・育成
- 都内の競技団体や地区体育・スポーツ協会、地域スポーツクラブ等に対し、研修会の開催支援や専門家相談等を実施し、団体の運営力を向上



# 1 重点政策テーマ

## Project 5 スポーツを支える仕組みを創る「支える担い手確保プロジェクト」

### 今後の取組

#### 新たな担い手の確保により、持続可能な地域のスポーツ振興を推進

- 持続可能な地域におけるスポーツ環境を整備するため、地域の実情に応じた**新たな担い手の確保**や**スポーツ関係団体との連携**について、新設する**会議**において議論
- 会議には**スポーツ団体関係者**をはじめ様々な立場から意見を募り、**人材・場所の確保策**や**連携策**を多角的に議論

### 目指す将来像

- 子供たちが希望するスポーツに取り組んでいる
- 競技レベルや身体能力に合わせた指導を受けられている
- 身近な場所でスポーツを楽しむことができる

### 新たな担い手の充実

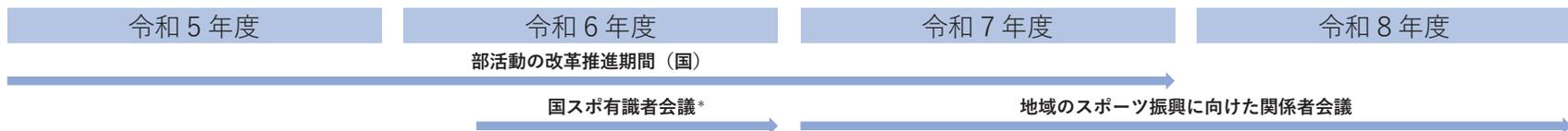
以下のような人材を地域スポーツで積極的に活用

- 民間指導者
- プロスポーツチーム選手・指導者
- 大学・企業等
- ボランティア

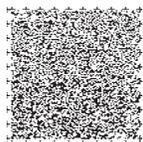
### 連携・支援に向けた方向性

- 指導者資格の取得等に向けた支援
- 人材が適材適所で活躍できる仕組み
- 事業スキームの確立に向けた助言や支援
- 身近な場所でできるスポーツなど、**情報発信の手法**
- ボランティア活動の拡大や深化につながる機会創出

### スケジュール



\* J S P Oが設置する「今後の国民スポーツ大会の在り方を考える有識者会議」



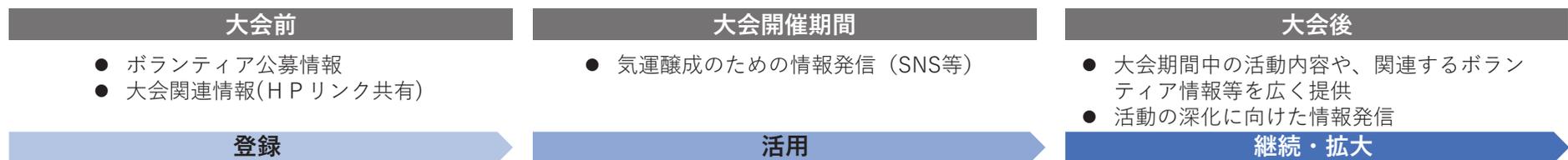
INTEER MARATHON 20

第2編  
▼  
第1章  
目標達成に向けた施策展開  
▼  
1 重点政策テーマ

## ボランティアの活躍機会を拡大し、担い手の確保につなげる

- 東京2020大会を契機に、ボランティア活動への気運が大きく高まった
- 気運の高まりを捉え、活動の継続・拡大につながるよう、東京ボランティアレガシーネットワーク（VLN）やTOKYO 障スポ&サポート（S&S）により、多彩な情報・活動フィールドを提供
- 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを通じて、VLNやS&Sの活用を一層促進

### VLNで東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの情報発信



両大会のボランティアにVLNやS&Sへの登録を促すとともに、活用促進につなげる

### ボランティアイベント等を通じた気運の維持・裾野の拡大

#### 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピック

総勢6,000人のボランティアが活躍予定

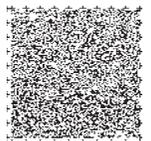
- 東京2020大会を通じて広がったボランティア文化を、両大会で継承・発展

#### ボランティアイベント等

両大会の振り返りなど、今後の活動につながる企画を用意

- ボランティア同士の交流会 等

- 両大会のボランティアが活動を継続・拡大できる仕掛けにより、一人ひとりが支え合う社会づくりが更に進展
- 都が実施するスポーツイベント等での更なる活動機会の確保を図る



## 1 重点政策テーマ

### Project 5 スポーツを支える仕組みを創る「支える担い手確保プロジェクト」

#### 今後の取組

- 地域における**指導者**や**スポーツ関係団体等**の活動を強化するため、**人材確保・育成**や**組織基盤強化等**の取組を実施

#### 人材確保・育成

##### 指導者確保に向けた取組



- 地域の日常的なスポーツ活動の場である**地域スポーツクラブ等**に対し、**指導者等の資格取得を支援**

##### ボランティアの活動深化に向けた取組

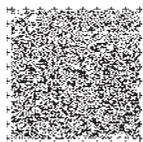


- 東京2020大会、東京2025世界陸上・東京2025デフリンピック等で活躍したボランティアを対象に、**審判員等競技資格取得に向けた情報を発信し、地域スポーツを支える人材の掘り起こし**を実施

##### パラスポーツセミナーの開催



- **スポーツ推進委員**などのスポーツ分野に加え、理学療法士・作業療法士など**医療福祉関係者等**も対象にセミナーを開催し、**地域のパラスポーツを支える人材の育成**を推進



## スポーツ関係団体の組織基盤強化等

### 競技団体等の基盤強化



- 都内で活動する**競技団体**及び**地区体育・スポーツ協会**における運営力の向上を図るため、**研修会実施・HP改修のための支援**や、**法人格の取得に向けた専門家相談等**、**団体の組織基盤強化**に向けた活動を支援

### 地域スポーツクラブの支援

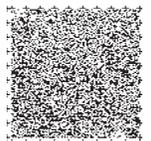


- 地域の日常的なスポーツの場として都民の誰もが参加できる**地域スポーツクラブ**が安定して活動できるよう支援
- 「**東京都地域スポーツクラブサポートネット**」において、**地域スポーツクラブ**の情報を発信
- 「**総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度**」の普及啓発・理解促進及び**登録クラブ**の活用を促進

### パラスポーツ団体の マッチングプラットフォーム構築



- **企業のノウハウ等と競技団体等の課題やニーズ**を**マッチング**する**プラットフォーム**により、**パラスポーツへの企業の参画**と**競技団体の基盤強化**を促進

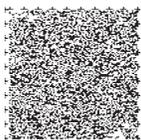


# 1 重点政策テーマ

## Project 5 スポーツを支える仕組みを創る「支える担い手確保プロジェクト」

### 主な年次計画

具体的な取組	2024年度末 (見込み)	年次計画		
		2025年度	2026年度	2027年度
地域のスポーツ振興に向けた関係者会議	● 実施準備	● 事業開始	→	
スポーツイベントにおけるボランティア活動機会の提供	● ボランティア活動機会の提供	→		
ボランティア気運の維持・裾野の拡大	● ボランティア気運の維持・裾野の拡大	→		
指導者資格等取得支援事業	● 実施準備	● 事業開始	→	
パラスポーツセミナーの開催	● 区市町村職員・教職員・スポーツ推進委員・医療福祉関係者等、対象ごとにセミナーを開催	→		
競技団体等の基盤強化	● 実施中	→		
地域スポーツクラブの支援	● 実施中	→		
パラスポーツ団体のマッチングプラットフォーム構築	● ピッチコンテスト実施	● スタートアップとの連携によりプラットフォーム構築（試行）	● 事業効果の検証、プラットフォーム改善・運用	→



## 東京ボランティアレガシーネットワーク (VLN) / TOKYO 障スポ&サポート (S&S)

東京ボランティアレガシーネットワーク (VLN) は、東京2020大会をきっかけにオープンした東京都の公式ボランティアポータルサイトであり、東京都と（公財）東京都つながり創生財団が運営しています。スポーツをはじめ多彩なボランティア情報の掲載等を通じて、一人ひとりに合ったボランティア活動への参加につなげていきます。

TOKYO 障スポ&サポート (S&S) は、東京2020パラリンピックを契機に高まったパラスポーツを支える活動の気運を捉え開設した、障害者スポーツボランティア情報のポータルサイトです。ボランティアをしたい人と募集团体とのマッチングのほか、E-learning講座動画など学びになる情報等を提供し、パラスポーツを支える人の活動機会の充実に向けた支援を行っています。



## スポーツ推進委員/パラスポーツ指導員

スポーツ推進委員とは、地域のスポーツ推進を担う非常勤の公務員であり、都内では、1,474人（令和6（2023）年10月現在）が区市町村から委嘱されています。事業の企画・立案や運営のほか、地域住民・行政・スポーツ団体の間の円滑な連携の調整などを行い、地域スポーツの中核的役割を担うことが期待されています。

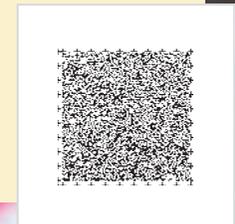
パラスポーツ指導員とは、国内のパラスポーツの普及と発展を目指して、（公財）日本パラスポーツ協会が公認する資格を有する指導者です。初級・中級・上級の3つの資格があり、例えば、初級の指導員は、健康や安全管理に配慮した指導を行い、スポーツの喜びや楽しさを伝える役割を担うなど、それぞれの資格が各役割を担い、パラスポーツを支えています。



東京都地域スポーツ支援研修会



リ・スタート研修会



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱1 スポーツで輝く

#### 目指す政策効果

- スポーツに親しむ機会が増え、あらゆる人にとってスポーツが身近なものになる
- 自らの状況・レベルに合ったスポーツを楽しみ、いつまでも健康で幸福に過ごすことができる

#### 施策



施策

#### ① スポーツに触れる「はじめの一步」を後押し

- ▶ スポーツをすることへの関心喚起、スポーツを始める機会の創出・提供



施策

#### ② ライフステージに応じたスポーツを推進

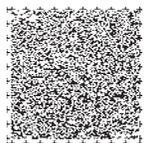
- ▶ 子供のスポーツ振興、働き盛り世代のスポーツ振興、高齢者のスポーツ振興



施策

#### ③ 東京にゆかりのあるアスリートが躍動

- ▶ アスリートの競技力向上に向けた取組



#### 達成指標

スポーツを通じて幸福感を感じている  
都民（18歳以上）の割合



都民（18歳以上）のスポーツ実施率



スポーツをすることを  
「好き」「やや好き」と感じる中学2年生の割合



東京都スポーツ推進企業認定企業数





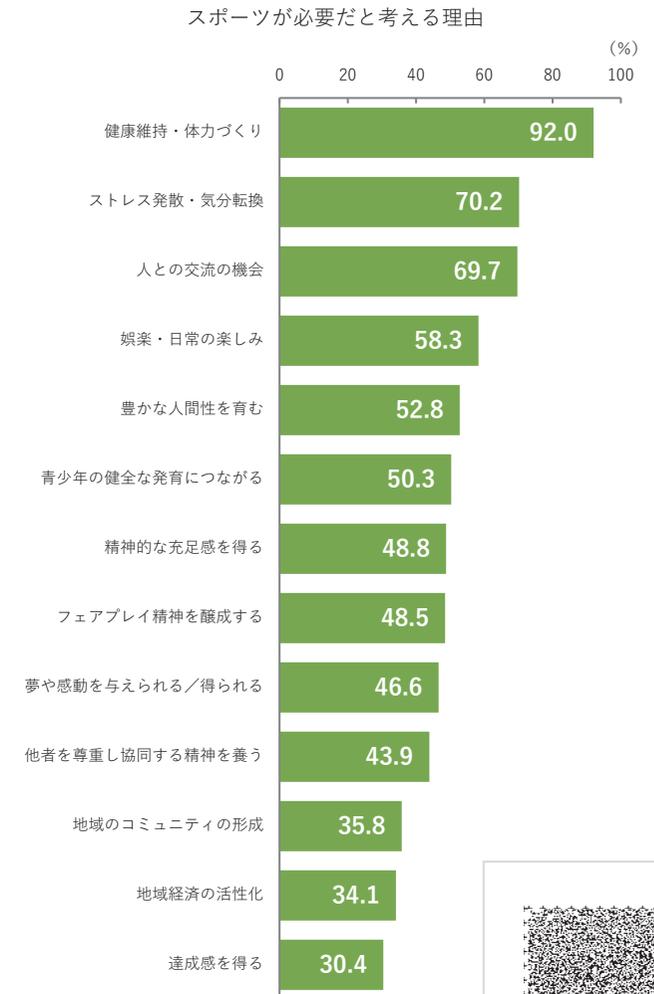
## 施策①

# スポーツに触れる 「はじめの一歩」を 後押し

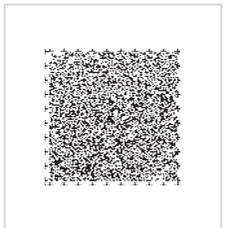
### 現状と課題

#### スポーツを行う意義は多岐にわたる

令和6（2024）年に実施した「都民のスポーツ活動に関する実態調査」によると、スポーツが必要だと考える理由として、「**健康維持・体力づくりになるため**」（92.0%）との回答だけでなく、「**ストレス発散・気分転換になるため**」（70.2%）、「**人との交流の機会になるため**」（69.7%）、「**娯楽・日常の楽しみであるため**」（58.3%）との回答も多くあり、人々がスポーツを行う意義は身体面での健康だけではなく、多岐にわたると言えます。



図表出典：「令和6年度 都民のスポーツ活動に関する実態調査」（2025年3月、生活文化スポーツ局）を基に作成



## 2 柱ごとの施策・取組

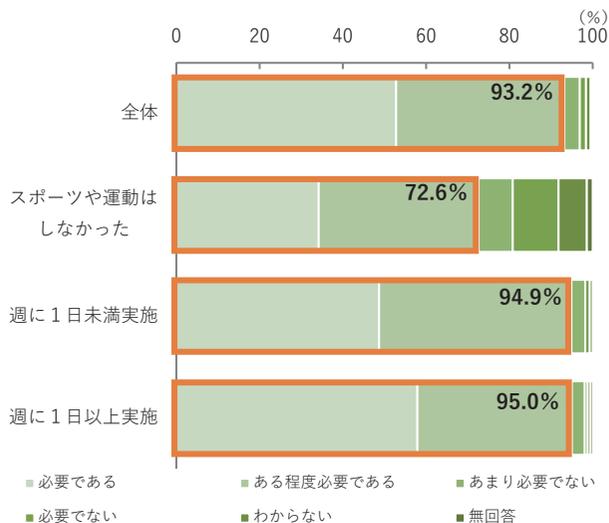
### 政策の柱1 スポーツで輝く

#### 現状と課題

##### スポーツ未実施層へのアプローチ

令和6（2024）年に実施した「都民のスポーツ活動に関する実態調査」によると、**93.2%の人が、スポーツについて、「必要である」「ある程度必要である」と回答しています。スポーツ未実施者でも72.6%が、スポーツについて、「必要である」「ある程度必要である」と考えており、スポーツを必要だと感じていても何らかの要因で実施できていない層に対し、「する・みる・支える・応援する」それぞれの視点でのアプローチが必要です。**

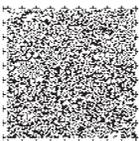
スポーツに対する意識（スポーツ・運動の実施頻度別）



図表出典：「令和6年度 都民のスポーツ活動に関する実態調査」（2025年3月、生活文化スポーツ局）を基に作成

#### 今後の方向性

- **都民のスポーツへの関心を高めるため、効果的に情報発信**を行っていきます。また、観客とアスリートが一体となってスポーツを盛り上げられるよう、**適切な応援の仕方や観戦マナー**についても、普及啓発を進めていきます。
- **スポーツを始める機会を創出・提供**するために、**多様なスポーツイベント**を開催するほか、**区市町村の取組を後押し**していきます。



## 施策① スポーツに触れる「はじめての一步」を後押し

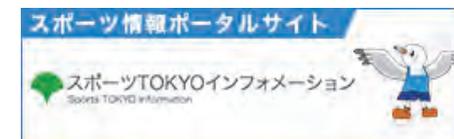
### 具体的な取組

#### ▶ 都民へのスポーツに関する情報発信

#### スポーツTOKYOインフォメーションの運営

東京都のスポーツ情報サイト「スポーツTOKYOインフォメーション」を通じて、都内で実施されるスポーツイベント、大会観戦・応援情報、スポーツ施設に関する情報や行政情報などを発信し、多くの人々にスポーツへの関心を高めてもらいます。

▶ 関連ページ P.133,165,220,243



#### スポーツ案内サイト「SPOPITA」の運営

スポーツの裾野拡大や実施率の向上に向けて、スポーツに関する情報を案内サイト「SPOPITA（スポピタ）」でワンストップで提供します。

また、公民含めた3,000を超える都内のスポーツ施設について、検索の利便性の向上や、各施設情報・予約方法等の紹介により、施設を利用しやすい環境を整備していきます。

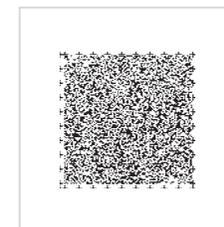
▶ 関連ページ P.227



#### パラスポーツ専門ポータルサイトTOKYOパラスポーツ・ナビの運営

障害のある人やパラスポーツを支える人を対象に、都内のパラスポーツイベント情報や、公共スポーツ施設のバリアフリー情報等を発信するパラスポーツ専門ポータルサイト「TOKYOパラスポーツ・ナビ」を運営します。

▶ 関連ページ P.133,165,220



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱1 スポーツで輝く

#### 施策① スポーツに触れる「はじめの一步」を後押し

##### ▶ 都民へのスポーツに関する情報発信

##### パラスポーツスタートガイドの運営

様々なスポーツの魅力や、競技ルール等を分かりやすく伝えるとともに、アスリートや支えるスタッフのインタビューを掲載するなど、競技スポーツを始める上で役立つ情報を提供する専用ウェブサイトを運営します。

▶ 関連ページ P.176

##### パラスポーツ普及啓発プロジェクト「TEAM BEYOND」

東京2020パラリンピックで高まったパラスポーツへの関心や応援の気運を更に高め、レガシーとして未来につないでいくため、パラスポーツのファンやサポーターを増やし、パラスポーツが社会に根付いていくよう、SNS等を活用した情報発信や体験会の開催を行うなど、パラスポーツを身近に感じてもらうための総合的なプロジェクトを展開します。

▶ 関連ページ P.131,165,168,169,205,220,221,244

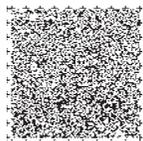
##### TOKYOパラスポーツチャンネルの配信

都内やその近郊で開催される全国又は国際レベルのパラスポーツ大会をケーブルテレビ等で実況・解説付きで中継・配信し、競技を初めて観る人でも楽しく観戦できる機会を提供します。

▶ 関連ページ P.168,221

##### TOKYOユニバーサルウォーキング普及事業

障害当事者等の意見も聞きながら都内各地域で選定してきたバリアフリーに配慮したウォーキングコースについて、多くの人に利用いただけるよう普及を図ります。あわせて、アプリを活用したキャンペーンを実施し、ウォーキングの継続的な実施につなげていきます。



▶ 関連ページ P.172,216,281



## ▶スポーツに関する調査

### 都民のスポーツ活動に関する実態調査

都民のスポーツ活動の実態を把握し、今後の東京都におけるスポーツ振興のための方向性や施策の検討に活用していきます。

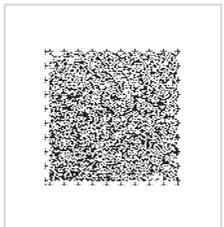
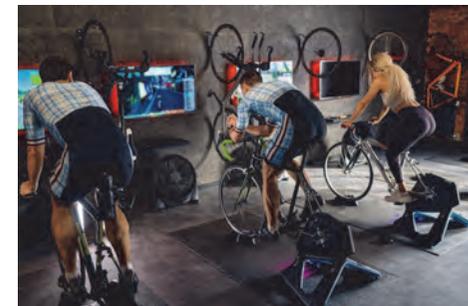
### 障害者のスポーツに関する意識調査

障害のある人のスポーツ活動に関する意識や実態を把握し、今後のパラスポーツ振興に資する施策展開の基礎資料として活用します。

▶関連ページ P.166

### eスポーツの活用に関する調査・検証

東京都のスポーツ振興におけるeスポーツの活用に関する課題等の調査・分析、大会の視察による事例収集、専門家等への意見聴取を行うとともに、トライアルとして、競技団体と連携したバーチャルスポーツ体験会等を実施するなど、効果を検証していきます。



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱1 スポーツで輝く

#### 施策① スポーツに触れる「はじめての一步」を後押し

##### ▶スポーツを通じた健康増進

##### スポーツを通じた健康増進事業

様々な機会を通じて都民が気軽にスポーツに取り組むきっかけを提供し、継続的なスポーツ実施につなげていきます。また、都民の体力データ等を活用し、身体活動等の状況が健康に及ぼす影響を見える化することにより、都民の健康への関心を高め、健康増進に貢献していきます。

▶関連ページ P.148,188

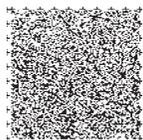
##### 健康的な生活習慣に関する普及啓発

日常生活において、負担感なく生活習慣病の予防や生活習慣の改善が行えるよう、健康づくりポータルサイト「とうきょう健康ステーション」等により適切な身体活動・運動等について普及啓発を行うほか、都内のウォーキングマップを集約したポータルサイトの充実を図るなど、都民の生涯を通じた健康づくりを推進していきます。

また、生活習慣病の予防に向けて運動を始めるきっかけになることが期待される特定健康診査・特定保健指導の実施率向上に努めます。



東京スポーツドック



## ▶多様なスポーツイベントの開催

### スポーツの日記念イベントの開催

スポーツの場を東京の至る所に拡げることを目的に、誰もが気軽に参加できるスポーツイベントを開催します。

▶関連ページ P.206,285



スポーツフェスタ2024

### ウォーキングイベントの開催

都内の名所を巡る「TOKYOウォーク」をはじめ、大腸がん検診普及のための「Tokyo健康ウォーク」、水道水源等への理解を深める「玉川上水ウォーキング」など様々な切り口で、楽しみながら都内を歩くことのきっかけを創出していきます。

▶関連ページ P.206,285



TOKYOウォーク2024

### プロスポーツチーム等との連携

スポーツの楽しさやスポーツを始めるきっかけを醸成するため、プロスポーツチーム等と連携し、東京都とプロスポーツチーム等の双方の強みを生かした事業を実施します。

▶関連ページ P.207,243



サッカー体験会

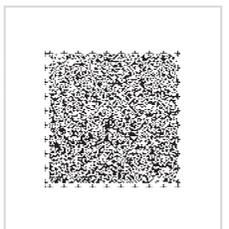
### パラスポーツ普及啓発プロジェクト「TEAM BEYOND」

次代を担う子供たちが、楽しみながらパラスポーツの魅力を体感できるイベント「BEYOND STADIUM」を開催します。イベントでは、障害のある人とない人がパラスポーツの真剣勝負を通じて交流し、相互理解につなげるためのポッチャ大会も実施します。

▶関連ページ P.128,165,168,169,205,220,221,244



BEYOND STADIUM



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱1 スポーツで輝く

#### 施策① スポーツに触れる「はじめての一步」を後押し

##### ▶ 多様なスポーツイベントの開催

##### チャレスポ! TOKYOの開催

障害のある人にスポーツの楽しさや効用を知ってもらい、スポーツを始めるきっかけを提供するとともに、障害のある人となない人がスポーツを通じて相互に交流する機会を創出し、理解と共感を深めてもらうために、参加体験型のスポーツイベントを開催します。

▶ 関連ページ P.169

##### 東京2020大会レガシー継承事業

JOC、JPC及び競技団体と連携して、東京2020大会のレガシーを着実に継承するためのイベントを開催します。

▶ 関連ページ P.206

##### 都立スポーツ施設を活用したスポーツイベント等の展開

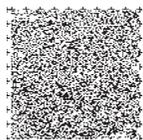
多様な特性を持つ都立スポーツ施設の強みと各施設管理者のノウハウを最大限生かし、スポーツ振興のための様々なイベントやアクティビティ等について、多様なメニューを展開し、スポーツを通じた都民のウェルビーイングの向上に貢献していきます。

▶ 関連ページ P.208,224

##### 多彩なスポーツの取組を通じた交流機会の提供

スポーツと多様な分野（音楽、食事など）を掛け合わせたバラエティに富んだ取組やスポーツ観戦、社会参加の情報発信等を通じてスポーツを楽しんでもらえるよう、地域や関係団体等と連携し、検討していきます。

▶ 関連ページ P.189,208



チャレスポ! TOKYO



東京2020大会メモリアルデーイベント



東京体育館での車いすバスケットボール体験会

## ▶区市町村が実施するスポーツイベント等への支援

### スポーツイベントの情報発信

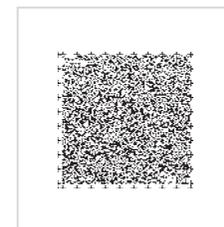
東京都のスポーツ情報サイト「スポーツTOKYOインフォメーション」や「TOKYOパラスポーツ・ナビ」において区市町村が実施するスポーツイベントについても広く情報を発信していきます。

▶関連ページ P.127,165,220,243

### 区市町村スポーツ推進補助事業

急速な高齢化やデジタル化等、スポーツを取り巻く環境が変化する中、誰もがスポーツを「楽しみ」、スポーツを行う「人」が輝くスポーツ振興を実現するため、身近な場でスポーツができる環境の拡大やパラスポーツの普及など区市町村が実施するスポーツ振興事業に対して補助を行います。

▶関連ページ P.166,189,203,214,277



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱1 スポーツで輝く

#### 施策① スポーツに触れる「はじめての一步」を後押し

##### ▶地域の中で運動を楽しむ機会を提供

##### 障害児・者の運動習慣定着支援事業

障害のある人が日中に滞在している福祉施設や放課後等デイサービスなどに指導者を派遣し、利用者の障害種別や程度等に応じた運動プログラムを定期的を実施することで、身体を動かすことの習慣化を図ります。

さらに、福祉施設等の近隣の体育館等でも運動プログラムを実施することで、地域の中で日常的に運動を楽しむきっかけを提供します。

▶関連ページ P.141,172,215,282



福祉施設内での運動プログラムの実施

##### パラスポーツ地域サポート事業

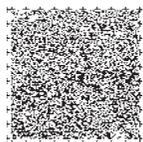
パラスポーツ事業のノウハウを持つアドバイザーが、区市町村や地域スポーツクラブ等を訪問し、事業の企画・実施を支援するほか、指導者等のコーディネートや用具の貸与を通じて、身近な地域でスポーツを楽しめる環境づくりを図ります。

また、区市町村間で現状の取組状況や課題についての意見交換、スポーツと医療・福祉等の他分野との連携事例の共有を行うパラスポーツ地域ブロック関係者連絡会議を実施します。

▶関連ページ P.170,214,282



パラスポーツ用具の貸出し



## 都内公立学校体育施設の開放

学校教育活動に支障のない範囲で、都立学校の体育施設を広く開放し、都民のスポーツ活動の振興に資するとともに、地域に開かれた学校づくりを促進していきます。

なお、公立小・中学校の開放については、設置者である区市町村が、各教育委員会の判断の下、実施していきます。

▶ 関連ページ P.227

## 障害者のスポーツ施設利用促進事業

障害のある人が身近な地域のスポーツ施設をより安全で快適に利用できるようにするため、区市町村や民間のスポーツ施設において、施設管理者が配慮すべきポイントを掲載した「障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル」の活用を促進します。

また、区市町村スポーツ施設に対して、パラスポーツの専門知識を有するアドバイザーを派遣し、施設のニーズや状況に合わせて、障害のある人のスポーツ施設の利用促進に向けた支援を実施します。

▶ 関連ページ P.171,216,229,281

## 都立特別支援学校活用促進事業

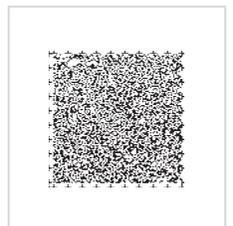
障害のある人や障害者スポーツ団体等が身近な地域でスポーツ活動ができるよう、都立特別支援学校の体育施設をパラスポーツの拠点の一つと位置付け、学校教育活動に支障のない範囲で開放し、活用を促進します。

また、事業実施校において、障害の有無にかかわらず誰もが参加できるパラスポーツやスポーツ・レクリエーションの体験教室を実施します。

▶ 関連ページ P.141,171,215,229,281



体験教室（聴覚障害者卓球）



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱1 スポーツで輝く

#### 施策① スポーツに触れる「はじめての一步」を後押し

##### ▶地域の中で運動を楽しむ機会を提供

##### 都立公園のスポーツ施設における利用時間及び利用日の拡大

都立公園のスポーツ施設において、都民の利用機会の向上を図るため、年末利用日を拡大するとともに、通年の夜間利用の実施を継続していきます。

▶関連ページ P.228

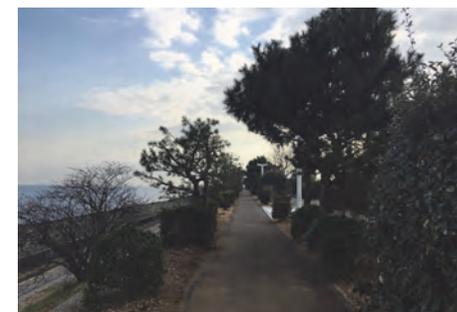


都立公園のスポーツ施設における利用時間の拡大

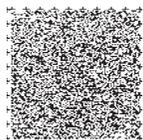
##### ウォーキング環境の整備

河川沿いの通路整備や隅田川テラスにおけるウォーカブルな水辺空間の創出を図るとともに、海上公園内にウォーキングルート等を整備し、仕事帰りや休日にスポーツを楽しむことができる環境を整備していきます。

▶関連ページ P.228



新木場緑道公園





## 施策②

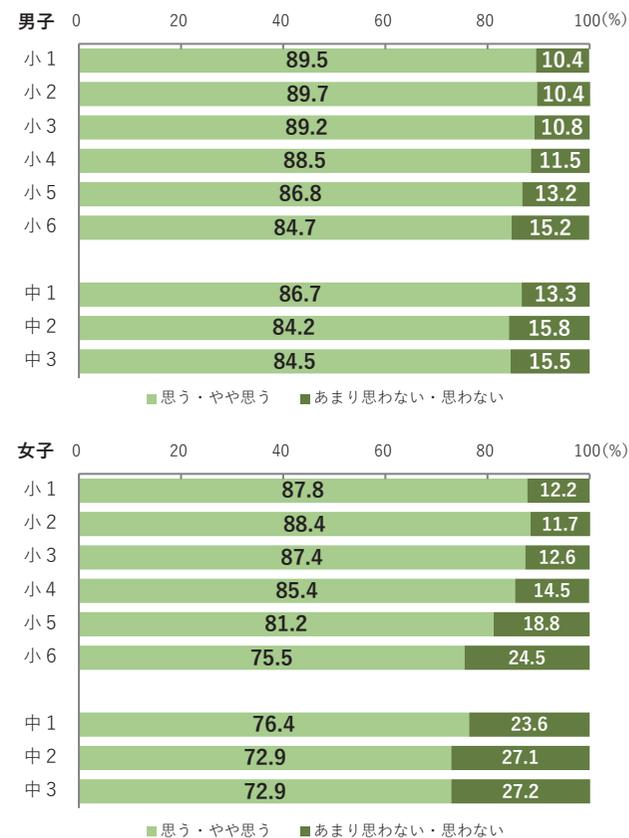
# ライフステージに応じたスポーツを推進

### 現状と課題

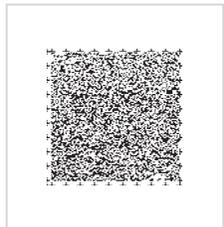
#### 学年進行とともに低下するスポーツへの意欲

令和6（2024）年に東京都教育委員会が実施した「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」によると、**授業以外でも運動やスポーツをもっとしたいと思う子供の割合は学年進行とともに低下傾向**にあり、学年が上がり、**大人になってもスポーツが好きでいられるよう、子供のスポーツ振興を推進する必要があります。**

授業以外でも運動やスポーツをもっとしたいと思いますか



図表出典：「令和6年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査 報告書」（2025年3月、東京都教育委員会）を基に作成



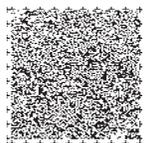
## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱1 スポーツで輝く

#### 現状と課題

#### ライフステージによって異なる課題やニーズ

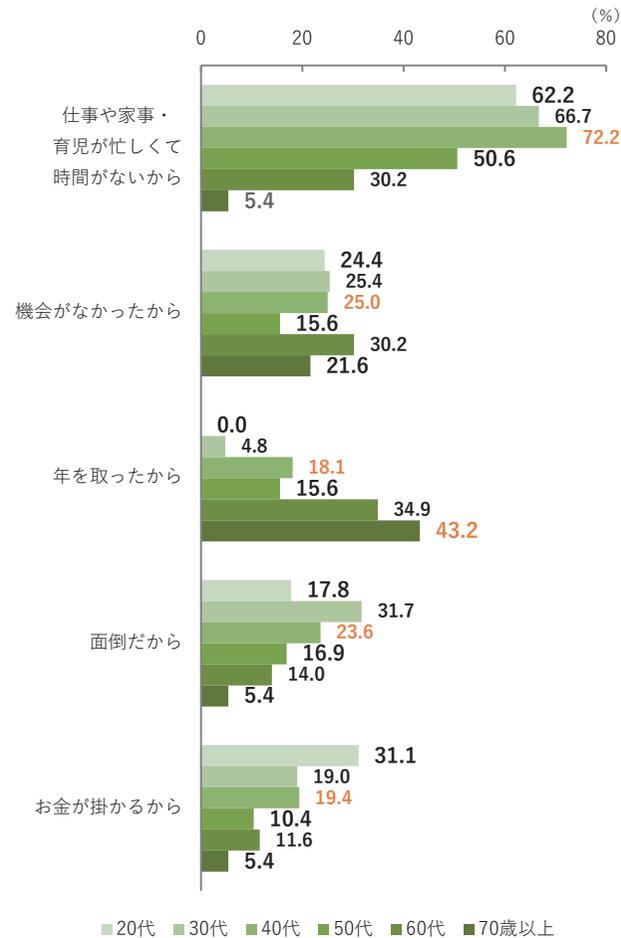
令和6（2024）年に実施した「都民のスポーツ活動に関する実態調査」によると、スポーツや運動を実施した頻度が週1日未満だった理由は、「**仕事や家事・育児が忙しくて時間がないから**」（40代：72.2%）、「**年を取ったから**」（70歳以上：43.2%）と**個人の状況や年代によって様々であり、ライフステージによって異なる課題やニーズを細かく捉える必要があります。**



#### 今後の方向性

- 子供、働き盛り世代、高齢者といった**様々な世代のそれぞれのニーズを的確に捉え、生涯にわたってスポーツが楽しめるよう、きめ細かく施策を展開していきます。**

スポーツを実施した頻度が週1日に満たなかった理由



図表出典：「令和6年度 都民のスポーツ活動に関する実態調査」（2025年3月、生活文化スポーツ局）を基に作成

## 施策② ライフステージに応じたスポーツを推進

### 具体的な取組

#### ▶子供たちがスポーツに親しみ、楽しむきっかけの提供

#### TOKYOジュニアスポーツアンバサダー

多様な競技に取り組むジュニア選手の世界での活躍の後押しや、同世代の子供たちにおけるスポーツ気運の醸成のため、国際スポーツ大会へ出場するジュニア選手をアンバサダーに任命し、競技の魅力や国際大会での経験を発信していきます。



TOKYOジュニアスポーツアンバサダー任命式



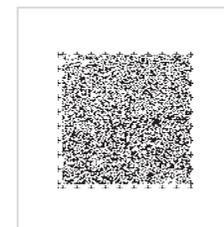
#### 東京都地域スポーツクラブサポートネットによる情報提供

(公財) 東京都スポーツ協会 (TSP O) が運営している「東京都地域スポーツクラブサポートネット」において、地域スポーツクラブの設立及び活動を支援するための情報を提供するとともに、地域スポーツクラブについて詳しく知りたい方や、クラブに参加したい方に都内クラブの情報を提供していきます。

▶関連ページ P.212,239

#### 保護者のフィジカルリテラシーの涵養

幼児期からの運動習慣を形成するため、「基礎的な運動神経等を養う遊び」や「運動がもたらす効果」等を、乳幼児の保護者が集まる場所などで、一体的に普及・啓発していきます。



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱1 スポーツで輝く

#### 施策② ライフステージに応じたスポーツを推進

##### ▶子供たちがスポーツに親しみ、楽しむきっかけの提供

##### 幼児期の外遊び習慣づくり

遊びとしての魅力を高める工夫と、運動習慣の定着を目的に、親子で一緒に楽しめる運動・スポーツの紹介や体験イベントを実施します。



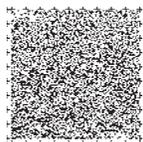
##### 苦手克服のサポート等、スポーツ離れを抑制

スポーツへの苦手意識を払拭し、一つでも多くの「できた」経験（成功体験）の獲得を支援するなど、学齢の進行に伴う状況変化も捉えながら、スポーツが好きになるきっかけを創出していきます。



##### 気軽にできる効果的な運動の普及啓発

身体を動かすことの効果や、日常における各動作の運動強度（METs）等を見える化するとともに、勉強や習い事の合間など子供の余暇時間の中で気軽に取り組める運動等を周知していきます。



## 子供が様々な運動・スポーツに親しむ機会の創出

幼児期から、日常の活動シーンや一人ひとりの身体能力に合わせ、様々な運動・スポーツを知る・体験する・上達する（教わる）機会を提供します。

また、保育士や教員等の子供に接する機会の多い人を対象に、スポーツ・レクリエーション等の気軽に楽しめるスポーツのルールや楽しみ方等を周知・浸透していきます。

## 子供の未来を育む「体験活動」推進区市町村支援事業（「遊び」特別推進枠）

子供の「遊び」を地域へ拡大・浸透させるため、遊び体験の創出やプレーリーダー等の人材育成、安全対策などに取り組む区市町村を支援していきます。

## バーチャルスポーツに触れる機会の提供

東京2025世界陸上を契機として、好きな時間に、好きなコースをランニングし、全国どこからでも参加できるバーチャルランを実施します。

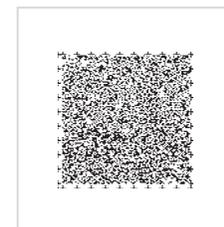
## 障害のある子供がスポーツに出会える・楽しめる機会を提供

特別支援学校を活用した体験教室における親子教室など、障害種別に応じたきめ細かなプログラムを実施します。

また、放課後等デイサービスへの指導者の派遣により運動習慣の定着を図る取組を実施します。



体験教室（親子チャレンジ教室）



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱1 スポーツで輝く

#### 施策② ライフステージに応じたスポーツを推進

##### ▶子供たちが体を動かす場の確保

##### 継続的なスポーツ機会の創出・提供

デジタル技術等を活用し、これまではスポーツの場として使用されていない場所や空間を新たなスポーツの場として創出します。

また、チームや学校等の所属にとらわれず、多様なスポーツを気軽に実施できる場所を増やすため、多様な主体と連携して切れ目のないスポーツ参加機会を提供していきます。

▶関連ページ P.227

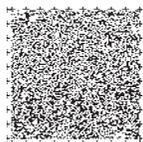
##### 子供の遊び場等整備事業

子供の意見を踏まえながら、プレーパークやボール遊び場など、地域資源を活用した遊び場等の創出に取り組む区市町村を支援します。

##### 放課後子供教室

区市町村において、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子供たちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の人々の参画を得て、子供たちとともに、勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子供たちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進します。

##### 校庭等の芝生化の推進



子供の運動量や屋外で活発に過ごす時間の増加が期待される校庭等の芝生化を推進するため、私立学校や幼稚園、保育所等において、校庭等の芝生化に取り組む場合、一定の要件の下、補助金を交付します。



## ▶ 学校における運動量の十分な確保と優れた実践の普及

### 「楽しむスポーツ」の普及

技術の向上だけではない、「楽しさ」や「気軽さ」を主眼に置いたスポーツ・レクリエーション等のスポーツ活動を支援します。

また、区市町村が行う、デジタル技術を活用したスポーツに関する取組を後押しするなど、新しいスポーツの楽しみ方の普及を促進していきます。

### 児童・生徒の運動時間の十分な確保

児童・生徒の体力向上のため、運動時間の確保をはじめ、運動部活動への積極的な参加や休み時間等を活用した身体活動量の維持・増加を図ります。

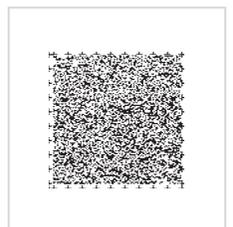


### 都立特別支援学校におけるスポーツ教育推進

都立特別支援学校を「スポーツ教育推進校」に指定し、障害者のスポーツ振興を図ります。

▶ 関連ページ

P.169



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱1 スポーツで輝く

#### 施策② ライフステージに応じたスポーツを推進

##### ▶学校における運動量の十分な確保と優れた実践の普及

##### 高等学校における体力向上のモデル校「エンジョイ・スポーツプロジェクト」の実施

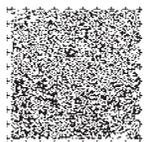
専門的な知見を有する外部機関と連携し、競技志向ではなく、体力向上や運動・スポーツの楽しさを実感する生徒の多様なニーズに応える運動機会や健康的な生活習慣を改善するプログラム等を通して、豊かなスポーツライフに向けた都立高校生の資質・能力を高めていきます。

##### 体育健康教育推進校

学校において、運動やスポーツとの多様な関わりを通して、健康で活力に満ちた生活をデザインする資質や能力を育成するため、体育健康教育推進校を設置します。また、一人1台端末の効果的な利活用等の推進により、個に応じた効果的・効率的な指導方法や評価方法、学習方法等の開発を進めます。

##### 地域スポーツクラブ活動体制整備事業・文化部活動の地域移行等に向けた実証事業

地域におけるスポーツ・文化芸術活動の運営団体や指導者の確保方策や、費用負担の在り方の整理などの課題に総合的に取り組むために、地域において実践研究を実施し、研究成果を普及・発信します。



▶関連ページ

P.241

## 部活動指導員の導入

教員に代わって、専門的な技術指導や大会引率等を行うことができる部活動指導員を、引き続き、中学校、高等学校に導入し、教員の勤務負担軽減を図りながら、部活動の充実を図ります。

[▶ 関連ページ](#)

P.241



## 運動部活動指導者養成講習会の実施

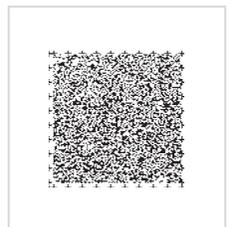
東京都高等学校体育連盟及び東京都中学校体育連盟と協定を結び、生徒の健全育成という原点に立った指導をより一層推進し、体罰等の許されない指導とあるべき指導の考え方を明確にし、顧問の教員や部活動指導員等の指導力向上を図ります。

[▶ 関連ページ](#)

P.241

## 各学校における「学校2020レガシー」の取組の支援

オリンピック・パラリンピック教育の実践を踏まえ、各学校で東京2020大会後も実施する教育活動を「学校2020レガシー」とし、その取組を支援します。



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱1 スポーツで輝く

#### 施策② ライフステージに応じたスポーツを推進

##### ▶ 児童・生徒の体力の把握と活用

##### 学校体育実技指導者講習会の開催

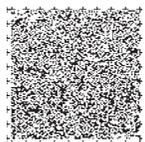
スポーツ庁が主催する「体育・保健体育指導力向上研修」を活用し、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、スポーツの多様な楽しみ方を社会で実践できるよう、調和のとれた子供の体力向上を図るための指導法を習得するなど、教員の指導力の向上を図り、体育・保健体育授業等の充実に努めていきます。

##### 東京都統一体力テストの実施

東京都の児童・生徒の体力・運動能力や生活・運動習慣等の実態を把握・分析することにより、児童・生徒の体力・運動能力等の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図ります。

また、これらの取組を通じて、学校における児童・生徒の体力・運動能力等の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立するため、「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査（東京都統一体力テスト）」を引き続き実施し、その結果を活用していきます。

あわせて、東京都統一体力テストのデジタル化により、体力と生活習慣の相関等の分析が高速かつ容易になり、エビデンスに基づく取組を推進していきます。さらに、体力の見える化（経年変化等）を可能とし、児童・生徒が端末で自分の体力の現状を把握・分析することを容易にしていきます。



## ▶ 企業におけるスポーツ振興

### ライフステージに応じたスポーツに親しむ時間・機会の創出

無理なく気軽に取り組めるスポーツの普及や、機会を創出していきます。

▶ 関連ページ P.191

### 多忙な働き盛り世代に向けた取組支援

企業の経営層や従業員への働きかけを通じ、女性を含む働き盛り世代が仕事をしながらスポーツに親しめる環境づくりを後押ししていきます。

▶ 関連ページ P.191

### 東京都スポーツ推進企業認定制度の運営

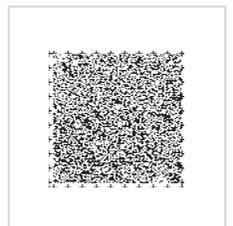
従業員のスポーツ活動を推進する取組や、スポーツ分野における社会貢献活動を実施している企業等を「東京都スポーツ推進企業」として認定し、特に先進的な取組等を行っている企業等を、「東京都スポーツ推進モデル企業」として表彰します。

また、推進企業の取組を広く発信し、より多くの企業に波及させる目的で、ウェブサイトを経営するとともに、スポーツインストラクター等の派遣事業により、企業の取組を支援します。

▶ 関連ページ P.218,243



東京都スポーツ推進企業認定マーク



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱1 スポーツで輝く

#### 施策② ライフステージに応じたスポーツを推進

##### ▶企業におけるスポーツ振興

##### スポーツを通じた健康増進事業

企業等とも連携し、多忙な働き盛り世代を含めた都民の健康への関心を高め、スポーツに取り組むきっかけを提供していきます。また、体力データ等を活用し、身体活動等の状況が健康に及ぼす影響を見える化することにより、一人ひとりの健康増進に貢献していきます。

▶関連ページ P.130,188

##### 東京ライフ・ワーク・バランス認定企業制度

従業員が生活と仕事を両立しながら、生き生きと働き続けられる職場の実現に向けて優れた取組を実施している中小企業を、「東京ライフ・ワーク・バランス認定企業」として広く都民に公表します。

▶関連ページ P.192

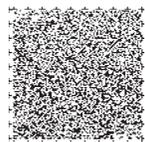
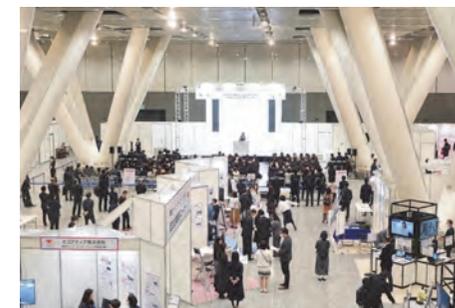
##### ライフ・ワーク・バランスEXPO

働き方の見直しについて普及啓発を図るため、「東京ライフ・ワーク・バランス認定企業」への認定状授与式をはじめ、認定企業の取組内容の紹介、また、積極的にライフ・ワーク・バランスに取り組む企業の人事労務担当者や、ライフ・ワーク・バランスの有識者等によるパネルディスカッション等を実施します。

▶関連ページ P.192



東京スポーツドック



## ▶いつまでも心身ともに健康に生きるためのスポーツ振興

### シニアスポーツ振興事業

高齢者のスポーツ実施率向上を図り、高齢者の健康維持・増進に寄与することを目的に、各地域で実施する高齢者対象のスポーツ競技会、講習会・講演会等を支援します。

▶関連ページ P.187,279



### シニア健康スポーツフェスティバルの開催

スポーツや健康づくり推進活動を通して、社会参加や仲間づくり、世代間交流を促進し、明るく活力のある長寿社会づくりを進めることを目的として開催します。翌年の全国健康福祉祭（ねんりんピック）に派遣する選手の選考会も兼ねています。

▶関連ページ P.187

### 全国健康福祉祭（ねんりんピック）への選手団派遣

高齢者の健康維持・増進、生きがいの高揚を図ることを目的に、昭和63（1988）年から毎年開催されている全国健康福祉祭に東京都選手団を派遣します。

▶関連ページ P.187

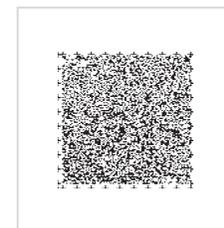
### 東京都シニア・コミュニティ交流大会の開催

シニア世代が趣味を通じて、地域やコミュニティ等とつながりを持つきっかけづくりを目的として、シニアに親しまれている種目（囲碁・将棋・健康マージャン・ダンススポーツ・カラオケ・eスポーツ）による交流大会を開催します。

▶関連ページ P.188,279



東京都シニア・コミュニティ交流大会



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱1 スポーツで輝く

#### 施策② ライフステージに応じたスポーツを推進

##### ▶いつまでも心身ともに健康に生きるためのスポーツ振興

#### 人生100年時代セカンドライフ応援事業

高齢者の誰もが地域ではつらつと活躍できる社会を実現するため、文化、教養、スポーツ活動等を促進するほか、空き店舗等を利用して、高齢者が気軽に立ち寄り、参加できる活動の拠点を整備する区市町村を支援します。

▶関連ページ P.188

#### 老人クラブ支援事業

高齢者の自覚的な健康づくり、介護予防への取組と正しい知識の普及を図るため、老人クラブ会員、地域の高齢者等を対象に東京都老人クラブ連合会が実施する健康教室の開催を支援します。

▶関連ページ P.188

#### 老人クラブ区市町村支援事業

高齢者の自覚的な健康づくり、介護予防への取組と正しい知識の普及を図るため、老人クラブ会員、地域の高齢者等を対象に区市町村老人クラブ連合会が実施する健康教室の開催を支援します。

▶関連ページ P.189

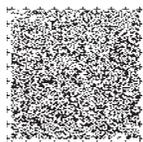
#### 簡単に楽しめるスポーツの普及

年齢等を問わず簡単に楽しめるスポーツを普及・推進していきます。

▶関連ページ P.189



老人クラブ支援事業



## 幅広い世代が参加する大会の開催

### ● 東京都スポーツ大会

広くスポーツを普及・振興し、参加者の健康増進と体力向上を図るとともに、区市町村対抗の方式で競技力向上を図ることを目的に開催します。

### ● スポーツフェスティバル東京

幅広い世代のスポーツ愛好者を対象としたスポーツ大会であり、参加者が実力に関係なく、日頃の練習の成果を発揮する中で、スポーツを通じて親睦を深めることを目的に開催します。

### ● 都民スポレクふれあい大会

広く都民にスポーツ・レクリエーション活動を実践する場を提供し、参加意欲の喚起とともに、子供から高齢者まで世代を超えたふれあいと、健康・体力づくり、生きがいつくりを資することを目的に開催します。

### ● 東京都市町村総合スポーツ大会

市町村対抗で、参加市町村のスポーツ振興と競技力の向上、多摩地域の連帯を深め、地域の発展にも寄与することを目的に開催します。

### ● 全国青年大会

青年同士の友好親善を深めるとともに、青年が中心となって多様な世代が手を取り合い暮らせるような豊かな地域社会の創造を目指すことを目的に開催します。

### ● 東京都障害者スポーツ大会

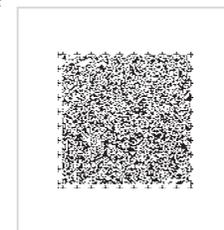
パラスポーツを通じて、自らの体力の維持増進及び社会への参加と相互の交流を促進させるとともに、都民の障害のある人に対する理解の増進を図り、もって障害のある人の自立の促進とスポーツ振興に寄与することを目的に開催します。



東京都スポーツ大会・東京都障害者スポーツ大会  
合同開会式



東京都市町村総合スポーツ大会  
開会式



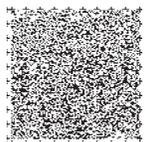
## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱1 スポーツで輝く



#### 施策③

### 東京にゆかりのあるアスリートが躍動



#### 現状と課題

##### 東京にゆかりのあるアスリートの活躍を後押しできる仕組みの構築

東京都が発掘・育成・強化した東京2020大会出場アスリートは、**オリンピックで60人、パラリンピックで62人**でした。アスリートの活躍は、**次世代を担う子供たちの憧れや目標となるほか、幅広い世代に夢や希望、感動**を与えてくれます。

また、現役を退いた後も、発信力や地域とつながりがあるなど、地域のスポーツ振興に大きな役割を担っています。

東京にゆかりのあるアスリートがこれからも世界で活躍するためには、競技人口の裾野を広げるとともに、高みを目指せるようにすることが重要です。

#### 今後の方向性

- **次世代を担うアスリート**を発掘・育成・強化するとともに、アスリートを支える**人材の確保**や**競技団体の基盤強化**に取り組んでいきます。



東京育ちアスリート・東京ゆかりパラアスリート  
(松田 天空 選手)

## 施策③ 東京にゆかりのあるアスリートが躍動

### 具体的な取組

#### ▶ 才能ある選手の発掘

#### トップアスリート発掘・育成事業

優れた運動能力を有する中学2年生を募集・選考し、育成プログラムを経て、適性のある競技でトップアスリートとして活躍できるよう支援します。



#### パラスポーツ次世代ホープ発掘事業

東京からパラスポーツの次世代を担う選手を輩出することを目的に、競技体験等を通じて、競技スポーツとのマッチングを行う発掘プログラムを実施します。

あわせて、競技活動への継続・定着を促すため、心理面・栄養面でのスポーツ理論やトレーニングに関する講習会や、自身の体力到達度を確認する体力測定会を実施します。

また、発掘プログラムに先立って、スポーツ用義足・車いすの事前体験会を開催します。



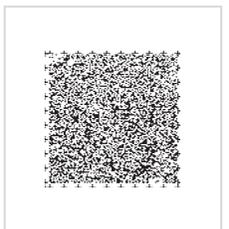
パラスポーツ次世代選手発掘プログラム

▶ 関連ページ

P.176



スポーツ用義足事前体験会



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱1 スポーツで輝く

#### 施策③ 東京にゆかりのあるアスリートが躍動

##### ▶東京にゆかりのあるアスリートの競技力向上

##### ジュニア選手育成・強化事業

ジュニア選手に対する競技普及のための体験会や有望なジュニア選手に対する強化練習等の支援を行います。

##### ジュニア育成地域推進事業

東京都のジュニア選手の裾野を広げ、競技力の底上げを図るため、小・中・高校生を対象としたスポーツ・運動教室、大会、強化練習等を実施します。

また、未就学児を対象に基礎的運動能力を習得するプログラムを展開します。

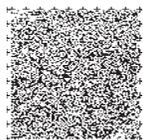
▶関連ページ P.278

##### 国際大会等を目指すアスリートへの支援

ジュニア層を含む日本代表候補レベルの選手を幅広く強化するため、強化合宿への参加経費や海外で競技経験を積むための渡航費などに対する支援を行います。



東京育ちアスリート  
(尾野 真歩 選手)



## 国スポ候補選手強化事業・国スポ選手健康調査チェック等事業

国民スポーツ大会において、東京都選手団が優秀な成績を収められるよう、国民スポーツ大会の東京都代表候補選手に対する強化練習等の支援を行うとともに、国民スポーツ大会出場候補選手の健康調査を実施します。

## 東京育ちアスリートの応援

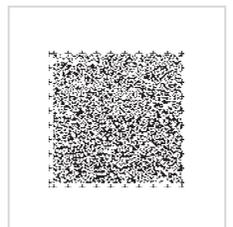
国際大会に出場し活躍したアスリートや、今後活躍が期待されるアスリートなどを、東京都が広報・応援し、地域での応援気運を醸成するとともに、アスリートが地域でのイベント等、様々な場面で活躍できる機会を創出します。

## パフォーマンスサポート事業

国際大会等で活躍する東京育ちのアスリートの育成を図るため、競技団体が推薦する都内在住又は在学の高校生選手を対象に、都内のスポーツ関係機関と連携し、競技種目特性に応じたスポーツ医学的・科学的な面からのサポートを実施します。



東京育ちアスリート応援事業



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱1 スポーツで輝く

#### 施策③ 東京にゆかりのあるアスリートが躍動

##### ▶東京にゆかりのあるアスリートの競技力向上

##### 指導者育成・スポーツ専門人材活用事業

スポーツ医・科学スタッフや指導実績のある指導者の招へい及び活用を促します。

##### スポーツを通じた国際交流

東京の子供たちが海外の子供たちとのスポーツを通じた交流を通じて、異なる文化への理解を深めるとともに、高い競技技術の中で競い合うことで競技力向上を推進していきます。

▶関連ページ P.193



東京国際ユース（U-14）サッカー大会

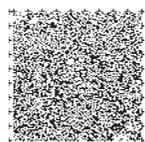
##### 東京パラアスリート強化事業

東京からスター選手が継続的に輩出され、国際大会で活躍できるよう、東京ゆかりのパラアスリートやジュニアパラアスリートに強化合宿費や大会参加費等を支援し、アスリートの競技力向上を図ります。また、パラアスリートを支えるガイドランナーやコーチなどの「パラスポーツスタッフ」にも国内外の大会参加に伴う経費等を支援します。

▶関連ページ P.177



東京ゆかりパラアスリート・ジュニアパラアスリート認定式



## パラスポーツ人材地域活動促進事業

東京都が支援してきたパラアスリート、スタッフ、競技団体等がこれまで培ってきた技術や経験などを地域に還元できるよう、講習会等を企画する団体等とのマッチングを行います。

▶ 関連ページ P.175



## デフスポーツ競技団体都内活動促進事業

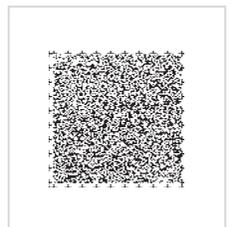
東京2025デフリンピックに向け、デフスポーツの競技力向上とともに、都民のデフスポーツへの関心を高めることを目的として、JPCに加盟するデフスポーツNFが都内で実施する強化合宿や普及啓発活動等に対して支援を行います。

▶ 関連ページ P.177,238

## デフリンピックチャレンジ事業

東京2025デフリンピックに向け、NFが存在しない等の理由により、出場選手の強化・育成が進んでいない競技について、関連団体が都内で行う競技力向上事業や、東京2025デフリンピック出場を目指す東京にゆかりのある選手の競技活動に対して支援を行います。

▶ 関連ページ P.178,238



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱1 スポーツで輝く

#### 施策③ 東京にゆかりのあるアスリートが躍動

##### ▶アスリートを支える人材・基盤の強化

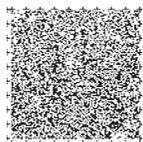
##### 競技団体等組織基盤強化支援事業

都内で活動する競技団体及び地区体育・スポーツ協会における運営力の向上を図るため、研修会実施・HP改修のための支援や法人格の取得に向けた専門家相談等、団体の組織基盤強化に向けた活動を支援します。さらに、地区体育・スポーツ協会を対象に専門性が高い客観的な視点での会計調査を行うことにより、会計処理の適正化を徹底します。

▶関連ページ P.237

##### 東京都スポーツ協会等のデジタル化による事務効率化支援

(公財)東京都スポーツ協会(TSPO)や競技団体等におけるデジタル化による事務効率化を支援し、競技力向上に向けた堅固な土台を確立していきます。



## パラスポーツ競技活動支援事業

N F が J P C に加盟する競技の都内統括団体等が行う、選手の強化育成や指導者の養成等を目的とした練習会や強化合宿等の活動費を助成し、各団体の競技力向上を図ります。

▶ 関連ページ P.177,237

## パラスポーツ団体体制強化支援事業

都内で活動するパラスポーツ競技団体の組織基盤強化及び運営能力向上に向け、国の「スポーツ団体ガバナンスコード」への適合や広報力の強化などを図るため、研修会の実施や、団体運営のアドバイス等を行います。また、助成金申請等に関する事務補助や専門家（弁護士や会計士等）による相談会の実施など、複合的な支援を行います。

▶ 関連ページ P.179,237

## マッチングプラットフォーム構築

企業のノウハウ等と競技団体等の課題やニーズをマッチングするプラットフォームにより、パラスポーツへの企業の参画と競技団体の基盤強化を促進します。

▶ 関連ページ P.179,244

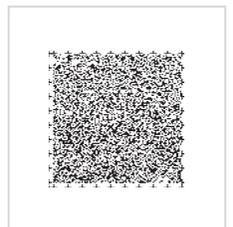


マッチングプラットフォームイメージ図

## パラスポーツ団体普及活動支援事業

パラスポーツの普及振興のために活動するパラスポーツ団体に対して、日常の練習や体験会等の事業への助成を行います。

▶ 関連ページ P.179,238



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱1 スポーツで輝く

#### 施策③ 東京にゆかりのあるアスリートが躍動

##### ▶大会への選手・役員の派遣

##### 国民スポーツ大会への選手・役員の派遣等

国民スポーツ大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて、地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにすることを目的に毎年開催されるものです。

本大会の予選として東京都予選会を開催するとともに、本大会に選手・役員を派遣します。

また、関東ブロック大会を各都県持ち回りで開催します。

##### 東京都障害者スポーツ大会の開催

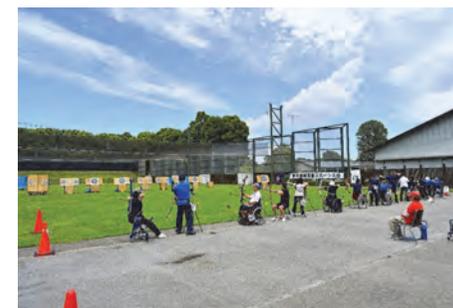
パラスポーツを通じて、自らの体力の維持増進及び社会への参加と相互の交流を促進させるとともに、都民の障害のある人に対する理解の増進を図り、もって障害のある人の自立の促進とスポーツ振興に寄与することを目的に開催します。

##### 全国障害者スポーツ大会への選手・役員派遣

国民の障害に対する理解を深め、障害のある人の社会参加促進等に寄与することを目的として開催されている全国障害者スポーツ大会に、東京都を代表する選手や役員で構成される選手団を派遣します。



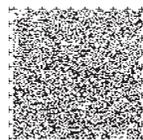
国民スポーツ大会東京都選手団



東京都障害者スポーツ大会の様子

▶関連ページ P.178

▶関連ページ P.178



## ▶アスリートのスポーツキャリア形成支援

### アスリートのスポーツキャリア形成支援に係る取組の検討

アスリートのキャリア形成について、「人」としての人生を歩みながら「競技者」としての人生を歩むための「デュアルキャリア」という考えの下、アスリートのキャリア形成の支援を推進する取組を検討します。

## ▶優秀な成績を収めた東京のトップアスリートの表彰

### 東京都栄誉賞の贈呈

スポーツや文化など様々な分野で特に顕著な業績により、広く都民に敬愛され、社会に明るい夢と希望と活力を与え、東京都の名を高めた方に対して、その栄誉をたたえます。

### 都民スポーツ大賞の贈呈

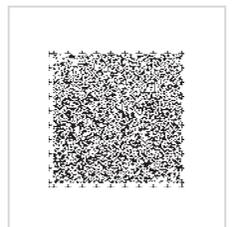
世界的なスポーツ大会において優秀な成績を収めた東京ゆかりのトップアスリートの功績をたたえています。

### 東京スポーツ奨励賞の贈呈

世界的なスポーツ大会において優秀な成績を収め、今後の活躍が期待される東京ゆかりのジュニアアスリートを表彰し、更なる活躍を奨励していきます。



東京都栄誉賞・都民スポーツ大賞表彰式  
(パリ2024オリンピック・パラリンピック)



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱2 スポーツでつながる

#### 目指す政策効果

- 障害の有無や性別、国籍等にかかわらず、人と人とのつながりが生まれ相互理解が進む
- 新たな技術も活用し、あらゆる人がスポーツを楽しめる環境を実現

#### 施策



施策

#### ① パラスポーツを楽しむ・パラスポーツで輝く

- ▶ パラスポーツの理解促進・普及啓発、場の充実、支える人材の確保、競技力向上



施策

#### ② バリアフリー化やユニバーサルコミュニケーション技術の社会実装を促進

- ▶ 誰もが気軽に楽しめるユニバーサルデザイン志向のスポーツ環境整備、スポーツに関する技術開発・市場開拓への支援



施策

#### ③ 多様な人々がスポーツでつながる、スポーツとつながる

- ▶ 性別、年齢などにかかわらず、それぞれのレベルに応じたスポーツを楽しむ、スポーツを通じた被災地との交流、スポーツを通じた国際交流

#### 達成指標

##### 障害のある都民（18歳以上）のスポーツ実施率



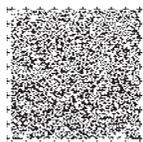
##### パラスポーツに関心がある都民（18歳以上）の割合



##### スポーツを通じて生きがいを感じる高齢者の割合



##### 20~40歳代女性（都民）のスポーツ実施率





## 施策①

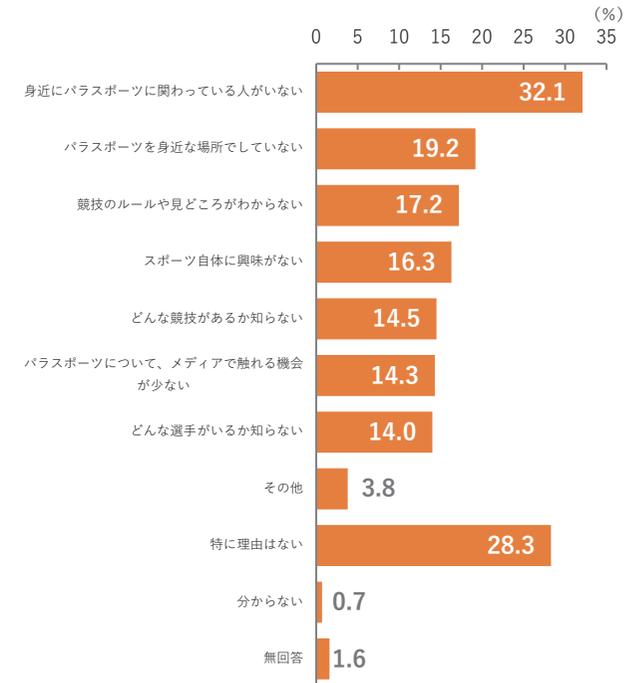
### パラスポーツを楽しむ・パラスポーツで輝く

#### 現状と課題

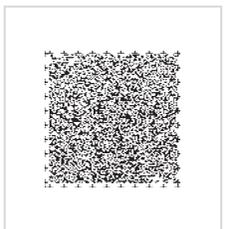
#### パラスポーツを知る・みる・体験する機会の提供

「都民のスポーツ活動に関する実態調査（2024年度）」によると、**パラスポーツに関心がある人は42.7%**となっておりますが、**関心がない理由は「身近に関わっている人がいない」（32.1%）、「身近な場所でやっていない」（19.2%）**という回答が多く挙げられました。パラスポーツが、**障害の有無を問わず誰もが楽しめるユニバーサルなスポーツ**として広まり、**スポーツを通じた相互理解**につながっていくため、**身近な場所でパラスポーツを知る・みる・体験する機会**を提供していく必要があります。

パラスポーツに関心がない理由



図表出典：「令和6年度 都民のスポーツ活動に関する実態調査」（2025年3月、生活文化スポーツ局）を基に作成



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱2 スポーツでつながる

#### 現状と課題

##### 個々の状況に応じたスポーツ環境の確保

東京都が実施した調査によると、障害のある人がスポーツを実施するために必要な支援は、「バリアフリー化」や「障害特性に合わせたプログラムの充実」が上位となっています。一方で1年間に全くスポーツを実施していない人の理由は「活動したいと思わない」が最も高くなっています。こうしたことから、障害のある人のスポーツ参加に向けては、**個々の状況に応じたスポーツ環境の確保、スポーツを楽しみと思ってもらえるような情報発信や機会の提供**を行っていく必要があります。

##### パラスポーツを支える人材の確保

障害のある人のスポーツ実施には、**障害特性に配慮して指導・サポートできる人材が不可欠で、多くの担い手が必要です**。一方でパラスポーツ指導員資格を有していても経験不足等の理由で活動頻度が低い人もいます。

また、**医療・福祉など障害のある人に身近な分野の人材を担い手として確保**していくことも重要です。

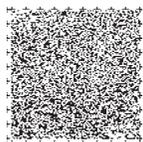
##### 競技団体の基盤強化

選手の発掘・強化・育成等を担うパラスポーツの競技団体は、ガバナンスの確保など業務が多様化する中で体制や財政面で厳しい状況にあり、活動が十分にできていない競技団体もあります。

少子化等をはじめ社会構造が変化する中、ジュニア選手を含め国際大会等で活躍できる東京ゆかりのパラアスリートを輩出するためには、**選手や競技団体への支援**に一層取り組んでいく必要があります。

#### 今後の方向性

- **パラスポーツのファンやサポーターを増やす**ため、身近な場所での体験機会の充実のほか、パラスポーツの魅力やアスリートの活躍を積極的に発信し、**理解促進**を図っていきます。
- **障害の種類や程度を問わず身近な地域でスポーツに取り組める環境をデジタル技術も活用し確保**するとともに、スポーツに関心のない人やできない人も**気軽に取り組める機会の提供**を行っていきます。
- **パラスポーツ指導員の養成や不安解消に向けた取組**のほか、**多様な分野からの担い手の確保及びボランティアの裾野拡大**を図っていきます。
- 障害者が競技スポーツに出会うきっかけを提供するとともに、選手の育成・強化や競技普及を担う**パラスポーツ競技団体等の基盤強化**に向け、**企業等との連携なども視野に入れながら支援策**を講じていきます。



## 施策① パラスポーツを楽しむ・パラスポーツで輝く

### 具体的な取組

#### ▶ パラスポーツのファンやサポーターの裾野拡大

##### パラスポーツメモリアルイベントの開催

パラリンピックやデフリンピックを記念したメモリアルイベントを開催し、デフスポーツを含むパラスポーツの関心を一層高めていくとともに、スポーツの魅力発信やスポーツを通じた相互理解を促進し、共生社会の実現につなげていきます。

▶ 関連ページ P.207

##### パラスポーツ普及啓発プロジェクト「TEAM BEYOND」

東京2020パラリンピックで高まったパラスポーツへの関心や応援の気運を更に高め、レガシーとして未来につないでいくため、パラスポーツのファンやサポーターを増やし、パラスポーツが社会に根付いていくよう、SNS等を活用した情報発信や体験会の開催を行うなど、パラスポーツを身近に感じてもらうための総合的なプロジェクトを展開します。

▶ 関連ページ P.128,131,168,169,205,220,221,244

##### スポーツTOKYOインフォメーションの運営

東京都のスポーツ情報サイト「スポーツTOKYOインフォメーション」を通じて、東京のスポーツイベント、大会観戦・応援情報、スポーツ施設や行政情報などを発信し、多くの人々にスポーツへの関心を高めてもらいます。

▶ 関連ページ P.127,133,220,243

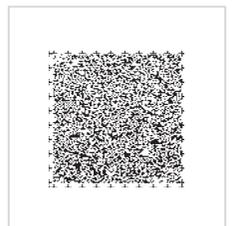
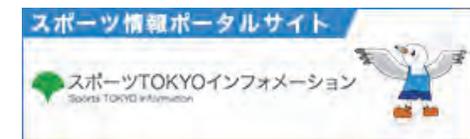
##### パラスポーツ専門ポータルサイトTOKYOパラスポーツ・ナビの運営

障害のある人やパラスポーツを支える人を対象に、都内のパラスポーツイベント情報や、公共スポーツ施設のバリアフリー情報等を発信するパラスポーツ専門ポータルサイト「TOKYOパラスポーツ・ナビ」を運営します。

▶ 関連ページ P.127,133,220



パラ競技デモンストレーション



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱2 スポーツでつながる

#### 施策① パラスポーツを楽しむ・パラスポーツで輝く

##### ▶ パラスポーツのファンやサポーターの裾野拡大

##### 障害者のスポーツに関する意識調査

障害のある人のスポーツ活動に関する意識や実態を把握し、今後のパラスポーツ振興に資する施策展開の基礎資料として活用します。

▶ 関連ページ P.129

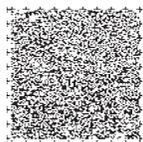
##### 区市町村スポーツ推進補助事業

急速な高齢化やデジタル化等、スポーツを取り巻く環境が変化する中、誰もがスポーツを「楽しみ」、スポーツを行う「人」が輝くスポーツ振興を実現するため、身近な場でスポーツができる環境の拡大やパラスポーツの普及など区市町村が実施するスポーツ振興事業に対して補助を行います。

▶ 関連ページ P.133,189,203,214,277

##### 東京2025デフリンピックを契機とした学校を通じた取組

子供たちが東京2025デフリンピックを通じて多くのことを学び、成長することをサポートしていきけるよう、デフアスリートを招いた学校での学びの機会など、様々な取組を展開していきます。



## 都立特別支援学校における部活動振興

都立特別支援学校中学部・高等部の課外活動において、専門的な知識や技術等を有する人材を活用する外部指導員制度を導入します。

## ヒューマンライツ・フェスタ東京

幅広い都民の方に、人権の大切さについて考え、理解を深めていただくための人権啓発イベント「ヒューマンライツ・フェスタ東京」において、ユニバーサルスポーツ体験会等を実施し、障害への理解促進と、多様性を認め合うことの啓発を行います。

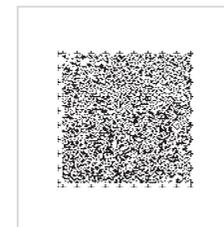


## パラスポーツの理解促進と裾野拡大（意識啓発等）

東京都立大学が培ってきた研究成果やパラスポーツに対する支援実績を生かし、荒川キャンパス体育施設を活用し、学生の意識啓発、都民向け講習会、調査・研究を実施します。

## パラスポーツの振興とバリアフリー推進に向けた懇談会

東京2020パラリンピックを契機としたパラリンピック・ムーブメントの継承・発展に併せて、ユニバーサルデザイン先進都市東京に向けた取組を推進することを目的として、パラスポーツの振興とバリアフリー推進に向けた懇談会を実施します。



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱2 スポーツでつながる

#### 施策① パラスポーツを楽しむ・パラスポーツで輝く

##### ▶ パラスポーツの観戦機会等の充実

##### パラスポーツ普及啓発プロジェクト「TEAM BEYOND」

「TEAM BEYOND」のメンバーに、パラスポーツの国際大会等を会場で一体となって観戦・応援できる機会を提供することで、競技や選手への関心をより深めてもらい、パラスポーツの理解促進につなげます。

▶ 関連ページ P.128,131,165,169,205,220,221,244



TEAM BEYOND観戦会

##### 都内におけるパラスポーツ国際大会の開催促進

都民により多くのパラスポーツの観戦機会を提供し、魅力を知っていただくため、都内でパラスポーツ国際大会の開催を目指す競技団体等に支援を行います。

▶ 関連ページ P.202,221



三井不動産 車いすラグビー SHIBUYA CUP 2024

##### TOKYOパラスポーツチャンネルの配信

都内やその近郊で開催される全国又は国際レベルのパラスポーツ大会をケーブルテレビ等で実況・解説付きで中継・配信し、競技を初めて観る人でも楽しく観戦できる機会を提供します。

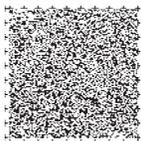
▶ 関連ページ P.128,221



TOKYOパラスポーツチャンネル

##### 東京都人権プラザにおける「スポーツと人権」をテーマとした展示

オリンピック憲章における人権尊重の理念を周知するとともに、東京都の人権啓発拠点である東京都人権プラザの展示室に「スポーツと人権」に係る常設展示コーナーを設けてパラリンピックムラールを設置するなど、子供・若者をはじめとする幅広い都民に、人権の観点からオリンピック・パラリンピックをはじめとする様々な取組（デフリンピック、スペシャルオリンピックス、サイバスロンなど）を理解し、考える機会を提供します。



パラリンピックムラール

## ▶ パラスポーツを楽しむ体験会の創出

### パラスポーツ普及啓発プロジェクト「TEAM BEYOND」

パラスポーツのファンやサポーターを増やすため、「TEAM BEYOND」プロジェクトのコンテンツとして、商業施設などの多くの人が集まる場所で、気軽にパラスポーツに触れ、魅力を体感してもらう体験会を実施します。

▶ 関連ページ P.128,131,165,168,205,220,221,244

### チャレスポ! TOKYOの開催

障害のある人にスポーツの楽しさや効用を知ってもらい、スポーツを始めるきっかけを提供するとともに、障害のある人とない人がスポーツを通じて相互に交流する機会を創出し、理解と共感を深めてもらうための参加体験型スポーツイベントを開催します。

▶ 関連ページ P.132

### パラスポーツオープン競技大会の開催

都民のパラスポーツに対する理解を深め、障害のある人の社会参加を促進するとともに、競技団体の活動活性化や競技スポーツ実施者の裾野拡大のため、東京都障害者スポーツ大会において、障害のある人もない人も参加できる競技をオープン競技として実施します。

### 都立特別支援学校におけるスポーツ教育推進

都立特別支援学校を「スポーツ教育推進校」に指定し、障害者のスポーツ振興を図ります。

▶ 関連ページ P.143



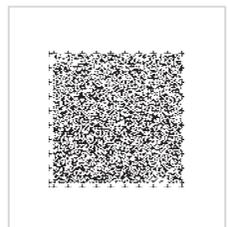
街なかパラスポット



チャレスポ! TOKYO



パラスポーツオープン競技大会  
(ローリングバレーボール)の様子



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱2 スポーツでつながる

#### 施策① パラスポーツを楽しむ・パラスポーツで輝く

##### ▶身近な活動の場・機会の充実

##### パラスポーツ地域サポート事業

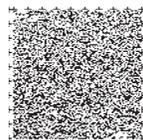
パラスポーツ事業のノウハウを持つアドバイザーが、区市町村や地域スポーツクラブ等を訪問し、事業の企画・実施を支援するほか、指導者等のコーディネートや用具の貸与を通じて、身近な地域でスポーツを楽しめる環境づくりを図ります。

また、区市町村間で現状の取組状況や課題についての意見交換、スポーツと医療・福祉等の他分野との連携事例の共有を行うパラスポーツ地域ブロック関係者連絡会議を実施します。

▶関連ページ P.134,214,282



パラスポーツ用具の貸出し



## 都立特別支援学校活用促進事業

障害のある人や障害者スポーツ団体等が身近な地域でスポーツ活動ができるよう、都立特別支援学校の体育施設をパラスポーツの拠点の一つと位置付け、学校教育活動に支障のない範囲で開放し、活用を促進します。

また、事業実施校において、障害の有無にかかわらず誰もが参加できるパラスポーツやスポーツ・レクリエーションの体験教室を実施します。

▶関連ページ P.135,141,215,229,281



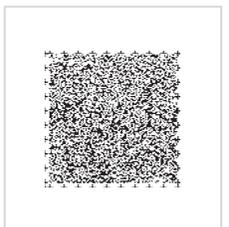
体験教室（風船バレー）

## 障害者のスポーツ施設利用促進事業

障害のある人が身近な地域のスポーツ施設をより安全で快適に利用できるようにするため、区市町村や民間のスポーツ施設において、施設管理者が配慮すべきポイントを掲載した「障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル」の活用を促進します。

また、区市町村スポーツ施設に対して、パラスポーツの専門知識を有するアドバイザーを派遣し、施設のニーズや状況に合わせて、障害のある人のスポーツ施設の利用促進に向けた支援を実施します。

▶関連ページ P.135,216,229,281



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱2 スポーツでつながる

#### 施策① パラスポーツを楽しむ・パラスポーツで輝く

##### ▶身近な活動の場・機会の充実

#### TOKYOユニバーサルウォーキング普及事業

障害当事者等の意見も聞きながら都内各地域で選定してきたバリアフリーに配慮したウォーキングコースについて、多くの方に利用いただけるよう普及を図ります。あわせて、アプリを活用したキャンペーンを実施し、ウォーキングの継続的な実施につなげていきます。

▶関連ページ P.128,216,281



#### 障害児・者の運動習慣定着支援事業

障害のある人が日中に滞在している福祉施設や放課後等デイサービスなどに指導者を派遣し、利用者の障害種別や程度等に応じた運動プログラムを定期的を実施することで、身体を動かすことの習慣化を図ります。

さらに、福祉施設等の近隣の体育館等でも運動プログラムを実施することで、地域の中で日常的に運動を楽しむきっかけを提供します。

▶関連ページ P.134,141,215,282

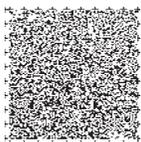


福祉施設内での運動プログラムの実施

#### 障害者スポーツセンター、パラスポーツトレーニングセンターの運営

都内に2か所ある障害者スポーツセンターにて障害のある人へスポーツ・レクリエーション活動の場を提供するとともに、パラスポーツトレーニングセンターにてパラスポーツの競技力向上の場を提供するなど、パラスポーツの普及振興を図ります。

▶関連ページ P.229,280



東京都障害者総合スポーツセンター

## ▶ デジタル技術を活用したパラスポーツの実施促進

### パラスポーツリモート参加事業

外出困難な重度の障害のある人等を対象に、遠隔操作によりコミュニケーションが可能な分身ロボットを活用し、パラスポーツの体験やボランティア参加などスポーツを「する・みる・支える・応援する」の様々な活動に参加できる機会を提供します。



分身ロボットを使って「する」スポーツに挑戦

### デジタル技術を活用した障害のある人のスポーツ参加促進事業

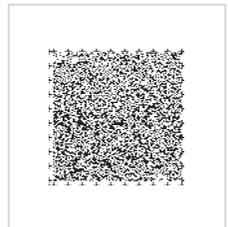
身体を動かしづらい人や、外出が難しい人等が、eスポーツの活用により、通い慣れた施設等の身近な場所で、障害の種別・程度に合わせた方法で、スポーツ・運動を楽しめる機会を創出します。

また、スポーツイベントや大規模展示会等での出展により、体験機会の拡大や障害のある人とない人との交流、企業等への障害のある人のニーズ理解や認知度向上を図ります。

▶ 関連ページ P.282



デジタル技術を活用したeパラスポーツの交流会



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱2 スポーツでつながる

#### 施策① パラスポーツを楽しむ・パラスポーツで輝く

##### ▶ パラスポーツを支える人材の確保

##### パラスポーツセミナーの開催

区市町村職員やスポーツ推進委員、医療福祉関係者等を対象にセミナーを開催し、パラスポーツ事業実施のきっかけづくりや好事例の共有・普及を図り、身近な地域におけるパラスポーツ振興のキーパーソンの育成を図ります。

▶ 関連ページ P.217,235,283



パラスポーツセミナー

##### 初級・中級パラスポーツ指導員養成講習会

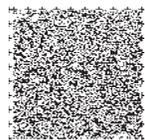
スポーツ推進委員や公立スポーツ施設職員等を対象に、J P S A 公認初級パラスポーツ指導員養成講習会を開催し、地域のパラスポーツの現場で、障害のある人のスポーツ参加のきっかけ作りを支援する人材を育成・確保します。

また、初級パラスポーツ指導員を対象に、中級パラスポーツ指導員養成講習会を開催し、地域のリーダーとして、専門的な知識と技術、経験に基づきパラスポーツの普及振興を支える人材を育成・確保します。

▶ 関連ページ P.217,236,283



パラスポーツ指導員養成講習会



## パラスポーツ人材の活動活性化事業

パラスポーツボランティアポータルサイト「TOKYO 障スポ&サポート」を通じて、ボランティア人材にイベント等の情報を提供し、活動機会の拡充を図ります。

あわせて、ボランティア活動に役立つ学びの場として、講習会の実施やe-learning講座の発信などを行い、活動を促進します。

また、活動経験の少ないパラスポーツ指導員等を対象にした「リ・スタート研修会」や「地域事業参加型指導員育成事業」、支える活動に関する最新の情報提供を行う「パラスポーツフォーラム」を開催し、パラスポーツ人材の資質向上を図ります。

▶ 関連ページ P.233,236

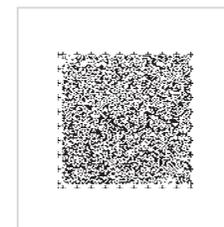


パラスポーツフォーラム

## パラスポーツ人材地域活動促進事業

東京都が支援してきたパラアスリート、スタッフ、競技団体等がこれまで培ってきた技術や経験などを地域に還元できるよう、講習会等を企画する団体等とのマッチングを行います。

▶ 関連ページ P.157



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱2 スポーツでつながる

#### 施策① パラスポーツを楽しむ・パラスポーツで輝く

##### ▶ 競技スポーツとの出会いをサポート

##### パラスポーツ次世代ホープ発掘事業

東京からパラスポーツの次世代を担う選手を輩出することを目的に、競技体験等を通じて、競技スポーツとのマッチングを行う発掘プログラムを実施します。

あわせて、競技活動への継続・定着を促すため、心理面・栄養面でのスポーツ理論やトレーニングに関する講習会や、自身の体力到達度を確認する体力測定会を実施します。

また、発掘プログラムに先立って、スポーツ用義足・車いすの事前体験会を開催します。

▶ 関連ページ

P.153



スポーツ用義足事前体験会



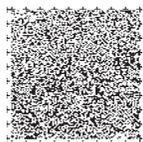
スポーツ用車いす事前体験会

##### パラスポーツスタートガイドの運営

様々なパラスポーツの魅力や、競技ルール等を分かりやすく伝えるとともに、アスリートや支えるスタッフのインタビューを掲載するなど競技スポーツを始める上で役立つ情報を提供する専用ウェブサイトを経営します。

▶ 関連ページ

P.128



## ▶東京にゆかりのあるアスリートの競技力向上

### パラスポーツ競技活動支援事業

N F が J P C に加盟する競技の都内統括団体が行う、選手の強化育成や指導者の養成等を目的とした練習会や強化合宿等の活動費を助成し、各団体の競技力向上を図ります。

▶関連ページ P.159,237

### デフスポーツ競技団体都内活動促進事業

東京2025デフリンピックに向け、デフスポーツの競技力向上とともに、都民のデフスポーツへの関心を高めることを目的として、J P C に加盟するデフスポーツN F が都内で実施する強化合宿や普及啓発活動等に対して支援を行います。

▶関連ページ P.157,238

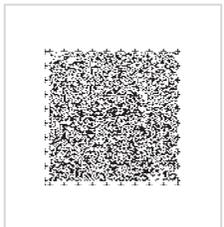
### 東京パラアスリート強化事業

東京からスター選手が継続的に輩出され、国際大会で活躍できるよう、東京ゆかりのパラアスリートやジュニアパラアスリートに強化合宿費や大会参加費等を支援し、アスリートの競技力向上を図ります。また、パラアスリートを支えるガイドランナーやコーチなどの「パラスポーツスタッフ」にも国内外の大会参加に伴う経費等を支援します。

▶関連ページ P.156



東京ゆかりパラアスリート・ジュニアパラアスリート認定式



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱2 スポーツでつながる

#### 施策① パラスポーツを楽しむ・パラスポーツで輝く

##### ▶東京にゆかりのあるアスリートの競技力向上

##### 東京都障害者スポーツ大会の開催

パラスポーツを通じて、自らの体力の維持増進及び社会への参加と相互の交流を促進させるとともに、都民の障害のある人に対する理解の増進を図り、もって障害のある人の自立の促進とスポーツ振興に寄与することを目的に開催します。

▶関連ページ P.160



東京都障害者スポーツ大会

##### 全国障害者スポーツ大会への選手・役員派遣

国民の障害に対する理解を深め、障害のある人の社会参加促進等に寄与することを目的として開催されている全国障害者スポーツ大会に、東京都を代表する選手や役員で構成される選手団を派遣します。

▶関連ページ P.160

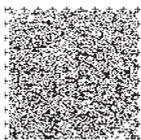


全国障害者スポーツ大会東京都選手団結団式

##### デフリンピックチャレンジ事業

東京2025デフリンピックに向け、NFが存在しない等の理由により、出場選手の強化・育成が進んでいない競技について、関連団体が都内で行う競技力向上事業や、東京2025デフリンピック出場を目指す東京にゆかりのある選手の競技活動に対して支援を行います。

▶関連ページ P.157,238



## ▶ パラスポーツに関する団体等の基盤強化

### パラスポーツ団体体制強化支援事業

都内で活動するパラスポーツ競技団体の組織基盤強化及び運営能力向上に向け、国の「スポーツ団体ガバナンスコード」適合や広報力の強化などを図るため、研修会の実施や、団体運営のアドバイス等を行います。

また、助成金申請等に関する事務補助や専門家（弁護士や会計士等）による相談会の実施など、複合的な支援を行います。

▶ 関連ページ P.159,237

### マッチングプラットフォーム構築

企業のノウハウ等と競技団体等の課題やニーズをマッチングするプラットフォームにより、パラスポーツへの企業の参画と競技団体の基盤強化を促進します。

▶ 関連ページ P.159,244

### パラスポーツ団体普及活動支援事業

パラスポーツの普及振興のために活動するパラスポーツ団体に対して、日常の練習や体験会等の事業への助成を行っていきます。

▶ 関連ページ P.159,238

### パラスポーツコンシェルジュ事業

パラスポーツを支援したいという民間企業等の意向を選手や競技団体につなぐため、（公社）東京都障害者スポーツ協会（T S A D）に相談窓口を設けるとともに、障害のある人に対してスポーツに関する情報提供や助言を行います。

また、企業と競技団体間のネットワークの構築及びマッチングを目的とした交流会を開催するとともに、アウトリーチ活動や定期セミナーを実施し、窓口での相談や交流会への参加へとつなげていきます。

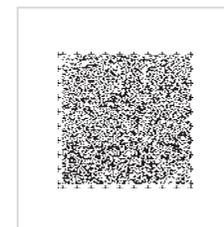
▶ 関連ページ P.244



マッチングプラットフォームイメージ図



パラスポーツコンシェルジュ事業



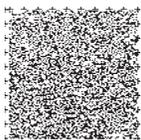
## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱2 スポーツでつながる



#### 施策②

### バリアフリー化やユニバーサルコミュニケーション技術の社会実装を促進

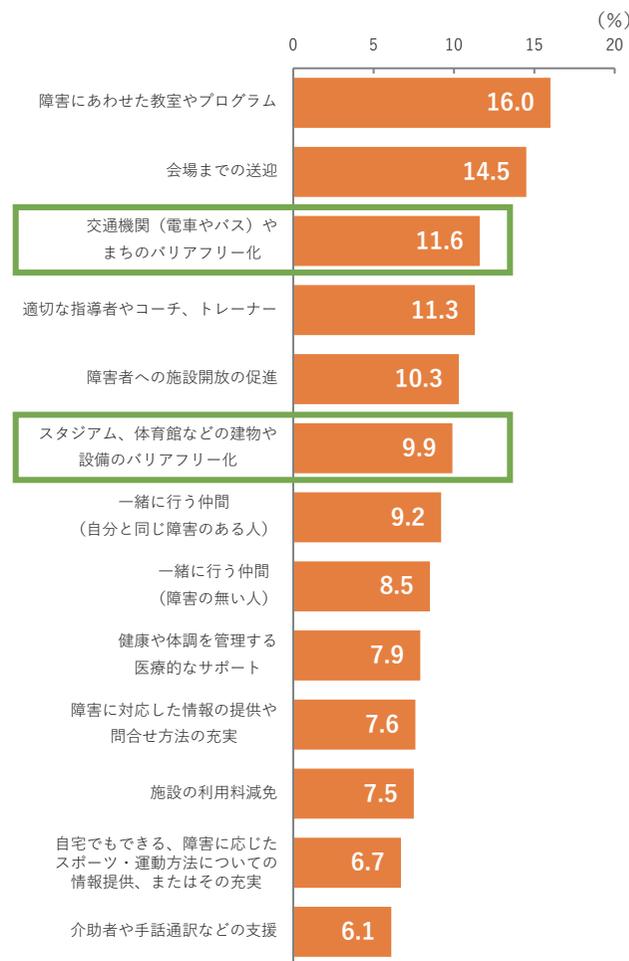


#### 現状と課題

#### 誰もが利用しやすいスポーツ施設等の整備を支援

「令和6年度 障害者のスポーツに関する意識調査」によると、「スポーツ・運動の実施に必要な支援」として「バリアフリー化」（交通機関やまち：11.6%、体育館などの建物等：9.9%）等という回答の割合が高くなっています。障害のある人や高齢者を含め、ソフト・ハード面から誰もが利用しやすい**スポーツ施設等の環境を整えていく**必要があります。

スポーツ・運動の実施に必要なと考える支援



図表出典：「令和6年度 障害者のスポーツに関する意識調査」（2025年3月、生活文化スポーツ局）を基に作成

## 現状と課題

### ユニバーサルコミュニケーション技術の社会実装を促進

透明ディスプレイ上で、音声を多言語で文字化して表示する技術など、様々な技術が生まれています。国籍や障害などにかかわらず、誰もが分け隔てなくコミュニケーションをとることができるようにするため、令和7（2025）年に開催される東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを契機に、ユニバーサルコミュニケーション技術の活用を促進し、社会実装につなげていくことが必要です。

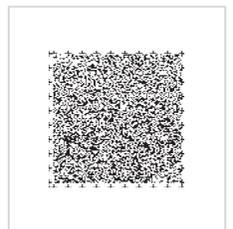
### 産業界と連携したスポーツ振興

スポーツは全ての人が性別や年齢、社会的・経済的地位、障害の有無にかかわらず楽しめなければなりません。

最新テクノロジーをスポーツの分野に取り入れて、スポーツへの参加機会を拡大する必要があります。

## 今後の方向性

- 施設のバリアフリー化や多言語対応など、都立施設の整備や区市町村立スポーツ施設整備を支援していきます。
- 誰もが気軽に楽しめるユニバーサルデザイン志向のスポーツ環境を整備していきます。
- 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを契機にユニバーサルコミュニケーション技術の社会実装を促進していきます。
- 誰もが分け隔てなくスポーツを楽しめるよう、スポーツに関する技術開発・市場開拓を支援していきます。



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱2 スポーツでつながる

#### 施策② バリアフリー化やユニバーサルコミュニケーション技術の社会実装を促進

##### 具体的な取組

##### ▶ バリアフリー化・ユニバーサルコミュニケーション技術の社会実装を促進

##### 都立スポーツ施設の大規模改修

都立スポーツ施設について、老朽化した施設の改修、ユニバーサルデザインの導入、環境負荷の一層の低減等の取組を計画的に進め、施設の機能性や利便性を高めていきます。

▶ 関連ページ P.226

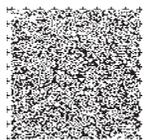
##### 区市町村等のスポーツ施設の整備支援

区市町村のスポーツ環境の拡充に向け、ユニバーサルデザイン化の推進、暑さ対策、学校施設の市民開放などの施設の改修整備に係る取組を支援します。

▶ 関連ページ P.227,277

##### バリアフリー化等の普及・促進

スポーツ施設のほか、鉄道やバスにおけるユニバーサルデザインに基づくバリアフリー化や宿泊施設などのバリアフリー化を支援するなどし、障害のある人や高齢者などが会場や施設まで快適に足を運べるよう環境整備を進めます。



## 多言語対応の推進

誰もが暮らしやすい社会の実現に向けて、外国人も安心して都立スポーツ施設を利用できるよう、各施設における多言語対応を推進していきます。

▶ 関連ページ P.226

## 都立公園における音声認識システムの導入

都立公園における窓口対応などを支援する音声認識システムを導入します。

## ユニバーサルコミュニケーション技術や機器の導入を支援

ユニバーサルコミュニケーション技術の社会への普及に向けて、区市町村や駅、宿泊施設、文化施設などにおけるユニバーサルコミュニケーション機器を導入又は導入を支援します。

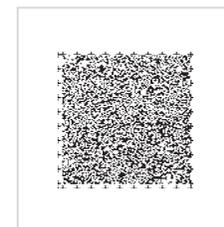
## ユニバーサルコミュニケーションの促進

東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを契機に、国籍や障害の有無にかかわらず、スムーズなコミュニケーションを実現するため、大会に向けて、各種イベントへの出展やスタートアップ等との協働による技術開発を進めるとともに、都立施設の窓口や大会時の競技会場での技術活用を促進します。また、両大会における技術活用やショーケース等を国内外へ広くPRしていきます。

▶ 関連ページ P.199



音声を多言語で表示する「透明ディスプレイ」



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱2 スポーツでつながる

#### 施策② バリアフリー化やユニバーサルコミュニケーション技術の社会実装を促進

##### ▶ スポーツに関する技術開発・市場開拓への支援

##### TOKYO戦略的イノベーション促進事業

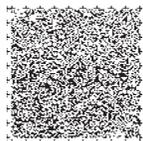
今後成長が期待されている産業分野における技術開発・市場動向を示した「イノベーションマップ」を策定し、これに沿って中小企業等が、他企業、大学等と連携して行う大規模技術開発とその事業化を支援します。

▶ 関連ページ P.245

##### シニア・福祉・アクセシビリティ関連製品等の販路開拓助成事業

介護を必要とする高齢者や障害のある人が利用する福祉用具をはじめ、健康で社会活動等に意欲があるアクティブシニア向けの製品・サービス、障害の有無にかかわらず誰でも利用することを目指したパラスポーツ関連製品やアクセシブルデザイン製品等、高齢者や障害のある人を対象とした幅広い製品・サービスについて、国内外への販路拡大を支援していきます。

▶ 関連ページ P.245





## 施策③

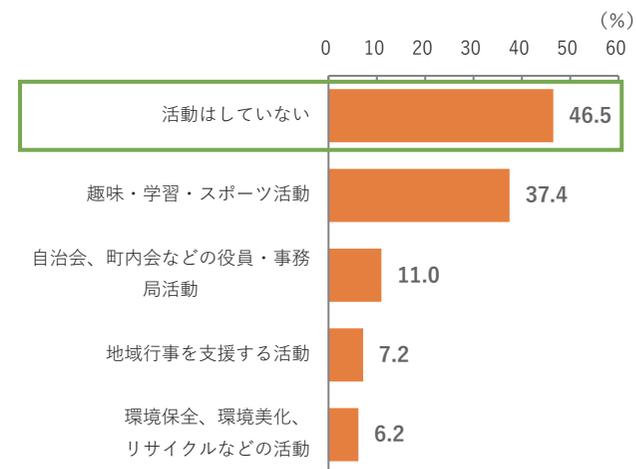
多様な人々が  
スポーツでつながる、  
スポーツとつながる

### 現状と課題

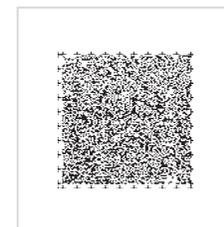
#### 新たな交流や地域コミュニティへの参加 機会の創出

令和2（2020）年に東京都福祉保健局が実施した「高齢者の生活実態」調査によると、高齢者の社会参加の状況について、「活動をしていない」（46.5%）が最も多い回答でした。高齢者がスポーツに親しみ、社会とのつながりを形成していくには、新たな交流や地域コミュニティへの参加機会を創出する必要があります。

1年間にいった社会参加の状況(複数回答)



図表出典：「令和2年度 高齢者の生活実態」（2021年10月、福祉保健局）を基に作成



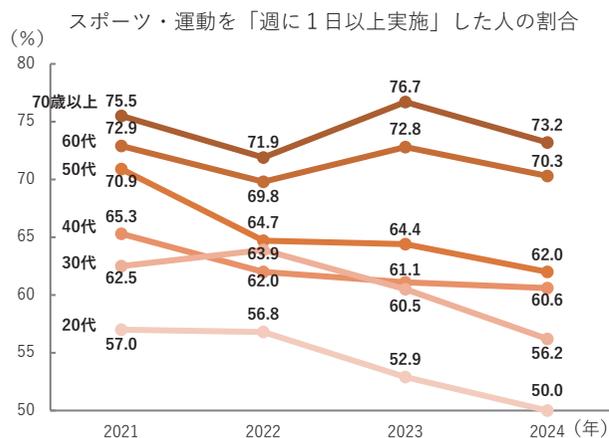
## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱2 スポーツでつながる

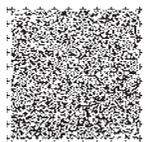
#### 現状と課題

##### 20代から50代女性のスポーツ実施率向上

令和6（2024）年に実施した「都民のスポーツ活動に関する実態調査」によると、**女性の20代から50代のスポーツ実施率が減少傾向**となっています。女性のスポーツを振興していくためには、**仕事や家事・育児の中でも気軽にスポーツに取り組める環境整備**をしていく必要があります。



図表出典：「都民のスポーツ活動に関する実態調査」（生活文化スポーツ局）を基に作成



#### 今後の方向性

- 年齢、性別などにかかわらず**それぞれのレベルや、ライフスタイル**に応じたスポーツを楽しむ機会を創出していきます。
- スポーツを通じた**被災地復興支援、国際交流**を通じて、**相互理解を促進し、次世代育成**に貢献していきます。

##### スポーツを通じた相互理解の促進

東京都はこれまで、スポーツを通じて**被災地との絆**を築いてきました。日本の首都として**被災地の復興**を牽引していくため、スポーツを通じて被災した子供たちに夢や勇気を与えられるよう、現地の実情を踏まえながら、運動機会の提供など復興に向けた支援を引き続き行っていく必要があります。

また、世界共通の文化であるスポーツを通じて、**世界各都市のジュニア選手との交流**を進め、**競技力の向上**を目指すとともに、**国を越えた相互理解**を深めることを目的として**国際交流事業**を実施してきました。

次代を担う子供たちが、小さい頃から異なる文化に触れることで、グローバルな視野を育み、成長できるように、多くの国際スポーツ大会を開催してきた都市として、**スポーツを通じた国際交流**を引き続き推進することが必要です。

## 施策③ 多様な人々がスポーツでつながる、スポーツとつながる

### 具体的な取組

#### ▶ 高齢者のスポーツ振興

#### シニアスポーツ振興事業

高齢者のスポーツ実施率向上を図り、高齢者の健康維持・増進に寄与することを目的に、各地域で実施する高齢者対象のスポーツ競技会、講習会・講演会等を支援します。

▶ 関連ページ P.149,279



#### シニア健康スポーツフェスティバルの開催

スポーツや健康づくり推進活動を通して、社会参加や仲間づくり、世代間交流を促進し、明るく活力のある長寿社会づくりを進めることを目的として開催します。翌年の全国健康福祉祭（ねんりんピック）に派遣する選手の選考会も兼ねています。

▶ 関連ページ P.149

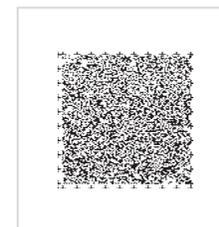


シニア健康スポーツフェスティバル  
テニス大会

#### 全国健康福祉祭（ねんりんピック）への選手団派遣

高齢者の健康維持・増進、生きがいの高揚を図ることを目的に、昭和63（1988）年から毎年開催されている全国健康福祉祭に東京都選手団を派遣します。

▶ 関連ページ P.149



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱2 スポーツでつながる

#### 施策③ 多様な人々がスポーツでつながる、スポーツとつながる

##### ▶ 高齢者のスポーツ振興

##### 東京都シニア・コミュニティ交流大会の開催

シニア世代が趣味を通じて地域やコミュニティ等とつながりを持つきっかけづくりを目的として、シニアに親しまれている種目（囲碁・将棋・健康マージャン・ダンススポーツ・カラオケ・eスポーツ）による交流大会を開催します。

▶ 関連ページ P.149,279



東京都シニア・コミュニティ交流大会

##### スポーツを通じた健康増進事業

様々な機会を通じて都民が気軽にスポーツに取り組むきっかけを提供し、継続的なスポーツ実施につなげていきます。また、都民の体力データ等を活用し、身体活動等の状況が健康に及ぼす影響を見える化することにより、都民の健康への関心を高め、健康増進に貢献していきます。

▶ 関連ページ P.130,148



東京スポーツドック

##### 人生100年時代セカンドライフ応援事業

高齢者の誰もが地域ではつらつと活躍できる社会を実現するため、文化、教養、スポーツ活動等を促進するほか、空き店舗等を利用して、高齢者が気軽に立ち寄り、参加できる活動の拠点を整備する区市町村を支援します。

▶ 関連ページ P.150

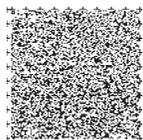


老人クラブ支援事業

##### 老人クラブ支援事業

高齢者の自覚的な健康づくり、介護予防への取組と正しい知識の普及を図るため、老人クラブ会員、地域の高齢者等を対象に東京都老人クラブ連合会が実施する健康教室の開催を支援します。

▶ 関連ページ P.150



## 老人クラブ区市町村支援事業

高齢者の自覚的な健康づくり、介護予防への取組と正しい知識の普及を図るため、老人クラブ会員、地域の高齢者等を対象に区市町村老人クラブ連合会が実施する健康教室の開催を支援します。

▶ 関連ページ P.150

## 簡単に楽しめるスポーツの普及

年齢等を問わず簡単に楽しめるスポーツを普及・推進していきます。

▶ 関連ページ P.150

## 多彩なスポーツの取組を通じた交流機会の提供

スポーツと多様な分野（音楽、食事など）を掛け合わせたバラエティに富んだ取組やスポーツ観戦、社会参加の情報発信等を通じてスポーツを楽しんでもらえるよう、地域や関係団体等と連携し、検討していきます。

▶ 関連ページ P.132,208

## スポーツ大会への都民招待

主催者と連携を図りながら大規模スポーツ大会等やプロスポーツチーム等が主催する試合に都民を招待することにより、スポーツを実際にみる機会を創出します。

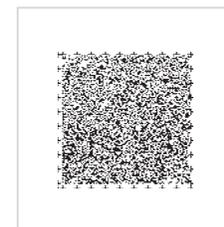
▶ 関連ページ P.221



## 区市町村スポーツ推進補助事業

急速な高齢化やデジタル化等、スポーツを取り巻く環境が変化中、誰もがスポーツを「楽しみ」、スポーツを行う「人」が輝くスポーツ振興を実現するため、身近な場でスポーツができる環境の拡大やパラスポーツの普及など区市町村が実施するスポーツ振興事業に対して補助を行います。

▶ 関連ページ P.133,166,203,214,277



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱2 スポーツでつながる

#### 施策③ 多様な人々がスポーツでつながる、スポーツとつながる

##### ▶ 高齢者のスポーツ振興

##### 幅広い世代が参加する大会の開催

- 東京都スポーツ大会

広くスポーツを普及・振興し、参加者の健康増進と体力向上を図るとともに、区市町村対抗の方式で競技力向上を図ることを目的に開催します。

- スポーツフェスティバル東京

幅広い世代のスポーツ愛好者を対象としたスポーツ大会であり、参加者が実力に関係なく、日頃の練習の成果を発揮する中で、スポーツを通じて親睦を深めることを目的に開催します。

- 都民スポレクふれあい大会

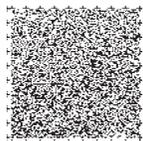
広く都民にスポーツ・レクリエーション活動を実践する場を提供し、参加意欲の喚起とともに、子供から高齢者まで世代を超えたふれあいと、健康・体力づくり、生きがいつくりに資することを目的に開催します。

- 東京都市町村総合スポーツ大会

市町村対抗で、参加市町村のスポーツ振興と競技力の向上、多摩地域の連帯を深め、地域の発展にも寄与することを目的に開催します。

- 東京都障害者スポーツ大会

パラスポーツを通じて、自らの体力の維持増進及び社会への参加と相互の交流を促進させるとともに、都民の障害のある人に対する理解の増進を図り、もって障害のある人の自立の促進とスポーツ振興に寄与することを目的に開催します。



▶ 関連ページ P.151,278,285



東京都スポーツ大会・  
東京都障害者スポーツ大会  
合同開会式

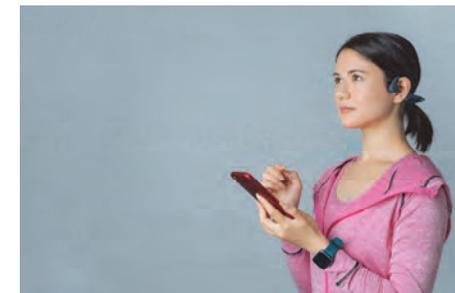


東京都市町村総合スポーツ大会  
開会式

## ▶女性スポーツ振興

### 女性向けスポーツ情報の発信

女性向けのイベント情報の発信や、他分野との連携により、スポーツへの意識をポジティブに変容する取組を展開していきます。



### 女性特有の健康課題の予防に資するスポーツの普及・啓発

女性それぞれのライフステージで特有の健康課題を予防できるよう日常生活に取り入れられるスポーツを紹介し、スポーツの実施を促進します。

### ライフステージに応じたスポーツに親しむ時間・機会の創出

無理なく気軽に取り組めるスポーツの普及や、機会を創出していきます。

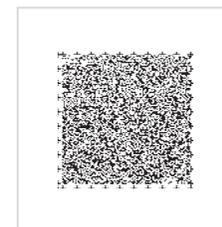
▶関連ページ P.147



### 多忙な働き盛り世代に向けた取組支援

企業の経営層や従業員への働きかけを通じ、女性を含む働き盛り世代が仕事をしながらスポーツに親しめる環境を後押ししていきます。

▶関連ページ P.147



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱2 スポーツでつながる

#### 施策③ 多様な人々がスポーツでつながる、スポーツとつながる

##### ▶女性のスポーツ振興

##### 女性アスリート特有の課題に関する情報発信

コンディション管理やけが予防など、女性アスリート特有の課題に関する正しい知識をアスリートや指導者に普及啓発します。

##### スポーツ関係団体における参画促進

女性のスポーツ関係団体役員等への積極的な任用を実情に応じて働きかけていきます。

##### 東京ライフ・ワーク・バランス認定企業制度

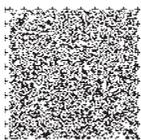
従業員が生活と仕事を両立しながら、生き生きと働き続けられる職場の実現に向けて、優れた取組を実施している中小企業を「東京ライフ・ワーク・バランス認定企業」として広く都民に公表します。

▶関連ページ P.148

##### ライフ・ワーク・バランスEXPO

働き方の見直しについて普及啓発を図るため、東京ライフ・ワーク・バランス認定企業への認定状授与式をはじめ、認定企業の取組内容の紹介、また、積極的にライフ・ワーク・バランスに取り組む企業の人事労務担当者や、ライフ・ワーク・バランスの有識者等によるパネルディスカッション等を実施します。

▶関連ページ P.148



## ▶ スポーツを通じた被災地交流

### スポーツを通じた被災地交流事業

東日本大震災や能登半島地震における被災地復興支援のため、スポーツを通じて被災者に夢や勇気を与え、子供たちの心のケアや地域復興の一助となる事業を展開してきました。これまで築いてきた絆をレガシーとして、現地の実情を踏まえながら、東京都と被災地の子供たちがスポーツを通じて交流する事業を実施します。



ラグビー交流試合（岩手県）

## ▶ スポーツを通じた国際交流の推進

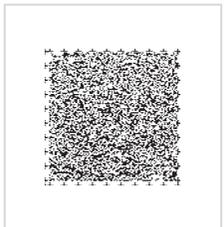
### スポーツを通じた国際交流

東京の子供たちが海外都市とのスポーツ交流を通じて、異なる文化への理解を深めるとともに、高い競技技術の中で競い合うことで競技力向上を推進していきます。

▶ 関連ページ P.156



東京国際ユース（U-14）サッカー大会



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱3 スポーツでにぎわう

#### 目指す政策効果

- **スポーツ大会の積極的な開催・支援**を通じ、多くの人々が**楽しみや感動**を体験
- **世界中のアスリートや観客**が訪れ、にぎわい、東京が**世界で最も魅力的で選ばれる都市**となる

#### 施策



施策

#### ① 都内各地でスポーツイベントを開催し、都市に活力をプラス

- ▶ 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを通じた主な取組、国際スポーツ大会に対する取組、ねりんピックの東京開催に向けた取組、東京マラソンをはじめとする、東京を活性化させるスポーツイベント等の展開



施策

#### ② 住み慣れた地域でのスポーツをサポート

- ▶ 地域におけるスポーツ活動の推進、地域や経済の活性化に寄与した団体等の顕彰



施策

#### ③ スポーツの魅力を発信し、スポーツを通じて感動を味わう

- ▶ スポーツの魅力発信、スポーツをみる機会の創出

#### 達成指標

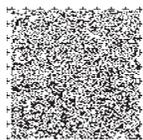
1年間にスポーツを直接観戦した  
都民（18歳以上）の割合



1年間にスポーツイベント、大会に  
参加したことがある都民（18歳以上）の割合



応援するスポーツチームや選手がいる  
都民（18歳以上）の割合





## 施策①

### 都内各地でスポーツイベントを開催し、都市に活力をプラス

#### 現状と課題

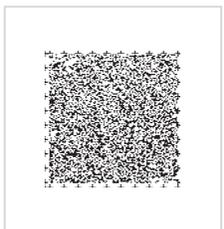
##### スポーツイベントを起点とした新たなレガシーの創出

東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの開催と両大会を通じた取組により、**ウェルネスの向上**や**社会変革**を推進し、東京に**新たなレガシー**を創出していきます。また、**第39回ねんりんピック**の開催に向け、**区市町村と連携**して地域のスポーツを推進していくことで、**地域の活性化**につなげていくことが必要です。

##### スポーツ大会の開催を通して、東京の更なる発展につなげる

**世界6大メジャーマラソン**となっている**東京マラソン**において、**外国人出走者数は年々増加**しており、**2024年は13,557人**となりました。また、海外から来日するランナーへのおもてなしと、国内外のランナー同士が交流を深め結束を高めることを目的とした**ファンランイベント**をはじめ、地域の人々が参加した**様々なイベント**が開催されています。

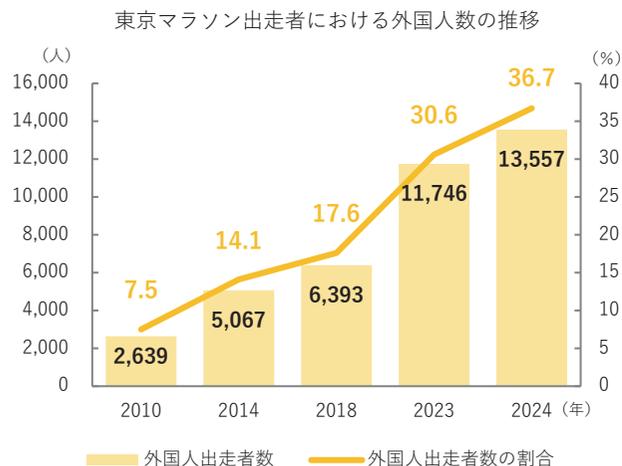
こうしたスポーツ大会は、**社会的・文化的効果**や**地域の活性化**、**プレゼンスの向上**などを都市にもたらします。**スポーツフィールド・東京**ならではのスポーツ大会の開催を通じて、**東京の更なる発展**につなげていくことが重要です。



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱3 スポーツでにぎわう

#### 現状と課題



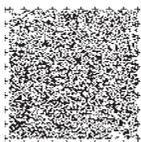
図表出典：「過去の大会結果・記録」（一財）東京マラソン財団）を基に作成

#### 今後の方向性

#### 魅力あるスポーツイベントの開催

スポーツを通じた**地域や経済の活性化**には、多くの人々が参加できる**スポーツイベントの開催**も効果的な取組の一つです。**多摩・島しょ**の自然等を生かしたスポーツイベントなど、**企業や関係団体等と連携**を図りながら、**魅力あるスポーツイベント**を開催していくことが重要です。

- **国際スポーツ大会**や、多くの人に参加してもらえる**スポーツイベント**の開催を通じて、**東京の魅力**を発信するとともに、スポーツを通じた**にぎわい創出**につなげていきます。



## 施策① 都内各地でスポーツイベントを開催し、都市に活力をプラス

### 具体的な取組

#### ▶東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを通じた主な取組

##### 東京2025世界陸上の開催支援

東京2025世界陸上の開催に向けて、大会の招致主体である（公財）日本陸上競技連盟や、運営組織である（公財）東京2025世界陸上財団などの関係者と連携し、大会の準備・運営に協力していくとともに、大会を通じて、スポーツを楽しむ機会の創出、東京の魅力発信、子供たちへの参画機会の提供などの取組を進めます。



東京2025世界陸上大会ロゴ

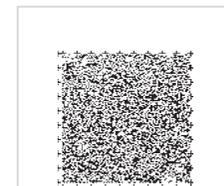
##### 東京2025デフリンピックの開催支援

東京2025デフリンピックの開催に向けて、大会の招致主体である（一財）全日本ろうあ連盟などの関係者と連携し、大会の準備・運営に協力していくとともに、大会を通じて、あらゆる人が協働した大会運営、情報保障の充実や円滑なコミュニケーションのサポート、共生社会への理解促進などの取組を進めます。



東京2025デフリンピック  
大会エンブレム

▶関連ページ P.284



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱3 スポーツでにぎわう

#### 施策① 都内各地でスポーツイベントを開催し、都市に活力をプラス

##### ▶東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを通じた主な取組

##### ビジョン2025の実現に向けた取組

両大会を通じて東京都が目指す姿をまとめた「ビジョン2025」に基づき、様々な取組を展開することで、大会を盛り上げるとともに、大会後のレガシーを創出していきます。



ビジョン2025

##### 大会の気運醸成

スポーツのすばらしさ、多様な価値観を認め合う共生社会の大切さなど、両大会に共通するメッセージを、関係機関と連携して一体的に発信するとともに、節目の機会を捉えて様々な取組を展開することで、都民の関心と期待感を高め、大会の成功につなげていきます。

また、区市町村の協力を得て各種イベントで大会情報を発信するとともに、区市町村が独自に気運醸成に資する事業を実施できるよう支援を行い、連携して開催気運を高めていきます。

▶ 関連ページ P.284



きこえる・きこえないにかかわらずスポーツを通して交流

##### 大会における子供の参画

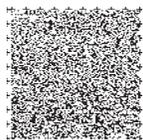
大会関連イベントでのスポーツ体験やアスリートとの交流など、子供たちがスポーツのすばらしさを体感できる取組を実施するとともに、子供たちの意見を具体化し大会運営に反映するほか、デフスポーツやきこえない・きこえにくい人の文化について学ぶ機会を提供します。

大会時には、エスコートキッズやメダルセレモニーなど、大会にとって大切な役割に子供たちが参画し、大会の一員として活躍します。

また、都内や被災地の子供たちが会場で観戦する機会を設けます。



子供たちによる東京2025デフリンピック大会エンブレムデザイン投票時の集合写真



## ユニバーサルコミュニケーションの促進

東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを契機に、国籍や障害の有無にかかわらず、スムーズなコミュニケーションを実現するため、大会に向けて、各種イベントへの出展やスタートアップ等との協働による技術開発を進めるとともに、都有施設の窓口や大会時の競技会場での技術活用を促進します。また、両大会における技術活用やショーケース等を国内外へ広くPRしていきます。

▶ 関連ページ P.183

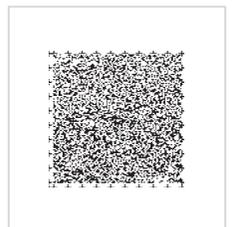


競技音を音やエフェクトで可視化するシステム「ミルト」

## 国際スポーツ大会におけるガバナンス確保の取組

東京都の「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」や国の「大規模な国際又は国内競技大会の組織委員会等のガバナンス体制等の在り方に関する指針」等を踏まえ、東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの大会運営組織におけるガバナンス確保に向けた取組状況等について、有識者会議において確認、意見交換を行うなど、国際スポーツ大会におけるガバナンス確保の取組を進めます。

▶ 関連ページ P.250



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱3 スポーツでにぎわう

#### 施策① 都内各地でスポーツイベントを開催し、都市に活力をプラス

##### ▶東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを通じた主な取組

##### デフアスリートやデフ競技団体の活動支援

東京2025デフリンピックに向け、デフスポーツの競技力を向上させるとともに、都民のデフスポーツへの関心を高めることを目的として、JPCに加盟するデフスポーツNF等が都内で実施する強化合宿や普及啓発活動等を後押しします。

また、デフリンピック等の出場を目指す東京にゆかりのある選手の競技活動に係る経費を支援します。

##### 最新の技術を活用し、重度障害などがある人も大会へ参画

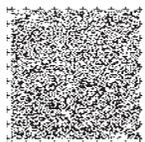
東京2025世界陸上・東京2025デフリンピック開催期間において、会場等に分身ロボットを配置し、福祉施設等から操作用タブレットを用いて遠隔操作することで、外出困難な重度の障害のある人等に会場との交流や観戦を通じて大会に参画する機会を提供します。



分身ロボットを通じて遠隔地から会場と一体となって試合観戦

##### 誰もが利用しやすい施設環境の整備推進

東京2025デフリンピック会場における光警報装置等のアクセシビリティ設備を導入するなど、誰もが利用しやすい施設に向けた取組を推進します。



▶関連ページ

P.226

## 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックに向けた文化プログラム

東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックに向け、東京2020大会の文化プログラムのレガシーを継承・発展させた新たな取組として、三つのアートプロジェクトを展開するとともに、芸術文化へのアクセシビリティ向上に取り組みます。東京の持つ芸術文化の魅力発信や共生社会の実現に向けた歩みを進めるとともに、両大会を盛り上げます。



TOKYO わっしょい

## ▶国際スポーツ大会に対する取組

### 国際大会誘致・調査支援、開催支援

東京のスポーツ振興及び都市のプレゼンスの一層の向上を図るため、都内で国際スポーツ大会の開催を目指す競技団体等に対し、誘致・調査活動及び開催を支援します。



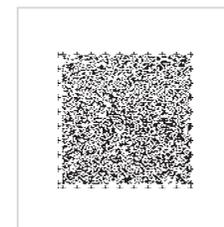
国際スポーツ大会の開催支援

### 国際大会の誘致に向けた海外発信

国際スポーツ大会の更なる誘致に向け、東京のスポーツ資源と都市の魅力を紹介するPRツールを活用し、ウェブサイトやスポーツ関係者が集まる国際会議等で発信します。



国際大会の誘致に向けた海外発信  
キービジュアル



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱3 スポーツでにぎわう

#### 施策① 都内各地でスポーツイベントを開催し、都市に活力をプラス

##### ▶国際スポーツ大会に対する取組

##### 都内におけるパラスポーツ国際大会の開催促進

都民により多くのパラスポーツの観戦機会を提供し、魅力を知っていただくため、都内でパラスポーツ国際大会の開催を目指す競技団体等に支援を行います。

▶関連ページ P.168,221



三井不動産 車いすラグビー SHIBUYA CUP 2024

##### 東京2020大会のレガシーを継承する取組

東京2020大会におけるメダル、聖火リレーのトーチ等の記念品や記録等のアーカイブ資産について、適切に保存・管理、利活用し、大会の意義や感動を確かなレガシーとして、将来に引き継いでいきます。また、第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）の競泳・飛込と馬術の会場が都内2会場（東京アクアティクスセンター、JRA馬事公苑）になることから、東京2020大会の経験を活かしていきます。

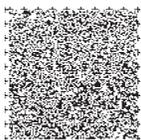
▶関連ページ P.286



都庁舎での東京2020大会アーカイブ展示

##### 国際スポーツ大会の経験をレガシーとして活用したスポーツ大会の運営支援

国際スポーツ大会の開催経験等を活用し、（公財）東京都スポーツ文化事業団と連携・協力しながら、国際スポーツ大会の準備・運営に支援を必要とする競技団体等に対し、知見や資料の提供などを通じた支援の仕組みを具体化していきます。



## Japan Sports Journeyにおける情報発信

国内で実施される国際スポーツ大会の機会を活用し、東京以外の会場も含めた各地の観光情報などを発信します。

### ▶ねんりんピックの東京開催に向けた取組

#### ねんりんピックの東京開催に向けた取組

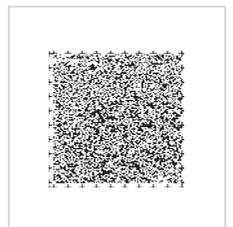
令和10（2028）年に東京で開催される第39回ねんりんピックに向け、区市町村をはじめ関係者と連携し、準備を進めていきます。

▶関連ページ P.279

#### 区市町村スポーツ推進補助事業

急速な高齢化やデジタル化等、スポーツを取り巻く環境が変化する中、誰もがスポーツを「楽しみ」、スポーツを行う「人」が輝くスポーツ振興を実現するため、身近な場でスポーツができる環境の拡大やパラスポーツの普及、令和10（2028）年の第39回ねんりんピックの気運醸成に向けたシニアスポーツ振興の取組など区市町村が実施するスポーツ振興事業に対して補助を行います。

▶関連ページ P.133,166,189,214,277,279



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱3 スポーツでにぎわう

#### 施策① 都内各地でスポーツイベントを開催し、都市に活力をプラス

##### ▶東京マラソンをはじめとする、東京を活性化させるスポーツイベント等の展開

##### 東京マラソンの開催支援

東京の魅力を国内外に発信するとともに、スポーツ振興や地域活性化の契機とすることを目的に、国内外からのランナーをはじめ、ボランティアや沿道の観衆など多くの人々が参加し、「東京がひとつになる日。」として、（一財）東京マラソン財団との共催により東京マラソンを開催します。



©東京マラソン財団

東京マラソン2025 メインビジュアル

##### ランナー応援イベントの開催

東京マラソンを「単なる大規模マラソンにとどめることなく、東京の魅力を世界に発信できる祭典にしていく」という理念の下、東京マラソンの開催に合わせ、地域の人々が参画したコース沿道応援イベント、メイン会場イベントを展開します。



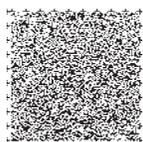
コース沿道からランナーを応援

##### 東京レガシーハーフマラソンの開催支援

東京2020大会のレガシーを末永く残していけるよう、パラリンピックマラソンコースを活用した「東京レガシーハーフマラソン」を、（一財）東京マラソン財団との共催により開催します。



©東京マラソン財団  
東京レガシーハーフマラソン2023 フィニッシュ



## 東京レガシースタジアムの開催

東京レガシーハーフマラソンの開催趣旨に合わせて、東京のスポーツ文化を「レガシー」として次世代へ継承するために、スポーツ経験や年齢、性別、障害の有無にかかわらず、誰もが楽しめるイベントを開催します。



©東京マラソン財団

東京レガシースタジアム

## GRAND CYCLE TOKYOの推進

環境に優しく、健康にも良い自転車を更に身近なものとするため、「GRAND CYCLE TOKYO」プロジェクトとして、様々な自転車に関するイベント等を進めます。

東京2020大会で様々な競技が開催された臨海部では、そのレガシーを継承し、自転車ライドイベントの「レインボーライド」、子供から大人まで様々なスポーツ体験が楽しめるイベント「マルチスポーツ」を開催します。

また、多摩地域においては、東京2020大会の自転車ロードレースが開催されたことから、そのレガシーを未来につなぐため、自転車ロードレース「THE ROAD RACE TOKYO」などを開催します。



THE ROAD RACE TOKYO

▶関連ページ P.285

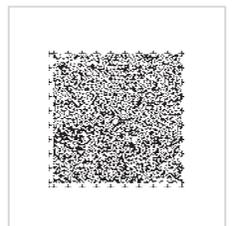
## パラスポーツ普及啓発プロジェクト「TEAM BEYOND」

次代を担う子供たちが、楽しみながらパラスポーツの魅力を体感できるイベント「BEYOND STADIUM」を開催します。イベントでは、障害のある人となない人がパラスポーツの真剣勝負を通じて交流し、相互理解につなげるためのポッチャ大会も実施します。

▶関連ページ P.128,131,165,168,169,220,221,244



BOCCIA BEYOND CUP



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱3 スポーツでにぎわう

#### 施策① 都内各地でスポーツイベントを開催し、都市に活力をプラス

##### ▶ 多様なスポーツイベントの開催

##### スポーツの日記念イベントの開催

スポーツの場を東京の至る所に拡げることを目的に、誰もが気軽に参加できるスポーツイベントを開催します。

▶ 関連ページ P.131,285

##### TOKYO ROKUTAI FESの開催

6時間耐久リレーマラソンやランニングイベントなど、既存のランナーだけでなく、これからランニングやスポーツを始めたい人など多くの人に参加できるランニングフェスを開催します。

また、ランニングの楽しさを再発見し、仲間や家族とともにスポーツに親しむ場を提供します。

##### ウォーキングイベントの開催

都内の名所を巡る「TOKYOウォーク」をはじめ、大腸がん検診普及のための「Tokyo健康ウォーク」、水道水源等への理解を深める「玉川上水ウォーキング」など様々な切り口で、楽しみながら都内を歩くことのきっかけを創出していきます。

▶ 関連ページ P.131,285

##### 東京2020大会レガシー継承事業

JOC、JPC及び競技団体と連携して、東京2020大会のレガシーを着実に継承するためのイベントを開催します。

▶ 関連ページ P.132



スポーツフェスタ2024



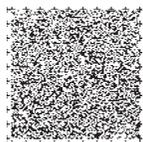
TOKYO ROKUTAI FES



TOKYOウォーク2024



東京2020大会メモリアルデーイベント



## パラスポーツメモリアルイベントの開催

パラリンピックやデフリンピックを記念したメモリアルイベントを開催し、デフスポーツを含むパラスポーツの関心を一層高めていくとともに、スポーツの魅力発信やスポーツを通じた相互理解を促進し、共生社会の実現につなげていきます。

▶ 関連ページ P.165



パラ競技デモンストレーション

## プロスポーツチーム等との連携

スポーツの楽しさやスポーツを始めるきっかけを醸成するため、プロスポーツチーム等と連携し、東京都とプロスポーツチーム等双方の強みを生かした事業を実施します。

▶ 関連ページ P.131,243



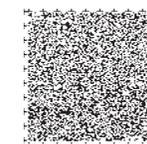
プロスポーツチーム等との連携事業

▼  
フィルム  
COLUMN



## TOKYO UNITE

TOKYO UNITEとは、東京をホームタウンとする15のスポーツチーム・団体が協力し合い、新たな価値を生み出すプロジェクトであり、「一人でも多くの子どもたちにスポーツをする機会と、無限の可能性を提供」することや、「東京を世界でもっともエネルギーに満ちた都市」にすることを目標として活動しています。東京のスポーツ観戦をより楽しいものにするために、チーム同士のコラボレーションや共同でのプロモーションにより、ファンが通年でスポーツを楽しめる環境づくりを行ったり、スポーツの体験イベントなどを開催し、子どもたちがスポーツをできる環境、機会を広げたりしています。東京都が取り組む「こどもスマイルムーブメント」にも参画をしています。



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱3 スポーツでにぎわう

#### 施策① 都内各地でスポーツイベントを開催し、都市に活力をプラス

##### ▶ 多様なスポーツイベントの開催

##### 都立スポーツ施設を活用したスポーツイベント等の展開

多様な特性を持つ都立スポーツ施設の強みと各施設管理者のノウハウを最大限生かし、スポーツ振興のための様々なイベントやアクティビティ等について、多様なメニューを展開し、スポーツを通じた都民のウェルビーイングの向上に貢献していきます。

▶ 関連ページ P.132,224

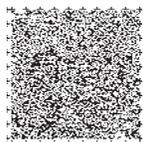


東京体育館での  
車いすバスケットボール体験会

##### 多彩なスポーツの取組を通じた交流機会の提供

スポーツと多様な分野（音楽、食事など）を掛け合わせたバラエティに富んだ取組やスポーツ観戦、社会参加の情報発信等を通じてスポーツを楽しんでもらえるよう、地域や関係団体等と連携し、検討していきます。

▶ 関連ページ P.132,189



## ▶多摩・島しょの自然等を活用したスポーツの振興

### 東京の自然を満喫できるウォーキングマップ等の利用促進

史跡等の名所を巡りながら都内の自然を満喫できる様々なウォーキングマップ等を、区市町村と連携しながら作成し、都民に積極的に利用してもらえるよう、東京都のポータルサイトにおいて幅広く発信していきます。



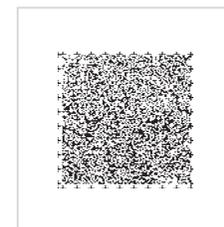
### 誰もが訪れる自然公園の実現

都内の自然公園を、自然を守るだけでなく、自然についての知識を深めたり、健康やレクリエーションのために自然と触れ合う場として都民に利用してもらえるよう、ビジターセンターの機能強化やウェブサイト等の活用により情報を発信していきます。

また、高齢者や障害のある人なども含め内外の多くの人々が訪れやすくなるよう、登山道の整備やトイレの洋式化、多言語対応の推進などにより、安全・安心・快適な利用環境を確保します。



ウェブサイトによる情報発信



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱3 スポーツでにぎわう

#### 施策① 都内各地でスポーツイベントを開催し、都市に活力をプラス

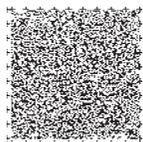
##### ▶多摩・島しょの自然等を活用したスポーツの振興

##### 「たまリバー50キロ」の利用促進

多摩川の河川敷等を利用して、ウォーキング、ランニング、散策が楽しめるコース「たまリバー50キロ」について、国や区市と連携し、コースへアクセスする最寄駅を追加した案内マップの配布を行うなどの利用促進を図ります。

##### 島しょ地域の観光振興への支援

島しょ地域において、各島がその個性的な魅力を生かして主体的に取り組むサーフィン大会などの観光振興事業に対して支援を行います。





## 施策②

### 住み慣れた地域でのスポーツをサポート

#### 現状と課題

##### 地域におけるスポーツの担い手との連携

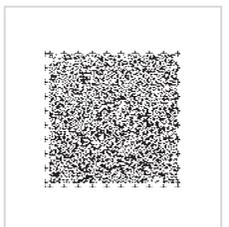
地域スポーツクラブは、地域住民が主体的に運営し、子供から高齢者、障害のある人を含め、誰もが身近にスポーツに親しむことができる場であるとともに、地域コミュニティの役割も期待されるものであり、地域スポーツの推進に欠くことのできない存在です。

また、スポーツ推進委員も各区市町村のスポーツ振興の重要な担い手です。

その他、地区体育・スポーツ協会やスポーツ少年団をはじめ、地域におけるスポーツ関係団体等の様々な資源と連携し、都民が身近な地域でスポーツ活動ができる機会を確保していくことが必要です。

#### 今後の方向性

- 地域スポーツクラブやスポーツ関係団体等と連携し、身近な地域でのスポーツの機会の充実を図り、スポーツを通じて地域の活性化につなげていきます。



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱3 スポーツでにぎわう

#### 施策② 住み慣れた地域でのスポーツをサポート

##### 具体的な取組

##### ▶地域スポーツの推進

##### 地域スポーツクラブの設立・育成・運営支援

地域の日常的なスポーツ活動の場として、都民の誰もが参加できる地域スポーツクラブの設立と、安定した活動を支援します。

▶関連ページ P.239,288

##### 総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の運用

令和4（2022）年度から全国で開始となった「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度」について、東京都においても運用します。

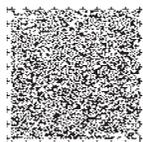
▶関連ページ P.239,288

##### 東京都地域スポーツクラブサポートネットによる情報提供

（公財）東京都スポーツ協会（T S P O）が運営している「東京都地域スポーツクラブサポートネット」において、地域スポーツクラブの設立及び活動を支援するための情報を提供するとともに、地域スポーツクラブについて詳しく知りたい方や、クラブに参加したい方に都内クラブの情報を提供していきます。



▶関連ページ P.139,239



## 登録クラブの活用促進

「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度」の普及啓発・理解促進及び登録クラブの活用促進のため、区市町村に対し研修会等を実施します。

▶ 関連ページ P.240,288

## スポーツ推進委員の役割や活動内容の紹介

スポーツ推進委員の役割や活動内容を広く都民に周知するため、各区市町村のスポーツ推進委員を「スポーツTOKYOインフォメーション」等で紹介します。

▶ 関連ページ P.240

## スポーツ推進委員研修会等の開催

地域におけるスポーツ推進委員活動の充実及び資質の向上並びに広域的な連携・協調を図ることで、都内の地域スポーツの振興に資する人材の育成を行います。

▶ 関連ページ P.235,240,287

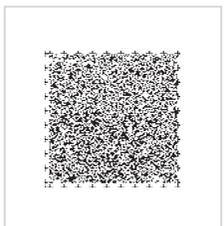
## 地域のスポーツ振興に向けた関係者会議

持続可能な地域におけるスポーツ環境を整備するため、会議を設置し、地域の実情に応じた新たな担い手の確保やスポーツ関係団体との連携、部活動の地域連携・地域移行に関すること等について議論します。

▶ 関連ページ P.242,288



東京都地域スポーツ支援研修会



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱3 スポーツでにぎわう

#### 施策② 住み慣れた地域でのスポーツをサポート

##### ▶ 地域スポーツの推進

##### 区市町村スポーツ推進補助事業

急速な高齢化やデジタル化等、スポーツを取り巻く環境が変化する中、誰もがスポーツを「楽しみ」、スポーツを行う「人」が輝くスポーツ振興を実現するため、身近な場でスポーツができる環境の拡大やパラスポーツの普及など区市町村が実施するスポーツ振興事業に対して補助を行います。

▶ 関連ページ P.133,166,189,203,277

##### パラスポーツ地域サポート事業

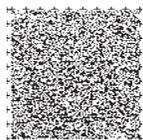
パラスポーツ事業のノウハウを持つアドバイザーが、区市町村や地域スポーツクラブ等を訪問し、事業の企画・実施を支援するほか、指導者等のコーディネートや用具の貸与を通じて、身近な地域でスポーツを楽しめる環境づくりを図ります。

また、区市町村間で現状の取組状況や課題についての意見交換、スポーツと医療・福祉等の他分野との連携事例の共有を行うパラスポーツ地域ブロック関係者連絡会議を実施します。

▶ 関連ページ P.134,170,282



パラスポーツ用具の貸出し



## 都立特別支援学校活用促進事業

障害のある人や障害者スポーツ団体等が身近な地域でスポーツ活動ができるよう、都立特別支援学校の体育施設をパラスポーツの拠点の一つと位置付け、学校教育活動に支障のない範囲で開放し、活用を促進します。

また、事業実施校において、障害の有無にかかわらず誰もが参加できるパラスポーツやスポーツ・レクリエーションの体験教室を実施します。

▶ 関連ページ P.135,141,171,229,281



体験教室（聴覚障害者卓球）

## 障害児・者の運動習慣定着支援事業

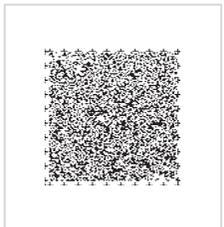
障害のある人が日中に滞在している福祉施設や放課後等デイサービスなどに指導者を派遣し、利用者の障害種別や程度等に応じた運動プログラムを定期的の実施することで、身体を動かすことの習慣化を図ります。

さらに、福祉施設等の近隣の体育館等でも運動プログラムを実施することで、地域の中で日常的に運動を楽しむきっかけを提供します。

▶ 関連ページ P.134,141,172,282



福祉施設内での運動プログラムの実施



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱3 スポーツでにぎわう

#### 施策② 住み慣れた地域でのスポーツをサポート

##### ▶ 地域スポーツの推進

##### 障害者のスポーツ施設利用促進事業

障害のある人が身近な地域のスポーツ施設をより安全で快適に利用できるようにするため、区市町村や民間のスポーツ施設において、施設管理者が配慮すべきポイントを掲載した「障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル」の活用を促進します。

また、区市町村スポーツ施設に対して、パラスポーツの専門知識を有するアドバイザーを派遣し、施設のニーズや状況に合わせて、障害のある人のスポーツ施設の利用促進に向けた支援を実施します。

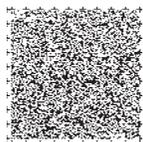
▶ 関連ページ P.135,171,229,281



##### TOKYOユニバーサルウォーキング普及事業

障害当事者等の意見も聞きながら都内各地域で選定してきたバリアフリーに配慮したウォーキングコースについて、多くの方に利用いただけるよう普及を図ります。あわせて、アプリを活用したキャンペーンを実施し、ウォーキングの継続的な実施につなげていきます。

▶ 関連ページ P.128,172,281



## パラスポーツセミナーの開催

区市町村職員やスポーツ推進委員、医療福祉関係者等を対象にセミナーを開催し、パラスポーツ事業実施のきっかけづくりや好事例の共有・普及を図り、身近な地域におけるパラスポーツ振興のキーパーソンの育成を図ります。

▶ 関連ページ P.174,235,283



パラスポーツセミナー

## 初級・中級パラスポーツ指導員養成講習会

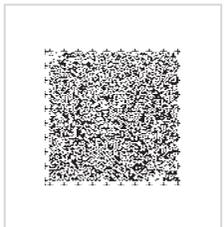
スポーツ推進委員や公立スポーツ施設職員等を対象に、JPSA公認初級パラスポーツ指導員養成講習会を開催し、地域のパラスポーツの現場で、障害のある人のスポーツ参加のきっかけ作りを支援する人材を育成・確保します。

また、初級パラスポーツ指導員を対象に、中級パラスポーツ指導員養成講習会を開催し、地域のパラスポーツ活動におけるリーダーとして、専門的な知識と技術、経験に基づきパラスポーツの普及振興を支える人材を育成・確保します。

▶ 関連ページ P.174,236,283



パラスポーツ指導員養成講習会



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱3 スポーツでにぎわう

#### 施策② 住み慣れた地域でのスポーツをサポート

##### ▶地域や経済の活性化に寄与した人・団体の顕彰

##### スポーツ功労者の顕彰

スポーツ・レクリエーションの普及・振興に関し、顕著な功労のあった人及び団体に対して表彰等を行います。

▶関連ページ P.236



令和6年度東京都スポーツ功労賞表彰式

##### 東京都スポーツ推進企業認定制度の運営

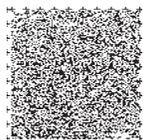
従業員のスポーツ活動を推進する取組や、スポーツ分野における社会貢献活動を実施している企業等を「東京都スポーツ推進企業」として認定し、特に先進的な取組等を行っている企業等を、「東京都スポーツ推進モデル企業」として表彰します。

また、推進企業の取組を広く発信し、より多くの企業に波及させるウェブサイトを経営するとともに、スポーツインストラクター等の派遣事業により、企業の取組を支援します。

▶関連ページ P.147,243



東京都スポーツ推進企業認定マーク





### 施策③

スポーツの魅力を発信し、  
スポーツを通じて感動を  
味わう

#### 現状と課題

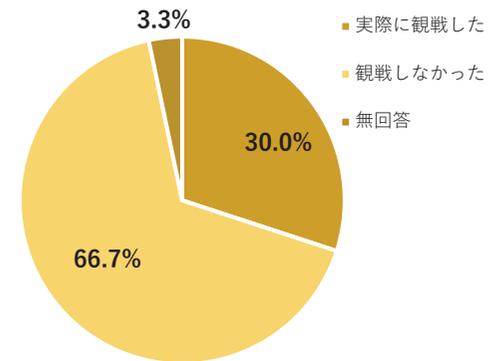
##### スポーツ観戦の効果

スポーツをみることには、**楽しみや喜び**を感じたり、**気分転換やストレス解消**といった効果があります。また、直接スタジアムなどへ出向いて観戦することによって、多くの**観客と興奮や感動を共有**することができます。さらに、入場料や飲食費、関連商品の売上げを通じて、**経済の活性化**にも寄与します。

##### スポーツ観戦した都民は30.0%

令和6（2024）年に実施した「都民のスポーツ活動に関する実態調査」によると、**スポーツを直接観戦した都民の割合は30.0%**とコロナ禍にあった令和3（2021）年の21.9%から**回復傾向**にあるものの、本計画における達成指標50%には及んでいません。スポーツの魅力を発信し、**都民のスポーツ観戦の機会を更に増やす**ための取組を進めていくことが重要です。

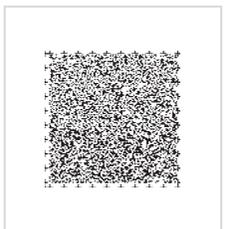
この1年間のスポーツ観戦の有無



図表出典：「令和6年度 都民のスポーツ活動に関する実態調査」（2025年3月、生活文化スポーツ局）を基に作成

#### 今後の方向性

- **様々なスポーツの魅力発信**や、都内で開催するスポーツイベント等を活用した**競技の観戦機会を創出**していきます。



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱3 スポーツでにぎわう

#### 施策③ スポーツの魅力を発信し、スポーツを通じて感動を味わう

##### 具体的な取組

##### ▶スポーツの魅力発信

##### スポーツTOKYOインフォメーションの運営

東京都のスポーツ情報サイト「スポーツTOKYOインフォメーション」を通じて、東京のスポーツイベント、大会観戦・応援情報、スポーツ施設や行政情報などを発信し、多くの人々にスポーツへの関心を高めてもらいます。

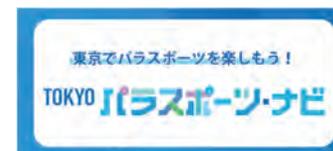
▶関連ページ P.127,133,165,243



##### パラスポーツ専門ポータルサイトTOKYOパラスポーツ・ナビの運営

障害のある人やパラスポーツを支える人を対象に、都内のパラスポーツイベント情報や、公共スポーツ施設のバリアフリー情報等を発信するスポーツ専門ポータルサイト「TOKYOパラスポーツ・ナビ」を運営します。

▶関連ページ P.127,133,165



##### 様々なスポーツ大会への支援

東京で開催される様々なスポーツの国際大会や国内大会について、必要に応じて東京都が共催又は後援等の手法により開催を支援します。



© WST Japan by World Skate

World Skateboarding Tour Tokyo Street  
2023 World Championship

##### パラスポーツ普及啓発プロジェクト「TEAM BEYOND」

東京2020パラリンピックで高まったパラスポーツへの関心や応援の気運を更に高め、レガシーとして未来につないでいくため、パラスポーツのファンやサポーターを増やし、パラスポーツが社会に根付いていくよう、SNS等を活用した情報発信や体験会の開催を行うなど、パラスポーツを身近に感じてもらうための総合的なプロジェクトを展開します。

▶関連ページ P.128,131,165,168,169,205,221,244



## ▶ 観戦機会の創出

### スポーツ大会への都民招待

主催者と連携を図りながら大規模スポーツ大会等やプロスポーツチーム等が主催する試合に都民を招待することにより、スポーツを実際にみる機会を創出します。

▶ 関連ページ P.189



### パラスポーツ普及啓発プロジェクト「TEAM BEYOND」

「TEAM BEYOND」のメンバーに、パラスポーツの国際大会等を会場で一体となって観戦・応援する機会を提供することで、競技や選手への関心をより深めてもらい、パラスポーツの理解促進につなげます。

▶ 関連ページ P.128,131,165,168,169,205,220,244



TEAM BEYOND観戦会

### 都内におけるパラスポーツ国際大会の開催促進

都民により多くのパラスポーツの観戦機会を提供し、魅力を知っていただくため、都内でパラスポーツ国際大会の開催を目指す競技団体等に支援を行います。

▶ 関連ページ P.168,202

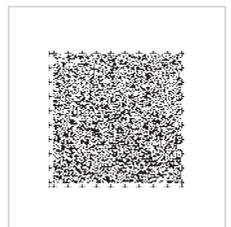
### TOKYOパラスポーツチャンネルの配信

都内やその近郊で開催される全国又は国際レベルのパラスポーツ大会をケーブルテレビ等で実況・解説付きで中継・配信し、競技を初めて観る人でも楽しく観戦できる機会を提供します。

▶ 関連ページ P.128,168



三井不動産 車いすラグビー SHIBUYA CUP 2024



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱4 スポーツを支える

#### 目指す政策効果

- 地域等でスポーツの担い手が活躍し、持続可能なスポーツの地盤を構築
- 安全・安心・信頼の下、いつまでもスポーツを楽しめるサステナブルな社会に貢献

#### 施策



施策

#### ① 様々な価値を創出するスポーツ環境の整備・運営や、環境に配慮した施設・大会運営

- ▶ 都立スポーツ施設の整備・運営、都内のスポーツ環境の整備、環境に配慮した施設・大会運営



施策

#### ② 多様な主体と連携し、スポーツを支える人材の裾野を広げる・磨く

- ▶ スポーツを支える人材の確保・育成・活動支援、多様なスポーツを支える基盤づくり、地域におけるスポーツ活動の推進、民間企業とともに取り組むスポーツ活動



施策

#### ③ 安全・安心なスポーツ、信頼されるスポーツ大会の実現

- ▶ スポーツによる事故防止等の推進、暑さ対策、スポーツ・インテグリティの強化、大会のガバナンスの確保

#### 達成指標

都立スポーツ施設が果たしている役割に「満足」と答えた都民（18歳以上）の割合



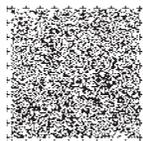
1年間にスポーツを支える活動を行った都民（18歳以上）の割合



スポーツ指導者数



※「スポーツ指導者数」とは、（公財）日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者認定者数、（公財）日本レクリエーション協会の公認指導者登録者数及び（公財）日本パラスポーツ協会公認指導者登録者数を合算しています。





## 施策①

# 様々な価値を創出する スポーツ環境の整備・ 運営や、環境に配慮した 施設・大会運営

### 現状と課題

#### 東京のスポーツインフラのポテンシャルを最大化

東京2020大会を契機に、都立スポーツ施設の整備や、身近なスポーツの場の整備が進み、東京のスポーツインフラはバージョンアップしました。都立スポーツ施設を適切に管理運営し、利用促進を図るとともに、各施設の特性を生かし多様な価値を提供することで、これらの施設が持つポテンシャルを最大限発揮していくことが求められています。

また、老朽化した施設の改修のほか、誰もが利用しやすい施設に向けた取組が求められています。

#### スポーツを身近でできる場の確保

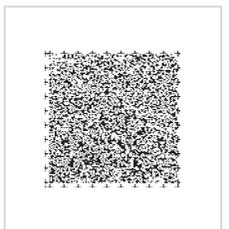
都民が身近な場所でスポーツを実施できる場を確保していくためには、区市町村のスポーツ施設についても有効活用が図られるよう、区市町村と連携していく必要があります。加えて学校等が所有しているスポーツ施設を有効活用していくことも必要です。

#### 環境に配慮した施設・大会運営

持続可能な社会の実現に寄与するため、施設運営や大会運営において環境に配慮した取組が重要です。

#### 今後の方向性

- スポーツ施設等の整備・運営やデジタル技術の活用を通じて、スポーツ実施を支える環境の更なる充実を図っていくとともに、多様な価値を提供し、都民のウェルビーイング向上に寄与していきます。
- 身近な場所でスポーツに親しめるよう、スポーツの場の確保を一層促進していきます。



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱4 スポーツを支える

#### 施策① 様々な価値を創出するスポーツ環境の整備・運営や、環境に配慮した施設・大会運営

##### 具体的な取組

##### ▶ 都立スポーツ施設の管理運営

##### 都立スポーツ施設の管理運営

都立スポーツ施設について、各施設の強みや民間事業者のノウハウ等を活用することで、スポーツやエンターテインメントなど多様な価値を提供していきます。

▶ 関連ページ P.280,286

##### 東京辰巳アイスアリーナの開業・運営

令和7（2025）年9月に開業する東京辰巳アイスアリーナは、都立初の通年アイスリンク施設として国際大会を含む競技大会や競技力向上の場として活用するとともに、都民が気軽に利用できる施設として、氷上スポーツの裾野を広げ、広く親しまれる施設を目指していきます。

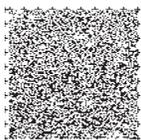


東京辰巳アイスアリーナ ※令和7（2025）年9月開業予定

##### 都立スポーツ施設を活用したスポーツイベント等の展開

多様な特性を持つ都立スポーツ施設の強みと各施設管理者のノウハウを最大限生かし、スポーツ振興のための様々なイベントやアクティビティ等について、多様なメニューを展開し、スポーツを通じた都民のウェルビーイングの向上に貢献していきます。

▶ 関連ページ P.132,208



東京体育館での車いすバスケットボール体験会

## 都立スポーツ施設の戦略的活用

企業などへのアプローチにより「TOKYOスポーツ施設コンシェルジュ」の発信力を強化し、18施設の一体的なプロモーションを実施するとともに、スポーツ中継の配信や人気コンテンツとのコラボ企画の展開など、多様なコンテンツの提供を通じて、18施設の認知度向上・利用促進につなげていきます。



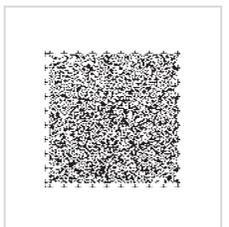
▶ 関連ページ P.286

## 広域避難先、一時滞在施設等としての役割

都立スポーツ施設は、自治体の要請や施設の特性に基づいて、広域避難先や一時滞在施設等に指定されています。災害時は地域の防災拠点としての役割を果たし、地域の安全・安心に貢献します。



東京体育館における備蓄品



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱4 スポーツを支える

#### 施策① 様々な価値を創出するスポーツ環境の整備・運営や、環境に配慮した施設・大会運営

##### ▶ 都立スポーツ施設の整備

##### 都立スポーツ施設の大規模改修

都立スポーツ施設について、老朽化した施設の改修、ユニバーサルデザインの導入、環境負荷の一層の低減等の取組を計画的に進め、施設の機能性や利便性を高めていきます。

▶ 関連ページ P.182

##### 誰もが利用しやすい施設環境の整備推進

「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」や、東京2025デフリンピックを契機に整備を進めたアクセシビリティ設備のノウハウを、今後の大規模改修等にも反映します。

▶ 関連ページ P.200

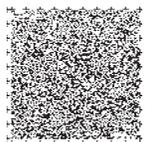
##### 多言語対応の推進

誰もが暮らしやすい社会の実現に向けて、外国人も安心して都立スポーツ施設を利用できるよう、各施設における多言語対応を推進していきます。

▶ 関連ページ P.183



アクセシビリティ設備の例  
(光警報装置)



## ▶ スポーツを身近でできる場の確保

### 区市町村等のスポーツ施設の整備支援

区市町村のスポーツ環境の拡充に向け、ユニバーサルデザイン化の推進、暑さ対策、学校施設の市民開放などの施設の改修整備に係る取組を支援します。

▶ 関連ページ P.182,277

### スポーツ案内サイト「SPOPITA」の運営

公民含めた3,000を超える都内のスポーツ施設について、検索の利便性の向上や、各施設情報・予約方法等の紹介により、施設を利用しやすい環境を整備していきます。

▶ 関連ページ P.127

### 継続的なスポーツ機会の創出・提供

デジタル技術等を活用し、これまではスポーツの場として使用されていない場所や空間を新たなスポーツの場として創出します。

また、チームや学校等の所属にとらわれず、多様なスポーツを気軽に実施できる場所を増やすため、多様な主体と連携して切れ目のないスポーツ参加機会を提供していきます。

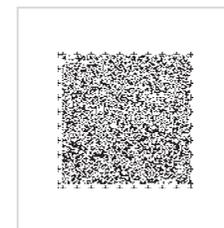
▶ 関連ページ P.142

### 都内公立学校体育施設の開放

学校教育活動に支障のない範囲で、都立学校の体育施設を広く開放し、都民のスポーツ活動の振興に資するとともに、地域に開かれた学校づくりを促進していきます。

なお、公立小・中学校の開放については、設置者である区市町村が、各教育委員会の判断の下、実施していきます。

▶ 関連ページ P.135



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱4 スポーツを支える

#### 施策① 様々な価値を創出するスポーツ環境の整備・運営や、環境に配慮した施設・大会運営

##### ▶スポーツを身近でできる場の確保

##### 都立公園のスポーツ施設における利用時間及び利用日の拡大

都立公園のスポーツ施設において、都民の利用機会の向上を図るため、年末利用日を拡大するとともに、通年の夜間利用の実施を継続していきます。

▶関連ページ P.136



都立公園のスポーツ施設における利用時間の拡大

##### 都立公園陸上競技場の改修

より多くの方が気軽にスポーツに親しめるよう、都立公園陸上競技場などの施設改修を実施します。

##### ウォーキング環境の整備

河川沿いの通路整備や隅田川テラスにおけるウォークアブルな水辺空間の創出を図るとともに、海上公園内にウォーキングルート等を整備し、仕事帰りや休日にスポーツを楽しむことができる環境を整備していきます。

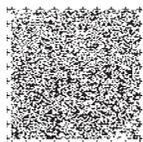
▶関連ページ P.136



新木場緑道公園

##### スポーツ拠点の整備と活用

既存施設の活用を進めるとともに、神宮外苑地区においては、民間事業者が主体となり、多様な人が利用できる施設や空間を新たに創出することで、誰もが日常的にスポーツに親しめる環境の形成を目指します。



## ▶ パラスポーツを身近でできる場の確保

### 障害者のスポーツ施設利用促進事業

障害のある人が身近な地域のスポーツ施設をより安全で快適に利用できるようにするため、区市町村や民間のスポーツ施設において、施設管理者が配慮すべきポイントを掲載した「障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル」の活用を促進します。

また、区市町村スポーツ施設に対して、パラスポーツの専門知識を有するアドバイザーを派遣し、施設のニーズや状況に合わせて、障害のある人のスポーツ施設の利用促進に向けた支援を実施します。

▶ 関連ページ P.135,171,216,281



### 都立特別支援学校活用促進事業

障害のある人や障害者スポーツ団体等が身近な地域でスポーツ活動ができるよう、都立特別支援学校の体育施設をパラスポーツの拠点の一つと位置付け、学校教育活動に支障のない範囲で開放し、活用を促進します。

また、事業実施校において、障害の有無にかかわらず参加できるパラスポーツやスポーツ・レクリエーションの体験教室を実施します。

▶ 関連ページ P.135,141,171,215,281



体験教室（車いすテニス）

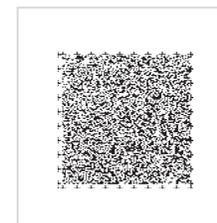
### 障害者スポーツセンター、パラスポーツトレーニングセンターの運営

都内に2か所ある障害者スポーツセンターにて障害のある人へスポーツ・レクリエーション活動の場を提供するとともに、パラスポーツトレーニングセンターにてパラスポーツの競技力向上の場を提供するなど、パラスポーツの普及振興を図ります。

▶ 関連ページ P.172,280



東京都障害者総合スポーツセンター



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱4 スポーツを支える

#### 施策① 様々な価値を創出するスポーツ環境の整備・運営や、環境に配慮した施設・大会運営

##### ▶環境に配慮した施設・大会運営

##### 都立スポーツ施設における環境配慮の取組

都立スポーツ施設では、環境配慮の取組として、設備の高効率化による施設の省エネルギー化や太陽光発電等の再生可能エネルギー設備、電気自動車等のための充電設備の整備を実施しています。持続可能なスポーツ環境の実現に向けて、環境負荷の低減に取り組めます。

##### 大会時における環境先進技術の活用・発信

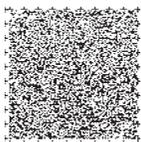
東京2025世界陸上開催時、会場周辺における次世代型ソーラーセルの活用や、廃食用油回収キャンペーン展開によるSAF（持続可能な航空燃料）のPR実施など、環境先進技術の活用・発信に取り組んでいきます。

##### 大会時における環境への配慮

東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを環境に配慮したエコでコンパクトな大会にするため、省エネルギーの徹底や3Rの推進などに取り組むとともに、それらの取組を広く国内外へ発信していきます。



東京アクアティクスセンターに設置された太陽光発電パネル





## 施策②

### 多様な主体と連携し、 スポーツに関わる人材の 裾野を広げる・磨く

#### 現状と課題

##### スポーツを支える活動とは

スポーツを支える活動には様々なものがあります。  
 (1) **スポーツ指導者**（コーチ、監督、インストラクター等）として選手の育成や参加者の指導等を行う、  
 (2) **審判員**として競技の進行や判定を行う、  
 (3) **地域のスポーツクラブ**や**スポーツ教室**の運営等を行う、  
 (4) **保護者**として子供たちのスポーツ活動の見守りや送迎等を行う、  
 (5) **スポーツボランティア**としてスポーツイベントの運営等をサポートする、  
 (6) **募金**や**チャリティ**を通じてスポーツ活動を支える、  
 (7) **サポーター**として選手やチームを応援する、  
**これらは全てスポーツを支える活動です。**

スポーツを支える活動は、選手と同じように**感動**や**興奮**を得ることができるとともに、**選手や他の支える人と強固な関係を築く**ことができ、何よりも選手の勝利や大会の成功に寄与したという**誇り**を感じられるものです。

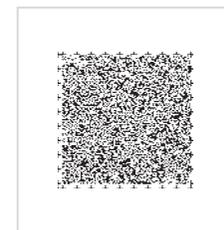
また、様々な**スポーツ指導者資格**の中から自らに合った資格を取得し、**指導者としてレベルを高め**ていくなど、活動の深化を通じて**自己実現**にもつながります。

##### スポーツを支える人材の確保と質の向上

令和6（2024）年に実施した「都民のスポーツ活動に関する実態調査」によると、**スポーツを「支える」活動を実施した都民の割合は17.3%**と横ばいの状況です。

また、競技団体（J S P O加盟N F・準加盟団体）に対し、競技における審判・競技スタッフ・指導者などの人材確保上の課題を尋ねた調査結果\*によると、多くの団体が**高齢化**とそれに伴う**若い世代の確保**を挙げています。高齢化などの社会状況に対応し、**スポーツを支える人材の確保や質の向上**を図っていくことが重要です。

\*「競技大会を支える人材とその活用状況に関する調査報告書」（2019年10月、（公財）日本スポーツ協会、（公財）笹川スポーツ財団）参照

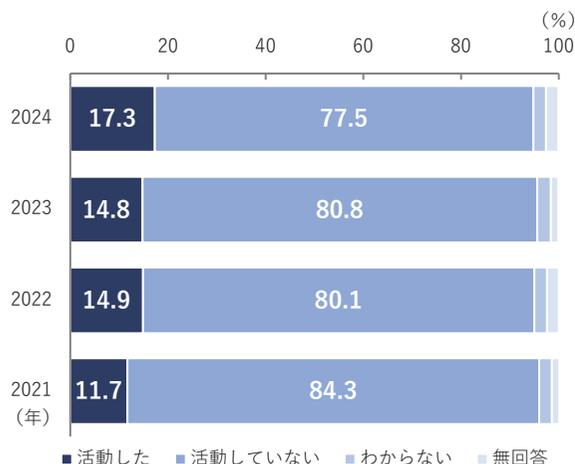


## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱4 スポーツを支える

#### 現状と課題

この1年間に関わったスポーツを支える活動の有無



※『活動した(計)』は「活動していない」「わからない」以外の選択肢を選んだ人の割合  
 図表出典：「都民のスポーツ活動に関する実態調査」（生活文化スポーツ局）

#### 地域におけるスポーツ活動

地域におけるスポーツ活動を推進していくことは、**都民のスポーツ活動の習慣化**につながるだけでなく、**人と人との交流を促進し、地域の活力を醸成**していくことにもつながります。

しかし、多くの競技団体や地域スポーツクラブなどスポーツを支える地域の団体・組織は、**高齢化**や**人材不足**、**組織体制のせい弱さ**など課題を抱えているのが現状です。それぞれの団体・組織が、その役割を十分に果たせるよう、**組織基盤を確立・強化するための取組を支援**していくことが重要です。

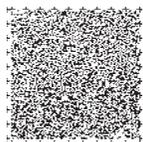
また、**部活動の地域連携・地域移行の進展**に伴い、**地域におけるスポーツ実施体制の構築**が急務です。

#### 民間企業とともに取り組むスポーツ活動

令和6（2024）年に実施した「都民のスポーツ活動に関する実態調査」によると、**20代から40代の「働き盛り世代」のスポーツ実施率は、他世代と比べて低くなっています。**職域でのスポーツ実施のための取組のほか、スポーツ振興に向けて民間企業の積極的な参画を促すことも重要です。また、都民の「みる」「応援する」というスポーツへの関わり方を支援していくために、**プロスポーツチームなどとの連携**も重要です。

#### 今後の方向性

- **スポーツを支える担い手の高齢化**や**部活動の地域連携・地域移行の社会状況の変化**に対応するため、**担い手の確保・育成**や**地域におけるスポーツ活動への支援、団体基盤の強化**等を図っていきます。
- スポーツの「する・みる・支える・応援する」を一層促進するため、スポーツ振興の取組に**民間企業の積極的な参画**を促します。



## 施策② 多様な主体と連携し、スポーツに関わる人材の裾野を広げる・磨く

### 具体的な取組

#### ▶ ボランティア活動の支援

#### スポーツイベントにおける活動機会の提供

東京2020大会を契機に高まったボランティア気運を大会後も着実に維持・継続するため、競技団体等が実施する大会やイベントにおける活動機会を提供します。

さらに、東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックのボランティアに対しても、情報ポータルサイトへの登録を促し、活動機会の提供を図ることで、ボランティア文化の定着を一層促進します。

#### パラスポーツ人材の活動活性化事業

パラスポーツボランティアポータルサイト「TOKYO 障スポ&サポート」を通じて、ボランティア人材にイベント等の情報を提供し活動機会の拡充を図ります。あわせて、ボランティア活動に役立つ学びの場として、講習会の実施や、e-learning講座の発信などを行い、活動を促進します。

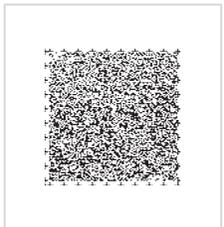
▶ 関連ページ P.175,236



東京2020大会時の学校連携観戦におけるボランティア活動



ボランティア講習会



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱4 スポーツを支える

#### 施策② 多様な主体と連携し、スポーツに関わる人材の裾野を広げる・磨く

##### ▶ ボランティア活動の支援

##### ボランティア文化定着に向けた取組

東京ボランティアレガシーネットワーク（事務局：（公財）東京都つながり創生財団）を運営し、ボランティアの募集情報や読み物記事等を通じてスポーツをはじめとする幅広い分野のボランティア情報を発信するほか、登録者同士が交流できる場を創出しています。

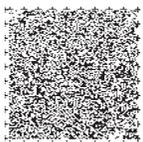
また、イベントや活動分野別のセミナーを開催し、機運醸成を図っています。

これらの取組を通じ、ボランティアの裾野拡大や活動の継続拡大を進めていきます。



##### 東京都立大学におけるボランティア活動の支援

東京都立大学ボランティアセンターにおけるボランティア活動の支援等、次世代を担う若い世代がボランティア活動を体験し、貴重な経験を得ることができるよう取組を推進していきます。



## ▶ 地域スポーツやパラスポーツを支える人材育成・顕彰

### スポーツ推進委員研修会等の開催

地域におけるスポーツ推進委員活動の充実及び資質の向上並びに広域的な連携・協調を図ることで、都内の地域スポーツの振興に資する人材の育成を行います。

▶ 関連ページ P.213,240,287



東京都地域スポーツ支援研修会

### 生涯スポーツ担当者研修会の開催

生涯スポーツ社会の実現に資することを目的として、生涯スポーツに関する行政及びスポーツ団体の関係者に対し、東京都のスポーツ振興における問題意識を共有し、関係者相互の連携を強化します。

▶ 関連ページ P.287



東京みんなのスポーツ塾

### 東京みんなのスポーツ塾

ルールや技術が比較的簡単で、誰もが気軽に楽しめるニュースポーツの普及に向けた指導者を育成するため、競技種目別に、指導者によるルール解説や競技方法の指導、実践練習、試合を実施します。

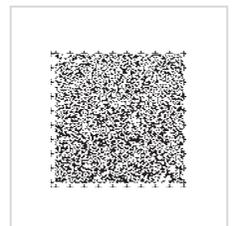
### パラスポーツセミナーの開催

区市町村職員やスポーツ推進委員、医療福祉関係者等を対象にセミナーを開催し、パラスポーツ事業実施のきっかけづくりや好事例の共有・普及を図り、身近な地域におけるパラスポーツ振興のキーパーソンの育成を図ります。

▶ 関連ページ P.174,217,283



パラスポーツセミナー



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱4 スポーツを支える

#### 施策② 多様な主体と連携し、スポーツに関わる人材の裾野を広げる・磨く

##### ▶地域スポーツやパラスポーツを支える人材育成・顕彰

##### 初級・中級パラスポーツ指導員養成講習会

スポーツ推進委員や公立スポーツ施設職員等を対象に、JPSA公認初級パラスポーツ指導員養成講習会を開催し、地域のパラスポーツの現場で、障害のある人のスポーツ参加のきっかけ作りを支援する人材を育成・確保します。

また、初級パラスポーツ指導員を対象に、中級パラスポーツ指導員養成講習会を開催し、地域のパラスポーツ活動におけるリーダーとして、専門的な知識と技術、経験に基づきパラスポーツの普及振興を支える人材を育成・確保します。

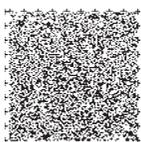
▶関連ページ P.174,217,283

##### パラスポーツ人材の活動活性化事業

活動経験の少ないパラスポーツ指導員等を対象にした「リ・スタート研修会」や「地域事業参加型指導員育成事業」、パラスポーツを支える人材に活動に関する最新の情報提供を行う「パラスポーツフォーラム」を開催し、パラスポーツ人材の資質向上を図ります。

▶関連ページ P.175,233

##### スポーツ功労者の顕彰



スポーツ・レクリエーションの普及・振興に関し、顕著な功労のあった人及び団体に対して表彰等を行います。

▶関連ページ P.218



パラスポーツ指導員養成講習会



リ・スタート研修会



令和6年度東京都スポーツ功労賞表彰式

## ▶ 多様なスポーツを支える基盤づくり

### 競技団体等組織基盤強化支援事業

都内で活動する競技団体及び地区体育・スポーツ協会における運営力の向上を図るため、研修会実施・HP改修のための支援や法人格の取得に向けた専門家相談等、団体の組織基盤強化に向けた活動を支援します。さらに、地区体育・スポーツ協会を対象に専門性が高い客観的な視点での会計調査を行うことにより、会計処理の適正化を徹底します。

▶ 関連ページ P.158



### パラスポーツ競技活動支援事業

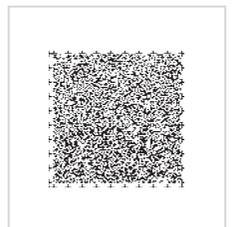
NFがJPCに加盟する競技の都内統括団体等が行う、選手の強化育成や指導者の養成等を目的とした練習会や強化合宿等の活動費を助成し、各団体の競技力向上を図ります。

▶ 関連ページ P.159,177

### パラスポーツ団体体制強化支援事業

都内で活動するパラスポーツ競技団体の組織基盤強化及び運営能力向上に向け、国の「スポーツ団体ガバナンスコード」への適合や広報力の強化などを図るため、研修会の実施や、団体運営のアドバイス等を行います。また、助成金申請等に関する事務補助や専門家（弁護士や会計士等）による相談会の実施など、複合的な支援を行います。

▶ 関連ページ P.159,179



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱4 スポーツを支える

#### 施策② 多様な主体と連携し、スポーツに関わる人材の裾野を広げる・磨く

##### ▶多様なスポーツを支える基盤づくり

##### パラスポーツ団体普及活動支援事業

パラスポーツの普及振興のために活動するパラスポーツ団体に対して、日常の練習や体験会等の事業への助成を行っていきます。

▶関連ページ P.159,179

##### デフスポーツ競技団体都内活動促進事業

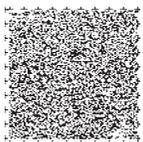
東京2025デフリンピックに向け、デフスポーツの競技力向上とともに、都民のデフスポーツへの関心を高めることを目的として、JPCに加盟するデフスポーツNFが都内で実施する強化合宿や普及啓発活動等に対して支援を行います。

▶関連ページ P.157,177

##### デフリンピックチャレンジ事業

東京2025デフリンピックに向け、NFが存在しない等の理由により、出場選手の強化・育成が進んでいない競技について、関連団体が都内で行う競技力向上事業や、東京2025デフリンピック出場を目指す東京にゆかりのある選手の競技活動に対して支援を行います。

▶関連ページ P.157,178



## ▶ 地域スポーツクラブの支援

### 地域スポーツクラブの設立・育成・運営支援

地域の日常的なスポーツ活動の場として、都民の誰もが参加できる地域スポーツクラブの設立と、安定した活動を支援します。

▶ 関連ページ P.212,288



地域スポーツクラブ交流会

### 総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の運用

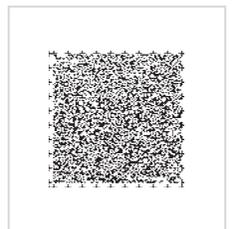
令和4（2022）年度から全国で開始となった「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度」について、東京都においても運用します。

▶ 関連ページ P.212,288

### 東京都地域スポーツクラブサポートネットによる情報提供

（公財）東京都スポーツ協会（TSPO）が運営している「東京都地域スポーツクラブサポートネット」において、地域スポーツクラブの設立及び活動を支援するための情報を提供するとともに、地域スポーツクラブについて詳しく知りたい人や、クラブに参加したい人に都内クラブの情報を提供していきます。

▶ 関連ページ P.139,212



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱4 スポーツを支える

#### 施策② 多様な主体と連携し、スポーツに関わる人材の裾野を広げる・磨く

##### ▶地域スポーツクラブの支援

##### 登録クラブの活用促進

「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度」の普及啓発・理解促進及び登録クラブの活用促進のため、区市町村に対し研修会等を実施します。

▶関連ページ P.213,288

##### スポーツ推進委員研修会等の開催

地域におけるスポーツ推進委員活動の充実及び資質の向上並びに広域的な連携・協調を図ることで、都内の地域スポーツの振興に資する人材の育成を行います。

▶関連ページ P.213,235,287

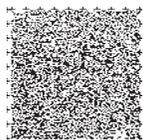
##### スポーツ推進委員の役割や活動内容の紹介

スポーツ推進委員の役割や活動内容を広く都民に周知するため、各区市町村のスポーツ推進委員を「スポーツTOKYOインフォメーション」等で紹介します。

▶関連ページ P.213



東京都地域スポーツ支援研修会



## ▶部活動の地域連携・地域移行推進のための取組

### 地域スポーツクラブ活動体制整備事業・文化部活動の地域移行等に向けた実証事業

地域におけるスポーツ・文化芸術活動の運営団体や指導者の確保方策や、費用負担の在り方の整理などの課題に総合的に取り組むために、地域において実践研究を実施し、研究成果を普及・発信します。

▶関連ページ P.144

### 部活動の地域連携・地域移行等に関する支援

令和7（2025）年度末までに、都内全ての公立中学校等で、地域や学校の実態に応じ、地域連携・地域移行に向けた取組が行われていることを目指すとともに、休日に教員が部活動の指導に携わる必要がない環境の構築を、段階的かつ可能な限り早期に実現していきます。

### 部活動指導員の導入

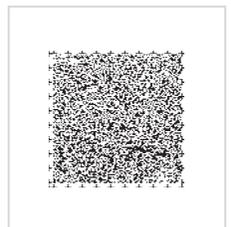
教員に代わって、専門的な技術指導や大会引率等を行うことができる部活動指導員を、引き続き、中学校、高等学校に導入し、教員の勤務負担軽減を図りながら、部活動の充実を図ります。

▶関連ページ P.145

### 運動部活動指導者養成講習会の実施

東京都高等学校体育連盟及び東京都中学校体育連盟と協定を結び、生徒の健全育成という原点に立った指導をより一層推進し、体罰等の許されない指導とあるべき指導の考え方を明確にし、顧問の教員や部活動指導員等の指導力向上を図ります。

▶関連ページ P.145



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱4 スポーツを支える

#### 施策② 多様な主体と連携し、スポーツに関わる人材の裾野を広げる・磨く

##### ▶部活動の地域連携・地域移行推進のための取組

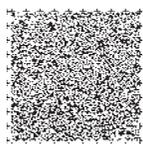
#### 地域のスポーツ振興に向けた関係者会議

持続可能な地域におけるスポーツ環境を整備するため、会議を設置し、地域の実情に応じた新たな担い手の確保やスポーツ関係団体との連携、部活動の地域連携・地域移行に関すること等について議論します。

▶関連ページ P.213,288

#### 指導者資格等取得支援

地域の日常的なスポーツ活動の場である地域スポーツクラブ等に対し、指導者等の資格取得を支援することで、指導者の確保や質の向上を図り、部活動の地域連携・地域移行をはじめとする地域のスポーツ環境の整備や活性化につなげます。



▼  
コラム  
COLUMN

#### 部活動の地域連携・地域移行

**部活動の地域連携**とは、学校教育の一環として行われる部活動において、地域の人材を活用した部活動指導員や外部指導者の導入、複数校で実施する合同部活動の導入など、学校で運営・実施しつつも、生徒の活動機会を確保するものです。

一方で、**部活動の地域移行**とは、地域の多様な団体が学校と連携しながら運営・実施する地域クラブ活動によって、部活動を代替して生徒の活動機会を確保するものです。

なお、令和6（2024）年12月に開催された国の「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」中間取りまとめにおいて、「**地域移行**」という名称が「**地域展開**」に変更されることが取りまとめられました。

## ▶民間企業等とともに取り組むスポーツ振興

### 東京都スポーツ推進企業認定制度の運営

従業員のスポーツ活動を推進する取組や、スポーツ分野における社会貢献活動を実施している企業等を「東京都スポーツ推進企業」として認定し、特に先進的な取組等を行っている企業等を、「東京都スポーツ推進モデル企業」として表彰します。

また、推進企業の取組を広く発信し、より多くの企業に波及させるウェブサイトを経営するとともに、スポーツインストラクター等の派遣事業により、企業の取組を支援します。

▶関連ページ P.147,218



東京都スポーツ推進企業認定マーク

### プロスポーツチーム等との連携

スポーツの楽しさやスポーツを始めるきっかけを醸成するため、プロスポーツチーム等と連携し、東京都とプロスポーツチーム等双方の強みを生かした事業を実施します。

▶関連ページ P.131,207

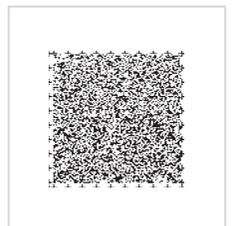


プロスポーツチーム等との連携事業

### スポーツTOKYOインフォメーションの運営

東京都のスポーツ情報サイト「スポーツTOKYOインフォメーション」を通じて、東京のスポーツイベント、大会観戦・応援情報、スポーツ施設や行政情報などを発信し、多くの人々にスポーツへの関心を高めてもらいます。

▶関連ページ P.127,133,165,220



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱4 スポーツを支える

#### 施策② 多様な主体と連携し、スポーツに関わる人材の裾野を広げる・磨く

##### ▶民間企業等とともに取り組むスポーツ振興

#### パラスポーツ普及啓発プロジェクト「TEAM BEYOND」

企業・団体のパラスポーツへの関心を高めるため、参考となる企業の取組事例や支援の方法などを発信します。

また、パラスポーツの普及の担い手を増やすため、パラスポーツ活動の促進や定着に向けたカンファレンス等の取組を実施します。

▶関連ページ P.128,131,165,168,169,205,220,221



TEAM BEYONDカンファレンス

#### パラスポーツコンシェルジュ事業

パラスポーツを支援したいという民間企業等の意向を選手や競技団体につなぐため、（公社）東京都障害者スポーツ協会（T S A D）に窓口を設けるとともに、障害のある人に対してスポーツに関する情報提供や助言を行います。

また、企業と競技団体間のネットワークの構築及びマッチングを目的とした交流会を開催するとともに、アウトリーチ活動や定期セミナーを実施し、窓口での相談や交流会への参加へとつなげていきます。

▶関連ページ P.179

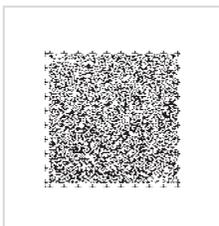


パラスポーツコンシェルジュ事業

#### マッチングプラットフォーム構築

企業のノウハウ等と競技団体等の課題やニーズをマッチングするプラットフォームにより、パラスポーツへの企業の参画と競技団体の基盤強化を促進します。

▶関連ページ P.159,179



マッチングプラットフォームイメージ図

## TOKYO戦略的イノベーション促進事業

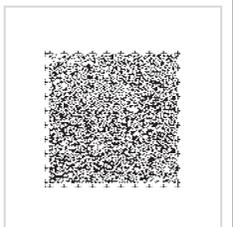
今後成長が期待されている分野における技術開発・市場動向を示した「イノベーションマップ」を策定し、これに沿って中小企業等が、他企業、大学等と連携して行う大規模技術開発とその事業化を支援します。

▶ 関連ページ P.184

## シニア・福祉・アクセシビリティ関連製品等の販路開拓助成事業

介護を必要とする高齢者や障害のある人が利用する福祉用具をはじめ、健康で社会活動等に意欲があるアクティブシニア向けの製品・サービス、障害の有無にかかわらず誰でも利用することを目指したパラスポーツ関連製品やアクセシブルデザイン製品等、高齢者や障害のある人を対象とした幅広い製品・サービスについて、国内外への販路拡大を支援していきます。

▶ 関連ページ P.184



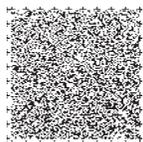
## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱4 スポーツを支える



#### 施策③

### 安全・安心なスポーツ、 信頼されるスポーツ大会 の実現



#### 現状と課題

##### 高まる熱中症の危険性

スポーツを実施する人を増やしていくことは、スポーツフィールド・東京の実現に不可欠ですが、**正しい知識を身に付けていない場合、けがや事故につながる恐れがあります。**また、国連が「地球温暖化の時代は終わった。地球沸騰化の時代が到来した」と危機感を示したように、気温の上昇傾向が続いており、**炎天下でのスポーツ実施**による、**熱中症の危険性**が高まっています。

##### スポーツ・インテグリティ

これまでアスリート等による違法賭博や違法薬物、スポーツ指導者による暴力行為、スポーツ団体での不適切な会計等の**事故**が発生し、**大きな問題**となっています。

##### 安全・安心な大会運営やスポーツ環境の整備

持続的なスポーツ振興のためには、**安全・安心な大会運営やスポーツ環境の整備**を推進していくとともに、**スポーツ団体の適正運営、スポーツ大会の信頼性の確保の取組**を推進していくことが必要です。

#### 今後の方向性

- けがや事故、熱中症の予防など**スポーツ実施環境の安全・安心**を確保していきます。
- スポーツ指導における**暴力行為等の根絶**や、スポーツ大会の**ガバナンス確保**に向けて取り組んでいきます。

## 施策③ 安全・安心なスポーツ、信頼されるスポーツ大会の実現

### 具体的な取組

#### ▶ けがや事故、熱中症等の予防推進

##### 熱中症予防の推進

東京都は、スポーツイベント等においてJ S P Oの熱中症予防指針やN Fの策定する熱中症対策ガイドライン等を踏まえ、(公財)東京都スポーツ協会(T S P O)や(公社)東京都障害者スポーツ協会(T S A D)、競技団体等との連携を図りながら熱中症予防を推進します。

また、東京都教育委員会が策定した「熱中症対策ガイドライン」に基づき、学校における体育的活動中や部活動中の熱中症予防を推進していきます。

##### 地域におけるスポーツの事故防止

地域におけるスポーツの重要な担い手であるスポーツ推進委員や、地域スポーツクラブの運営スタッフや指導者等を対象とした研修会において、スポーツによるけがや事故防止等の内容を実施します。

##### 部活動指導者実技講習会の実施

中学校・高等学校の教員や部活動指導員等を対象に講習会を実施し、部活動顧問の役割についての正しい理解と望ましい指導法や技術指導の向上を図るとともに、部活動中の事故に対する基礎的な知識や対応策を身に付け、指導者としての資質向上を図ります。

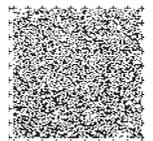
#### ▼ コラム COLUMN

##### 熱中症予防(WBGT)

**暑さ指数(WBGT(湿球黒球温度): Wet Bulb Globe Temperature)**は、熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標です。

**暑さ指数(WBGT)**は**人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目した指標**で、人体の熱収支に与える影響の大きい①湿度、②日射・輻射など**周辺の熱環境**、③**気温**の3つを取り入れた指標です。

(公財)日本スポーツ協会の「**スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック**」によると、**暑さ指数(WBGT) 31以上は「運動は原則中止」、28以上31未満は「嚴重警戒(激しい運動は中止)」**などとなっています。



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱4 スポーツを支える

#### 施策③ 安全・安心なスポーツ、信頼されるスポーツ大会の実現

##### ▶けがや事故、熱中症等の予防推進

##### スポーツ関係団体への暑さ対策支援

スポーツ関係団体が競技や地域の実情に即して行う暑さ対策物品の購入等を支援します。

##### 都立スポーツ施設における暑さ対策の推進

年々気温が上昇し、熱中症のリスクも高まっていく中で、暑さ指数計等の暑さ対策備品を各施設へ配備するなど、都民が安心して都立スポーツ施設を利用できるよう、対策に取り組んでいきます。

##### クーリングシェルター（指定暑熱避難施設）等としての役割

都立スポーツ施設は、自治体の要請や施設の特性に基づいて、クーリングシェルター（指定暑熱避難施設）やTOKYOクールシェアスポット（涼しさを共有するための場所）となっています。熱中症対策を目的とした適切な休憩場所を提供することで、都民の健康を守ります。

##### 大会時の路上競技沿道における観客の暑さ対策の実施

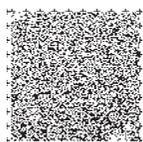
東京2025世界陸上開催時に、路上競技沿道における観客の暑さ対策に取り組んでいきます。



暑さ対策備品の例  
(左：暑さ指数計、右：注意喚起パネル)



東京2025世界陸上の路上競技沿道における観客の暑さ対策  
(イメージ)



## ▶スポーツ・インテグリティ強化のための取組

### 部活動における体罰の根絶

東京都中学校体育連盟及び東京都高等学校体育連盟との連携により、部活動における体罰の根絶を目的として、体罰等の許されない指導とあるべき指導の考え方等に関する講演会や研修会等を計画的に実施します。

### スポーツ・インテグリティ研修

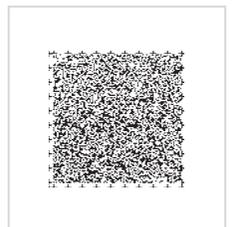
スポーツ・インテグリティの理解促進に向けた研修会等の様々な機会を活用し、不正経理やスポーツ指導における暴力・ハラスメントの防止をはじめとし、違法賭博や違法薬物、ドーピング、八百長等への注意喚起を行うことなどにより、スポーツ・インテグリティの確保に向けた取組を推進します。

### スポーツ団体の適正な運営確保

都内区市町村体育・スポーツ協会や競技団体等に対しコンプライアンス研修を実施する等、スポーツ団体の適正な運営確保に向けたガバナンスの強化を推進します。



スポーツ・インテグリティ研修会



## 2 柱ごとの施策・取組

### 政策の柱4 スポーツを支える

#### 施策③ 安全・安心なスポーツ、信頼されるスポーツ大会の実現

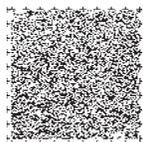
##### ▶ ガバナンス確保のための取組

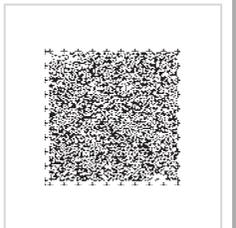
##### 国際スポーツ大会におけるガバナンス確保の取組

東京都の「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」や国の「大規模な国際又は国内競技大会の組織委員会等のガバナンス体制等の在り方に関する指針」等を踏まえ、国際スポーツ大会の運営組織が、スポーツの根幹であるフェアネスを体現した信頼されるものとなり、未来の東京につながるレガシーを残していくとともに、都民と共に大会を作り上げ、大会開催の意義が社会に広がっていくよう、国際スポーツ大会におけるガバナンス確保の取組を進めていきます。

▶ 関連ページ

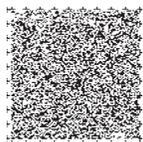
P.199

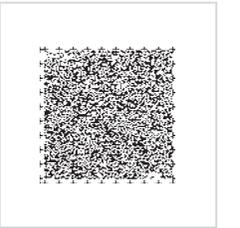




## 第2編 各論（計画の具体的な展開）

### 第 2 章 計画の着実な推進と進行管理



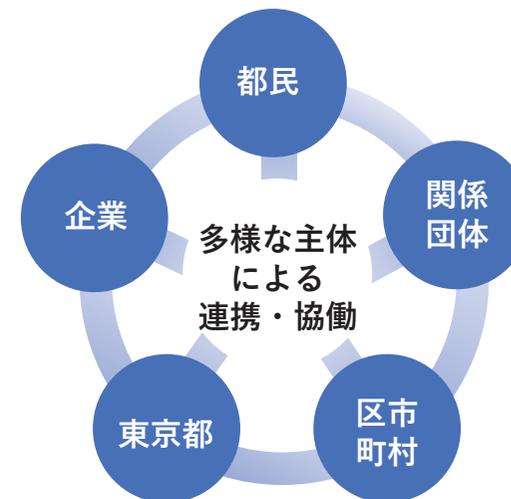


# 1 計画の推進体制と効果的な広報

## (1) 計画の推進体制

### 多様な主体と連携した事業の推進

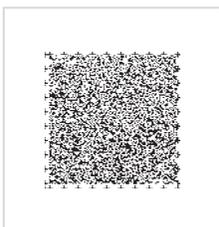
- 本計画に掲げる取組は、東京都の各局が連携して取組を進めるとともに、**区市町村、関係団体、企業、都民等、様々な主体との連携・協働**によって推進します。
- 特に、**東京都の政策連携団体等**である（公財）東京都スポーツ文化事業団、（一財）東京マラソン財団、（株）東京スタジアム、（公財）東京都スポーツ協会、（公社）東京都障害者スポーツ協会、（公財）東京2025世界陸上財団や、（一社）東京都レクリエーション協会、（一社）東京都スポーツ推進委員協議会等の関係団体については、**東京都との連携強化のほか、各団体間の連携も推進し、それぞれの力を最大限に発揮するための体制を構築**します。



## (2) 効果的な広報

### 計画の都民への周知や戦略的な広報展開

- 本計画の推進に当たっては、区市町村や関係団体だけではなく、**より多くの企業や都民に情報を的確に届けていくことが重要です。**
- **ターゲットや施策に合わせ、ウェブサイトやSNSなど、様々な媒体を活用して効果的に発信するとともに、広報効果の検証や改善を行うことで、事業効果を高めていきます。**

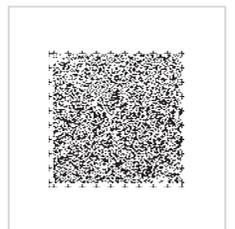
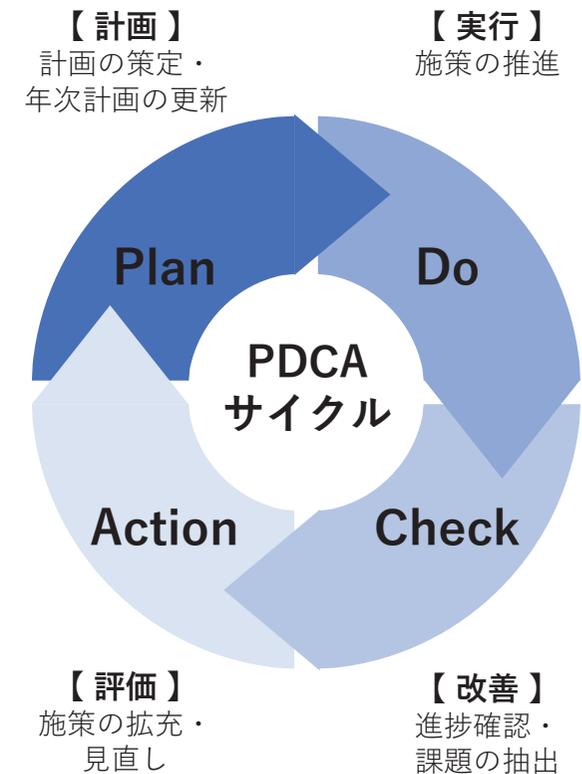


## 2 計画の進行管理・評価・見直し

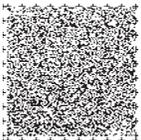
### PDCAサイクルの徹底

#### 年次計画による進行管理を実施

- 本計画の推進に当たっては、**計画・立案（Plan）**、**実行（Do）**、**評価（Check）**、**改善（Action）**の**サイクルを徹底**し、進行管理を適切に行っていきます。
- 具体的には、**3か年の年次計画**を作成し工程を示すことで、事業効果の評価や適切な見直しを行います。
- また、都民のスポーツ活動に関する意識や実態に係る調査等を通じて、**本計画の達成指標の現状を的確に把握**します。
- こうした調査結果などを広く都民に発信するとともに、**東京都スポーツ振興審議会に報告**し、意見を踏まえた**施策の拡充や見直し等を行う**ことで、各施策の効果の最大化を図っていきます。

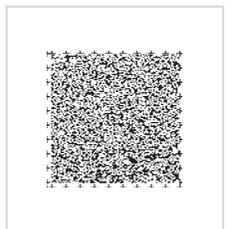


## 附属資料



# パラスポーツの振興

---



# 1 パラスポーツの振興の意義

## はじめに

本計画では「誰もがスポーツを楽しむ東京を実現し、一人ひとりのウェルビーイングを高め、社会を変革する」を基本理念としています。そのため、スポーツ振興全般について、障害の有無にかかわらず誰もが参加できる事業実施や、バリアフリー化やユニバーサルデザインなど障害のある人に配慮した視点を持って展開し、パラスポーツを含めたスポーツ施策を一体的に推進していくこととしています。

一方で、障害のある人のスポーツ活動には多くの特有の課題があります。これを解決するためには、東京都を含む行政機関や関係団体、民間企業が連携し取組を進めるとともに、都民の皆様をはじめ幅広い層にパラスポーツへの理解を深めていただくことが重要です。

ここでは、本編におけるスポーツを取り巻く状況や意義などについて、パラスポーツに特化して記載するとともに、施策を体系的に把握できるよう、主な取組を抜粋して分かりやすく再掲します。

## パラスポーツを取り巻く状況

パラスポーツは、障害に応じて競技規則を変更したり用具等を用いて障害を補い、現存する機能を最大限発揮できるような工夫が加えられながら、当初は医学的なりハビリテーションも目的の一つとして発展してきました。

近年ではこれに加え、障害の有無にかかわらず誰でも楽しめるユニバーサルスポーツとして広く親しまれ、さらにはパラリンピックの発展に伴い競技スポーツとしても脚光を浴びるようになりました。

さらに、平成26（2014）年の障害者権利条約の批准や令和6（2024）年の改正障害者差別解消法の施行なども背景に、DE&I（多様性、公平性、包摂性）推進の重要性が広く社会に認識されつつある現在にあっては、パラスポーツは、誰もが活躍できる社会の必要性への気付きになることから、官民間わず、共生社会実現に向けた大きな推進力としても注目されています。

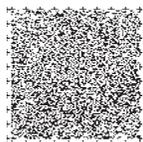
## パラスポーツ振興の意義

こうした状況も踏まえ、パラスポーツ振興の意義は次の3つの視点から整理することができます。

まず障害のある人にとっては、障害のない人と同様、身体を動かす楽しみや爽快感の享受、他者との交流などのほか、特有の意義として身体機能の維持・向上、社会参加の機会の増大などが挙げられます。

障害のない人にとっても、子供や高齢者、運動が苦手な人を含め、誰もが楽しめるスポーツとして、様々な人のクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献できる可能性を持っています。また、共に楽しむことで、障害や障害のある人への理解を自然な形で深めることができます。

社会全体にとっても、誰もがスポーツを楽しめる環境づくりにより施設のユニバーサルデザイン化が進むほか、多様な人が集まり交流することで、新しい価値観の創出や社会の多様性の確保にも大きく寄与すると考えられます。



## 2 東京都におけるパラスポーツの振興

### (1) 東京都におけるパラスポーツ振興の取組

#### 平成22(2010)年7月以前

##### 福祉行政として推進

・障害者の社会参加や自立支援の促進に向けた施策の一つとしてパラスポーツを推進

#### 平成22(2010)年7月

##### 福祉行政からスポーツ行政へ

・全国に先駆けてパラスポーツを障害者福祉行政からスポーツ行政に移管し、スポーツ施策として総合的・体系的に推進

#### 平成24(2012)年3月

##### 東京都障害者スポーツ振興計画の策定

・障害者スポーツの一層の振興を図っていくため、全国で初めて、中長期的な視点からの体系的・継続的な振興計画を策定

#### 平成25(2013)年9月

##### スポーツ祭東京2013の開催

・国民体育大会と全国障害者スポーツ大会を全国で初めて一つのスポーツの祭典として開催。障害の有無にかかわらず誰もがスポーツを楽しめる社会を目指していくことを全国に発信

##### 東京2020大会開催決定

・オリンピック・パラリンピック開催を通じて様々な施策を一体的に推進することで、誰もがスポーツを楽しめる「スポーツフィールド・東京」を目指す  
・パラスポーツについては、パラリンピックの気運醸成を通じた普及啓発、選手の競技力向上、障害のある人のスポーツ環境整備などの取組を加速度的に推進

#### 平成30(2018)年3月

##### 東京都スポーツ推進総合計画の策定

・スポーツ振興全般において、障害のある人に配慮した視点を持った施策を展開していくため、「東京都スポーツ推進計画」と「東京都障害者スポーツ振興計画」を統合し策定

#### 令和3(2021)年8月

##### 東京2020パラリンピック開催

・スポーツ施設のバリアフリー化などのハード面のほか、パラスポーツのファン拡大やボランティアの裾野拡大、障害の有無を問わず誰もがスポーツを楽しみ交流する場の充実など、ソフト面でも多くのレガシーを創出

#### 令和4(2022)年9月～

##### 東京2025デフリンピック開催決定

・「ビジョン2025」(2023年2月)において「全ての人々が輝くインクルーシブな街・東京」の実現を目指す  
・「開催基本計画」(2023年11月)において、デフリンピックやデフスポーツの魅力や価値を発信、デジタル技術を活用した新しいコミュニケーションツール等の開発と社会への普及を促進し、互いの違いを認め、尊重しあい、誰もが個性を活かし力を発揮できる共生社会づくりに貢献していくことを記載

#### 令和7(2025)年11月

##### 東京2025デフリンピック開催

### 国際スポーツ大会のレガシーの継承・発展

東京2020パラリンピックのレガシーを継承・発展し、東京2025デフリンピックを機に東京に新たなレガシーを創出していくためには、パラスポーツを社会に根付かせていく取組が大きな原動力となります。そのため、パラスポーツの「理解促進・普及啓発」、「場の充実」、「人材育成・活用」、「競技力向上」を複合的に進めることが重要です。

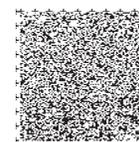
東京都がパラスポーツの振興を通じて共生社会への歩みを加速させていくことは、多様性が求められる時代に適合したものであり、そのノウハウや成果を他の自治体にも共有しながら、取組を進めていきます。

理解促進・普及啓発

場の充実

人材育成・活用

競技力向上



## 3 パラスポーツの振興に向けた具体的な取組

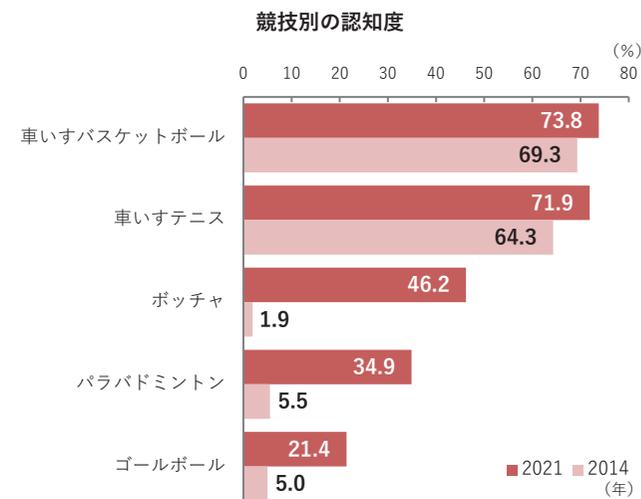
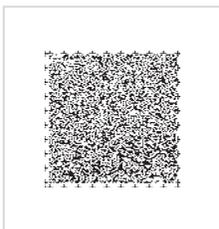
### (1) パラスポーツの「理解促進・普及啓発」

#### 東京2020パラリンピックがもたらした効果

パラスポーツのファン拡大に向けては、まず競技や選手を知ってもらうなど認知を高めた上で、関心を喚起し都民の参画を促す、といった行動変容を意識した取組を展開することが重要です。パラスポーツの競技別の認知度は、東京2020パラリンピック前後で大きく向上しました。また、都内自治体においては、大会後も障害のある人となない人が共に参加できるパラスポーツのイベントや体験会などが継続して行われています。このように、東京2020パラリンピックを機に、パラスポーツの認知度が高まったとともに、大会のレガシーとして誰もが一緒に楽しむことのできるパラスポーツの取組が大会後も広がっています。

#### パラスポーツの裾野拡大に向けた課題

一方、東京都が実施した調査によれば、都民のパラスポーツへの関心度は、大会前から大会後にかけて40～50%台で推移しており、目標の80%には届いていません。関心がない理由としては、「身近にパラスポーツに関わっている人がいないから」(32.1%)、「身近な場所でやっていないから」(19.2%)が上位に挙げられました。また、「競技会場で観戦したことがある」は5.2%、「パラスポーツ競技を体験したことがある」は9.3%と低い水準にあります。こうしたことから、関心を高めるためには、パラスポーツを身近に感じられるように取り組んでいくことが重要だと考えられます。



図表出典：『日本財団パラスポーツサポートセンターパラリンピック研究会 紀要第19号』  
「障害者スポーツに関する言葉の認知度に関する研究—2014年～2021年度の推移に注目して—」(2023年3月、藤田紀昭)を基に作成



図表出典：「令和6年度 都民のスポーツ活動に関する実態調査」(2025年3月、生活文化スポーツ局)を基に作成

## パラスポーツをもっと身近に

スポーツへの参画方法には「する」「みる」「支える」があり、「応援する」こともスポーツへの入り口となる参画方法といえます。東京都では、平成28（2016）年11月からパラスポーツ応援プロジェクト「TEAM BEYOND」を立ち上げ、ファンを増やす取組を展開してきました。今後も、商業施設など人々の身近な場所でパラスポーツ体験会を展開するとともに、様々なアプローチ方法でパラスポーツの魅力に迫るワークショップを開催して、認知向上と関心喚起を図っていきます。

また、パラスポーツを気軽に楽しく観戦できるよう、東京2025デフリンピックを含め、国内のパラスポーツ大会の観戦会や大会中継を実況解説付きで実施します。

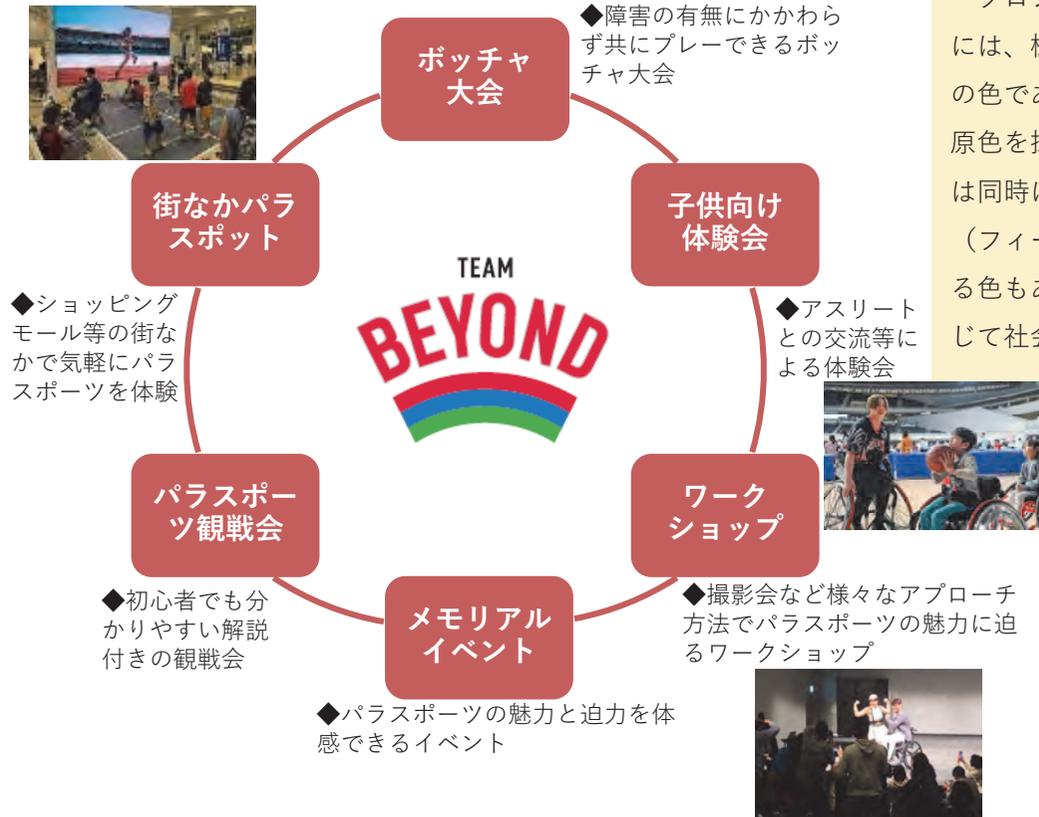
さらに、パラリンピックやデフリンピックの記憶を継承し、関心を維持・向上させていくため、メモリアルイベントも定期的に開催していきます。

## 東京2025デフリンピック開催を契機とした更なる理解促進

デフリンピックの開催が決定してから、東京都では、節目イベントの開催や区市町村等と連携した大会情報の発信などの取組により、大会に向けた気運を醸成してきました。今後、関連イベントでのスポーツ体験やアスリートとの交流、大会時の子供たちへの観戦機会の提供などの取組を行います。

東京2020大会で盛り上がった気運を継承し、東京2025デフリンピック開催を契機にデフスポーツを含むパラスポーツへの関心を更に高めていくため、東京都は今後もこうした普及の取組を積極的に展開していきます。

### 〈ファン・サポーターを増やす取組〉

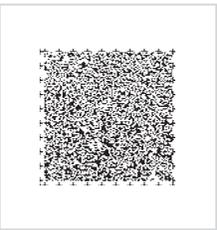


### ▼ コラム COLUMN

## TEAM BEYOND

TEAM BEYONDには、パラスポーツを通じて、障害の有無をはじめとするあらゆる違いや壁を乗り越え、一人ひとりの個性が輝く多様性豊かな社会に向かっていこう、という思いが込められています。

プロジェクトのテーマカラーには、様々な色を生み出す根源の色である赤、青、緑の光の三原色を採用しました。この3色は同時に、スポーツの競技会場（フィールド）をイメージさせる色もあり、パラスポーツを通じて社会に新しいフィールドを作っていく、という思いも込められています。



### 3 パラスポーツの振興に向けた具体的な取組

#### (1) パラスポーツの「理解促進・普及啓発」

##### 企業・団体の取組を後押し

令和6（2024）年の「都民のスポーツ活動に関する実態調査」において、都民のパラスポーツの関心度を世代別にみると、20代～50代の働き盛り世代が全体（42.7%）を下回っています。この世代の関心を高めるためには、勤務先の企業等の取組も重要です。

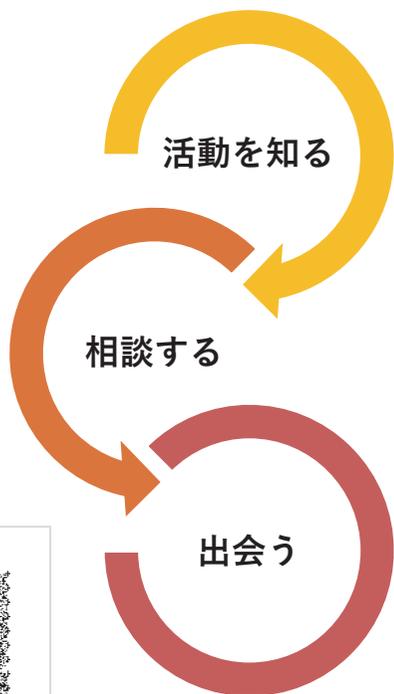
また、近年、障害者の法定雇用率の引き上げや合理的配慮の義務化、人的資本経営の推進などが企

業等に求められており、社会課題の解決という観点からも、パラスポーツへの注目が一層高まっています。

「TEAM BEYOND」ではパラスポーツ振興に賛同する企業等のメンバー登録数が1,000団体以上となりました。また、東京都の事業協力団体である（公社）東京都障害者スポーツ協会が実施するパラスポーツコンシェルジュでは、コロナ禍で相談件数は落ち込んだものの、令和2

（2020）年度から企業等の相談は年々増えています。

このように、企業等が従業員のパラスポーツへの関心や意欲を高める取組を推進するとともに、パラスポーツの担い手として継続的に活動できるよう、企業等の活動を後押しし、相互に連携して取組を進めていきます。



##### ◆TEAM BEYONDカンファレンス

パラアスリート雇用や企業ボランティアなど、先進的な取組を行っている企業等の取組を紹介

##### ◆パラスポーツコンシェルジュ

体験会の企画方法等に関する企業等からの相談に対して具体的な助言を提供

##### ◆企業等と競技団体の交流会

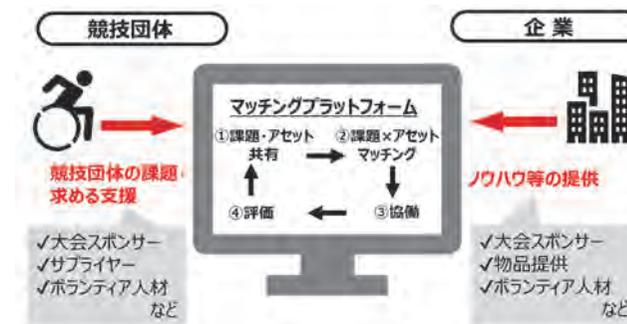
これまで延べ150以上の企業や競技団体が参加し、製品提供など様々なマッチング事例が誕生

##### ◆マッチングプラットフォーム

企業のノウハウ等と競技団体のニーズをマッチング



交流会



マッチングプラットフォーム

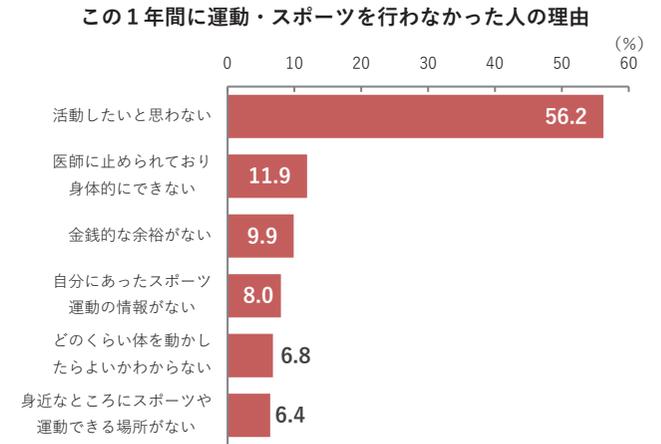
## (2) パラスポーツの「場の充実」

### 障害のある人のスポーツ実施の現状

障害のある人のスポーツ実施率は、東京都が調査を開始した平成30（2018）年度の32.4%から、令和6（2024）年度は46.6%となるなど、着実に伸びてきています。

一方で、過去1年間にスポーツや運動を実施していない人の割合は36.3%となっており、理由として「活動したいと思わない」が半数以上となるなど、スポーツに無関心である人が多いという傾向もみられます。

その他「身近なところにスポーツや運動ができる場所がない」や「自分に合ったスポーツや運動の情報がない」といった理由なども挙げられており、スポーツに関心を持ってもらえるような工夫のほか、障害のある人が気軽にスポーツに親しめる場の充実や情報発信に向けた取組が重要です。



図表出典：「令和6年度 障害者のスポーツに関する意識調査」（2025年3月、生活文化スポーツ局）を基に作成

### パラスポーツの多様な場の提供

パラスポーツの場の充実に向けて、障害者スポーツセンターや公共スポーツ施設などの拠点・中核となる施設に加え、公民館、福祉施設、特別支援学校等の地域の身近な施設を最大限に活用し、多様な場を提供していくことが重要であり、東京都をはじめ自治体を中心となって進めています。

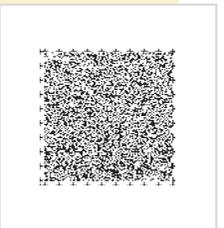
なお、東京都では、東京2020大会を契機にパラスポーツ競技団体の活動が大きく進展する中、計画的・安定的に利用できる練習拠点へのニーズが高まったことから、令和5（2023）年3月、都内初の競技力向上の拠点として東京都パラスポーツトレーニングセンターを開所しました。当センターは障害のある人もない人もパラスポーツに親しむことのできる普及振興の場としての役割も担っています。

▼  
COLUMN

#### 場の充実に向けた多分野間の連携促進

障害のある人が、幼児期・就学時・就労時・通院時などの各ライフステージで継続して運動やスポーツを楽しむためには、スポーツだけでなく、教育や医療、福祉、企業等の様々な分野からの理解やサポートが必要です。

都内の一部の自治体では、これらの関係者が連携し、施設や人材などの地域資源を活用しながら、障害当事者のニーズに即したスポーツ活動の場を提供する取組が始まっています。こうした取組が身近な地域を担う各自治体で広がっていくよう、東京都はアドバイザーの派遣等により多分野間の連携を促進していきます。



## 3 パラスポーツの振興に向けた具体的な取組

### (2) パラスポーツの「場の充実」

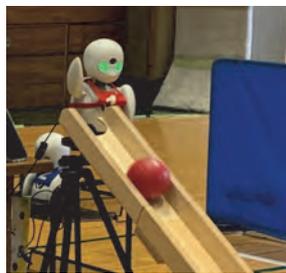
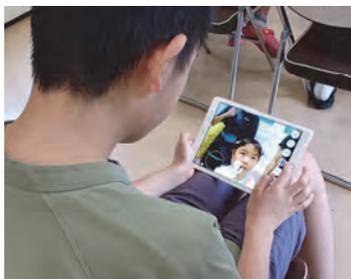
#### デジタル技術を活用したパラスポーツの実施促進

本計画では、最新のデジタル技術等とスポーツが融合し、あらゆる人がスポーツを楽しめる環境の実現やスポーツの力を高める「スポーツDXプロジェクト」が重点政策に位置付けられています。これは、パラスポーツの分野でも同様であり、パラスポーツの「場の充実」に向けた新たな取組として、デジタル技術を活用して多様な機会を確保していくこととしています。

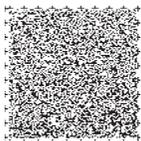
具体的には、障害の程度や環境等の様々な要因により思うように運動ができない方や外出の難しい方が、福祉施設等の日常の居場所で、障害の種別・程度に応じて運動・スポーツを楽しめるよう、分身ロボットを活用したスポーツ活動やeスポーツなどの取組を引き続き実施していきます。また、障害の有無や年齢、場所等にかかわらず気軽に楽しみやすいというeスポーツの特徴を活かし、地域イベントなどでもこうした取組を実施す

ることで、スポーツへの関心喚起や障害のある人とない人の交流の促進を図っていきます。さらに、大規模展示会への出展等により、企業等に対し機器やコンテンツに関する障害当事者のニーズ等をアピールし、開発の促進につなげていきます。

#### 分身ロボットの活用



- 分身ロボットを活用して、福祉施設から遠隔でスポーツ活動等に参加（ポッチャ、障害物競走など）



#### eスポーツの取組



- 障害のある人が操作しやすいよう開発・加工されたコントローラー等により、福祉施設からオンラインで「eパラスポーツ」対戦・交流（徒競走、玉入れなど）
- 通い慣れた施設や職場で、身体の動きと連動するコントローラー等を使った「バーチャルスポーツ」で気軽に体を動かす（テニス、バスケットボールなど）

## スポーツ施設のバリアフリー推進

障害のある人のスポーツ活動の場が限られる要因の一つとして、ハード面のバリアフリーに係る課題に加え、障害に配慮できるスタッフの不足、車いすだと床に傷がつくため利用を断られるケースの発生など、ソフト面での課題も挙げられます。

東京都は、区市町村のスポーツ施設改修に際し、ユニバーサルデザイン化に係る支援を行います。

また、障害のある人の利用促進に向け、大規模な工事を必要としないソフト面からの工夫などを紹介したマニュアルの活用やアドバイザーの派遣など、誰もが利用しやすい環境整備に向けた働きかけを行っています。

## パラスポーツの情報発信

障害のある人が運動やスポーツを実施したいと思った時に、身近な地域等で活動できるようにするためには、場に関する様々な情報が必要です。

東京都は、パラスポーツ専門ポータルサイト「TOKYOパラスポーツ・ナビ」により、都内公共スポーツ施設のバリアフリー情報のほか、パラスポーツイベント、地域のスポーツクラブ・団体などパラスポーツに関する幅広い情報を継続して発信します。

### 障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル



ソフト面のバリアフリーの工夫を掲載した好事例集。施設に必要な設備や備品のほか、パラスポーツ指導員などのスタッフの配置を推奨

### アドバイザー派遣による支援



施設職員を対象にした研修

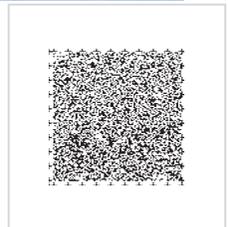


障害当事者による施設検証

### 「TOKYOパラスポーツ・ナビ」



「施設検索」では、バリアフリー情報を全58項目から検索可能



### 3 パラスポーツの振興に向けた具体的な取組

#### (2) パラスポーツの「場の充実」

- 障害のある人が、各々の活動目的に応じていつでもスポーツや運動ができるよう、様々な場所を活用し幅広い機会を提供

#### 拠点となる施設

##### 【パラスポーツトレーニングセンター】

- ・ 競技団体やクラブ等が継続的に練習できる競技力向上の拠点
- ・ 障害の有無にかかわらず楽しめる教室やイベントを実施



東京都パラスポーツ  
トレーニングセンター（調布市）



東京都多摩障害者  
スポーツセンター（国立市）



東京都障害者総合  
スポーツセンター（北区）

##### 【障害者スポーツセンター】

- ・ 初心者から大会出場を目指す人まで幅広いレベルの人が利用可能
- ・ 障害のある人が一人で来ても気軽に楽しめるよう、専門スタッフがサポート
- ・ 障害特性に応じて楽しく参加できるスポーツ体験やイベントを実施



#### 地域の身近な施設



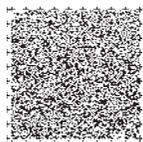
#### 都内全域をパラスポーツの場に

#### 中核となる施設



##### 【公民館、福祉施設、特別支援学校等】

- ・ 都立特別支援学校における体育施設貸出し、パラスポーツ等体験教室の実施
- ・ 福祉施設に指導者を派遣し運動プログラムを実施
- ・ 福祉施設等におけるeスポーツの実施
- ・ 区市町村が実施するパラスポーツ体験会等を支援



##### 【公共スポーツ施設】

- ・ 公共スポーツ施設等のバリアフリー環境整備の推進
- ・ 福祉施設を対象に指導者を派遣し、スポーツ施設での運動機会を提供
- ・ 区市町村が実施するパラスポーツ体験会等を支援

### (3) パラスポーツの「人材育成・活用」

#### パラスポーツを支える専門人材

障害のある人のスポーツ活動には、障害特性に応じた配慮やサポートができる人材が不可欠であり、多くの人の支えが必要となります。

その中心となるのは、障害の種類・程度、利用の目的などに応じて、一人ひとりに向き合い支援・指導ができるパラスポーツ指導員などの専門人材です。

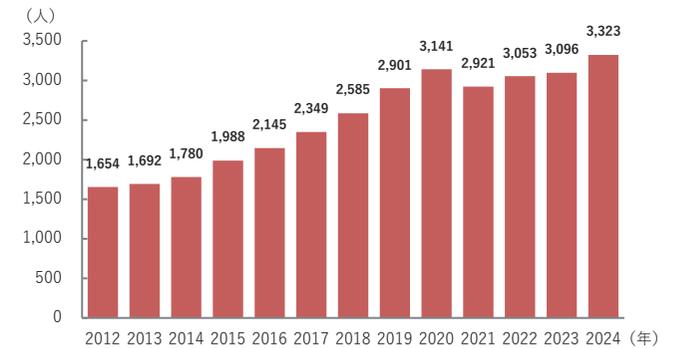
そのため東京都は、パラスポーツ指導員養成講習会の実施により、地域で障害のある人のスポーツ活動を支えるパラスポーツ指導員の数を増やしていくとともに、資格を有していても活動に一步踏み出せない人などを対象に、活動に伴う不安を解消するための研修を実施します。

#### 様々な分野における人材の確保・育成

東京都の調査では、スポーツを始めたきっかけとして、家族や友人のほか、医療関係者なども多く挙げられていることから、スポーツ実施率の向上には、身近な人からの働きかけが重要であると考えられます。そのため、家族や友人、医師に加え、看護師やリハビリを担当する理学療法士・作業療法士、通所する福祉施設のスタッフ、学校の先生など、障害のある人の生活を取り巻く様々な人たちの関わりが重要です。

そのため東京都では、スポーツ分野のほか、医療・福祉・教育関係者等を対象に、各々の専門知識を生かして障害特性に応じた指導やサポートが行えるようセミナー等を継続して開催します。

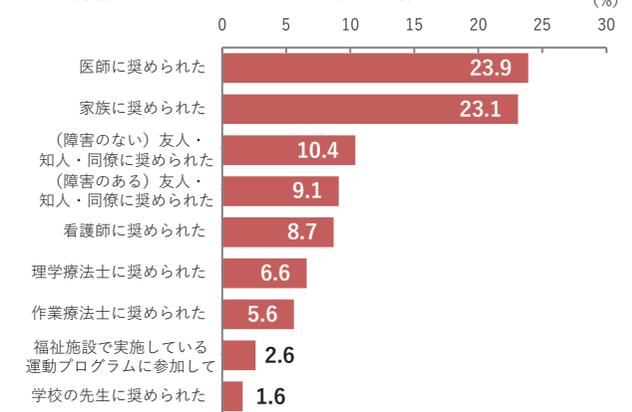
日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員登録者数（都内）



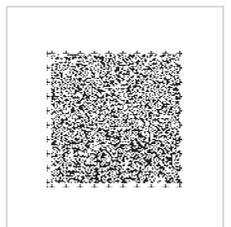
参照：(公財)日本パラスポーツ協会 ウェブサイト  
[https://www.parasports.or.jp/leader/leader\\_qualified\\_reference.html](https://www.parasports.or.jp/leader/leader_qualified_reference.html) (2025/3/28)

都内パラスポーツ指導員は令和5（2023）年度末で約3,300名と東京2020大会の招致前と比較して約2倍に増加

障害のある人がスポーツや運動を始めたきっかけ



図表出典：「令和6年度 障害者のスポーツに関する意識調査」（2025年3月、生活文化スポーツ局）を基に作成



## 3 パラスポーツの振興に向けた具体的な取組

### (3) パラスポーツの「人材育成・活用」

#### ボランティアの活動機会の充実

東京2020パラリンピックでは、多くのボランティアが参加し、大会開催の大きな力となりました。

こうしたボランティアの人たちに大会における貴重なレガシーとして継続して活躍いただくとともに、多くの支える人材を新たに確保していくため、パラスポーツイベントや大会等の主催者とボランティア希望者をマッチングする障害者スポーツボランティア情報のポータルサイト「TOKYO 障スポ&サポート」を継続して運営します。

このサイトは、自治体や競技団体等が実施するイベントや教室、大会などのボランティア募集情報を配信するとともに、登録した人が、希望する地域や業務等に応じて活動情報を入手できる仕組みとなっており、ボランティアの活動機会の充実に大きく寄与しています。

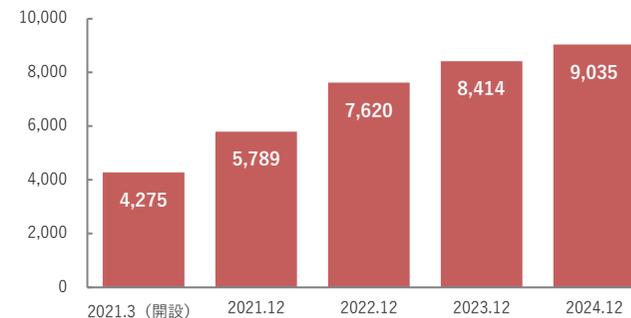
令和7（2025）年に東京で開催されるデフリンピックも、パラスポーツを支える活動への関心を再び高める大きな契機となることが期待されます。

「TOKYO 障スポ&サポート」サイト



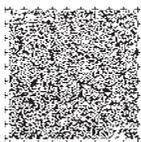
活動を後押しするため、障害者スポーツ事業に係るボランティア活動や講習等の情報を配信

「TOKYO 障スポ&サポート」登録者数



「TOKYO 障スポ&サポート」事業登録者数を基に作成

登録者数は令和6（2024）年末で9,000名以上と令和3（2021）年の開設時と比較して2倍以上に増加



- 都内の各地域において、パラスポーツを支える様々な人材を育成・活用
- 東京2020大会や東京2025デフリンピックを契機に、パラスポーツのボランティアの裾野を拡大



## 3 パラスポーツの振興に向けた具体的な取組

### (4) パラスポーツの「競技力向上」

#### パラアスリートの活躍

東京2020パラリンピックを契機として、パラスポーツは国民の大きな関心を集めました。パラアスリートには一人ひとり異なる障害があり、各々が自分の障害に対する工夫や努力を経て技術を磨き競技に打ち込む姿は、誰もが個性や能力を發揮し活躍できることを示してくれました。

こうしたパラアスリートの活躍は、障害当事者に夢や希望をもたらすとともに、人間の無限の可能性を再認識する機会となり、障害のある人に対する意識の変容にもつながります。

そのため東京都では、東京から国際大会等で活躍するスター選手を継続的に輩出するため、パラアスリート及びアスリートを支える競技団体への支援を行っていきます。



#### パラアスリートの発掘・競技人口の裾野拡大

まずは、次世代を担うパラアスリートの発掘に向けて、アスリート候補者が様々な競技スポーツに出会うことができるよう、競技団体と連携して、選手発掘イベントを定期的で開催していきます。このイベントでは、競技転向を含めて自分に合った競技やその活動場所を競技団体に相談できる場を設け、競技人口の裾野拡大につながるようなサポートも行います。

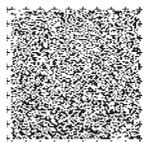


また、参加者を対象にトレーニング講習会や体力測定会などを開催し、その後の活動の継続・定着につなげる取組も実施していきます。

#### パラアスリートの育成・強化

パラアスリートの強化や育成に向けては、競技団体から推薦された東京にゆかりのあるパラアスリートやジュニアアスリートを東京都の認定選手とし、強化合宿費や大会参加費等の支援を行っていきます。

さらに、パラスポーツは選手を支えるガイドランナーや手話通訳などのスタッフが不可欠であることから、経費支援を行うなど活動しやすい環境を確保していきます。



## ▶ パラスポーツ競技団体への支援

パラアスリートの発掘・育成・強化に向けては、競技力向上への主たる役割を担う競技団体の活動が重要です。しかし、パラスポーツ競技団体の多くは、体制・財政ともに厳しい状況にあり、その活動が十分実施できていない競技もあります。このため東京都では、アスリートを支えるパラスポーツ競技団体に対しても様々な支援を行っています。



## ▶ 競技団体の活動支援

競技団体が実施する競技大会や選手の強化合宿の開催など、競技団体の自主的な取組を支援していきます。

また、競技団体の組織基盤強化に向けては、弁護士や会計士などの専門家によるサポートやコンプライアンス等の講習会を定期的に行っています。

## ▶ 民間企業との連携

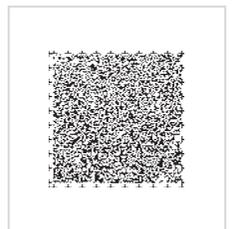
ビジネススキルや専門知識を有する企業人等のボランティア活動「プロボノ」を活用し、競技団体が抱える様々な問題に対し、課題解決に向けた取組の後押しを行っています。

また、競技団体と民間企業をつなぐオンラインマッチングプラットフォームにより、企業の有するノウハウを競技団体の課題解決に効率的・効果的につなげる取組も行っています。

## ▶ 練習拠点の整備

パラスポーツの競技力向上には、継続的に練習できる場の確保が重要です。

このため東京都は、パラアスリートの競技力向上の拠点として、競技団体やチーム、各アスリートが安定的に練習できる施設として「東京都パラスポーツトレーニングセンター」を令和5（2023）年に整備しました。本施設は、パラアスリートの競技力向上に向けた日々のトレーニング施設として活用されています。



### 3 パラスポーツの振興に向けた具体的な取組

#### (4) パラスポーツの「競技力向上」

- 東京から世界へ、東京ゆかりの選手が国際大会等で活躍できるよう、活動を支援
- パラスポーツ競技団体の基盤強化に向け、企業との連携も視野に入れながら様々な支援を実施

##### 選手の育成・強化

- ◆ 東京ゆかりのパラアスリートの競技活動を支援
- ◆ パラアスリートを支えるスタッフの活動環境を整備

各施策の好循環で  
三角形の底辺が広がり  
競技力が更に向上！

##### 競技団体の支援・基盤強化

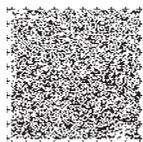
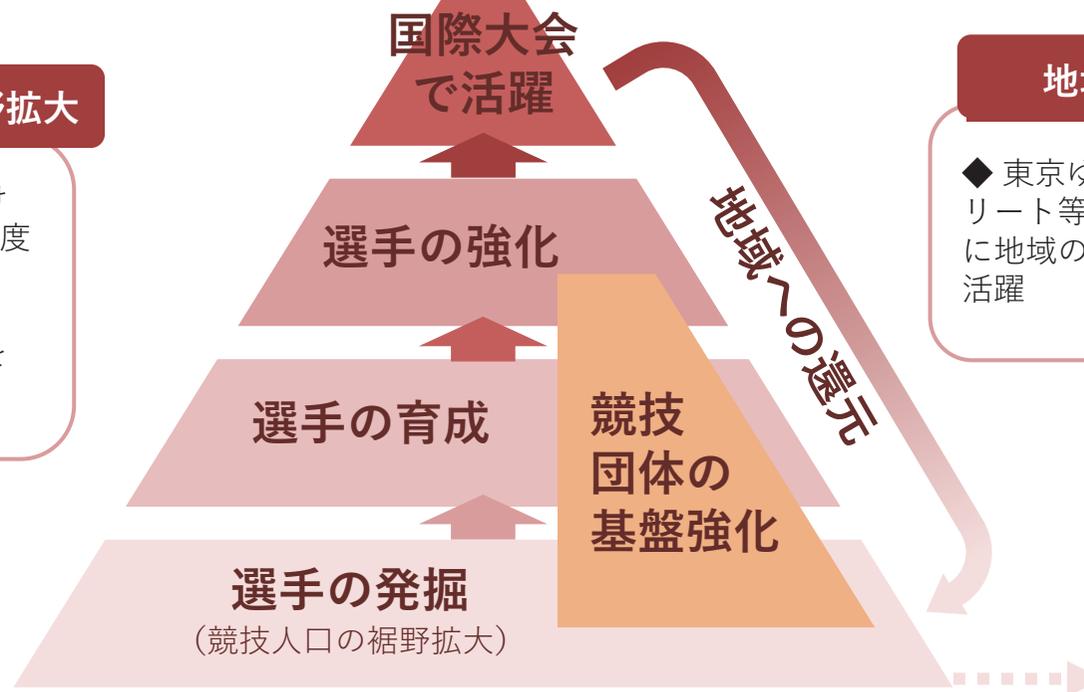
- ◆ 競技団体が実施する強化合宿等の活動を支援
- ◆ 競技団体の組織基盤強化や運営能力向上に向けた支援

##### 選手の発掘・競技人口の裾野拡大

- ◆ 自分に合った競技を見つけられるよう、様々な競技を一度に体験・相談できる場を提供
- ◆ 各競技のルールや魅力等をウェブサイトで紹介

##### 地域への還元

- ◆ 東京ゆかりのパラアスリート等が、その経験を基に地域の講演会や体験会で活躍



## パラスポーツの総合国際大会

### パラリンピック

パラリンピックは、障害のあるトップアスリートが出場する世界最高峰の大会です。4年に一度、夏季大会と冬季大会が2年ごとに交互に開催され、オリンピックと同じ年に、同じ開催都市で行われています。障害種別としては現在は、肢体不自由、視覚障害、知的障害の選手が対象です。また、同じ障害であっても人によって程度が異なることから、公平に競うために障害の「種類」や「程度」で分けて競技を行う「クラス分け」があります。東京では昭和39（1964）年にパラリンピックが開催され、令和3（2021）年には世界で初めて2度目の夏季パラリンピックを開催した都市となりました。

### デフリンピック

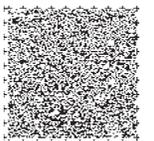
デフ（Deaf）とは、英語で「耳がきこえない」という意味で、デフリンピックは、国際ろう者スポーツ委員会が主催し、オリンピックと同じように4年に一度、夏季大会と冬季大会が2年ごとに交互に開催されるデフアスリートのための国際総合スポーツ競技大会です。手話言語のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報保障が特徴で、第1回は、大正13（1924）年にフランスのパリで開催されました。東京2025デフリンピックは、100周年の記念すべき大会であり、日本では初めての開催になります。

### スペシャルオリンピックス

知的障害者のための国際総合スポーツ大会で、オリンピックと同様に4年に一度、夏季大会と冬季大会が2年ごとに交互に開催されます。大会にはオリジナルのルールがあり、可能な限り同程度の競技能力のアスリートが競い合えるように、性別、年齢、競技能力などによってグループ分けを行います。また、順位だけでなく、最後まで競技をやり終えたことに対して、全てのアスリートが表彰台に立ち、それぞれの成果をたたえる全員表彰があります。

### その他の総合国際大会

その他、IBSA（国際視覚障がい者スポーツ連盟）や、Virtus（国際知的障がい者スポーツ連盟）などが主催する総合国際大会が開かれています。



## 4 パラスポーツの振興 事業一覧

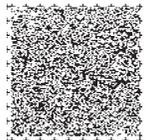
### (1) パラスポーツ 事業一覧

#### 理解促進・普及啓発

事業名	掲載ページ
パラスポーツ応援プロジェクト「TEAM BEYOND」	128,131,165,168,169,205,220,221,244
チャレスポ！TOKYOの開催	132,169
都内におけるパラスポーツ国際大会の開催促進	168,202,221
TOKYOパラスポーツチャンネルの配信	128,168,221
パラスポーツコンシェルジュ事業	179,244
パラスポーツメモリアルイベントの開催	165,207

#### 場の充実

事業名	掲載ページ
パラスポーツ地域サポート事業	134,170,214
区市町村スポーツ推進補助事業	133,166,189,203,214
都立特別支援学校活用促進事業	135,171,215,229
障害児・者の運動習慣定着支援事業	134,172,215
パラスポーツリモート参加事業	173
デジタル技術を活用した障害のある人のスポーツ参加促進事業	173
TOKYOユニバーサルウォーキング普及事業	128,172,216
障害者のスポーツ施設利用促進事業	135,171,216,229
パラスポーツ専門ポータルサイトTOKYOパラスポーツ・ナビの運営	127,133,165,220
障害者スポーツセンター、パラスポーツトレーニングセンターの管理運営	172,229



#### 人材の育成・活用

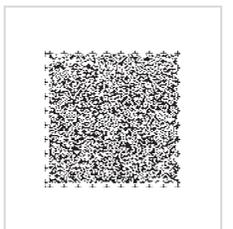
事業名	掲載ページ
パラスポーツセミナーの開催	174,217,235
初級・中級パラスポーツ指導員養成講習会	174,217,236
パラスポーツ人材の活動活性化事業（TOKYO 障スポ&サポートなど）	175,233,236

#### 競技力の向上

事業名	掲載ページ
パラスポーツ次世代ホープ発掘事業	153,176
東京パラアスリート強化事業	156,177
パラスポーツスタートガイドの運営	128,176
デフリンピックチャレンジ事業	157,178,238
パラスポーツ競技活動支援事業	159,177,237
パラスポーツ団体体制強化支援事業	159,179,237
パラスポーツ団体普及活動支援事業	159,179,238
デフスポーツ競技団体都内活動促進事業	157,177,238
マッチングプラットフォーム構築	159,179,244
パラスポーツ人材地域活動促進事業	157,175
パラスポーツオープン競技大会の開催	169
東京都障害者スポーツ大会の開催	160,178
全国障害者スポーツ大会への選手・役員派遣	160,178

## 多摩・島しょに関する施策

---



## 1 多摩・島しょ地域におけるスポーツ振興

### 多摩・島しょ地域におけるスポーツ振興の重要性

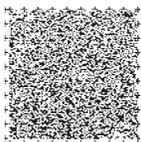
- 東京都には62の市区町村があります。そのうち多摩・島しょ地域は、自然環境に恵まれるなど魅力あふれる地域です。一方で、人口減少・少子高齢化など、様々な課題も抱えています。多摩・島しょ地域の多面的な魅力を伸ばしていくことは、東京の持続的発展のためにも重要です。
- 令和元（2019）年には、東京スタジアムで、RWC2019の開会式と開幕戦を含めた8試合が行われました。  
また、令和3（2021）年に開催された東京2020大会では、武蔵野の森総合スポーツプラザでオリンピックのバドミントン、近代五種及びパラリンピックの車いすバスケットボールを実施し、東京スタジアムではオリンピックのサッカー、近代五種及びラグビーを実施しました。

これらのエリアは、今後も大会の感動と記憶が引き継がれていく場所として、武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパークの名称が付与されています。

- こうしたレガシーを生かし、スポーツを通じて、多摩・島しょ地域の更なる活性化につなげていくことが重要です。

### 多摩・島しょ地域におけるスポーツ振興の方向性

- 令和7（2025）年には東京2025デフリンピックが開催され、多摩・島しょ地域も競技会場になるほか、令和10（2028）年には第39回ねんりんピックの東京開催も予定されています。
- そこで、本編の4つの政策の柱を踏まえ、スポーツに親しむ機会が増え、いつまでも健康・幸福に過ごすための取組、共生社会の実現に向けたスポーツの取組、スポーツを通じて地域の活性化につなげていく取組、そしてスポーツの持続可能性を確保する取組について展開していきます。



## 2 今後の取組

### (1) スポーツに親しむ機会が増え、いつまでも健康・幸福に過ごすための取組

- 多摩・島しょ地域の**高齢化率は高い**傾向にあり、今後も上昇していくことが見込まれています。
- スポーツは、**健康維持や仲間づくり、地域のコミュニティ形成**につながるものであり、高齢者をはじめ、**誰もがいつまでも健康・幸福に過ごせる**よう、スポーツに親しむための取組を推進していくことが必要です。
- 豊かな自然環境を有していることや、プロスポーツチームの拠点があるといった、地域の特色を生かした**市町村の取組を支援**するなど、**スポーツを通じて、多摩・島しょ地域の活力**につなげていきます。

#### ▶市町村が実施するスポーツ振興施策への支援

#### 【市町村が実施するスポーツ振興施策への支援】

##### 市町村のスポーツ振興事業に対する支援

急速な高齢化やデジタル化等、スポーツを取り巻く環境が変化する中、誰もがスポーツを「楽しみ」、スポーツを行う「人」が輝くスポーツ振興を実現するため、身近な場でスポーツができる環境の拡大やパラスポーツの普及など市町村が実施するスポーツ振興事業に対して補助を行います。

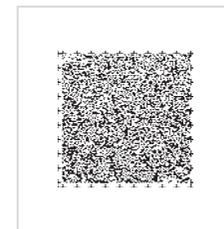
▶関連ページ P.133,166,189,203,214

##### 市町村のスポーツ施設の整備支援

市町村のスポーツ環境の拡充に向け、ユニバーサルデザイン化の推進、暑さ対策、学校施設の市民開放などの施設の改修整備に係る取組を支援します。

▶関連ページ P.182,227

	補助の例
市町村のスポーツ振興事業に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子供・働き盛り世代・女性・シニアをターゲットとしたスポーツ推進の取組</li> <li>● eスポーツやユニバーサルコミュニケーション技術などのデジタル技術の活用</li> <li>● パラスポーツの関心度や障害のある人のスポーツ実施率の向上につなげるための取組</li> </ul> <p>など</p>
市町村のスポーツ施設の整備支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新たなスポーツ活動の場の創出</li> <li>● 学校施設の市民開放</li> <li>● 暑さ対策等のスポーツ環境の拡充</li> <li>● パラスポーツの推進に係る工事</li> <li>● 全国大会等の開催を見据えた競技環境向上に向けた工事</li> </ul> <p>など</p>



## 2 今後の取組

### (1) スポーツに親しむ機会が増え、いつまでも健康・幸福に過ごすための取組

#### ▶ ライフステージに応じたスポーツ振興

##### ジュニア育成地域推進事業

東京都のジュニア選手の裾野を広げ、競技力の底上げを図るため、小・中・高校生を対象としたスポーツ・運動教室、大会、強化練習等を実施します。

また、未就学児を対象に基礎的運動能力を習得するプログラムを展開します。

▶ 関連ページ P.154



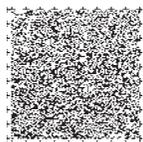
##### 幅広い世代が参加する大会の開催

広くスポーツを普及・振興し、参加者の健康増進と体力向上を図るとともに、市区町村対抗の方式で競技力向上を図ることを目的に開催する東京都スポーツ大会のほか、幅広い世代が参加する大会を開催します。

▶ 関連ページ P.151,190



東京都スポーツ大会（島しょ大会）



## シニアスポーツ振興事業

高齢者のスポーツ実施率向上を図り、高齢者の健康維持・増進に寄与することを目的に、各地域で実施する高齢者対象のスポーツ競技会、講習会・講演会等を支援します。

▶関連ページ P.149,187



## 東京都シニア・コミュニティ交流大会の開催

シニア世代が趣味を通じて、地域やコミュニティ等とつながりを持つきっかけづくりを目的として、シニアに親しまれている種目（囲碁・将棋・健康マージャン・ダンススポーツ・カラオケ・eスポーツ）による交流大会を開催します。

▶関連ページ P.149,188

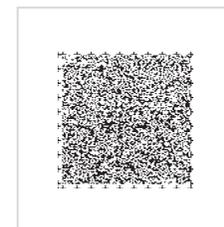


東京都シニア・コミュニティ交流大会

## ねんりんピック東京開催を契機としたシニアスポーツ振興

令和10（2028）年に東京で開催される第39回ねんりんピックに向け、市町村をはじめ関係者と連携し、準備を進めていきます。また、ねんりんピックの気運醸成に向けたシニアスポーツ振興の取組など市町村が実施するスポーツ振興事業に対して補助を行います。

▶関連ページ P.203



## 2 今後の取組

### (2) 共生社会の実現に向けたスポーツの取組

- 多摩地域には、都内に2か所ある障害者専用のスポーツ施設のうちのひとつである「東京都多摩障害者スポーツセンター」があるほか、令和5（2023）年には、都立初のパラスポーツの競技力向上の拠点として、「東京都パラスポーツトレーニングセンター」が開所しました。
- こうした都立スポーツ施設の管理・運営のほか、**共生社会の実現に資する市町村等の取組を支援**していきます。

#### ▶ 都立スポーツ施設を活用したパラスポーツの振興

##### 東京都多摩障害者スポーツセンター

障害者専用のスポーツ施設として、障害者の健康増進と社会参加の促進を図るため、スポーツ・レクリエーション、講習会等の場を提供していきます。

▶ 関連ページ P.172,224,229



東京都多摩障害者スポーツセンター

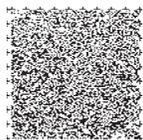
##### 東京都パラスポーツトレーニングセンター

東京2020パラリンピックのレガシーとして、東京都におけるパラスポーツの競技力向上の拠点、普及振興の場を提供していきます。

▶ 関連ページ P.172,224,229



東京都パラスポーツトレーニングセンター



## ▶身近な活動の場・機会の充実

### 障害者のスポーツ施設利用促進事業

障害のある人が身近な地域のスポーツ施設をより安全で快適に利用できるようにするため、市町村や民間のスポーツ施設において、施設管理者が配慮すべきポイントを掲載した「障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル」の活用を促進します。

また、市町村スポーツ施設に対して、パラスポーツの専門知識を有するアドバイザーを派遣し、施設のニーズや状況に合わせて、障害のある人のスポーツ施設の利用促進に向けた支援を実施します。

▶関連ページ P.135,171,216,229



### 都立特別支援学校活用促進事業

障害のある人や障害者スポーツ団体等が身近な地域でスポーツ活動ができるよう、都立特別支援学校の体育施設をパラスポーツの拠点の一つと位置付け、学校教育活動に支障のない範囲で開放し、活用を促進します。

また、事業実施校において、障害の有無にかかわらず誰もが参加できるパラスポーツやスポーツ・レクリエーションの体験教室を実施します。

▶関連ページ P.135,141,171,215,229

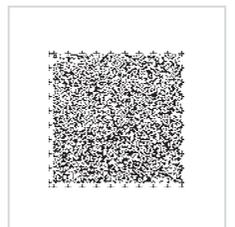
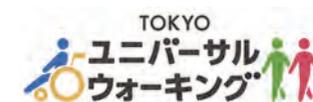


体験教室（風船バレー）

### TOKYOユニバーサルウォーキング普及事業

障害当事者等の意見も聞きながら都内各地域で選定してきたバリアフリーに配慮したウォーキングコースについて、多くの方に利用いただけるよう普及を図ります。あわせて、アプリを活用したキャンペーンを実施し、ウォーキングの継続的な実施につなげていきます。

▶関連ページ P.128,172,216



## 2 今後の取組

### (2) 共生社会の実現に向けたスポーツの取組

#### パラスポーツ地域サポート事業

パラスポーツ事業のノウハウを持つアドバイザーが、市町村や地域スポーツクラブ等を訪問し、事業の企画・実施を支援するほか、指導者等のコーディネートや用具の貸与を通じて、身近な地域でスポーツを楽しめる環境づくりを図ります。

また、市区町村間で現状の取組状況や課題についての意見交換、スポーツと医療・福祉等の他分野との連携事例の共有を行うパラスポーツ地域ブロック関係者連絡会議を実施します。

▶ 関連ページ P.134,170,214



パラスポーツ用具の貸出し

#### 障害児・者の運動習慣定着支援事業

障害のある人が日中に滞在している福祉施設や放課後等デイサービスなどに指導者を派遣し、利用者の障害種別や程度等に応じた運動プログラムを定期的を実施することで、身体を動かすことの習慣化を図ります。

また、地域の中で日常的に運動を楽しむ機会を提供するため、地域のスポーツ施設等でも運動プログラムを実施します。

▶ 関連ページ P.134,141,172,215

#### デジタル技術を活用した障害のある人のスポーツ参加促進事業

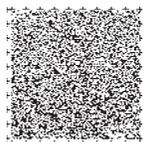
身体を動かしづらい人や、外出が難しい人等が、eスポーツの活用により、通い慣れた施設等の身近な場所で、障害の種別・程度に合わせた方法で、スポーツ・運動を楽しめる機会を創出します。

また、スポーツイベントや大規模展示会等での出展により、体験機会の拡大や障害のある人となない人との交流、企業等への障害のある人のニーズ理解や認知度向上を図ります。

▶ 関連ページ P.173



デジタル技術を活用したeパラスポーツの交流会



## ▶ パラスポーツを支える人材の確保

### パラスポーツセミナーの開催

市町村職員やスポーツ推進委員、医療福祉関係者等を対象にセミナーを開催し、パラスポーツ事業実施のきっかけづくりや好事例の共有・普及を図り、身近な地域におけるパラスポーツ振興のキーパーソンの育成を図ります。

▶ 関連ページ P.174,217,235



パラスポーツセミナー

### 初級・中級パラスポーツ指導員養成講習会

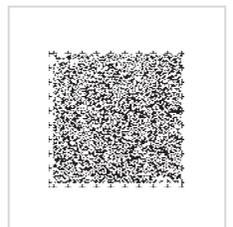
スポーツ推進委員や公立スポーツ施設職員等を対象に、JPSA公認初級パラスポーツ指導員養成講習会を開催し、地域のパラスポーツの現場で、障害のある人のスポーツ参加のきっかけ作りを支援する人材を育成・確保します。

また、初級パラスポーツ指導員を対象に、中級パラスポーツ指導員養成講習会を開催し、地域のリーダーとして、専門的な知識と技術、経験に基づきパラスポーツの普及振興を支える人材を育成・確保します。

▶ 関連ページ P.174,217,236



パラスポーツ指導員養成講習会



## 2 今後の取組

### (3) スポーツを通じて地域の活性化につなげていく取組

- 東京2025デフリンピックやTHE ROAD RACE TOKYOの開催のほか、豊かな自然を生かした様々なイベント等を実施し、多摩・島しょ地域の活性化につなげていきます。
- また、多摩地域のスポーツ振興の拠点である武蔵野の森総合スポーツプラザや東京スタジアムにおいては、地域のスポーツ振興を支えていくほか、地域のにぎわい創出にも寄与していきます。

#### ▶ 国際大会の開催

##### 東京2025デフリンピックの開催支援

令和7（2025）年に開催される東京2025デフリンピックにおいて、武蔵野の森総合スポーツプラザでバドミントン、府中市立総合体育館でレスリング（フリースタイル）、レスリング（グレコローマン）、東大和グランドボウルでボウリング、伊豆大島ではオリエンテーリングが実施されます。大会の招致主体である（一財）全日本ろうあ連盟などの関係者と連携し、大会の準備・運営に協力していくとともに、大会を通じて、あらゆる人が協働した大会運営、情報保障の充実や円滑なコミュニケーションのサポート、共生社会への理解促進などの取組を進めます。

▶ 関連ページ P.197

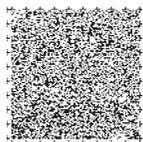


##### 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの気運醸成

スポーツのすばらしさ、多様な価値観を認め合う共生社会の大切さなど、両大会に共通するメッセージを、関係機関と連携して一体的に発信するとともに、節目の機会を捉えて様々な取組を展開することで、都民の関心と期待感を高め、大会の成功につなげていきます。

また、市町村の協力を得て各種イベントで大会情報を発信するとともに、市町村が独自に気運醸成に資する事業を実施できるよう支援を行い、連携して開催気運を高めていきます。

▶ 関連ページ P.198



## ▶自然を生かしたスポーツイベント等

### スポーツイベント等の開催

都民が気軽に参加、体験できるスポーツイベントを開催します。

その取組の中で、スポーツ・レクリエーションをはじめ、多様なスポーツを紹介することで認知度向上を図るなど、誰もが楽しむことができるスポーツの普及を進めていきます。

また、市町村のスポーツ振興と競技力の向上、地域の発展に寄与することを目的に、東京都市町村総合スポーツ大会を開催します。

▶関連ページ P.131,151,190,206



TOKYOウォーク2024

### THE ROAD RACE TOKYOの開催

東京2020大会の自転車ロードレース会場である多摩地域では自転車ロードレース「THE ROAD RACE TOKYO」を開催し、東京2020大会のレガシーを未来に継承し、身近なスポーツとしての自転車への興味や関心につなげています。令和6（2024）年には、「THE ROAD RACE TOKYO TAMA 2025」（エリート男子）が国際自転車競技連合（UCI）から国際自転車ロードレース（UCIコンチネンタルサーキット class2）として公認されました。UCI公認の国際自転車ロードレースとして「THE ROAD RACE TOKYO」を実施していくことで、よりハイレベルな海外選手等を招へいし、レースの魅力や価値を高め、コースとなる多摩地域の魅力発信にもつなげていきます。

▶関連ページ P.205



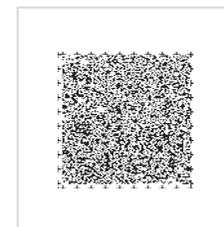
THE ROAD RACE TOKYO TAMA 2023

#### 自転車ロードレースコースへのマーク設置

東京2020オリンピックで自転車ロードレースのコースとなった道路上に、その証として、サイクリスト等がレガシーと認知できるルートマーカーを設置しています。



ルートマーカー



## 2 今後の取組

### (3) スポーツを通じて地域の活性化につなげていく取組

#### ▶都立スポーツ施設を活用したスポーツ振興とにぎわい創出

##### 武蔵野の森総合スポーツプラザ

東京スタジアムと合わせて多摩の一大スポーツ拠点进行形成し、競技大会や地域スポーツの拠点として多摩のスポーツ振興に貢献するとともに、大規模イベント等の会場として、地域のにぎわいにも貢献していきます。

▶関連ページ P.224,225



武蔵野の森総合スポーツプラザ

##### 東京スタジアム

サッカーJリーグチームやラグビーリーグワンチームのホームグラウンドとして知られるなど、全都的なスポーツの拠点となっているほか、スポーツ以外にもコンサート、試乗会、フリーマーケットなど多彩なイベントを開催していきます。

▶関連ページ P.224,225

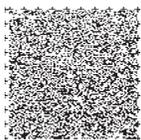


東京スタジアム

#### ▶東京2020大会のレガシーの継承

##### 東京2020大会のレガシーを継承する取組

東京2020大会におけるメダル、聖火リレーのトーチ等の記念品や記録等のアーカイブ資産について、適切に保存・管理、利活用し、大会の意義や感動を確かなレガシーとして、将来に引き継いでいきます。



▶関連ページ P.202



市町村へのアーカイブ資産等の貸出し

## (4) スポーツの持続可能性を確保する取組

- 多摩地域の人口は令和7（2025）年をピークに減少に転じると見込まれており、島しょ地域でも人口減少、少子高齢化が課題となっています。
- こうした中で、**学校部活動を取り巻く環境**など、様々な変化が生じています。
- 多摩地域は、企業・大学などの地域資源を有しています。こうした地域の持つポテンシャルを生かし、**持続的にスポーツに取り組めるよう**、地域スポーツを**支える担い手の確保・育成等**の取組を支援していきます。

### ▶地域スポーツを支える人材の育成等

#### スポーツ推進委員研修会等の開催

地域におけるスポーツ推進委員活動の充実及び資質の向上並びに広域的な連携・協調を図ることで、都内の地域スポーツの振興に資する人材の育成を行います。

▶ 関連ページ P.213,235,240

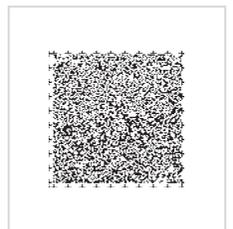


東京都地域スポーツ支援研修会

#### 生涯スポーツ担当者研修会の開催

生涯スポーツ社会の実現に資することを目的として、生涯スポーツに関する行政及びスポーツ団体の関係者に対し、東京都のスポーツ振興における問題意識を共有し、関係者相互の連携を強化します。

▶ 関連ページ P.235



## 2 今後の取組

### (4) スポーツの持続可能性を確保する取組

#### 地域スポーツクラブの設立・育成・運営支援

地域の日常的なスポーツ活動の場として、都民の誰もが参加できる地域スポーツクラブの設立と、安定した活動を支援します。

▶関連ページ P.212,239

#### 総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の運用

令和4（2022）年度から全国で開始となった「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度」について、東京都においても運用します。

▶関連ページ P.212,239

#### 登録クラブの活用促進

「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度」の普及啓発・理解促進及び登録クラブの活用促進のため、市町村に対し研修会等を実施します。

▶関連ページ P.213,240

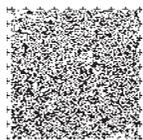
#### 地域のスポーツ振興に向けた関係者会議

持続可能な地域におけるスポーツ環境を整備するため、会議を設置し、地域の実情に応じた新たな担い手の確保やスポーツ関係団体との連携、部活動の地域連携・地域移行に関すること等について議論します。

▶関連ページ P.213,242

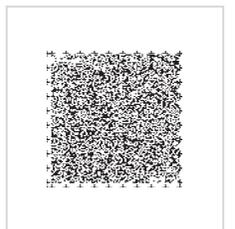


地域スポーツクラブ交流会



# 計画策定の経緯 (審議会・都民意見の聴取)

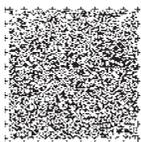
---



# 1 検討経過

## (1) 第29期東京都スポーツ振興審議会等における計画検討経過

時 期	内 容
令和5（2023）年12月22日	<b>東京都スポーツ振興審議会（第1回）</b> ○知事が「東京都スポーツ推進総合計画の改定について」を東京都スポーツ振興審議会に諮問
令和6（2024）年3月28日	<b>東京都スポーツ振興審議会（第2回）</b> ○「（次期）東京都スポーツ推進総合計画」の策定に係る調査審議 ・次期計画期間とその先を見据えた議論について
令和6（2024）年5月16日	<b>東京都スポーツ振興審議会（第3回）</b> ○「（次期）東京都スポーツ推進総合計画」の策定に係る調査審議 ・スポーツ・身体活動を通じた健康増進について ・スポーツを通じた地域・経済の活性化について
令和6（2024）年6月20日	<b>東京都スポーツ振興審議会（第4回）</b> ○「（次期）東京都スポーツ推進総合計画」の策定に係る調査審議 ・パラスポーツの振興について ・子供・女性のスポーツ振興について
令和6（2024）年9月12日	<b>東京都スポーツ振興審議会（第5回）</b> ○「（次期）東京都スポーツ推進総合計画 骨子案」に係る調査審議
令和6（2024）年11月12日	<b>東京都スポーツ振興審議会（第6回）</b> ○「（次期）東京都スポーツ推進総合計画 中間まとめ素案」に係る調査審議
令和6（2024）年12月24日	<b>東京都スポーツ振興審議会（第7回）</b> ○「（次期）東京都スポーツ推進総合計画 中間まとめ（案）」に係る調査審議
令和6（2024）年12月25日	「（次期）東京都スポーツ推進総合計画 中間まとめ」を公表
令和6（2024）年12月25日～ 令和7（2025）年1月24日	都民及び関係団体等からの意見募集
令和7（2025）年1月29日	<b>東京都スポーツ振興審議会（第8回）</b> ○「（次期）東京都スポーツ推進総合計画について（東京都スポーツ振興審議会 答申案）」に係る調査審議
令和7（2025）年2月12日	<b>東京都スポーツ振興審議会（第9回）</b> ○「（次期）東京都スポーツ推進総合計画について」を知事に答申
令和7（2025）年3月28日	「東京都スポーツ推進総合計画」を公表



## 2 東京都スポーツ振興審議会（第29期）委員名簿

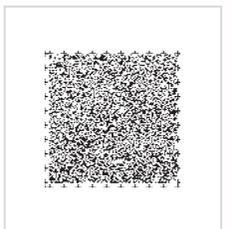
任期：令和5（2023）年12月12日～令和7（2025）年12月11日まで

氏名	現職
まつお てつや ◎松尾 哲矢	(公財) 日本レクリエーション協会 理事 (立教大学スポーツウエルネス学部 教授)
えんよ かつら ○延與 桂	(公社) 東京都障害者スポーツ協会 会長
いとう しょうこう ※1 伊藤 しょうこう	東京都議会議員
おぶち かずなり 小淵 和也	(公財) 笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所 政策ディレクター
かつまた さとし ※1 かつまた さとし	東京都議会議員
かとう てるたか 加藤 晃孝	(一財) 東京私立中学高等学校協会 広報部 副部長
こうもと ともひこ 幸本 智彦	東京商工会議所健康づくり・文化推進委員会 共同委員長 (アクサ生命保険(株) 代表取締役副社長)
さかい だいし ※2 酒井 大史	東京都市長会 (立川市長)
しおみ きよひと 塩見 清仁	(公財) 東京都スポーツ協会 理事長
じょうだい けいこ 上代 圭子	東京国際大学 人間社会学部 准教授
しらと たろう 白戸 太郎	東京都議会議員
たかく のりお ※3 たかく 則男	東京都議会議員

氏名	現職
たかはし なおこ 高橋 尚子	(公財) 日本オリンピック委員会 評議員、 (公財) 日本陸上競技連盟 評議員
たきぐち がく ※4 滝口 学	特別区長会 (荒川区長)
たむら みさこ 田村 みさ子	東京都町村会 (日の出町長)
ながみ かずお ※5 永見 理夫	東京都市長会 (前 国立市長)
にいじま ふみひこ 新島 二三彦	(一社) 東京都スポーツ推進委員協議会 会長
にしかわ たいいちろう ※6 西川 太郎	特別区長会 (前 荒川区長)
にじょう みほ 二條 実穂	パラリンピアン (車いすテニス)
はやし あきひろ ※3 林 あきひろ	東京都議会議員
はら すずむ 原 晋	青山学院大学地球社会共生学部 教授 兼 青山学院大学陸上競技部 監督
みずむら まゆみ 水村 真由美	お茶の水女子大学基幹研究院 教授
みやち もとひこ 宮地 元彦	早稲田大学スポーツ科学学術院 教授
ヨーコ ゼッターランド	オリンピック (バレーボール・アメリカ代表)

◎会長 ○副会長 (五十音順・令和7(2025)年3月1日現在)

- ※1 令和6(2024)年11月1日から
- ※2 令和7(2025)年1月31日から
- ※3 令和6(2024)年10月16日まで
- ※4 令和6(2024)年12月9日から
- ※5 令和6(2024)年12月26日まで
- ※6 令和6(2024)年12月5日まで



## 3 都民アンケート

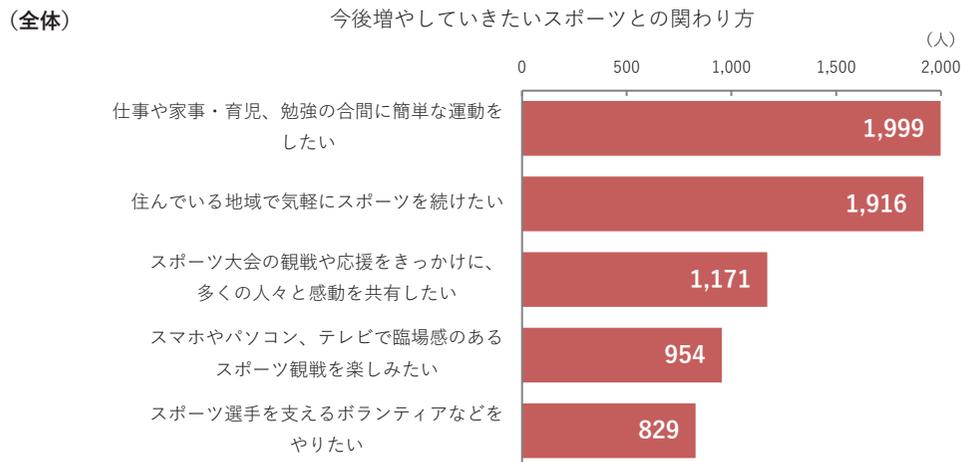
### (1) SNSアンケート概要

#### 都民の関心、期待の高い項目を把握し、政策を強化するため、アンケート調査を実施

- 調査対象：東京都の各種公式SNS登録者
- 調査方法：アンケート専用ホームページから回答
- 調査期間：令和6（2024）年9月15日（日）～同月30日（月）
- 回答者数：3,604

Q. スポーツには「する」「みる」「支える」といった色々な関わり方があります。今後、どのような関わりを増やしていきたいですか。

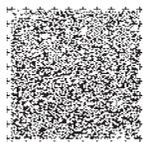
#### 【年代別の分析（アンケートTOP5）】



全体	20代未満 ・20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代 以上
55.5%	77.2%	69.0%	70.4%	62.6%	45.3%	26.7%	20.8%
53.2%	70.2%	43.1%	49.6%	52.1%	56.4%	58.8%	62.5%
32.5%	40.4%	26.4%	31.9%	36.1%	31.0%	30.0%	25.0%
26.5%	38.6%	25.0%	25.1%	27.2%	25.4%	27.6%	39.6%
23.0%	31.6%	12.5%	19.8%	28.8%	22.4%	15.2%	4.2%

#### POINT

- 20～40代は「仕事や家事・育児、勉強などの合間」に簡単な運動をしたい割合が高い
- 年代が高いほど「住んでいる地域」で気軽にスポーツを続けたい割合が高い



Q. スポーツをする楽しさや、みる感動を高めていくための手段として、デジタルの活用が考えられます。デジタルでどのようなことが実現できると良いと思いますか。

【関心の高かったもの（アンケートTOP3）】

【方向性】

- 1. データに基づいたアドバイス **54.9%** ▶
- 2. 競技会場にいるような観戦体験 **40.9%** ▶
- 3. 言葉や障害の有無に関係ないコミュニケーション **36.5%** ▶

スポーツで輝く①

企業等と連携し、データ活用による健康増進等を促進



スポーツでにぎわう①

最新の技術を活用し、重度障害などがある人も大会へ参画



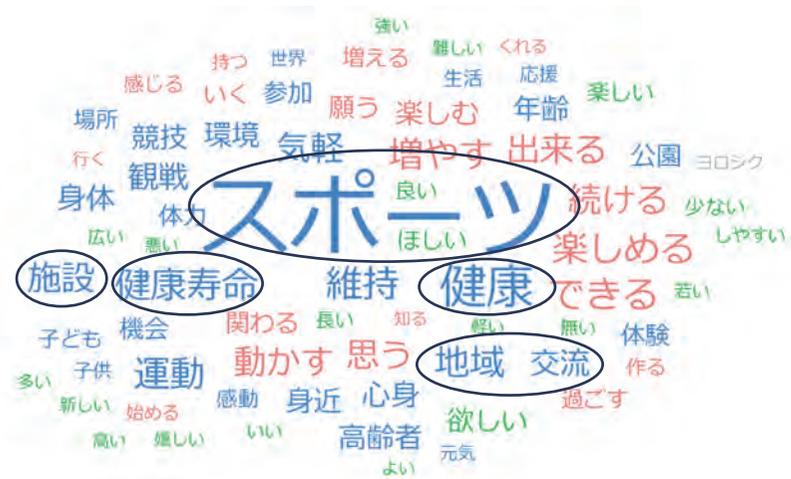
スポーツでつながる②

ユニバーサルコミュニケーション技術の社会実装を促進



Q. スポーツを通して叶えたい夢や願いを自由にお書きください。

【頻繁に使われていた単語】



品詞ごとに色分け 青：名詞 赤：動詞 緑：形容詞

性別も年齢も障がいの有無も関係なく、全ての人がスポーツを通して、一緒に楽しい経験が出来るといい（50代女性）

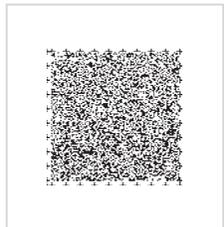
身近にできる運動を継続してできるような仕組みや機会の提供を受け、健康寿命を伸ばして自宅で生活したい（60代女性）

いつまでもスポーツで健康を保ち人生を楽しみたい（20代男性）

スポーツを通じて地域の交流を深め地域に貢献したい（70代男性）

どの年代もスポーツを楽しめる施設が充実すると良い（40代女性）

スポーツを中心に、健康や地域での交流を実現したい  
ということがうかがえる



## 4 子供へのアンケート

### (1) こども都庁モニター概要

#### 子供のスポーツ振興に向けて、次期計画における現状課題の認識に活用するため、アンケート調査を実施

- 調査対象：未就学児（保護者）及び小学生～高校生
- 調査期間：令和6（2024）年6月22日（土）～7月1日（月）
- 調査方法：アンケート専用ホームページから回答
- 回答者数：1,168

Q. できるようになりたい（上手になりたい）スポーツはありますか？100文字以内でいくつでも書いてください。

#### 【意見抜粋（要旨）】

体を動かすことならどのようなスポーツにも興味を持ってチャレンジしてほしい（未就学児保護者）

水泳はもちろん、生涯にわたって仲間と楽しめる球技も楽しんでもらいたい（未就学児保護者）

水泳、テニス、跳び箱、鉄棒、マット（小学校低学年）

走るコツを教わったら走るのが速くなったので、また教えてもらえることがあれば、参加したい（小学校低学年）

小学校でポッチャをやって楽しかったので、もっと上手になりたい（小学校高学年）

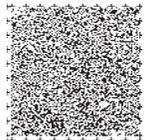
部活で中長距離をやっているが、記録が伸び悩んでいるので、走り方やカラ配分などを勉強したい（中学生）

ラグビー、ダンス、ブレイキン。競技人口が少ないスポーツをやってみたい（中学生）

スポーツライミング。東京大会からオリンピック競技になり、選手が勢よく壁を登っていく姿に感動した（高校生）

#### POINT

- 苦手を克服したい、より良い成績を残したいと前向きに考えている子供が多い。
- 複数のスポーツを挙げている子供が多く、幅広いスポーツへの関心がうかがえる。



#### 方向性

政策の柱1 **スポーツで輝く①** ▶関連ページ P.140  
苦手克服のサポート等、スポーツ離れを抑制

政策の柱1 **スポーツで輝く①** ▶関連ページ P.142  
継続的なスポーツ機会の創出・提供

## 5 都民等及び関係団体からの御意見

### (1) 「東京都スポーツ推進総合計画」中間まとめに対する意見募集

#### 御意見の募集について

本計画の策定に当たっては、東京におけるスポーツの推進について、都民の皆さんに知っていただくとともに、各取組の実効性を高めるため、「東京都スポーツ推進総合計画」中間まとめを令和6年12月25日に公表し、都民の皆さんや団体等から御意見を公募しました。

- 募集期間 令和6年12月25日から令和7年1月24日まで
- 内容 「(次期)東京都スポーツ推進総合計画」中間まとめへの意見公募
- 意見数 43件  
※詳細は「スポーツTOKYOインフォメーション」に掲載しています。



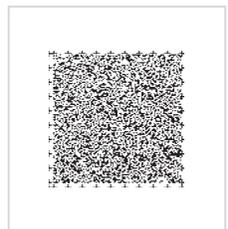
### (2) 障害者関係団体等との意見交換

#### 障害者関係団体等からの御意見について

本計画の策定に当たっては、パラスポーツの振興について、障害当事者や障害者関係団体との意見交換も実施しました。

#### 御意見の例

- パラスポーツを「誰でも楽しめるスポーツ」としてもっと普及していく必要がある。
- オリンピックにはないデフリンピック特有の競技があることや、聴覚に障害のある人がどのようにスポーツに取り組んでいるかを知ってほしい。
- 幼少期から、障害のある人となない人がスポーツを通じて交流できる場が増えるとよい。
- 知的障害者のスポーツ活動には周囲のサポートが重要なので、人材育成が必要。  
また、障害のことを知ってもらう意味でも、ボランティアが増えるとよい。
- 障害者に身近な福祉施設の職員等にスポーツ・運動の効用を知ってもらい、スポーツを勧めてもらうことが重要。



## 6 取組一覧

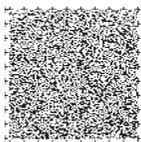
### 重点政策テーマ

#### Project 0：スポーツの力を高める「スポーツDXプロジェクト」

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>スポーツを通じた健康増進</b>			
スポーツを通じた健康増進事業	スポーツ推進本部	73,74,77	
<b>アスリートの競技力向上</b>			
東京都スポーツ協会等のデジタル化による事務効率化支援	スポーツ推進本部	73,74,77	●
<b>誰もがスポーツと触れ合い、楽しむ機会の創出</b>			
東京都シニア・コミュニティ交流大会の開催	スポーツ推進本部	73,75,77	●
デジタル技術を活用した障害のある人のスポーツ参加促進事業	スポーツ推進本部	73,75,77	●
バーチャルスポーツに触れる機会の提供	スポーツ推進本部	73,75	●
eスポーツの活用に関する調査・検証	スポーツ推進本部	73,75,77	●
<b>スポーツを通じた相互理解の促進</b>			
ユニバーサルコミュニケーションの促進	スポーツ推進本部	73,76,77	
<b>スポーツ施設検索の利便性向上</b>			
スポーツ案内サイト「SPOPITA」の運営	スポーツ推進本部	73,76,77	●
<b>企業等との連携による新たな価値の創出</b>			
マッチングプラットフォーム構築	スポーツ推進本部	73,76,77	●

#### Project 1：スポーツとともに育つ「チルドレン・スポーツ・プロジェクト」

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>「スポーツ好き」を醸成</b>			
子供が様々な運動・スポーツに親しむ機会の創出	スポーツ推進本部	79,80,83	
幼児期の外遊び習慣づくり	スポーツ推進本部	79,80,83	
保護者のフィジカルリテラシーの涵養	スポーツ推進本部	79,80,83	
<b>個々の実態・多様なニーズへ対応</b>			
苦手克服のサポート等、スポーツ離れを抑制	スポーツ推進本部	79,81,83	
都立特別支援学校活用促進事業	スポーツ推進本部、 教育庁	79,81	●
障害児・者の運動習慣定着支援事業	スポーツ推進本部	79,81,83	●
「楽しむスポーツ」の普及	スポーツ推進本部	79,81,83	●
トップアスリート発掘・育成事業	スポーツ推進本部	79,81,83	●
スポーツを通じた国際交流	スポーツ推進本部	79,81,83	●
東京パラアスリート強化事業	スポーツ推進本部	79,81,83	●
<b>スポーツに触れ、親しむ時間・機会の創出</b>			
気軽にできる効果的な運動の普及啓発	スポーツ推進本部	79,82,83	
子供のニーズに対応した効果的な情報発信	スポーツ推進本部	79,82,83	
継続的なスポーツ機会の創出・提供	スポーツ推進本部	79,82,83	●



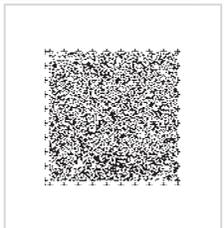
※レガシービジョン：TOKYOスポーツレガシービジョン（2022年1月）を継承する取組

※スポーツ推進本部は、令和7（2025）年4月設置

**Project 2：多様性があふれる「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」**

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>ねんりんピックの東京開催を契機としたシニアスポーツ振興</b>			
<b>スポーツを通じた健康維持・増進</b>			
シニアスポーツ振興事業	スポーツ推進本部	87,88,98	
スポーツを通じた健康増進事業	スポーツ推進本部	87,88	
簡単に楽しめるスポーツの普及	スポーツ推進本部	87,88	●
区市町村スポーツ推進補助事業	スポーツ推進本部	87,88,98	●
<b>スポーツを通じた社会参加や仲間づくりの促進</b>			
東京都シニア・コミュニティ交流大会の開催	スポーツ推進本部	87,89,98	●
都民スポレクふれあい大会	スポーツ推進本部	87,89	●
スポーツ以外の分野とのコラボレーションによりスポーツに親しめる取組の検討	スポーツ推進本部	87,89	●
スポーツ大会への都民招待	スポーツ推進本部	87,89	●
スポーツTOKYOインフォメーションの運営	スポーツ推進本部	87,89	●
<b>高齢者が活躍できる機会の創出</b>			
シニア健康スポーツフェスティバルの開催	スポーツ推進本部	87,90	●
全国健康福祉祭（ねんりんピック）への選手団派遣	スポーツ推進本部	87,90	
区市町村スポーツ推進補助事業	スポーツ推進本部	87,90	●
<b>女性の多様なニーズを捉えたスポーツへの参画・活躍を推進</b>			
女性向けスポーツ情報の発信	スポーツ推進本部	91,92,98	
女性特有の健康課題の予防に資するスポーツの普及・啓発	スポーツ推進本部	91,92	
ライフステージに応じたスポーツに親しむ時間・機会の創出	スポーツ推進本部	91,92	●
多忙な働き盛り世代に向けた取組支援	スポーツ推進本部	91,92,98	●
女性アスリート特有の課題に関する情報発信	スポーツ推進本部	91,92,98	●
スポーツ関係団体における女性の参画促進	スポーツ推進本部	91,92	●

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>障害の有無にかかわらずパラスポーツを楽しめる取組を推進</b>			
<b>身近な地域でスポーツを楽しめる場を創出</b>			
障害者スポーツセンター、パラスポーツトレーニングセンターの運営	スポーツ推進本部	93,94	●
パラスポーツ地域サポート事業	スポーツ推進本部	93,94	●
区市町村スポーツ施設のバリアフリー化支援	スポーツ推進本部	93,94	●
障害児・者の運動習慣定着支援事業	スポーツ推進本部	93,94,98	●
都立特別支援学校活用促進事業	スポーツ推進本部、 教育庁	93,94,98	●
<b>自分に合ったパラスポーツに出会い、高みを目指せる環境を構築</b>			
パラスポーツ次世代ホープ発掘事業	スポーツ推進本部	93,95,98	●
東京パラアスリート強化事業	スポーツ推進本部	93,95	●
<b>デジタル技術を活用し、より多くの「できる」を体験</b>			
デジタル技術を活用した障害のある人のスポーツ参加促進事業 （障害種別や程度に応じた運動機会の創出、eスポーツ交流会等の実施、企業等に対する当事者ニーズのPR）	スポーツ推進本部	93,96,98	●
<b>スポーツを通じた相互理解を促進</b>			
パラスポーツ普及啓発プロジェクト「TEAM BEYOND」	スポーツ推進本部	93,97,98	●
パラスポーツメモリアルイベントの開催	スポーツ推進本部	93,97	●



## 6 取組一覧

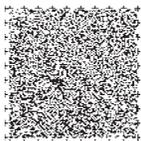
### 重点政策テーマ

#### Project 3 : スポーツの力で世界をリードする「TOKYOの魅力向上プロジェクト」

#### Project 4 : スポーツを楽しむ環境を実現する「スポーツFACILITIESプロジェクト」

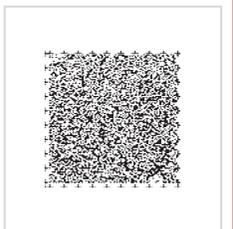
取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>国際スポーツ大会を盛り上げ、東京に様々な価値を生み出していく</b>			
東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを通じた取組	スポーツ推進本部	101,102,106	●
東京マラソンの開催支援	スポーツ推進本部	101,103,106	
ランナー応援イベントの開催	スポーツ推進本部	101,103	
東京レガシーハーフマラソンの開催支援	スポーツ推進本部	101,103	●
東京レガシースタジアムの開催	スポーツ推進本部	101,103	●
<b>多種多様な大会の誘致・開催により、東京のスポーツの力を高めていく</b>			
国際大会誘致・調査支援、開催支援	スポーツ推進本部	101,104,106	●
都内におけるパラスポーツ国際大会の開催促進	スポーツ推進本部	101,104,106	●
国際スポーツ関係者への情報発信	スポーツ推進本部	101,104,106	●
海外向けウェブページでの情報発信	スポーツ推進本部	101,104,106	●
<b>国際スポーツ大会の経験をレガシーとし、スポーツ大会の運営を支援していく</b>			
国際スポーツ大会の経験をレガシーとし、スポーツ大会の運営を支援していく	スポーツ推進本部	101,105	●

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>東京のスポーツインフラの中核を担う施設の強みを発揮</b>			
都立スポーツ施設の管理運営	スポーツ推進本部	110,111,115	●
東京辰巳アイスアリーナの開業・運営	スポーツ推進本部	110,111,115	●
障害者スポーツセンター、パラスポーツトレーニングセンターの運営	スポーツ推進本部	110,111	●
都立スポーツ施設の戦略的活用 (ユニークベニューなどの多目的利用、18施設の一体的なプロモーション、施設を活用した多様なコンテンツの提供)	スポーツ推進本部	110,112,115	●
<b>安全・安心・信頼のスポーツ環境を提供</b>			
都立スポーツ施設の大規模改修	スポーツ推進本部	110,113,115	●
誰もが利用しやすい施設環境の整備推進	スポーツ推進本部	110,113,115	●
都立スポーツ施設における暑さ対策の推進	スポーツ推進本部	110,113	
クーリングシェルター（指定暑熱避難施設）等としての役割	スポーツ推進本部、環境局	110,113	
都立スポーツ施設における環境配慮の取組	スポーツ推進本部	110,113	
<b>身近なスポーツ環境の更なる充実</b>			
区市町村等のスポーツ施設の整備支援	スポーツ推進本部	110,114,115	●
継続的なスポーツ機会の創出・提供	スポーツ推進本部	110,114,115	●
スポーツ案内サイト「S P O P I T A」の運営	スポーツ推進本部	110,114	●
都立特別支援学校活用促進事業	スポーツ推進本部、教育庁	110,114	●



**Project 5：スポーツを支える仕組みを創る「支える担い手確保プロジェクト」**

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>新たな担い手の確保により、持続可能な地域のスポーツ振興を推進</b>			
地域のスポーツ振興に向けた関係者会議	スポーツ推進本部	117,118,122	
指導者資格等取得支援	スポーツ推進本部	117,118,122	
<b>ボランティアの活躍機会を拡大し、担い手の確保につなげる</b>			
スポーツイベントにおける活動機会の提供	スポーツ推進本部	117,119,122	●
<b>人材確保・育成</b>			
指導者資格等取得支援	スポーツ推進本部	117,120,122	
スポーツイベントにおける活動機会の提供	スポーツ推進本部	117,120,122	●
パラスポーツセミナーの開催	スポーツ推進本部	117,120,122	●
<b>スポーツ関係団体の組織基盤強化等</b>			
競技団体等組織基盤強化支援事業	スポーツ推進本部	117,121,122	●
パラスポーツ団体体制強化支援事業	スポーツ推進本部	117,121,122	●
地域スポーツクラブの設立・育成・運営支援	スポーツ推進本部	117,121,122	
東京都地域スポーツクラブサポートネット での情報提供	スポーツ推進本部	117,121,122	
登録クラブの活用促進	スポーツ推進本部	117,121,122	
マッチングプラットフォーム構築	スポーツ推進本部	117,121,122	●



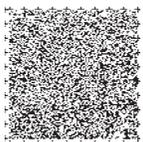
## 6 取組一覧

### 4つの政策の柱

#### 政策の柱1：スポーツで輝く

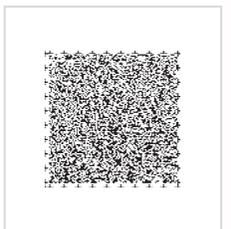
取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>施策① スポーツに触れる「はじめの一步」を後押し</b>			
<b>スポーツをすることへの関心喚起</b>			
<b>都民へのスポーツに関する情報発信</b>			
スポーツTOKYOインフォメーションの運営	スポーツ推進本部	127	●
スポーツ案内サイト「SPOPITA」の運営	スポーツ推進本部	127	●
パラスポーツ専門ポータルサイトTOKYO パラスポーツ・ナビの運営	スポーツ推進本部	127	●
パラスポーツスタートガイドの運営	スポーツ推進本部	128	●
パラスポーツ普及啓発プロジェクト 「TEAM BEYOND」	スポーツ推進本部	128	●
TOKYOパラスポーツチャンネルの配信	スポーツ推進本部	128	●
TOKYOユニバーサルウォーキング普及事業	スポーツ推進本部	128	●
<b>スポーツに関する調査</b>			
都民のスポーツ活動に関する実態調査	スポーツ推進本部	129	●
障害者のスポーツに関する意識調査	スポーツ推進本部	129	●
eスポーツの活用に関する調査・検証	スポーツ推進本部	129	●
<b>スポーツを通じた健康増進</b>			
スポーツを通じた健康増進事業	スポーツ推進本部	130	
健康的な生活習慣に関する普及啓発	保健医療局	130	

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>スポーツを始める機会の創出・提供</b>			
<b>多様なスポーツイベントの開催</b>			
スポーツの日記念イベントの開催	スポーツ推進本部	131	●
ウォーキングイベントの開催	スポーツ推進本部、 保健医療局、水道局	131	●
プロスポーツチーム等との連携	スポーツ推進本部	131	●
パラスポーツ普及啓発プロジェクト 「TEAM BEYOND」	スポーツ推進本部	131	●
チャレスポ！TOKYOの開催	スポーツ推進本部	132	●
東京2020大会レガシー継承事業	スポーツ推進本部	132	●
都立スポーツ施設を活用したスポーツ イベント等の展開	スポーツ推進本部	132	●
多彩なスポーツの取組を通じた交流機会の提供	スポーツ推進本部	132	●
<b>区市町村が実施するスポーツイベント等への支援</b>			
スポーツイベントの情報発信	スポーツ推進本部	133	●
区市町村スポーツ推進補助事業	スポーツ推進本部	133	●
<b>地域の中で運動を楽しむ機会を提供</b>			
障害児・者の運動習慣定着支援事業	スポーツ推進本部	134	●
パラスポーツ地域サポート事業	スポーツ推進本部	134	●
都内公立学校体育施設の開放	教育庁	135	
障害者のスポーツ施設利用促進事業	スポーツ推進本部	135	●
都立特別支援学校活用促進事業	スポーツ推進本部、 教育庁	135	●
都立公園のスポーツ施設における利用時間 及び利用日の拡大	建設局	136	
ウォーキング環境の整備	建設局、港湾局	136	



取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>施策② ライフステージに応じたスポーツを推進</b>			
<b>子供のスポーツ振興</b>			
<b>子供たちがスポーツに親しみ、楽しむきっかけの提供</b>			
T O K Y Oジュニアスポーツアンバサダー	スポーツ推進本部	139	
東京都地域スポーツクラブサポートネット による情報提供	スポーツ推進本部	139	
保護者のフィジカルリテラシーの涵養	スポーツ推進本部	139	
幼児期の外遊び習慣づくり	スポーツ推進本部	140	
苦手克服のサポート等、スポーツ離れを抑制	スポーツ推進本部	140	
気軽にできる効果的な運動の普及啓発	スポーツ推進本部	140	
子供が様々な運動・スポーツに親しむ機会の 創出	スポーツ推進本部	141	
子供の未来を育む「体験活動」推進区市町村 支援事業（「遊び」特別推進枠）	子供政策連携室	141	
バーチャルスポーツに触れる機会の提供	スポーツ推進本部	141	●
障害のある子供がスポーツに出会える・ 楽しめる機会を提供	スポーツ推進本部	141	●
<b>子供たちが体を動かす場の確保</b>			
継続的なスポーツ機会の創出・提供	スポーツ推進本部	142	●
子供の遊び場等整備事業	子供政策連携室	142	
放課後子供教室	教育庁	142	
校庭等の芝生化の推進	環境局	142	

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>学校における運動量の十分な確保と優れた実践の普及</b>			
「楽しむスポーツ」の普及	スポーツ推進本部	143	●
児童・生徒の運動時間の十分な確保	教育庁	143	
都立特別支援学校におけるスポーツ教育推進	教育庁	143	
高等学校における体力向上のモデル校「エン ジョイ・スポーツプロジェクト」の実施	教育庁	144	
体育健康教育推進校	教育庁	144	
地域スポーツクラブ活動体制整備事業・ 文化部活動の地域移行等に向けた実証事業	教育庁	144	
部活動指導員の導入	教育庁	145	
運動部活動指導者養成講習会の実施	教育庁	145	
各学校における「学校2020レガシー」の取組 の支援	教育庁	145	●
<b>児童・生徒の体力の把握と活用</b>			
学校体育実技指導者講習会の開催	教育庁	146	
東京都統一体力テストの実施	教育庁	146	

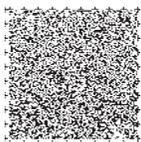


## 6 取組一覧

### 4つの政策の柱

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>働き盛り世代のスポーツ振興</b>			
<b>企業におけるスポーツ振興</b>			
ライフステージに応じたスポーツに親しむ 時間・機会の創出	スポーツ推進本部	147	●
多忙な働き盛り世代に向けた取組支援	スポーツ推進本部	147	●
東京都スポーツ推進企業認定制度の運営	スポーツ推進本部	147	●
スポーツを通じた健康増進事業	スポーツ推進本部	148	
東京ライフ・ワーク・バランス認定企業制度	産業労働局	148	
ライフ・ワーク・バランスEXPO	産業労働局	148	
<b>高齢者のスポーツ振興</b>			
<b>いつまでも心身ともに健康に生きるためのスポーツ振興</b>			
シニアスポーツ振興事業	スポーツ推進本部	149	
シニア健康スポーツフェスティバルの開催	スポーツ推進本部	149	●
全国健康福祉祭（ねんりんピック）への選手団派遣	スポーツ推進本部	149	
東京都シニア・コミュニティ交流大会の開催	スポーツ推進本部	149	●
人生100年時代セカンドライフ応援事業	福祉局	150	
老人クラブ支援事業	福祉局	150	
老人クラブ区市町村支援事業	福祉局	150	
簡単に楽しめるスポーツの普及	スポーツ推進本部	150	●
幅広い世代が参加する大会の開催	スポーツ推進本部	151	●

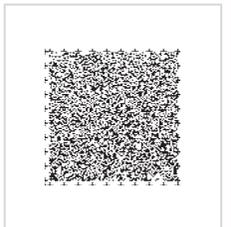
取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>施策③ 東京にゆかりのあるアスリートが躍動</b>			
<b>アスリートの競技力向上に向けた取組</b>			
<b>才能ある選手の発掘</b>			
トップアスリート発掘・育成事業	スポーツ推進本部	153	●
パラスポーツ次世代ホープ発掘事業	スポーツ推進本部	153	●
<b>東京にゆかりのあるアスリートの競技力向上</b>			
ジュニア選手育成・強化事業	スポーツ推進本部	154	●
ジュニア育成地域推進事業	スポーツ推進本部	154	●
国際大会等を目指すアスリートへの支援	スポーツ推進本部	154	●
国スポ候補選手強化事業・国スポ選手健康 調査チェック等事業	スポーツ推進本部	155	●
東京育ちアスリートの応援	スポーツ推進本部	155	●
パフォーマンスサポート事業	スポーツ推進本部	155	●
指導者育成・スポーツ専門人材活用事業	スポーツ推進本部	156	●
スポーツを通じた国際交流	スポーツ推進本部	156	●
東京パラアスリート強化事業	スポーツ推進本部	156	●
パラスポーツ人材地域活動促進事業	スポーツ推進本部	157	●
デフスポーツ競技団体都内活動促進事業	スポーツ推進本部	157	●
デフリンピックチャレンジ事業	スポーツ推進本部	157	●



政策の柱2：スポーツでつながる

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>アスリートを支える人材・基盤の強化</b>			
競技団体等組織基盤強化支援事業	スポーツ推進本部	158	●
東京都スポーツ協会等のデジタル化による事務効率化支援	スポーツ推進本部	158	●
パラスポーツ競技活動支援事業	スポーツ推進本部	159	●
パラスポーツ団体体制強化支援事業	スポーツ推進本部	159	●
マッチングプラットフォーム構築	スポーツ推進本部	159	●
パラスポーツ団体普及活動支援事業	スポーツ推進本部	159	●
<b>大会への選手・役員の派遣</b>			
国民スポーツ大会への選手・役員の派遣等	スポーツ推進本部	160	●
東京都障害者スポーツ大会の開催	スポーツ推進本部	160	●
全国障害者スポーツ大会への選手・役員派遣	スポーツ推進本部	160	●
<b>アスリートのスポーツキャリア形成支援</b>			
アスリートのスポーツキャリア形成支援に係る取組の検討	スポーツ推進本部	161	
<b>優秀な成績を収めた東京のトップアスリートの表彰</b>			
東京都栄誉賞の贈呈	生活文化局	161	
都民スポーツ大賞の贈呈	スポーツ推進本部	161	
東京スポーツ奨励賞の贈呈	スポーツ推進本部	161	

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>施策① パラスポーツを楽しむ・パラスポーツで輝く</b>			
<b>パラスポーツの理解促進・普及啓発</b>			
<b>パラスポーツのファンやサポーターの裾野拡大</b>			
パラスポーツメモリアルイベントの開催	スポーツ推進本部	165	●
パラスポーツ普及啓発プロジェクト「TEAM BEYOND」	スポーツ推進本部	165	●
スポーツTOKYOインフォメーションの運営	スポーツ推進本部	165	●
パラスポーツ専門ポータルサイトTOKYOパラスポーツ・ナビの運営	スポーツ推進本部	165	●
障害者のスポーツに関する意識調査	スポーツ推進本部	166	●
区市町村スポーツ推進補助事業	スポーツ推進本部	166	●
東京2025デフリンピックを契機とした学校を通じた取組	教育庁	166	
都立特別支援学校における部活動振興	教育庁	167	
ヒューマンライツ・フェスタ東京	総務局	167	
パラスポーツの理解促進と裾野拡大（意識啓発等）	総務局	167	
パラスポーツの振興とバリアフリー推進に向けた懇談会	スポーツ推進本部	167	

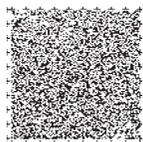


## 6 取組一覧

### 4つの政策の柱

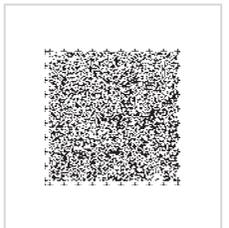
取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>パラスポーツの観戦機会等の充実</b>			
パラスポーツ普及啓発プロジェクト 「TEAM BEYOND」	スポーツ推進本部	168	●
都内におけるパラスポーツ国際大会の開催促進	スポーツ推進本部	168	●
TOKYOパラスポーツチャンネルの配信	スポーツ推進本部	168	●
東京都人権プラザにおける「スポーツと 人権」をテーマとした展示	総務局	168	
<b>パラスポーツを楽しむ体験機会の創出</b>			
パラスポーツ普及啓発プロジェクト 「TEAM BEYOND」	スポーツ推進本部	169	●
チャレスポ！TOKYOの開催	スポーツ推進本部	169	●
パラスポーツオープン競技大会の開催	スポーツ推進本部	169	●
都立特別支援学校におけるスポーツ教育推進	教育庁	169	

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>場の充実</b>			
<b>身近な活動の場・機会の充実</b>			
パラスポーツ地域サポート事業	スポーツ推進本部	170	●
都立特別支援学校活用促進事業	スポーツ推進本部、 教育庁	171	●
障害者のスポーツ施設利用促進事業	スポーツ推進本部	171	●
TOKYOユニバーサルウォーキング普及事業	スポーツ推進本部	172	●
障害児・者の運動習慣定着支援事業	スポーツ推進本部	172	●
障害者スポーツセンター、パラスポーツ トレーニングセンターの運営	スポーツ推進本部	172	●
<b>デジタル技術を活用したパラスポーツの実施促進</b>			
パラスポーツリモート参加事業	スポーツ推進本部	173	●
デジタル技術を活用した障害のある人の スポーツ参加促進事業	スポーツ推進本部	173	●
<b>支える人材の確保</b>			
<b>パラスポーツを支える人材の確保</b>			
パラスポーツセミナーの開催	スポーツ推進本部	174	●
初級・中級パラスポーツ指導員養成講習会	スポーツ推進本部	174	●
パラスポーツ人材の活動活性化事業	スポーツ推進本部	175	●
パラスポーツ人材地域活動促進事業	スポーツ推進本部	175	●



取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>競技力向上</b>			
<b>競技スポーツとの出会いをサポート</b>			
パラスポーツ次世代ホープ発掘事業	スポーツ推進本部	176	●
パラスポーツスタートガイドの運営	スポーツ推進本部	176	●
<b>東京にゆかりのあるアスリートの競技力向上</b>			
パラスポーツ競技活動支援事業	スポーツ推進本部	177	●
デフスポーツ競技団体都内活動促進事業	スポーツ推進本部	177	●
東京パラアスリート強化事業	スポーツ推進本部	177	●
東京都障害者スポーツ大会の開催	スポーツ推進本部	178	●
全国障害者スポーツ大会への選手・役員派遣	スポーツ推進本部	178	●
デフリンピックチャレンジ事業	スポーツ推進本部	178	●
<b>パラスポーツに関する団体等の基盤強化</b>			
パラスポーツ団体体制強化支援事業	スポーツ推進本部	179	●
マッチングプラットフォーム構築	スポーツ推進本部	179	●
パラスポーツ団体普及活動支援事業	スポーツ推進本部	179	●
パラスポーツコンシェルジュ事業	スポーツ推進本部	179	●

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>施策② バリアフリー化やユニバーサルコミュニケーション技術の社会実装を促進</b>			
<b>誰もが気軽に楽しめるユニバーサルデザイン志向のスポーツ環境整備</b>			
<b>バリアフリー化・ユニバーサルコミュニケーション技術の社会実装を促進</b>			
都立スポーツ施設の大規模改修	スポーツ推進本部	182	●
区市町村等のスポーツ施設の整備支援	スポーツ推進本部	182	●
バリアフリー化等の普及・促進	スポーツ推進本部、 都市整備局、 産業労働局、交通局	182	●
多言語対応の推進	スポーツ推進本部	183	
都立公園における音声認識システムの導入	建設局	183	
ユニバーサルコミュニケーション技術や 機器の導入を支援	生活文化局、 スポーツ推進本部、 都市整備局、 福祉局、交通局	183	
ユニバーサルコミュニケーションの促進		183	
<b>スポーツに関する技術開発・市場開拓への支援</b>			
<b>スポーツに関する技術開発・市場開拓への支援</b>			
T O K Y O 戦略的イノベーション促進事業	産業労働局	184	
シニア・福祉・アクセシビリティ関連製品等 の販路開拓助成事業	産業労働局	184	

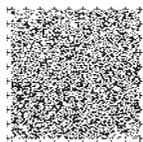


## 6 取組一覧

### 4つの政策の柱

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>施策③ 多様な人々がスポーツでつながる、スポーツとつながる</b>			
<b>性別、年齢などに関わらずそれぞれのレベルに応じたスポーツを楽しむ</b>			
<b>高齢者のスポーツ振興</b>			
シニアスポーツ振興事業	スポーツ推進本部	187	
シニア健康スポーツフェスティバルの開催	スポーツ推進本部	187	●
全国健康福祉祭（ねんりんピック）への選手団派遣	スポーツ推進本部	187	
東京都シニア・コミュニティ交流大会の開催	スポーツ推進本部	188	●
スポーツを通じた健康増進事業	スポーツ推進本部	188	
人生100年時代セカンドライフ応援事業	福祉局	188	
老人クラブ支援事業	福祉局	188	
老人クラブ区市町村支援事業	福祉局	189	
簡単に楽しめるスポーツの普及	スポーツ推進本部	189	●
多彩なスポーツの取組を通じた交流機会の提供	スポーツ推進本部	189	●
スポーツ大会への都民招待	スポーツ推進本部	189	●
区市町村スポーツ推進補助事業	スポーツ推進本部	189	●
幅広い世代が参加する大会の開催	スポーツ推進本部	190	●

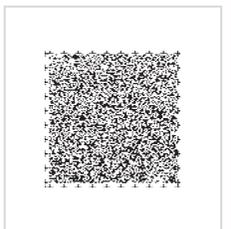
取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>女性のスポーツ振興</b>			
女性向けスポーツ情報の発信	スポーツ推進本部	191	
女性特有の健康課題の予防に資するスポーツの普及・啓発	スポーツ推進本部	191	
ライフステージに応じたスポーツに親しむ時間・機会の創出	スポーツ推進本部	191	●
多忙な働き盛り世代に向けた取組支援	スポーツ推進本部	191	●
女性アスリート特有の課題に関する情報発信	スポーツ推進本部	192	●
スポーツ関係団体における参画促進	スポーツ推進本部	192	●
東京ライフ・ワーク・バランス認定企業制度	産業労働局	192	
ライフ・ワーク・バランスEXPO	産業労働局	192	
<b>スポーツを通じた被災地との交流</b>			
<b>スポーツを通じた被災地交流</b>			
スポーツを通じた被災地交流事業	スポーツ推進本部	193	●
<b>スポーツを通じた国際交流</b>			
<b>スポーツを通じた国際交流の推進</b>			
スポーツを通じた国際交流	スポーツ推進本部	193	●



### 政策の柱3 スポーツでにぎわう

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>施策① 都内各地でスポーツイベントを開催し、都市に活力をプラス</b>			
<b>東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを通じた主な取組</b>			
<b>東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックを通じた主な取組</b>			
東京2025世界陸上の開催支援	スポーツ推進本部	197	●
東京2025デフリンピックの開催支援	スポーツ推進本部	197	●
ビジョン2025の実現に向けた取組	スポーツ推進本部	198	●
大会の気運醸成	スポーツ推進本部	198	
大会における子供の参画	スポーツ推進本部	198	●
ユニバーサルコミュニケーションの促進	スポーツ推進本部	199	
国際スポーツ大会におけるガバナンス確保の取組	スポーツ推進本部	199	●
デフアスリートやデフ競技団体の活動支援	スポーツ推進本部	200	●
最新の技術を活用し、重度障害などがある人も大会へ参画	スポーツ推進本部	200	●
誰もが利用しやすい施設環境の整備推進	スポーツ推進本部	200	●
東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックに向けた文化プログラム	生活文化局	201	●
<b>国際スポーツ大会に対する取組</b>			
<b>国際スポーツ大会に対する取組</b>			
国際大会誘致・調査支援、開催支援	スポーツ推進本部	201	●
国際大会の誘致に向けた海外発信	スポーツ推進本部	201	●
都内におけるパラスポーツ国際大会の開催促進	スポーツ推進本部	202	●
東京2020大会のレガシーを継承する取組	スポーツ推進本部	202	●
国際スポーツ大会の経験をレガシーとして活用したスポーツ大会の運営支援	スポーツ推進本部	202	●
Japan Sports Journeyにおける情報発信	産業労働局	203	●

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>ねんりんピックの東京開催に向けた取組</b>			
<b>ねんりんピックの東京開催に向けた取組</b>			
ねんりんピックの東京開催に向けた取組	スポーツ推進本部	203	
区市町村スポーツ推進補助事業	スポーツ推進本部	203	●
<b>東京を活性化させるスポーツイベント等の展開</b>			
<b>東京マラソンをはじめとする、東京を活性化させるスポーツイベント等の展開</b>			
東京マラソンの開催支援	スポーツ推進本部	204	
ランナー応援イベントの開催	スポーツ推進本部	204	
東京レガシーハーフマラソンの開催支援	スポーツ推進本部	204	●
東京レガシースタジアムの開催	スポーツ推進本部	205	●
GRAND CYCLE TOKYOの推進	スポーツ推進本部	205	●
パラスポーツ普及啓発プロジェクト「TEAM BEYOND」	スポーツ推進本部	205	●

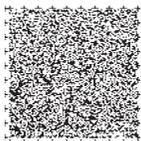


## 6 取組一覧

### 4つの政策の柱

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>多様なスポーツイベントの開催</b>			
スポーツの日記念イベントの開催	スポーツ推進本部	206	●
TOKYO ROKUTAI FESの開催	スポーツ推進本部	206	●
ウォーキングイベントの開催	スポーツ推進本部、 保健医療局、水道局	206	●
東京2020大会レガシー継承事業	スポーツ推進本部	206	●
パラスポーツメモリアルイベントの開催	スポーツ推進本部	207	●
プロスポーツチーム等との連携	スポーツ推進本部	207	●
都立スポーツ施設を活用したスポーツ イベント等の展開	スポーツ推進本部	208	●
多彩なスポーツの取組を通じた交流機会の提供	スポーツ推進本部	208	●
<b>多摩・島しょの自然等を活用したスポーツの振興</b>			
東京の自然を満喫できるウォーキングマップ 等の利用促進	保健医療局	209	
誰もが訪れる自然公園の実現	環境局	209	
「たま リバー50キロ」の利用促進	都市整備局	210	
島しょ地域の観光振興への支援	産業労働局	210	

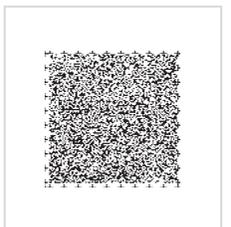
取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>施策② 住み慣れた地域でのスポーツをサポート</b>			
<b>地域におけるスポーツ活動の推進</b>			
<b>地域スポーツの推進</b>			
地域スポーツクラブの設立・育成・運営支援	スポーツ推進本部	212	
総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の運用	スポーツ推進本部	212	
東京都地域スポーツクラブサポートネット による情報提供	スポーツ推進本部	212	
登録クラブの活用促進	スポーツ推進本部	213	
スポーツ推進委員の役割や活動内容の紹介	スポーツ推進本部	213	
スポーツ推進委員研修会等の開催	スポーツ推進本部	213	
地域のスポーツ振興に向けた関係者会議	スポーツ推進本部	213	
区市町村スポーツ推進補助事業	スポーツ推進本部	214	●
パラスポーツ地域サポート事業	スポーツ推進本部	214	●
都立特別支援学校活用促進事業	スポーツ推進本部、 教育庁	215	●
障害児・者の運動習慣定着支援事業	スポーツ推進本部	215	●
障害者のスポーツ施設利用促進事業	スポーツ推進本部	216	●
T O K Y Oユニバーサルウォーキング普及事業	スポーツ推進本部	216	●
パラスポーツセミナーの開催	スポーツ推進本部	217	●
初級・中級パラスポーツ指導員養成講習会	スポーツ推進本部	217	●
<b>地域や経済の活性化に寄与した団体等の顕彰</b>			
<b>地域や経済の活性化に寄与した人・団体の顕彰</b>			
スポーツ功労者の顕彰	スポーツ推進本部	218	
東京都スポーツ推進企業認定制度の運営	スポーツ推進本部	218	●



### 政策の柱4：スポーツを支える

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>施策③ スポーツの魅力を発信し、スポーツを通じて感動を味わう</b>			
<b>スポーツの魅力発信</b>			
<b>スポーツの魅力発信</b>			
スポーツTOKYOインフォメーションの運営	スポーツ推進本部	220	●
パラスポーツ専門ポータルサイトTOKYO パラスポーツ・ナビの運営	スポーツ推進本部	220	●
様々なスポーツ大会への支援	スポーツ推進本部	220	●
パラスポーツ普及啓発プロジェクト 「TEAM BEYOND」	スポーツ推進本部	220	●
<b>スポーツをみる機会の創出</b>			
<b>観戦機会の創出</b>			
スポーツ大会への都民招待	スポーツ推進本部	221	●
パラスポーツ普及啓発プロジェクト 「TEAM BEYOND」	スポーツ推進本部	221	●
都内におけるパラスポーツ国際大会の開催促進	スポーツ推進本部	221	●
TOKYOパラスポーツチャンネルの配信	スポーツ推進本部	221	●

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>施策① 様々な価値を創出するスポーツ環境の整備・運営や、環境に配慮した施設・大会運営</b>			
<b>都立スポーツ施設の整備・運営</b>			
<b>都立スポーツ施設の管理運営</b>			
都立スポーツ施設の管理運営	スポーツ推進本部	224	●
東京辰巳アイスアリーナの開業・運営	スポーツ推進本部	224	●
都立スポーツ施設を活用したスポーツ イベント等の展開	スポーツ推進本部	224	●
都立スポーツ施設の戦略的活用	スポーツ推進本部	225	●
広域避難先、一時滞在施設等としての役割	総務局、 スポーツ推進本部	225	
<b>都立スポーツ施設の整備</b>			
都立スポーツ施設の大規模改修	スポーツ推進本部	226	●
誰もが利用しやすい施設環境の整備推進	スポーツ推進本部	226	●
多言語対応の推進	スポーツ推進本部	226	

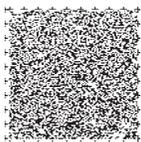


## 6 取組一覧

### 4つの政策の柱

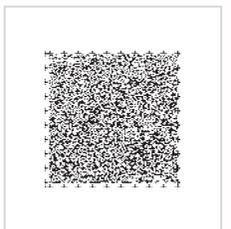
取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>都内のスポーツ環境の整備</b>			
<b>スポーツを身近でできる場の確保</b>			
区市町村等のスポーツ施設の整備支援	スポーツ推進本部	227	●
スポーツ案内サイト「S P O P I T A」の運営	スポーツ推進本部	227	●
継続的なスポーツ機会の創出・提供	スポーツ推進本部	227	●
都内公立学校体育施設の開放	教育庁	227	
都立公園のスポーツ施設における利用時間及び利用日の拡大	建設局	228	
都立公園陸上競技場の改修	建設局	228	
ウォーキング環境の整備	建設局、港湾局	228	
スポーツ拠点の整備と活用	都市整備局	228	
<b>パラスポーツを身近でできる場の確保</b>			
障害者のスポーツ施設利用促進事業	スポーツ推進本部	229	●
都立特別支援学校活用促進事業	スポーツ推進本部、 教育庁	229	●
障害者スポーツセンター、パラスポーツトレーニングセンターの運営	スポーツ推進本部	229	●

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>環境に配慮した施設・大会運営</b>			
<b>環境に配慮した施設・大会運営</b>			
都立スポーツ施設における環境配慮の取組	スポーツ推進本部、 環境局	230	
大会時における環境先進技術の活用・発信	環境局	230	
大会時における環境への配慮	スポーツ推進本部	230	



取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>施策② 多様な主体と連携し、スポーツに関わる人材の裾野を広げる・磨く</b>			
<b>スポーツを支える人材の確保・育成・活動支援</b>			
<b>ボランティア活動の支援</b>			
スポーツイベントにおける活動機会の提供	スポーツ推進本部	233	●
パラスポーツ人材の活動活性化事業	スポーツ推進本部	233	●
ボランティア文化定着に向けた取組	生活文化局	234	●
東京都立大学におけるボランティア活動の支援	総務局	234	●
<b>地域スポーツやパラスポーツを支える人材育成・顕彰</b>			
スポーツ推進委員研修会等の開催	スポーツ推進本部	235	
生涯スポーツ担当者研修会の開催	スポーツ推進本部	235	
東京みんなのスポーツ塾	スポーツ推進本部	235	
パラスポーツセミナーの開催	スポーツ推進本部	235	●
初級・中級パラスポーツ指導員養成講習会	スポーツ推進本部	236	●
パラスポーツ人材の活動活性化事業	スポーツ推進本部	236	●
スポーツ功労者の顕彰	スポーツ推進本部	236	
<b>多様なスポーツを支える基盤づくり</b>			
<b>多様なスポーツを支える基盤づくり</b>			
競技団体等組織基盤強化支援事業	スポーツ推進本部	237	●
パラスポーツ競技活動支援事業	スポーツ推進本部	237	●
パラスポーツ団体体制強化支援事業	スポーツ推進本部	237	●
パラスポーツ団体普及活動支援事業	スポーツ推進本部	238	●
デフスポーツ競技団体都内活動促進事業	スポーツ推進本部	238	●
デフリンピックチャレンジ事業	スポーツ推進本部	238	●

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>地域におけるスポーツ活動の推進</b>			
<b>地域スポーツクラブの支援</b>			
地域スポーツクラブの設立・育成・運営支援	スポーツ推進本部	239	
総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の運用	スポーツ推進本部	239	
東京都地域スポーツクラブサポートネットによる情報提供	スポーツ推進本部	239	
登録クラブの活用促進	スポーツ推進本部	240	
スポーツ推進委員研修会等の開催	スポーツ推進本部	240	
スポーツ推進委員の役割や活動内容の紹介	スポーツ推進本部	240	
<b>部活動の地域連携・地域移行推進のための取組</b>			
地域スポーツクラブ活動体制整備事業・文化 部活動の地域移行等に向けた実証事業	教育庁	241	
部活動の地域連携・地域移行等に関する支援	教育庁	241	
部活動指導員の導入	教育庁	241	
運動部活動指導者養成講習会の実施	教育庁	241	
地域のスポーツ振興に向けた関係者会議	スポーツ推進本部	242	
指導者資格等取得支援	スポーツ推進本部	242	

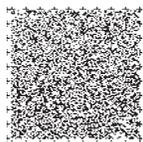


## 6 取組一覧

### 4つの政策の柱

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>民間企業とともに取り組むスポーツ活動</b>			
<b>民間企業等とともに取り組むスポーツ振興</b>			
東京都スポーツ推進企業認定制度の運営	スポーツ推進本部	243	●
プロスポーツチーム等との連携	スポーツ推進本部	243	●
スポーツTOKYOインフォメーションの運営	スポーツ推進本部	243	●
パラスポーツ普及啓発プロジェクト 「TEAM BEYOND」	スポーツ推進本部	244	●
パラスポーツコンシェルジュ事業	スポーツ推進本部	244	●
マッチングプラットフォーム構築	スポーツ推進本部	244	●
TOKYO戦略的イノベーション促進事業	産業労働局	245	
シニア・福祉・アクセシビリティ関連製品等 の販路開拓助成事業	産業労働局	245	

取組内容	所管部署	ページ	レガシー ビジョン
<b>施策③ 安全・安心なスポーツ、信頼されるスポーツ大会の実現</b>			
<b>スポーツによる事故防止等の推進、暑さ対策</b>			
<b>けがや事故、熱中等等の予防推進</b>			
熱中症予防の推進	スポーツ推進本部、 教育庁	247	
地域におけるスポーツの事故防止	スポーツ推進本部	247	
部活動指導者実技講習会の実施	教育庁	247	
スポーツにおける暑さ対策支援	スポーツ推進本部	248	
都立スポーツ施設における暑さ対策の推進	スポーツ推進本部	248	
クーリングシェルター（指定暑熱避難施設） 等としての役割	スポーツ推進本部、 環境局	248	
大会時の路上競技沿道における観客の 暑さ対策の実施	環境局	248	
<b>スポーツ・インテグリティの強化、大会のガバナンス確保</b>			
<b>スポーツ・インテグリティ強化のための取組</b>			
部活動における体罰の根絶	教育庁	249	
スポーツ・インテグリティ研修	スポーツ推進本部	249	●
スポーツ団体の適正な運営確保	スポーツ推進本部	249	
<b>ガバナンス確保のための取組</b>			
国際スポーツ大会におけるガバナンス確保の取組	スポーツ推進本部	250	●



## 東京都スポーツ推進総合計画

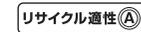
令和7年3月発行

印刷物規格表第1類

登録番号(6)68

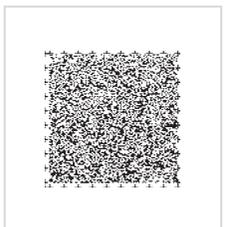
編集・発行 東京都生活文化スポーツ局  
スポーツ総合推進部企画調整課  
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話 03(5388)2219  
<https://www.sports-tokyo-info.metro.tokyo.lg.jp/>

印刷 株式会社ドゥ・アーバン  
東京都世田谷区八幡山三丁目17番1号  
電話 03(6379)6124



この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。

※東京マラソンに関する名称や写真を使用する際は、事前に（一財）東京マラソン財団へのプロパティ申請（権利許諾手続）が必要です。  
以下のプロパティ使用申請フォームより、お手続きをお願いいたします。  
<https://www.marathon.tokyo/media/media-section/>





東京都